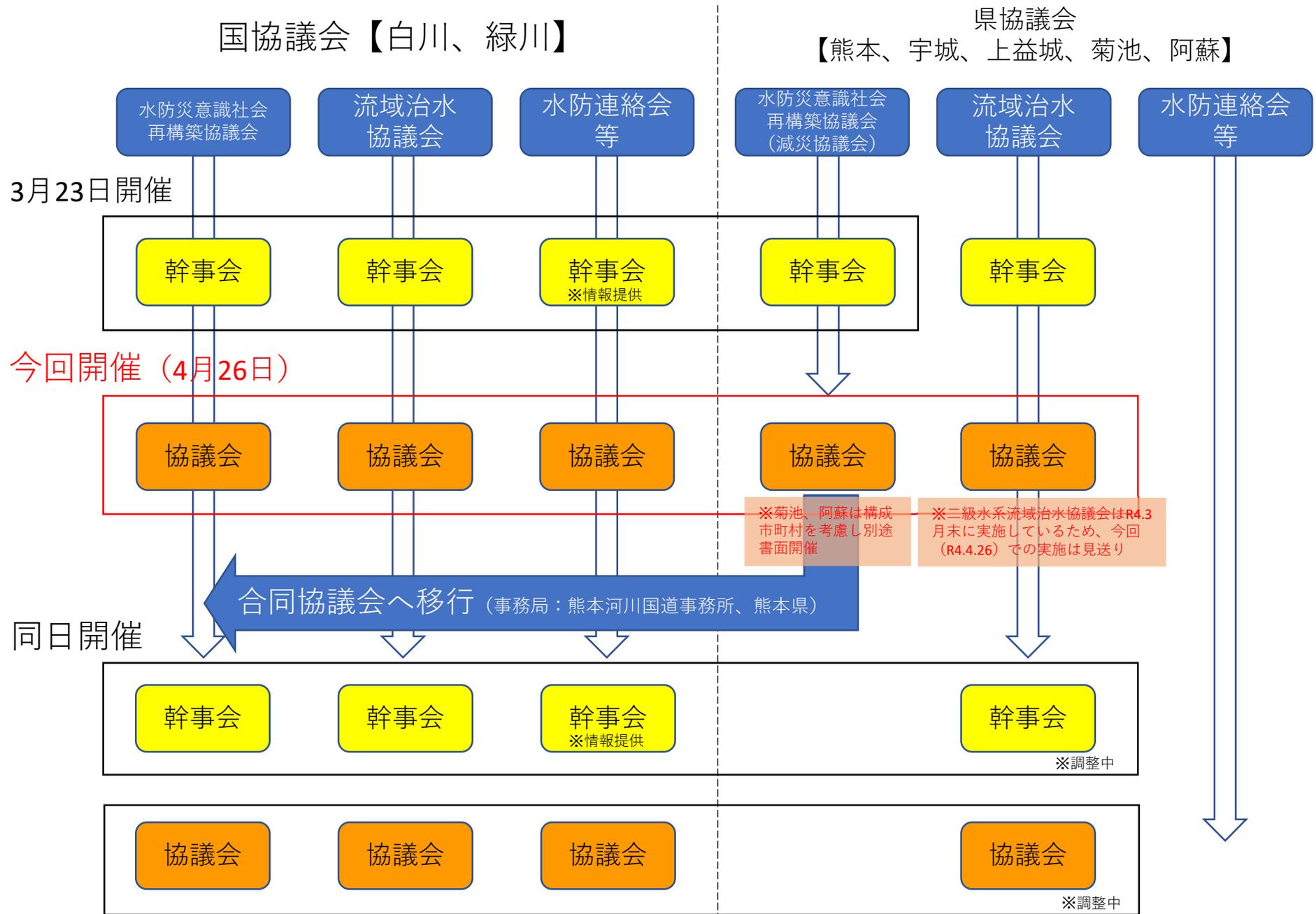


関係会議の今後の開催について

関係会議の今後の開催イメージ【熊本県県央地域】



同日開催としているが、個別案件がある場合には個別協議とすることもある。

熊本県県央地域水防災意識社会再構築協議会（仮称）規約

（案）

（名称）

第1条 本協議会は、「熊本県県央地域水防災意識社会再構築協議会」（以下、「協議会」という。）と称する。

（目的）

第2条 協議会は、水防法第15条の9及び第15条の10に基づき、平成24年7月九州北部豪雨、平成27年9月関東・東北豪雨により大規模な浸水被害が発生したことを踏まえ、国、県、市町等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進することにより、白川水系、緑川水系、坪井川水系、大野川水系、五丁川水系、八枚戸川水系、砂川水系、波多川水系、その他県央地域の単独水系における国及び県管理河川において氾濫が発生することを前提として社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とする。

（協議会の構成）

第3条 協議会は、別表1の職にある者をもって構成する。

2 協議会の運営、進行及び招集は事務局が行う。

3 事務局は、第1項によるもののほか、協議会構成員の同意を得て、必要に応じて別表1の職にある者以外の者（学識経験者等）の参加を協議会に求めることができる。

（幹事会の構成）

第4条 協議会に幹事会等を置く。

2 幹事会は、別表2の職にある者をもって構成する。

3 幹事会の運営、進行及び招集は事務局が行う。

4 幹事会は、協議会の運営に必要な情報交換、調査、分析、減災対策等の各種検討、調整を行うことを目的とし、結果について協議会へ報告する。

5 事務局は、第2項によるもののほか、幹事会構成員の同意を得て、必要に応じて別表2の職にある者以外の者（学識経験者等）の参加を幹事会に求めることができる。

（協議会の実施事項）

第5条 協議会は、次の各号に掲げる事項を実施する。

一 洪水の浸水想定等の水害リスク情報を共有するとともに、各構成員がそれぞれ又は連携して実施している現状の減災に係る取り組み状況等について共有する。

二 円滑かつ迅速な避難、的確な水防活動及び円滑かつ迅速な氾濫水の排水を実現するために各構成員がそれぞれ又は連携して取り組む事項をまとめた地域の取組方針を作成し、共有する。

三 毎年、協議会を開催するなどして、地域の取組方針に基づく対策の実施状況を確認する。また、本協議会等を中心として、毎年出水期前にトップセミナーや堤防の共同点検等を実施し、情報の共有を図る。

四 その他、大規模氾濫に関する減災対策に関して必要な事項を実施する。

(会議の公開)

第6条 協議会は、原則として報道機関を通じて公開する。ただし、審議内容によっては、協議会に諮り、非公開とすることができる。

2 幹事会は、原則非公開とし、幹事会の結果を協議会報告することにより公開と見なす。

(協議会資料等の公表)

第7条 協議会に提出された資料等については速やかに公表するものとする。ただし、個人情報等で公表することが適切でない資料等については、協議会の了解を得て公表しないものとする。

2 協議会の議事については、事務局が議事概要を作成し、出席した委員の確認を得た後、公表するものとする。

(事務局)

第8条 協議会の事務局を熊本河川国道事務所調査第一課、熊本県河川課に置く。

(雑則)

第9条 この規約に定めるもののほか、協議会の議事の手続きその他運営に関し必要な事項については、協議会で定めるものとする。

(附則)

第10条 本規約は、令和 年 月 日から施行する。

別表 1 協議会の構成

熊本市長
宇土市長
宇城市長
阿蘇市長
合志市長
御船町長
嘉島町長
益城町長
甲佐町長
山都町長
美里町長
大津町長
菊陽町長
高森町長
西原村長
南阿蘇村長
熊本県 土木部 河川港湾局 河川課長
熊本県 知事公室 危機管理防災課長
熊本県 農林水産部 農村振興局 農地整備課長
熊本県 企業局 発電総合管理所長
熊本県 県央広域本部 土木部長
熊本県 宇城地域振興局 土木部長
熊本県 上益城地域振興局 土木部長
熊本県 県北広域本部 土木部長
熊本県 阿蘇地域振興局 土木部長
気象庁 熊本地方气象台長
九州電力（株）熊本支社 技術部長
九州旅客鉄道（株）鉄道事業本部 新幹線部長
国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所長
国土交通省九州地方整備局 立野ダム工事事務所長
国土交通省九州地方整備局 緑川ダム管理所長

別表2 幹事会の構成

熊本市	政策局	危機管理防災総室	副室長
熊本市	都市建設局	土木部	河川課長
宇土市	危機管理課長		
宇城市	危機管理課長		
阿蘇市	政策防災課長		
阿蘇市	建設課長		
合志市	交通防災課長		
御船町	総務課長		
御船町	農業振興課長		
嘉島町	総務課長		
益城町	危機管理課長		
甲佐町	くらし安全推進室長		
山都町	総務課長		
美里町	総務課長		
大津町	防災交通課長		
菊陽町	危機管理防災課長		
菊陽町	建設課長		
高森町	総務課長		
高森町	建設課長		
西原村	総務課長		
西原村	復興建設課長		
南阿蘇村	総務課長		
南阿蘇村	建設課長		
熊本県	知事公室	危機管理防災課	審議員
熊本県	土木部	河川港湾局	河川課 審議員
熊本県	農林水産部	農村振興局	農地整備課 審議員
熊本県	企業局	発電総合管理所	施設二課長
熊本県	県央広域本部	土木部	工務管理課長
熊本県	宇城地域振興局	土木部	維持管理調整課長
熊本県	宇城地域振興局	土木部	工務課長
熊本県	上益城地域振興局	土木部	維持管理調整課長
熊本県	県北広域本部	土木部	技術管理課長

熊本県 阿蘇地域振興局土木部 維持管理調整課長
熊本県 阿蘇地域振興局土木部 工務課長
気象庁 熊本地方気象台 防災管理官
九州電力（株）熊本支社 技術部 土木建築グループ長
九州旅客鉄道（株） 鉄道事業本部 安全創造部 担当課長
国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所 副所長
国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所 調査第一課長
国土交通省九州地方整備局 立野ダム工事事務所 副所長
国土交通省九州地方整備局 立野ダム工事事務所 調査設計課長
国土交通省九州地方整備局 緑川ダム管理所 専門官

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく
熊本県県央地域の減災に係る取組方針

【案】

令和 年 月 日

熊本県県央地域水防災意識社会再構築協議会

熊本市、宇土市、宇城市、阿蘇市、合志市、
御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町、美里町、
大津町、菊陽町、高森町、西原村、南阿蘇村
熊本県、気象庁熊本地方气象台
九州電力（株）、九州旅客鉄道（株）
国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所
立野ダム工事事務所、緑川ダム管理所

熊本県県央地域の減災に係る取組方針

目 次

1. はじめに	1
2. 本協議会の構成委員	2
3. 河川の概要と主な課題	3
4. 現状の取組状況と主な課題	10
5. 減災のための目標	17
6. 実施する取組	18
7. フォローアップ	24

1. はじめに

熊本県県央地域（以下「県央地域」という。）は、熊本県の中央に位置し、九州縦貫自動車道をはじめ、国道3号、57号、JR 鹿児島本線等の基幹交通施設に加え九州新幹線も開通し、さらに中九州横断道路や九州横断自動車道延岡線が整備中である等、交通の要衝として、中九州における社会・経済・文化の基盤をなしている。白川流域は、流域の約8割を豪雨地帯である阿蘇地方が占めており、中流部の河床勾配が急であることから、阿蘇地方に降った雨は熊本市街部に向かって一気に流れていく特性を持っており、下流域の熊本市街部では、白川に比べ低いところで土地利用が行われていることから氾濫による被害は広域かつ甚大になる恐れがある。緑川流域は、下流部の広い氾濫域に熊本市などの主要都市や中流部に嘉島町、御船町、甲佐町の中心市街地を有しており、ひとたび氾濫すると、複数の市町にまたがって浸水する可能性があり、甚大な被害が発生する恐れがあるなど、異なる特徴を持った複数の河川からなる地域である。

白川では、死者・行方不明者 422 名、家屋流失・全半壊 9,102 戸、家屋浸水 31,145 戸にのぼる戦後最大の被害を被った昭和 28 年 6 月 26 日出水（白川大水害）をはじめ昭和 55 年 8 月出水、平成 2 年 7 月出水、平成 24 年 7 月九州北部豪雨とこれまでに度重なる大きな洪水被害を被っている。

緑川では、昭和 28 年出水をはじめ、過去から度重なる浸水被害に見舞われている。昭和 63 年 5 月出水では、御船川下流域で堤防が決壊し、死者・行方不明者 3 名、家屋の全半壊 79 戸、浸水家屋 7,726 戸の甚大な被害が発生した。また、平成 7 年、平成 9 年の出水では下流部等で浸水被害が発生し、平成 11 年の台風第 18 号では、緑川、浜戸川の下流部で高潮による浸水被害が発生している。

県央地域では、氾濫域に資産が集中している市街地を抱えていることから、壊滅的な被害を未然に防止するためにも、ハード、ソフトが一体となった対策を関係機関が連携し早急に推進する必要がある。

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨により、鬼怒川の堤防が決壊し、氾濫流による家屋の倒壊・流失や広範囲かつ長期間の浸水が発生した。これらに避難の遅れも加わり、近年の水害では類を見ないほどの多数の孤立者が発生した。

この水害を契機として平成 27 年 12 月 10 日に社会資本整備審議会長から国土交通大臣に対して「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について」が答申された。この背景を踏まえ、熊本市、宇土市、宇城市、嘉島町、御船町、甲佐町、美里町と熊本県、気象庁熊本地方气象台、国土交通省熊本河川国道事務所、立野ダム工事事務所、緑川ダム管理所からなる「白川水防災意識社会再構築協議会」、「緑川水防災意識社会再構築協議会」を平成 29 年 1 月 27 日に設立したが、国及び県管理河川一体となった取組を行うべく、白川水系、緑川水系、坪井川水系、大野川水系、五丁川水系、八枚戸川水系、砂川水系、波多川水系、その他県央地域の単独水系を対象とした「熊本県県央地域水防災意識社会再構築協議会（以下「協議会」という。）を令和 年 月 日に設立するものである。

本協議会では、平成 24 年 7 月九州北部豪雨、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨、当該地域で発生した土砂災害や熊本地震における災害対応とその課題を踏まえ、県央地域でも堤防等の施設整備のみでは防ぎきれない水害は必ず発生するという意識へ転換を促し、社会全体で日頃から洪水被害に備えるため、円滑かつ迅速な避難、的確な水防活動等、大規模氾濫時の減災対策として各構成機関が計画的・一体的に取り組む事項について、積極的かつ建設的に検討を進め、今般その結果を「熊本県県央地域の減災に係る取組方針」（以下「取組方針」という。）としてとりまとめたところである。

令和 2 年度までの 5 年間を目標に国管理河川及び県管理河川において、各取組を実施してきたが、ここ数年、全国的に頻発している洪水はその規模が極めて大きく、気候変動による要因が大きいとする言い方が核心的になりつつある。

そのため、県央地域では、引き続き、本協議会を実施していくこととする。

今後、本協議会の各構成機関は、本取組方針に基づき連携して減災対策に取り組むとともに、毎年開催する協議会で、進捗状況の確認や見直しを行うなど継続的なフォローアップを行うこととする。

2. 本協議会の構成委員

本協議会の構成委員と所属する機関（以下、「構成機関」という）は、下表のとおりである。

表-1 熊本県県央地域水防災意識社会再構築協議会 構成機関及び構成委員

構成機関	構成委員
熊本市	市長
宇土市	市長
宇城市	市長
阿蘇市	市長
合志市	市長
御船町	町長
嘉島町	町長
益城町	町長
甲佐町	町長
山都町	町長
美里町	町長
大津町	町長
菊陽町	町長
高森町	町長
西原村	村長
南阿蘇村	村長
熊本県	土木部河川港湾局 河川課長
熊本県	知事公室 危機管理防災課長
熊本県	農林水産部農村振興局 農地整備課長
熊本県	企業局 発電総合管理所長
熊本県	県央広域本部 土木部長

熊本県	宇城地域振興局 土木部長
熊本県	上益城地域振興局 土木部長
熊本県	県北広域本部 土木部長
熊本県	阿蘇地域振興局 土木部長
気象庁	熊本地方気象台長
九州電力（株）	熊本支社 技術部長
九州旅客鉄道（株）	鉄道事業本部 新幹線部長
国土交通省九州地方整備局	熊本河川国道事務所長
国土交通省九州地方整備局	立野ダム工事事務所長
国土交通省九州地方整備局	緑川ダム管理所長

3. 概要と主な課題

県央地域は、白川水系、緑川水系、坪井川水系、大野川水系、五丁川水系、八枚戸川水系、砂川水系、波多川水系、その他単独水系からなり、その大部分を占める白川水系、緑川水系の概要と主な課題は下記のとおりである。

(1) 降雨特性

白川流域の約80%を占める阿蘇地方は、年間降水量が3,000mmを超える豪雨地帯であり、全国平均の約2倍の降水量がある。下流域の熊本市でも年間降水量が2,000mm程度で、全国平均の約1.3倍の降水量があり、流域全体での降水量が多い。

緑川流域の年平均降水量は2,100mm程度で、全国平均の約1.4倍の降水量があり、特に6月～7月の梅雨期に集中する傾向がある。

(2) 地形的特徴

白川流域の上流である阿蘇地方に降った雨は、中流部の河床勾配が急であることから、熊本市街部・下流部に向かって一気に流れていく特性がある。

白川が中流部の山間を抜けて熊本平野へ入ると河床勾配が緩やかになり、熊本市街部で流速が遅くなるため、洪水時の河川水位が上昇しやすい特性を有しており、ここに経済・産業・人口が集積した熊本市街部が位置している。熊本市街部は、白川より低いところで土地利用がなされており、一旦、白川が氾濫すると広範囲に氾濫水が流れ込むとともに、市街部に壊滅的な被害をもたらす恐れがある。

また、上流域では阿蘇の火山活動によって、地表にヨナと呼ばれる火山灰土が厚く堆積しており、洪水時には多量のヨナを含む濁流となって流下するため、氾濫が生じた場合、浸水した地域では水が引いた後にもヨナが堆積し、社会機能の復旧を遅れさせる一因となっている。

緑川流域は下流部に熊本市などの主要都市や中流部に嘉島町、御船町、甲佐町の中心市街地を有しており、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生する恐れがある。

また、緑川水系は支川が多く、雨の降り方によって洪水氾濫の発生する地域が異なる。

(3) 過去の被害状況等

白川流域では、昭和28年6月出水において阿蘇地方各所で山崩れが発生し、ヨナを含む濁流が流下し、熊本市内で氾濫、堆積し、死者・行方不明者422名、橋梁流失85橋、家屋流失・全半壊9,102戸、浸水家屋31,145戸という、かつてない甚大な被害が発生した。その後も、昭和55年8月出水、平成2年7月出水と度重なる洪水被害が発生しており、近年では、平成24年7月九州北部豪雨において、代継橋水位観測所で既往最高水位を記録し、国管理区間（小碓橋下流）でも浸水被害が発生し、流域全体において浸水家屋2,983戸の甚大な被害が発生した。

緑川流域では、甚大な被害が発生した昭和28年6月出水をはじめとして、度々洪水が発生している。昭和63年5月出水では、集中豪雨により、緑川支川御船川において、堤防から越水・決壊し、大きな被害が発生した。また、平成9年7月出水においては、激しい雨が断続的に降り続き、浸水被害が発生した。

(4) 河川の整備状況

白川の河川改修事業として、白川水系河川整備計画に基づき、緊急対策特定区間として、熊本市街部において重点的に河川改修を実施している。また平成 24 年 7 月洪水の被害を受け、明午橋から小碓橋にかけて河川激甚災害対策特別緊急事業として、流下能力のネック箇所及び無堤区間の対策を実施した。また、白川下流部においては、堤防の高さが不足する箇所において、高潮堤防整備を実施している。

緑川の河川改修事業として、緑川水系河川整備計画に基づき、緑川河口部や浜戸川の緊急対策特定区間における築堤、緑川と加勢川の築堤及び河道掘削を優先的に進めている。特に、治水安全度が著しく低い加勢川下流域はその氾濫域に熊本市を抱え、資産が集中していることから、河道掘削を実施している。さらに氾濫した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」として、堤防天端の保護、堤防裏法尻の補強等を実施している。

(5) 流域住民の意識

平成 28 年に実施した流域住民へのアンケート結果によると、氾濫域に住んでいるが河川との関わりが薄い傾向にあり、若い世代ほど過去の災害の認識が低い。また、洪水が起きたとしても自宅は浸水しないと思われている方が 8 割弱で、水害は自分の身にも起こり得ることを意識していないことが伺える。さらには、ハザードマップを認識していない方が約 8 割にのぼる。

一方、避難場所に関しては、浸水想定区域が広いため、川より離れた所や市町外の安全な所などへの広域的な避難のニーズが高い。

避難情報については「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方が約 4 割、河川水位情報に関して「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は約 6 割にのぼり、防災情報が的確に伝わっていない可能性がある。

約 6 割の方が自主防災組織を認識しておらず、知っているが参加するつもりはない方も、約 1 割存在し、日頃からの防災に対する地域との関わりについては、意識が低いことが伺える。

(6) 白川・緑川流域における主な課題

1) 地形的・降雨特性からの課題

- ・白川流域の約 8 割は、阿蘇地方が占め、年間降水量は全国平均に比べて約 2 倍（阿蘇山観測所）と多い。阿蘇地方に降った雨は、中流部の河床勾配が急であることから、2～3 時間で経済・産業・人口の集積した熊本市街部に到達し、下流部や河口部では河床勾配が緩やかとなるため、洪水時には水位が上昇しやすい。また、熊本市街部がある下流部は、白川より低いところで土地利用がなされているため、一度洪水が氾濫すると浸水被害が拡大し、被害が甚大になる地形特性がある。

また、阿蘇火山灰（ヨナ）を含む土砂が大量に流出・堆積する被害特性を持っている。

- ・緑川は、浜戸川・加勢川・御船川などの支川が流れ込んでおり、雨の降り方により、洪水氾濫の発生する地域が異なる傾向にある。

流域には 4 市 8 町 1 村が存在しており、堤防決壊等が発生した場合には、複数の市町村が浸水するという氾濫特性がある。

また、平成 28 年 4 月の熊本地震を受け、広い範囲で地盤の沈下が見られており、特に沈下が著しい地域では氾濫した水が溜まりやすく、長期化が懸念されている。

2) 流域住民の水防災に対する意識の課題

- ・今回実施したアンケート結果によると、平成24年7月九州北部豪雨の際に約7割の方が避難していない。
- ・近年の全国的な豪雨災害により防災意識は高まりつつあるが、避難情報等の意味を理解されていない方が半数程度、ハザードマップを認識していない方が約8割にのぼり、さらに白川や緑川が氾濫しても自宅は安全で、被害を受けないと思われている方が8割弱となっており、水害リスクに対する理解が低い状況である。

3) 白川・緑川流域における個別の課題

- ・白川流域で実施したアンケート結果によると、白川を日常的に意識している人や関わりを持っている人の割合が少なく、白川に対する関心や水害リスクの認識が希薄である。また、防災に対する地域との関わりについての意識も低い。
 - ・緑川流域では、先人より受け継がれてきた水害の記憶や文化、歴史的な治水施設が流域に残されているが、河川改修の進捗に伴う浸水被害の減少により、水害を経験していない人が増加しつつあることで、防災意識が薄れており、流域の歴史・文化が風化してしまう懸念がある。
- また、防災に対する地域社会での共助の意識も低い。

4. 現状の取組状況と主な課題

(1) 避難勧告等の発令に関する事項

項目	現状(○)と課題(●)	
避難勧告等の発令に資する情報	○避難勧告等の発令判断の目安となる氾濫危険情報の発表等の洪水予報を気象台と連携し実施している。 ○提供した水位情報をもとに的確な避難準備や避難行動につながるよう、水位に応じた危険度レベルを示した水位標を設置し、水位状況の目安としてわかりやすく示している。	
	●防災情報を受けた場合、避難勧告等の発令判断等の対応について十分な検証が共有なされていないが不十分である。また、防災担当職員の避難勧告等の発令判断等のスキルが十分ではない。	A
	○近年の水害や熊本地震による課題、教訓を踏まえ地域防災計画の見直しを行っている。 ○平成26年度に熊本地方気象台、熊本河川国道事務所、熊本市、宇土市、嘉島町、御船町、甲佐町、美里町で水害対応タイムライン(防災行動計画:簡易版)を策定している。	
	●策定した水害対応タイムラインが実水害や水防避難訓練等で十分活用されておらず、有効性の検証に至っていない。また、避難勧告等の判断・伝達等のマニュアルに基づいた避難計画の内容が十分ではない。	B
	○防災情報提供システムにより市町村の防災担当者向けに、雨量、水位情報(10分単位の水位予測情報)、レーダ情報、ダム情報、危険箇所情報、高潮情報、河川カメラCCTV情報、水防警報・洪水予報等の防災情報を集約して提供している。 ○熊本河川国道事務所では、状況に応じ、事務所長から各市町長へホットラインで河川の状況等について情報提供している。 ○熊本地方気象台では、状況に応じ、台長から各市町長へホットラインで気象状況について情報提供している。	
	●河川CCTVカメラや水位計で危険箇所等の監視を行っているが、夜間は視認しづらい等、まだ十分な環境とは言えない	C

(2) 住民等の主体的な避難に関する事項

項目	現状(○)と課題(●)	
避難場所・経路の周知	<p>○計画規模の外力による浸水想定区域図を、熊本河川国道事務所のホームページ等で公表している。</p> <p>○各市町では「洪水ハザードマップ」を作成し、住民に配布している。また、作成した「洪水ハザードマップ」をホームページで公表している。</p> <p>○「洪水ハザードマップ」等を基に、地域の実情にあわせたより詳細な浸水情報や避難経路等を記載した「地域版ハザードマップ」を住民自らが参加し作成する取組として、自治会が市町と連携して実施している。</p>	
	●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図等について公表。	D
	●住民アンケート(H28)によると、ハザードマップを認識していない方が約8割にのぼる。	E
	●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップを作成。	F
	●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域の指定に伴い、避難者数の増加や避難所の浸水等により、各市町での避難所が不足することが懸念される。	G
	●緑川水系には4市8町1村が存在しており、堤防決壊等が発生した場合には、複数の市町村が浸水する恐れがある。そのため堤防決壊が発生した場合の広域的な避難行動時の自治体間の情報共有・連携が十分ではない。	H
	●地域版ハザードマップは一部地域での作成に留まっている。	I
	●地下街(地下空間)や要配慮者利用施設等における避難確保計画の作成、訓練の実施の確認、助言等が十分でない。	J

項目	現状(○)と課題(●)	
住民等が自ら避難判断に資する情報提供	<p>○国土交通省では「川の防災情報」により、全国のリアルタイム雨量・河川水位等の情報をインターネットやスマートフォン向けにリアルタイムで提供している。</p> <p>○雨量水位情報や河川カメラ情報等を一元的に熊本河川国道事務所のホームページで提供している。</p> <p>○九州地方整備局では「NHK 地上デジタル放送」により河川防災情報を提供している。九州内の国土交通省・県等の所有する観測所の水位・雨量データ、洪水に関する予警報、ダムに関する情報等をリアルタイムに伝達することが可能となっている。</p> <p>○九州地方整備局では河川情報アラームメールを配信している。九州管内の一級水系(20水系)に配置した雨量・水位観測所の中から、利用者が必要とする観測所を選んで登録すると、基準値を超過した観測所の雨量・水位データが配信される仕組みになっている。</p> <p>○各市町ではより多くの住民の方に災害情報の迅速な伝達を行なうために、緊急速報「エリアメール」を活用した避難勧告等の緊急情報を提供している。</p> <p>○市街地の電柱や公共施設等に過去の浸水実績を示した標識等を設置している。</p> <p>○国土交通省では、氾濫危険水位超過時、氾濫発生時に「緊急速報メール」として、住民へのプッシュ型の情報発信を実施している。</p>	
	●日常から水防災意識の向上を図り、迅速な避難を実現するための過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の整備が進んでいない。	K
	●住民アンケート(H28)によると、住民側からの情報の取得が進みつつあるものの、情報提供手段に対するニーズ、避難行動マニュアル作成等についてニーズが高い。	L
	●住民アンケート(H28)によると、避難情報について「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方が4割弱である。また、河川水位情報に関して「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は5割強であり、避難判断に必要な情報の意味が十分理解されていない。	M
	●氾濫危険水位超過時、氾濫発生時に行う「緊急速報メール」(住民へプッシュ型の情報発信)の取組は開始済み。	N
	●各関係機関から防災情報が出されており、住民目線では一元的に情報を把握しにくい。	O

(続き)

項目	現状(○)と課題(●)	
水防災学習・教育の普及	<p>○川の情報発信・川の体験学習・地域住民交流の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用を推進している</p> <p>○小中学校等の教育機関を対象とした防災に関する出前講座や地域を対象とした水防災共同点検、防災啓発イベント等を実施している。</p> <p>○住民団体及び NPO 等で河川での安全な体験活動等を啓発する取組が実施されている。</p>	
	●白川地域防災センター(白川わくわくランド)を活用した水防災学習に関する取組や地域への普及が十分ではない。	P
	●住民アンケート(H28)によると、近年の出水について、被害を受けていない地域では認識が低いことや、30 代以下になると知らない割合が高いなど、水害の記憶が風化しつつある。	Q
	●住民アンケート(H28)によると、洪水が起きたとしても自宅は浸水しないと思われる方が 7 割～8割で、水害は自分の身にも起こり得ることを意識していない方が多い。	R
	●小中学校の学校教育において関係機関の連携による防災教育の取組が十分ではない。	S
	●住民団体及び NPO 等が実施している安全な体験活動等の啓発活動の普及が十分ではない。	T
	●水防拠点として整備された防災ステーションが、平常時に防災教育の場として、十分に利活用されていない。	U
地域防災力の向上	<p>○各市町における自主防災組織の組織率は嘉島町、御船町で 100%達成しており、宇土市で 9 割、甲佐町で約 8 割強、美里町で約 8 割弱(平成 28 年 4 月時点)、熊本市で約 8 割弱(平成 28 年 10 月時点)であり、自主防災組織の組織化及び活動が進んでいる。</p> <p>○河川管理者が所有している防災情報を各機関に提供するなどの防災情報の共有、防災関係機関を対象とした共同点検の実施など防災関係機関の連携強化を推進している。</p> <p>○水防体制の維持・強化を図るため、水防団員の確保のための支援や水防訓練の実施等を関係機関と連携して実施している。</p>	
	●住民アンケート(H28)によると、約 6 割の方が自主防災組織を認識しておらず、知っているが参加するつもりはない方も約 1 割であり、日頃からの防災に対する地域との関わりについては、意識が低い。	V
●水防団(消防団)へのヒアリング(H28)によると、若年層の団員が減少傾向にあり、山間部等では団員が減少、高齢化傾向にあり、今後の水防体制確保が懸念される。また、多くの団体においてサラリーマン団員の増加しており、平日の参集・活動が難しくなっている。	W	

(続き)

項 目	現状(○)と課題(●)	
報道機関との連携・協力	○九州地方整備局(熊本県内事務所)と熊本県内報道機関関係者との意見交換会を実施している。	
	●緊急時において住民の避難判断・避難行動を促すためのさらなる情報提供の強化に向けた連携・協力が十分ではない。	X
熊本市街部洪水危機管理対策協議会の設置	○熊本市街地の特性を踏まえ、水害に対する都市防災力向上を目的に「熊本市街部洪水危機管理対策協議会(H23.5.9)」を設立し、熊本市街部洪水危機管理対策行動指針を策定している。	
	●行動指針を策定しているが、具体的な取組及び近年の水害を踏まえた指針の見直しが十分なされていない。	Y

(3) 水防活動等に関する事項

項目	現状(○)と課題(●)	
水防活動のための情報の共有	<p>○重要水防箇所を公表し、毎年出水期前には河川管理者、各市町、水防団が合同で危険箇所などの合同巡視を実施している。</p> <p>○河川の水位に応じて熊本河川国道事務所から水防警報を通知している。</p> <p>○出水時には、水防団等と河川管理者がそれぞれ河川巡視を実施している。</p>	
	<p>●水防団や河川管理者の河川巡視で得られた情報や関係機関が取得した情報について、互いの情報共有が十分できていない。</p>	Z
水防資機材の整備	<p>○河川の堤防等が被災した際に迅速に対応するために水防資機材の備蓄、防災ステーションの整備を図っている。</p> <p>○水防管理団体(各市町)が水防資機材を水防倉庫等に備蓄している。</p>	
	<p>●水防団等と河川管理者が連携して的確な水防活動を推進するため、水防管理団体(各市町)と河川管理者の資機材に関わる情報共有が十分なされていない。</p>	AA
	<p>●大規模氾濫時を想定した水防資機材のストックが十分ではない。</p>	BB
早期復旧への対応	<p>○各所で発生する浸水被害に迅速かつ効率的に対応するため、移動式の排水ポンプ車を浸水箇所に機動的に配置し、被害軽減を図っている。</p> <p>○『熊本地域防災連絡会(H26.5.28 発足)』を発足し、連絡体制の確認や各種情報の共有など、大規模災害時支援の連携強化を図っている。</p> <p>○大規模災害時に円滑な支援活動が可能ないように、九州地方整備局では管内市町村と応援に関する協定を締結している。さらに、大規模災害時の応援協定に基づく遠隔防災会議訓練を実施している。</p>	
	<p>●大規模氾濫時には交通が遮断されるなど応急復旧等に支障が生じる恐れがある。</p>	CC
	<p>●大規模氾濫時に備え、熊本地震の影響を考慮した効果的な排水計画が検討されていない。また、緊急排水に必要なポンプ車が不足している。</p>	DD
	<p>●白川が氾濫した場合、阿蘇火山灰(ヨナ)を含む土砂が大量に流出・堆積する被害特性を持つため、ライフラインや社会機能の回復に時間がかかる。</p>	EE
	<p>●緑川では過去の水害においても様々な地域で大きな洪水氾濫が発生しており、多様な降雨パターンを呈している。また流域には4市8町1村が存在しており、堤防決壊等が発生した際、複数の市町村が浸水するという氾濫特性があるため、早期復旧への対応を考慮すると、自治体間の情報共有・連携が不足している。</p>	FF
自治体庁舎等の水害時の機能確保	<p>○計画規模の洪水に備えて、各市町庁舎等の防災拠点施設の整備を行っている。</p>	
	<p>●大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎や避難拠点となる学校等が機能不全に陥る可能性がある。</p>	GG

(4) 河川管理施設の整備及び管理に関する事項

項目	現状(○)と課題(●)	
白川の河川改修事業等	<p>○熊本市街部においては、白川水系河川整備計画に基づき、河道整備を実施している。</p> <p>○平成 24 年 7 月九州北部豪雨を受け、明午橋から小碓橋にかけて、激甚災害対策特別緊急事業として、治水安全度の低い箇所及び無堤区間の対策等を実施した。</p> <p>○下流部においては、堤防の高さが不足する箇所において高潮堤防整備を実施した。</p>	
	<p>●堤防等の施設整備については、整備途上であり、施設能力を超える洪水が発生すると浸水被害が発生する恐れがある。</p>	HH
立野ダム建設事業	<p>○白川水系河川整備計画に基づき、洪水被害の防止又は軽減を図るため、河道整備等と併せて立野ダムの建設を進めている。</p>	
	<p>●立野ダム建設事業は整備中であり、また、河道整備等も整備途上であるため、現時点の河道整備等の能力を超える洪水が発生すると越水等による浸水被害が発生する恐れがある。</p>	II
緑川の河川改修事業	<p>○緑川河口部や浜戸川の緊急対策特定区間における築堤、緑川と加勢川の築堤及び河道掘削を優先的に実施している。</p> <p>○特に、治水安全度が著しく低い加勢川下流域はその氾濫域に熊本市を抱え、資産が集中していることから、河道掘削を実施している。</p>	
	<p>●堤防等の施設整備については、整備途上であり、施設能力を超える洪水が発生すると浸水被害が発生する恐れがある。</p>	JJ
危機管理型ハード対策	<p>○氾濫した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」として、堤防天端の保護、堤防裏法尻の補強等を実施している。</p>	
	<p>●危機管理型ハード対策については、整備途上であり、堤防を越流する洪水が発生すると堤防の決壊・損傷等が発生するおそれがある。</p>	KK
緑川ダムの運用	<p>○洪水及び濁水時に操作が必要な場合は、操作規則等に基づき迅速かつ的確に操作を実施している。</p> <p>○緑川ダムの下流には、警報局が設けられており、ダムから放流する際には事前にサイレンを鳴らし、沿川住民や河川利用者の安全確保のため注意喚起を実施している。</p> <p>○平成 19 年 7 月には梅雨前線の影響により既往第 2 位の流入量を記録。ダムによる洪水調節により、ダム下流にある中甲橋水位観測所において約 42cm の水位低減効果を発揮した。</p>	

5. 減災のための目標

円滑かつ迅速な避難や的確な水防活動を実施するため、各構成機関が連携して達成すべき減災目標は以下のとおりとした。

【達成すべき目標】

県央地域の各自治体が相互に協力し、
『水害に強いまちづくり』と『迅速で的確な避難行動』を目指す。

■上記目標達成に向けた3本柱の取組

上記目標の達成に向け、以下の項目を3本柱とした取組を実施する。

- 1) 大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築
- 2) 過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、河川への関心を高め、各河川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進
- 3) 特徴の異なる複数の河川において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信

6. 実施する取組

氾濫が発生することを前提として、社会全体で常にこれに備える「水防災意識社会」を再構築することを目的に、各構成員が取り組む主な内容は次のとおりである。

(1) ハード対策の主な取組

ハード対策の「洪水を未然に防ぐ対策」「危機管理型ハード対策」に関しては、流域治水協議会に諮る。

1) 洪水氾濫を未然に防ぐ対策

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
① 白川の河川改修事業の推進			
・堤防整備・河道掘削等の流下能力対策、侵食・洗掘対策	HH	継続	九州地方整備局
② 洪水被害の防止又は軽減を図るための立野ダムの建設			
・立野ダムの建設	II	継続	九州地方整備局
③ 緑川・浜戸川高潮対策事業			
・平成 11 年台風 18 号規模の高潮に対応する堤防整備	JJ	継続	九州地方整備局
④ 緑川の河川改修事業の推進			
・堤防整備・河道掘削等の流下能力対策、侵食・洗掘対策等	JJ	継続	九州地方整備局

2) 危機管理型ハード対策

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
① 堤防天端の保護、堤防裏法尻の補強等			
・堤防天端の保護、堤防裏法尻の補強の実施	KK	継続	九州地方整備局

3) 関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命等への被害を最小化するための施設の整備

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
① 降雨状況の監視の強化			
・河川カメラや水位計、水位標等の設置	C	継続	九州地方整備局
② 河川水位の危険度レベルの標識の設置・拡充			
・河川水位の危険度レベルの標識の設置・拡充	C	継続	九州地方整備局
③ 大雨時の危険性の判断や避難行動に役立つ看板の設置			
・過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	K	継続	5市9町2村、九州地方整備局
④ 住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充			
・防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	L	H29～	5市9町2村
⑤ 迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定			
・備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	BB	継続	5市9町2村、九州地方整備局

(2) ソフト対策の主な取組

- 1) 大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
① 避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施			
・実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	A, B	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	B	H29～	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	A	H29～	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
② 想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底			
・想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図等の検討及び公表	D	継続	九州地方整備局
・想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	F, G, H	H29～	5市9町2村
・(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	H, L	H29～	5市9町2村、熊本県
・ハザードマップ、地域版ハザードマップ、水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	E, I	H29～	5市9町2村
・想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	G	H29～	5市9町2村
③ 水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化			
・水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	W	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	V	継続	5市9町2村、熊本県、九州地方整備局
・水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	AA	継続	5市9町2村、熊本県、九州地方整備局
・水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	W	継続	5市9町2村

(続き)

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
④ 大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施			
・排水施設の情報共有、排水手法等の検討を行い、大規模水害を想定した排水施設の運用や排水ポンプ車の適切な配置等、緊急排水計画の策定	DD	H29～	5市9町2村、熊本県、九州地方整備局
・大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	DD	H30～	5市9町2村、熊本県、熊本地方气象台、九州地方整備局
⑤ 大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化			
・自治体の防災担当者間の連携促進	H, FF	H29～	5市9町2村、熊本県、九州地方整備局
⑥ まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討			
・大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定	CC	H30～	5市9町2村、熊本県、九州地方整備局
・早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援	GG	H30～	熊本市
・地下街(地下空間)、要配慮者利用施設の避難確保計画の作成及び避難訓練の実施・支援	J, Y	継続	5市9町2村
・大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎や避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	GG	H30～	5市9町2村

- 2) 過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、河川への関心を高め、各河川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
① 水害の歴史や文化の記憶を風化させないことや河川への愛着や理解を深めるための学習機会や出前講座等の拡充			
・小中学校教育委員会等と連携を図り、白川や緑川等についての学習や出前講座等の実施・拡充	Q	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方气象台、九州地方整備局
・河川の水害の歴史や文化への理解、河川に対する愛着を深めるための啓発活動の実施・拡充	Q	継続	熊本市、熊本県、熊本地方气象台、九州地方整備局
② 洪水リスク・防災意識の啓発・教育			
・白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進	P	継続	熊本市、九州地方整備局
・教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川、緑川等についての学習・水防災教育等の実施	E, M, R, S	H29～	5市9町2村、九州地方整備局
・市民向けの白川・緑川等の河川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	E, M, R, S	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方气象台、九州地方整備局
・住民団体・NPO 等と連携した川の安全な体験活動の普及	T	継続	5市9町2村、熊本県、九州地方整備局
・防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	U	H29～	5市9町2村、九州地方整備局

3) 特徴の異なる複数の河川において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
① 関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化			
・水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用 の推進	A	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	A	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・市町長だけでなく、副市町長、防災担当部課長等との ホットラインの確立	A	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
② 誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化			
・多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	L, M	H30～	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・スマートフォン等携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	L, N	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	L	H29～	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	O	H29～	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	X	H29～	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局

(続き)

主な取組項目	課題の対応	目標時期	取組機関
③ 水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施			
・毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	Z	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	Z	継続	5市9町2村、熊本県、熊本地方気象台、九州地方整備局
・出水時の河川巡視情報等の共有	Z	継続	5市9町2村、熊本県、九州地方整備局

7. フォローアップ

各構成機関の取組については、必要に応じて、防災業務計画や地域防災計画等に反映することなどによって役割を明確にし、組織的、計画的、継続的に取り組むこととする。

原則、協議会を毎年開催し、取組の進捗状況を確認するとともに、必要に応じ、さらなる効果的な取組方針へ見直すこととし、実施した取組についても訓練等を通じて習熟、改善を図る等、継続的なフォローアップを行うこととする。

■第2回 白川・緑川水系流域治水協議会（R3.3.18開催）における流域自治体首長の発言と回答・対応

自治体	発言内容	回答内容	以降の対応
益城町	上流域における洪水被害軽減のための、河川整備計画策定に向けた検討をより一層進めていただきたい。	今後、国・県が連携して上下流のバランスを見つつ河川整備計画策定に向けた取組みを加速していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度には、河川整備計画の検討のために、矢形川にある既存ダムの治水機能の効果の確認検討を実施。 ・来年度以降も引き続き河川整備計画策定に向けた取組みを加速していきたい。
宇土市	全体的にハード面の取組みが多くみられる。ソフト面の取組みが柱として何か必要でないか。	水防災意識社会再構築協議会にて、防災学習、避難計画、情報共有といった三本柱を設けて進めている。今後、一般の方への効果的な情報提供等、新たにソフト対策を追加するかどうかを検討していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座による防災教育や白川治水パネル展などを実施し、一般の方に対しての防災学習を随時実施している。
	現在ハザードマップを作成し直していることから、作業の手戻りが無いように、どこの河川の浸水想定図を作成しているのか周知していただきたい。	対象河川及び区間等の情報提供をすると共に連携を強めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度には、市町村担当者を対象として、洪水浸想定図の作成対象河川や作成手法などに関する説明会を実施するなど、関係市町村に対して情報提供を行った。
熊本市	ソフト対策とハード対策を分けるだけでなく、まずハード対策の内容、効果を分かりやすく伝えることが必要なのでは。		/リスクマップを作成し、直轄管理区間の短期・中期・中長期それぞれの段階整備毎のハード対策の効果を見える化。
	治水に関してはマスメディア等に取り上げられにくいことから、注目度の低い冬場等ではなく、関心の高まる出水期に情報を発信していただきたい。	住民の危機意識を高める対策には取り組めていないことが多くあると認識している。出水期前の広報実施やSNS・YouTube等を用いた情報発信も今後検討していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・R3.6に白川の河川改修についてTKUの番組内で放送 ・熊本市の市政だよりに流域治水の取組に関する記事を掲載 ・R4.4に開催されるアジア・太平洋水サミットのサイドイベントで「あなたにもできる流域治水フォーラムinくまもと～激甚化する水災害に備えた「まちづくり・ひとづくり」～」と題し、講演やパネルイベントを実施する予定。

白川・緑川水系流域治水プロジェクト —令和3年度取組進捗状況—

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	河道掘削	白川	・白川水系河川整備計画に基づき、3,000m ³ /sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、治水安全度が低い箇所での河道掘削を行う。	R3時点	目標	白川水系河川整備計画では直轄管理区間において井樋山堰～泰平橋及び渡鹿堰上流の河道掘削が位置づけられており、令和3年度は蓮台寺橋上流を実施する。	
	河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	横断工作物の対策	白川	・白川水系河川整備計画に基づき、3,000m ³ /sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、白川直轄管理区間にある固定堰（井樋山堰、十八口堰、三本松堰、渡鹿堰）及び薄場橋、JR白川橋梁の改築等を実施する。	R3時点	目標	白川水系河川整備計画では直轄管理区間において固定堰（井樋山堰、十八口堰、三本松堰、渡鹿堰）及び薄場橋、JR白川橋梁の改築等が位置づけられており、令和3年度は調査検討等を実施する。	
	河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	堤防整備	白川	・白川水系河川整備計画に基づき、3,000m ³ /sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、堤防高・幅が不足している地区において堤防整備を実施する。	R3時点	目標	白川水系河川整備計画では直轄管理区間において小島橋下流、大甲橋～明午橋、子飼橋上流の堤防整備が位置づけられており、令和3年度は小島橋下流の一部を実施する。	
	高潮堤防整備	高潮堤防整備	緑川	・緑川水系河川整備計画に基づき、高潮区間（緑川平木橋下流、浜戸川太郎兵衛橋下流）においてまず平成11年9月の高潮規模に対応できるようT.P. 4.50mの堤防を整備し、その後、既往最大規模のT.P. 6.00mの堤防を整備する。	T.P.4.5m対応 R3時点 目標			緑川水系河川整備計画では緑川本川平木橋下流及び浜戸川太郎兵衛橋下流の高潮堤防整備が位置づけられており、令和3年度は本川右岸2km付近のT.P. 4.00m整備及び本川、浜戸川の左右岸下流より順次T.P. 6.00mの整備を実施する。
	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築 等	堤防整備	緑川	・緑川水系河川整備計画に基づき、既往最大である昭和18年9月洪水と同規模の洪水が再度発生した場合でも、浸水被害の防止又は軽減が図られることを目標に、堤防高・幅が不足している地区において堤防整備を実施する。		本川中流部 目標	本川上流部 目標	緑川水系河川整備計画では宇土市、熊本市、嘉島町、御船町、甲佐町内において堤防高・幅が不足している箇所の堤防整備が位置づけられており、令和3年度は本川右岸の熊本市南区川口町において堤防整備を実施する。
	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築 等	河道掘削、樹木伐採	緑川	・緑川水系河川整備計画に基づき、既往最大である昭和18年9月洪水と同規模の洪水が再度発生した場合でも、浸水被害の防止又は軽減が図られることを目標に、河積が不足している地区において河道掘削及び樹木伐採を実施する。	支川加勢川 R3時点	目標	本川中流部 目標	本川上流部 目標
被害対象を減少させるための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			
	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	防災ステーション・防災拠点の整備	緑川	・緑川下流部（浜戸川）にある既存の防災ステーションに加え、緑川中上流部において新たに防災ステーションや水防拠点を整備することで、災害時において水系全体で円滑かつ効果的な河川管理施設保全活動及び緊急復旧活動が可能となる。	R3時点	目標	緑川上流部における船津地区河川防災ステーションについては、今年度より基盤整備を実施していく。既設の浜戸川防災ステーション（緑川）については必要に応じて備蓄資材の整備等を実施していく。	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			
	土地の水災害リスク情報の充実	従来型水位計及び危機管理型水位計の設置	白川・緑川	・白川、緑川水系の国管理区間において、アドホック水位計を危機管理型水位計に更新し、運用。 ・出水時に危険箇所実位置での水位観測（現状把握）を行うことにより、関係市町へ、より正確な防災情報を提供。	R3時点	目標	白川、緑川水系の国管理区間において、令和3年度時点で危機管理型水位計を21箇所運用中。	
	避難体制等の強化	広域避難を含むハザードマップ、水防災教育等に関する自治体支援	白川・緑川	・国管理区間のL2浸水想定区域図（白川、緑川）を公表し、各市町の浸水リスク情報を配布。 ・各市町の実務担当者が構成する広域避難作業部会の発足 ・学校関係者が集まる場にて、「防災教育教材の活用」に向けた普及活動を実施、また教材を教科書の副教材として活用した授業の実施。 ・熊本市教育委員会と熊本県立教育センターのサーバーに教材データをアップロードし、先生方が自由にデータを取得できる環境を整備。	R3時点	目標	浸水想定区域図に関する自治体からの疑義に対する問い合わせ対応等の支援及び教材の更新。	

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
					立野ダム建設	ダム建設	白川	

R4.3.15更新

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					R4. 3. 10更新			
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					取組工程の進捗状況			
					短期	中期	中長期	
	土砂洪水氾濫対策	砂防堰堤整備	白川	・豪雨による山腹崩壊や土石流等に起因する災害から住民の命とくらしを守るため、人家等に対する直接的な土砂災害防止及び下流河川の河床上昇に伴う洪水被害の防止を図ることを目的として砂防事業を実施中。	R3時点		目標	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防堰堤を32箇所事業推進中。うち22箇所工事中（令和3年度1箇所完成予定）。 ・豪雨時には、整備済みの砂防堰堤が土砂・流木を捕捉し、下流人家等への被害を防止した。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
					河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築等	既存ダムの洪水調節機能の強化	緑川	

R4.3.10更新

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】 R4. 3. 15更新

	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					取組工程の進捗状況			
					短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	河道掘削等、遊水地の整備	白川	・白川水系白川において、既定計画に基づき、河道掘削や堤防整備を実施。 ・黒川においては、遊水地群の整備を行う。	R3時点	目標	・白川（菊陽地域）において河道掘削の実施や、河道整備に係る設計を実施。 ・黒川（跡ヶ瀬遊水地）において関係機関との調整を図りながら、用地買収等を実施。	
	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築等	河川バイパス区間の整備	緑川	・緑川水系潤川において、既定計画に基づき、140m ³ /sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、河川バイパス区間の河道整備を実施。	R3時点	目標	・河川バイパス区間における河道掘削や護岸整備を実施。	
	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築等	橋梁架替	緑川	・緑川水系天明新川において、既定計画に基づき、120m ³ /sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、治水安全度が低い橋梁箇所の架け替え等を行う。	R3時点	目標	・橋梁架け替え箇所の取り付け護岸の実施。	
	土砂洪水氾濫対策	砂防堰堤整備	緑川	・豪雨による山腹崩壊や土石流等に起因する災害から住民の命とくらしを守るため、人家等に対する直接的な土砂災害防止及び下流河川の河床上昇に伴う洪水被害の防止を図ることを目的として砂防事業を実施中。	R3時点	目標	・砂防堰堤を10箇所で開催中（令和3年度に2箇所完成予定）。 ・令和4年度以降も、継続して砂防堰堤の整備及び新規整備箇所の調査を実施	
	森林の整備・保全 治山施設の整備	間伐等による森林の整備・保全	白川・緑川	・森林の有する山地災害防止機能や水源涵養機能等の公益的機能の適切な発揮に向け、山地災害危険地区や白川・緑川上流域等の森林を主体として、引き続き、間伐等の森林整備を推進。 ・また、森林整備を効率的・効果的に進めるため、森林経営管理制度の活用や施業技術の実証・普及等を併せて実施。	R3時点	目標	・白川・緑川上流域の森林を主体とした間伐や再造林、鳥獣被害対策の実施等を行った。 ・市町村での森林経営管理制度の活用の促進に向け、市町村職員を対象とした研修の開催や巡回指導による技術支援等を実施した。 ・造林作業等の省力化・低コスト化に向け、新技術の導入支援等を通じて、林業現場への導入を進めた。	
	森林の整備・保全 治山施設の整備	治山施設の整備・保全	白川・緑川	・令和2年7月豪雨等により発生した林地崩壊や漂流荒廃を踏まえ、下流への土砂・倒木の流出を抑制するため、緊急的な治山施設等の整備を実施 ・山地災害が発生した箇所又はおそれのある箇所（山地災害危険地区）等を対象として、土砂の流出抑制や被害箇所の森林への復旧のため、流木捕捉式治山ダムを設置するなど流木対策を推移。	R3時点	目標	・山地災害が発生した箇所について、谷止工や山腹工等の復旧工事を実施。	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	河川カメラの設置	白川・緑川	・簡易型河川カメラの設置	R3時点	目標	なし	
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	白川・緑川	・水害リスク空白域の解消 ・ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組 ・白川・緑川水系：水位周知河川以外の河川の浸水想定区域図の作成	R3時点	目標	・R3年度末までに白川水系・緑川水系における全ての中小河川※について作成完了。 ※周辺に住宅等の防御対象のない河川を除く	
	避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	白川・緑川	・水防警報発令システムの改良（半自動化）	R3時点完了		・R3年10月にシステムの改良完了	
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	白川・緑川	・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	R3時点	目標	・市町村と協力し、県から施設管理者向けに避難訓練研修を開催した。 ・避難確保計画の作成支援を行った。	

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況		
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
				短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能向上	一定規模以上の開発行為に対する雨水貯留施設設置指導	白川・緑川	・一定規模以上（5000㎡）の開発行為に対する雨水貯留施設（調整池）の設置を推進 ・一定規模以上（1000㎡）の開発行為に対する雨水浸透ます設置を推進 ・透水性舗装を推進	R3時点	目標	・開発行為申請に対し雨水流出抑制指導を行っている。
	流域の雨水貯留機能の向上	雨水貯留施設の設置補助	白川・緑川	・地下水の涵養対策、節水対策及び雨水の流出抑制による水害軽減を図るため、雨水浸透ますの設置を推進する。	R3時点	目標	・令和2年度までにおいて、雨水浸透樹7259基※の設置補助を行っている。 ・令和3年度においては、令和3年12月末時点において、雨水浸透樹12基※の設置補助を実施した。 ※）熊本市域全域
	支川等氾濫対策	中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等	緑川	・洪水による被害の防止・軽減を図るため、河道拡幅、橋梁架替、貯留施設の整備、河川の浚渫等を実施。	R3時点	目標	・改修を実施している主な河川の整備率は以下のとおり。 健康川（約82%）、藻器堀川（約71%）、鶯川（約52%）、旧天明新川（約10%）。 ※令和3年4月時点
	支川等氾濫対策	排水ポンプ用釜場整備、排水機場整備	緑川	・大雨時における浸水被害軽減を目的に野田排水機場のポンプ能力を現状の約1.5倍（1.2m ³ /s⇒1.7m ³ /s）に増強を図る。 ・老朽化した第一海路排水機場の施設更新を行うとともに排水能力の増強を図る。（3.0m ³ /s⇒8.0m ³ /s）	R3時点	目標	・雨水排水用排水機場の改築更新等については、野田排水機場のポンプ増強において令和2年度までに流出解析モデルを用いたシミュレーションや基本設計を実施し、令和3年度に詳細設計を実施する。 ・農業用排水機場の改築更新等については、第一海路排水機場の更新を実施している。（H27～R6）
	支川等氾濫対策	下水道等の排水施設の整備	緑川	・大雨時における浸水被害軽減を目的に下水道浸水対策、一般排水路整備、農業用排水路整備を実施する。 ・市街化区域における内水対策として、熊本市下水道浸水対策計画に基づき浸水対策重点6地区の整備を実施。	R3時点	目標	・内水氾濫対策として浸水解消事業の下水道浸水対策、一般排水路整備整備、農業用排水路整備を実施する。 ・下水道浸水対策は、鶯川第2排水対区の詳細設計及び水理模型実験を実施、一般排水路整備は、杉島地区の排水路整備を実施、農業用排水路整備は、内田沖田地区の排水路整備を実施、今後、海路（第1期）地区の排水路整備を実施する。
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画の策定（防災指針の追加を含む）	白川・緑川	・立地適正化計画に防災指針を追加し、災害リスクに備えた多核連携都市を目指す。 ・居住誘導区域を中心に防災部局等の保有するハザード情報と都市部局が保有する都市の情報とを組み合わせ災害リスクを分析。 ・各地区の防災上の課題を踏まえ、関係部局と連携し災害リスクの回避や低減を図るための取組を総合的に組み合わせ展開。	R3時点	目標	・令和3年3月の立地適正化計画改定により追加した“防災指針”を活用し、防災部局や市民部局などと連携した災害リスクの周知や各種取組の推進を図る。
	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	土砂災害特別警戒区域からの移転促進	白川・緑川	熊本県では土砂災害特別警戒区域（以下、レッドゾーン）内に居住する方々の安全な区域への住宅移転を促進する「土砂災害危険住宅移転促進事業」を平成27年に創設しており、本市においても「熊本市土砂災害危険住宅移転促進事業」を創設し、住宅移転を促進している。	R3時点	目標	・本年度は4件申請があり、レッドゾーンから熊本市内に移転している。（申請件数は市全体の数）
	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	がけ地近接等危険住宅移転事業	白川・緑川	・がけ崩れ、土石流、地すべり等の危険から住民の生命の安全を確保するため、災害危険区域等内に居住する人に対して、補助金を交付し、危険住宅からの移転を促進する。	R3時点	目標	・令和3年度は補助金交付0件
	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	中心市街地における老朽建築物の建替促進による防災機能の強化	白川	・まちなか再生プロジェクトは、容積率割増等の3つの取組により、老朽建築物の建替え等を促すとともに、併せて、空地を生み出すことで災害時の避難・活動空間を確保するなど、災害に強い上質な都市空間を創出。 ・財政支援の取組では、水害時でも建物の機能が確保されるよう電気設備等の浸水対策※を図ることを条件としている。 ※浸水想定深以上に、電気設備を配置すること等。	R3時点 11件	目標 100件	・“まちなか”における建替え件数※1の目標として、10年※2間で100件※3を掲げている ※1：店舗（ホテル含む）・事務所を含む建築実績 ※2：令和2年4月1日～令和12年3月31日 ※3：熊本地震前の、まちなかの一定規模以上の建物の新築件数が年5件。これを、倍増させる。（5件×2×10年） ・令和2年度は、まちなか再生プロジェクトを活用したものが6件、その他が5件。合計11件。 ・令和3年度も、まちなか再生プロジェクトの財政支援等により、老朽建築物等の建替えを促進する。
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	白川・緑川	・熊本市ハザードマップのスマートフォン版を令和3年4月から本格運用、紙版については令和3年3月に全戸配布	R3時点	目標
避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	白川・緑川	・熊本市防災情報ポータルを更新し、避難所の混雑状況や避難ルートも閲覧可能に ・上記システムの活用については、出水期前に本市広報誌及びマスメディアを活用して周知啓発を行った	R3時点	目標	熊本市防災情報ポータルの更新、出水期前の積極的な周知啓発	
避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	白川・緑川	・地域の避難体制強化（校区防災連絡会結成促進、防災教育、地域の防災組織等との連携）	R3時点	目標	・学校安全管理者や外国人等への防災教育の実施 ・自主防災組織の活動の支援	

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】							R4.3.15更新
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
				取組工程の進捗状況			
				短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	支川等氾濫対策	排水ポンプ用釜場整備、排水機場整備	緑川 ・排水機場の設備改修 ・排水機場による内水排水	R3時点		目標	整備改修（補修）・・・松原排水機場、轟緑川第1排水機場、直築排水機場、住吉排水機場内水排水・・・松原排水機場他10機場
	支川等氾濫対策	中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等	緑川 ・河川浚渫	R3時点		目標	浚渫した河川…飯塚川、塩田川、大谷川、船場川支流、高柳川、妙見川、大坪川支流（一部浚渫中）
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	河川カメラの設置	緑川 ・簡易型河川監視カメラを設置し、沿線居住者に対し河川状況をインターネットで公開することにより、自主的避難の判断材料とする。	R3時点		目標	河川監視カメラ 9基設置（飯塚川 3基、網津川 2基、潤川 1基、船場川 1基、船場川支流 1基、曾畑川 1基）
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	緑川 ・地域住民の自主防災意識の向上を図り、ため池の防災対策や災害時の被害軽減を目的とし、ため池ハザードマップを作成。	R3時点		目標	・ため池ハザードマップ（全26箇所）を作成し、Webにて公開している。 ・各ため池にハザードマップを掲載した標識を設置する予定。
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	緑川 ・浸水想定区域を想定したハザードマップの作成	R3時点		目標	各種情報を更新したハザードマップを作成中。令和4年5月頃に全世帯へ配布予定。新たな情報（更新）があれば将来的に見直しを図る。
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	緑川 ・水防災教育の充実	R3時点		目標	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響でできなかった。
	避難体制等の強化	災害時における流域連携による復興支援等の検討	緑川 ・広域避難の検討	R3時点		目標	広域の枠組み含め検討中。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】								R4. 3. 10更新	
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度時点の取組進捗状況		
				短期	中期	中長期	令和3年度に取り組んだ具体的な内容		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能向上	ため池の補強・有効活用	緑川	・大雨予報時のため池貯水量調整	R3時点		目標	気象情報を確認のうえ、貯水量調整を管理者に連絡・指示	
	支川等氾濫対策	中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等	緑川	・緑川水系上流部に当たる支流において、周辺地域の水害の減少及び下流部（本流）への土砂流出防止を目的に、河川に堆積した土砂の撤去を行う。	R3時点		目標	出水期前後の河川パトロールを実施し土砂流出及び堆積が多い箇所の堆積土を撤去する。	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度時点の取組進捗状況	
					短期	中期	中長期	令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	緑川	・ハザードマップの作製（洪水氾濫シミュレーション）	R3時点完了			防災重点ため池におけるハザードマップの作製が完了し、流域の地区に配布	
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	緑川	・河川の定期的なパトロール 河川のパトロールを実施し、変異箇所等の存在を早期に発見し処置する。	R3時点		目標	河川パトロール（出水期前後）を実施	

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
被害対象を減少させるための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	災害危険区域の指定	白川	・建築基準法第39条の規定に基づき、一級河川白川水系黒川流域の災害危険区域を指定し、区域内における建築物の建築を制限することにより、住民等の安全・安心を確保する。	R3時点		目標	当該区域内に住宅等を建築する場合は一部の建物を除き、災害危険設定水位以上の高さまで地盤面を嵩上げする必要があり工事に着手する前に、所定の申請手続きも必要（建築確認申請時の添付資料となる）。令和3年度は、申請実績無し。
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	白川	・水防法に基づき、想定し得る最大規模等の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される、洪水浸水想定区域及び想定される水深を表示した洪水浸水想定区域図及び避難所等の情報を表示し、洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図る。	R3時点		目標	市に転入された方や住所を変更された市民の方へ、住基担当部署を介してハザードマップを配布。今後は、県が令和4年3月に予定している洪水浸水想定区域図見直しに伴うハザードマップの見直し及び内水ハザードマップの作成等についても検討。
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進 等	白川	・地区防災力向上のための、地区防災計画作成支援と地区防災リーダーの養成等による自主防災組織活動の活性化を推進する。	R3時点		目標	県の自主防災組織エキスパート（活動支援員）による、自主防災組織のリーダー的役割の位置づけが期待できる方（区長、食生活改善推進員）への研修
	避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	白川	・災害情報伝達の要となる防災行政無線の強靱化を進め、多種多様な情報伝達手段と組み合わせ、迅速、一斉、的確な防災情報を市民の方へお届けする体制の整備を図る。	R3時点		目標	本年度中に防災無線の重要な基盤となる親局・中継局・屋外拡声子局などが完了。半導体不足の影響で遅延が発生していた戸別受信機は、4月末から各世帯に配布・設置の見込みとなり、11月には、全ての整備工事が完了する見通し。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
被害対象を減少させるための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	災害危険区域の指定	緑川	・出水による災害を未然に防止するため建築物の建築制限を行うため災害危険区域を指定する。 美里町災害危険区域に関する条例(平成16年11月1日条例第138号)	R3時点			条例を制定済で指定区域に変更はないため、取組進捗なし。
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	ため池ハザードマップの作成	緑川	・ため池ハザードマップとは、規模の大きな地震によりため池の堤体が決壊した場合の備えとして、安全で迅速な避難行動に役立てていただくことを目的に作成するものです。 ・本町には51箇所のため池があり、内25箇所を防災重点ため池として指定し、令和2年度に指定した全箇所についてハザードマップを作成した。また、令和4年度には同箇所の防災重点ため池について看板設置を予定している。	R3時点	目標		令和3年度においては、令和4年度に事業実施できるよう国への予算要望及び計画承認申請を行った。
	避難体制等の強化	防災マップづくり	緑川	・美里町総合防災マップは町民が災害による被害に遭う前に的確な避難行動をとるための一助として全戸に配布している。 ・R4年度に想定最大規模によりハザードマップを更新予定であり、再度全戸配布を行う。また、誰でもどこでも確認ができるようタブレットやスマートフォンでの閲覧に対応したWEB版ハザードマップも同時に構築予定。	R3時点	目標		R3取り組みなし
	避難体制等の強化	WEB版ハザードマップ構築	緑川	・災害リスクや防災知識を誰でもどこでも確認ができるようタブレットやスマートフォンでの閲覧に対応したWEB版ハザードマップも同時に構築予定。	R3時点	目標		R3取り組みなし
	避難体制等の強化	自主防災組織の活動の推進	緑川	・自主防災組織は現在59組織が活動を行っており避難訓練や情報伝達訓練、資機材の点検などを行っている。町でも育成のために組織の代表者を集めた研修会を行っている。 ・R4年度は熊本県の取り組みである『マイタイムライン』の推進のため町内の自主防災組織を回り研修会を行う計画である。	R3時点	目標		R3年度は自主防災組織の代表者研修会及びリーダー研修を実施
	避難体制等の強化	防災教育	緑川	・町内小学校の5年生時に水防災教育の実施(R3は中止) ・R2年度より町内小学校の依頼により4年生への防災教育も実施している。	R3時点	目標		R3はすべて中止
	避難体制等の強化	防災士の育成	緑川	・R2年度より防災士育成補助金を創設し防災士の育成に力を入れている。(R2年度1名、R3年度1名)(R4年度申請予定4名)	R3時点	目標		R3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、火の国ぼうさい塾が延期や中止となったため、3名の希望者に対し1名だけの資格取得となった

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					R4. 3. 15更新				
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
					取組工程の進捗状況				
					短期	中期	中長期		
	流域の雨水貯留機能向上	一定規模以上の開発行為に対する雨水貯留施設設置指導 雨水貯留施設の設置補助	白川・緑川	・開発地域における調整池及び浸透樹設置	R3時点			目標	雨水浸透樹設置補助事業、開発事業等指導要綱に基づく浸透樹設置の指導を実施している。
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
					取組工程の進捗状況				
					短期	中期	中長期		
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	白川・緑川	・洪水・土砂災害ハザードマップづくり	R3時点完了				令和2年度にハザードマップを作成し、災害時において、町民の方々に利用してもらっている。
	避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	白川・緑川	・防災無線とホームページ及び登録制メールとの連携 ・水位予測システムによる情報把握	R3時点完了				防災無線とホームページ及び登録制メールとの連携を開始 水位予測システムによる情報を収集し避難判断や災害予測に活用した

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			R4. 3. 15更新
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能向上	調整池・校庭貯留施設等の改修・整備	白川・緑川	・菊陽中部小学校運動場地下に雨水貯留施設（V=1,986m ³ ）を整備し、放流量の調整を図っている。	R3時点完了			本取り組みについて、現在新規による計画はありません。
	流域の雨水貯留機能向上	調整池・校庭貯留施設等の改修・整備	白川・緑川	・雨水排水を調整池にて浸透させ、流出抑制により、白川下流域への水害軽減を図る。5箇所の調整池で77,500m ³ の貯留量がある。	R3時点完了			本取り組みについて、現在新規による計画はありません。
	流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助	白川・緑川	・個人宅における雨水浸透ますの助成	R3時点		目標	1件 4基 64,000円 令和4年度も予算計上（16,000円×15基分 240,000円）
対策内容	実施内容	実施内容	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	河川カメラの設置	白川・緑川	・河川監視カメラの設置	R3時点		目標	本取り組みについて、現在新規による計画はありません。
	避難体制等の強化	総合防災マップの更新・周知	白川・緑川	・総合防災マップの更新、全戸配布 ・Web版の公開	R3時点		目標	冊子版総合防災マップがR4. 3に完成し、R4. 4に全戸配布します。併せて、R4. 4からWEB版を公開します。
	避難体制等の強化	情報伝達の迅速化・多重化	白川・緑川	・防災無線の活用 ・登録制メールの「きくよう安心メール」、Yahoo!防災速報アプリ、町公式LINEによる防災情報の配信	R3時点完了			本取り組みについて、現在新規による計画はありません。
	避難体制等の強化	災害時の地域公民館活用（耐震診断改修工事）	白川・緑川	・熊本地震以前に建築された地区公民館47件の耐震診断を実施 ・耐震不足と判定された地区公民館に対する補強工事の補助	R3時点		目標	R3年度は耐震診断3件を実施し、全公民館の耐震診断が終了した。併せて、耐震不足と判定された6件の補強工事設計に対する補助を実施した。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	流域の雨水貯留機能向上	ため池の補強・有効活用	白川	・ため池改修	R3時点完了			R2年度に完了
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	白川	・総合防災マップの作成 ・ため池ハザードマップの作成	R3時点完了			R2年度に完了
	避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	白川	・防災無線のデジタル化 ・デジタル防災無線と高森情報アプリとの連携	R3完了			・防災無線のデジタル化について、R2年度に完了 ・R3年度は、外出時でも防災無線の内容が把握できるよう、デジタル防災無線と高森の情報アプリとの連携を図った。
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	白川	・避難所への非常用発電機の設置 ・自主防災組織の活動の推進 ・防災士の認定・育成	R3時点		目標	・避難所への非常用発電機の設置についてはR2年度に完了 ・自主防災組織の活動の推進、防災士の認定・育成については新型コロナウイルス蔓延防止の影響により実績なし。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			R4.3.10更新
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能向上	調整池・校庭貯留施設等の改修・整備	白川・緑川	調整池の整備（3カ所）	R3時点完了			すでに整備は完了している。
	流域の雨水貯留機能向上	農業水利施設の整備	緑川	農業用排水路等の整備・更新 河川の河床掘削			目標	本整備事業の計画を立てられていない。
	支川等氾濫対策	中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等	緑川	河川の河床掘削	R3時点		目標	中河川（布田川）・小河川（玉田川）の河床掘削
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	河川カメラの設置	白川・緑川	水位監視カメラの設置（3カ所）	R3時点完了			すでに設置は完了している。
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	白川・緑川	浸水想定区域を想定したハザードマップの作成（全戸配布） ため池ハザードマップの作成	R3時点完了			すでに作成は完了している。
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	白川・緑川	自主防災組織の活動の推進	R3時点		目標	地域に活動の周知を行っているが、これからも推進活動を行ってきたい。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					R4. 3. 16更新			
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					取組工程の進捗状況			
					短期	中期	中長期	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	流域の雨水貯留機能向上	水田の貯留機能向上	白川	・熊本大学大学院先端科学研究部の皆川朋子准教授と連携して村内7か所のほ場で田んぼダムの実証試験を実施した	R3時点		目標	村内の水田に門型3か所、穴あき型3か所、排水柵無型1か所の田んぼダムを設置し、降雨時の水田の水位を水位計「水田famo」で測定した。
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	白川	・ハザードマップの更新	R3時点		目標	土砂災害警戒区域や浸水想定区域等を更新した最新のハザードマップ作成
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	白川	・自主防災組織の活動推進 ・防災士の育成（消防団幹部経験者等）	R3時点		目標	各組織による自主避難所の開設 消防団幹部の防災士資格取得
	避難体制等の強化	災害時における流域連携による復興支援等の検討	白川	・防災訓練	R3時点		目標	各地域での避難訓練の実施

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】							令和3年度時点の取組進捗状況	
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助、一定規模以上の開発行為に対する設置指導	緑川	・一定規模以上の面積を開発する場合における雨水貯留・浸透ます設置の推進 ・住宅等における雨水貯留タンクの設置推進 ・雨水浸透ますの設置推進	R3時点	目標	開発事業者に対し、開発区域内の雨水流出抑制対策を実施してもらうよう指導を行い、雨水浸透樹設置や透水性舗装での施工など対策が行われた。	
	流域の雨水貯留機能向上	ため池の補強・有効活用	緑川	・ため池改修	R3時点	目標	ボーリング調査実施。	
	支川等氾濫対策	下水道等の排水施設の整備	緑川	・大雨時の浸水被害対策として仮設ポンプを設置し、周辺住宅等の内水浸水被害を軽減する。 ・今後、雨水管理総合計画を策定し、内水被害軽減対策を実施予定。	R3時点	目標	引き続き、御船川沿いの2地区（2箇所）に仮設ポンプを設置し、内水排除を実施する。雨水管理総合計画を策定し、今後の対策の検討を行う。	
	支川等氾濫対策	中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等	緑川	・河川浚渫	R3時点	目標	水越川・門前川の2河川を浚渫。	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	緑川	・総合防災マップの作成 ・ため池ハザードマップの作成	R3時点	目標	・総合防災マップは、浸水想定区域の確認や防災情報の更新などを行った。 ・ため池ハザードマップは、令和3年度末にて完成予定。	
					R3時点	目標		
	避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	緑川	・防災士の育成	R3時点	目標	養成講座を実施した。（50人参加）	

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					R4. 3. 10更新			
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					取組工程の進捗状況			
					短期	中期	中長期	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助、一定規模以上の開発行為に対する設置指導	緑川	・地下水の涵養対策、節水対策及び雨水の流出抑制による水害の軽減を図るため、雨水浸透ますの設置を推進。 ・地下水の保全及び水資源の有効利用の促進を目的に、住居等への雨水貯留タンクの設置を推進。	R3時点 →	→ 目標		実績なし。
	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	緑川	・ハザードマップ作成（全戸配布）	R3時点 →			R3.4 全戸配布済み（洪水ハザードマップ）
避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	緑川	・防災行政無線の個別受信機導入検討	R3時点 → 目標			R4.3 予算計上。	
避難体制等の強化	災害時における流域連携による復興支援等の検討	緑川	・緑川水防演習	R3時点 →	→ 目標		R3.5 実施済み。	

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】							R4. 3. 14更新
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
				取組工程の進捗状況			
				短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能向上	緑川	・地下水の涵養対策、節水対策及び雨水の流出抑制による水害軽減を図るため、雨水浸透ますの設置を推進。	R3時点	目標		4件（13基）の申請があり、補助を行なった。
	流域の雨水貯留機能向上	緑川	・一定規模以上の開発行為に対する雨水貯留・浸透施設の設置の指導	R3時点	目標		該当する開発行為4件に対して、指導を行なった。
	支川等氾濫対策	緑川	・熊本地震で地盤が沈下し、出水期に内水被害が発生している3地区において、浸水被害を発生しないよう、益城町雨水管理総合計画に基づき、内水排水設備（常設ポンプ）を施工中 ・熊本地震で地盤が沈下し、出水期に内水被害が発生している3地区に、仮設排水設備を配置し、地元消防団と協力して排水作業を行うことで、内水被害を軽減	R3時点	目標		3地区のうち2地区については契約が完了しており、早期完成に向けて施工中である。
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	緑川	・立地適正化計画の策定（防災指針の追加を含む）により、災害リスクを考慮した安全なまちづくりを進める。 ・災害リスク情報（浸水想定区域等）を活用した居住誘導区域の検討。 ・居住誘導区域内では、「防災指針」に基づく、防災・減災対策を検討。	R3時点	目標		令和4年3月に立地適正化計画を策定した。 ※益城町では「防災指針」を作成し、適切に災害リスク分析を行い、災害リスクが高い地域を原則居住誘導区域から除外するとともに、誘導区域に残存する災害リスクに対して防災・減災対策を進めている。
	避難体制等の強化	緑川	・水防法第14条に基づく洪水浸水想定区域の変更に伴い、ハザードマップを改訂し、全戸配布を行う。 ・災害時におけるマイタイムラインの掲載、気象情報の知識や避難路、避難場所の確認を行うことで、いざという時の迅速な対応に役立ててもらおう。	R3時点	目標		令和3年6月に改訂を行い、全戸配布を行なった。また、町のホームページにも掲載し、周知を行なった。
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	緑川	・ため池堤体の決壊が発生した場合を想定し、氾濫水の浸水想定区域・浸水深、避難場所や避難時の注意点などを掲載した、ため池ハザードマップを作成する。 ・ため池災害時に備え、迅速な避難行動ができるように活用してもらおう。	R3時点	目標		15箇所のため池を6つのマップに分けて作成（令和3年3月）し、該当する地区に対して全戸配布を行なった。 また、4月に町ホームページに掲載し、併せて重点ため池については、現地に立看板を設置し、災害対策強化を行なった。
	避難体制等の強化	緑川	・防災無線、エリアメール、町ホームページ、住民登録制メール、SNS（LINE・twitter）による避難情報の発令	R3時点	目標		避難情報の発令回数：1回
	避難体制等の強化	緑川	・防災士の養成、自主防災組織の活動の推進を図り、地域の防災力向上につなげる。	R3時点	目標		防災士資格取得者数：11人 自主防災組織数：11団体（うちR3年度新規設立：1団体）

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容	
				短期	中期	中長期		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能向上	調整池・校庭貯留施設の整備、既存調整池容量拡充	緑川	・甲佐小学校駐車場に浸透型雨水貯留施設（V=1.050m3）を整備	R3時点完了			整備完了
	流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助、一定規模以上の開発行為に対する設置指導	緑川	・浸透柵・雨水貯留設備補助 ・一定規模以上の開発行為に対する雨水地下浸透の指導	R3時点		目標	随時実施する。
	支川等氾濫対策	排水ポンプ用釜場整備、排水機場整備	緑川	・甲佐町の下横田地区では過去の洪水において道路や家屋の浸水被害が発生しており、令和2年7月豪雨では、内田川の水位上昇により浸水被害が発生している。浸水被害軽減対策として、自然流下できない内水を緑川へ導水し、緑川へポンプ排水できるようにするため、既設調整池の2つを接続し、釜場の新設、排水ポンプの配備を実施した。	R3時点完了			工事着手し、釜場の新設、排水ポンプの配備を実施した。
	支川等氾濫対策	排水ポンプ用釜場整備、排水機場整備	緑川	・近年、頻発する集中豪雨により、大井出川沿川において浸水被害が発生しており、H19.7月洪水、H28.6月洪水においては大町樋門付近で内水被害が発生している。内水対策として、大町樋管に排水機場を整備し、併せて大井手川水位を低下できるよう既存排水路を利用した対策を行う。	R3時点		目標	令和4年度に基本設計着手予定
	支川等氾濫対策	中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等	緑川	・甲佐町の船津地区・有安地区では過去の洪水において道路や家屋の浸水被害が発生しており、平成19年7月豪雨では、馬門川の水位上昇により浸水被害が発生している。浸水被害軽減対策として、河道拡幅や洪水調節施設の設置等、地域特性を最大限に活かした対策を検討し工事を実施することで浸水被害の軽減を図る。	R3時点		目標	浸水被害軽減対策として、河道拡幅や洪水調節施設の設置等の治水対策案の検討に着手。今後も検討を進め、当該地域に最適な対策案を決定の上、工事に着手する。
被害対象を減少させるための対策	対策内容	実施内容	実施内容	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			
	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	災害危険区域の指定	緑川	・寒野地区、上揚地区の土地利用一体型水防災事業（国土交通省施工）にあわせて、災害危険区域を指定 甲佐町災害危険区域に関する条例（平成18年6月23日 甲佐町条例第15号）	R3時点完了			区域指定済
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	対策内容	実施内容	実施内容	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			
	土地の水災害リスク情報の充実	河川カメラの設置	緑川	・水位監視カメラの設置	R3時点完了			町内中心部を流れる大井手川に整備完了
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	緑川	・災害時の備えとして準備しておくためのガイドブックとして総合防災マップを作成。マップに広域避難図を掲載	R3時点完了			作成済・配布済
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等	緑川	・ため池ハザードマップの作成	R3時点完了			作成完了
	避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	緑川	・町ホームページ、スマートフォンアプリなどによる防災情報発信	R3実施		継続実施	町ホームページによる防災情報発信を実施
避難体制等の強化	防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等	緑川	・水防教育の実施 ・防災無線の設置 ・防災士の養成 ・自主防災組織活動の推進 ・早期避難啓発チラシの配布	R3実施		継続実施	水防教育の実施：町内小学校において出前講座を実施 防災無線の設置：点検や補修を実施 防災士の養成、自主防災組織活動の推進：講習会の資格取得などの助成を実施 早期避難啓発チラシの配布：マイタイムライン作成の手引きや様式の全戸配布を実施	

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況		
対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
				短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	流域の雨水貯留機能向上	ため池の補強・有効活用	緑川	・防災重点ため池の調査 ・（必要に応じて）ため池の改修	R3時点	目標	防災重点ため池の調査を実施し、1か所のため池において取水施設の改修を行った。
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等 防災情報伝達の迅速化、多重化	緑川	・水害・土砂災害等に関する危険区域の周知や、災害発生時に的確な行動をとるための情報提供を目的とした総合防災マップを町内全戸に配布。	R3時点	目標	土砂災害警戒区域のほか浸水想定区域や避難所情報等を掲載した総合防災マップを作成し、町内の全世帯へ配布。地震や火災発生時の行動マニュアル等も掲載し、自主防災組織との連携により活用促進を図っている。
	避難体制等の強化	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等 防災情報伝達の迅速化、多重化	緑川	・ため池ハザードマップの作成	R3時点完了		7か所（うち緑川流域6か所）のため池ハザードマップを作成し、公表を行った。
	避難体制等の強化	防災情報伝達の迅速化、多重化	緑川	・スマートフォンを活用することで、迅速な防災情報の提供及び災害等に関する情報の収集を目的とした防災アプリの導入。	R3時点	目標	消防団は防災アプリの写真投稿機能等を活用し、災害発生現場の詳細な情報をいち早く災害対策本部へ伝達した。
	避難体制等の強化	災害時における流域連携による復興支援等の検討	緑川	・総合防災訓練の実施	R3時点	目標	消防・警察・自衛隊と連携した町の総合防災訓練を実施。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

R4.3.9更新

	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	令和3年度時点の取組進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					取組工程の進捗状況			
					短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	森林の整備・保全 治山施設の整備	間伐等による森林の整備・保全	白川・緑川	・森林の有する公益的機能の発揮に向けた間伐等の森林整備	R3時点		目標	<ul style="list-style-type: none"> ○白川・緑川上流域の森林を主体とした間伐や再造林、鳥獣被害対策の実施等を行った。 ○市町村での森林経営管理制度の活用促進に向け、市町村職員を対象とした研修の開催や巡回指導による技術支援等を実施した。 ○造林作業等の省力化・低コスト化に向け、新技術の導入支援等を通じて、林業現場への導入を進めた。
	森林の整備・保全 治山施設の整備	治山施設の整備・保全	白川・緑川	・山地災害の早期復旧のため治山施設を整備	R3時点		目標	○山地災害が発生した箇所について、谷止工や山腹工等の復旧工事を実施。

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
					森林の整備・保全 治山施設の整備	間伐等による森林の整備・保全	白川・緑川	

R4.3.14更新

白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
					<p>森林の整備・保全</p> <p>保安林整備等の検討</p>	緑川	・林野（森林）部門と連携し、緑川ダム上流域における森林整備区間の「植樹、下刈、除伐、枝打ち等」の協働作業に取り組むことで、緑川の流域治水（山地の災害防止・水源かん養）に資する。	
白川水系・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】					令和3年度時点の取組進捗状況			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	対策内容	実施内容	流域名	具体的な実施内容	取組工程の進捗状況			令和3年度に取り組んだ具体的な内容
					短期	中期	中長期	
					<p>避難体制等の強化</p> <p>災害時における流域連携による復興支援等の検討</p>	緑川	・「緑川流域会議」において、災害時に各自治体と各流域団体がお互いに必要な情報を共有し、円滑な災害復旧等に寄与することを目的として、「災害時における緑川流域連絡網（案）」を検討。	

白川・緑川水系 流域治水プロジェクト

—令和3年度取組進捗状況—

※市町村の順番は全国地方公共団体コード順

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

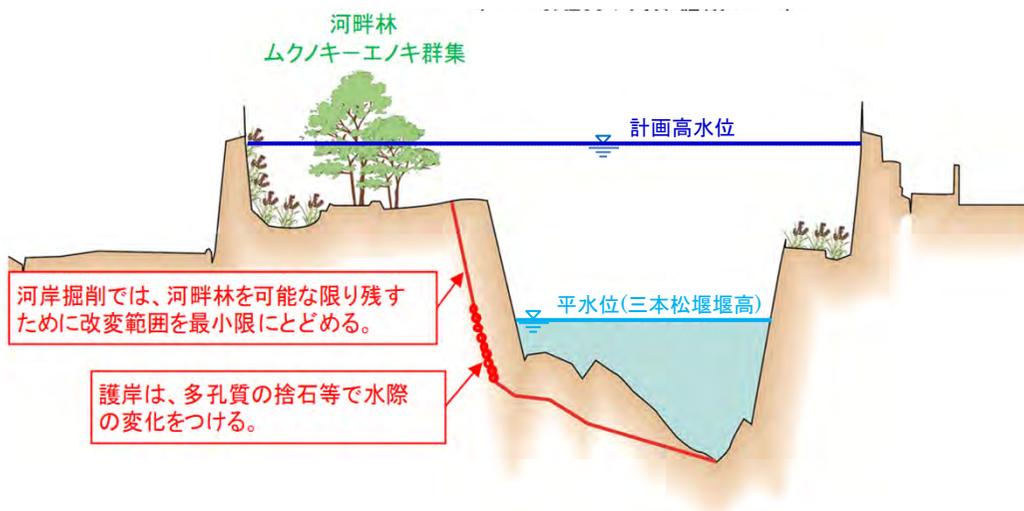
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道掘削

国土交通省
熊本河川国道事務所

○白川水系河川整備計画に基づき、2,400m³/sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、治水安全度が低い箇所の河道掘削を行う。

取組内容の説明



河道掘削概要図
(白川9/600付近)



令和3年度時点の取組進捗状況

白川水系河川整備計画では直轄管理区間において井樋山堰～泰平橋及び渡鹿堰上流の河道掘削が位置づけられており、令和3年度は蓮台寺橋上流を実施する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	河道掘削	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

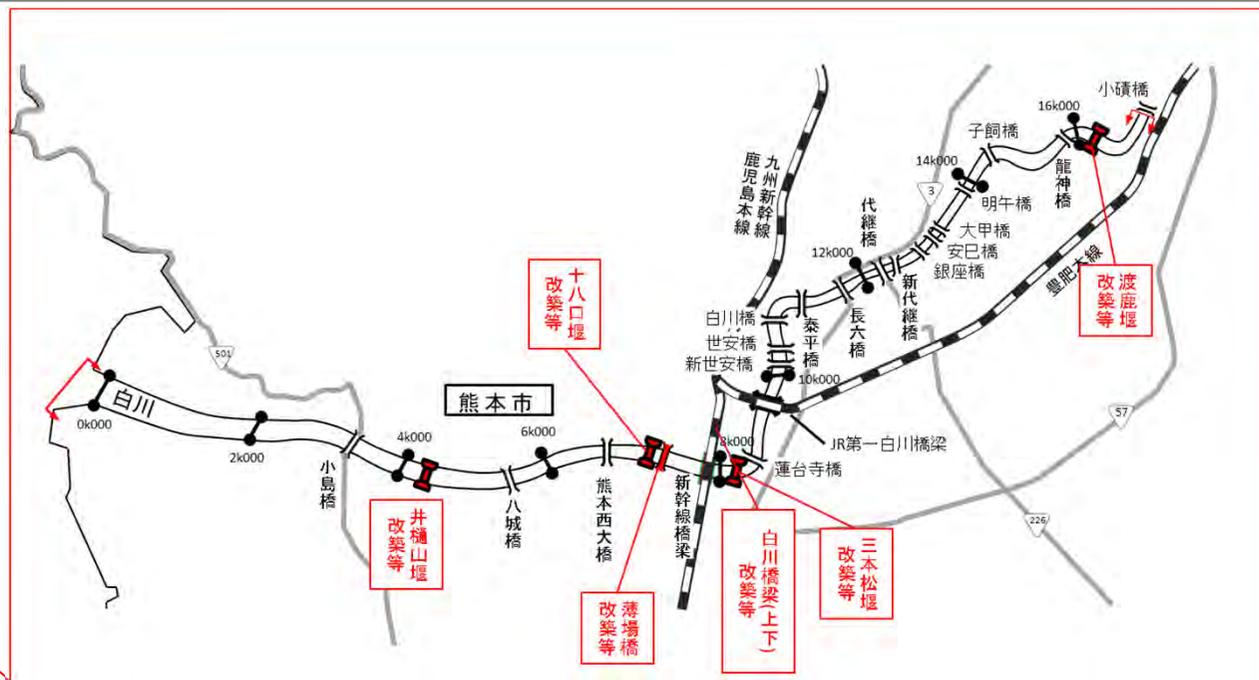
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

横断工作物の対策

国土交通省
熊本河川国道事務所

○白川水系河川整備計画に基づき、2,400m³/sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、白川直轄管理区間にある固定堰（井樋山堰、十八口堰、三本松堰、渡鹿堰）及び薄場橋、JR白川橋梁の改築等を実施する。

取組内容の説明



令和3年度時点の取組進捗状況

白川水系河川整備計画では直轄管理区間において固定堰（井樋山堰、十八口堰、三本松堰、渡鹿堰）及び薄場橋、JR白川橋梁の改築等が位置づけられており、令和3年度は調査検討等を実施する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	横断工作物の対策	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

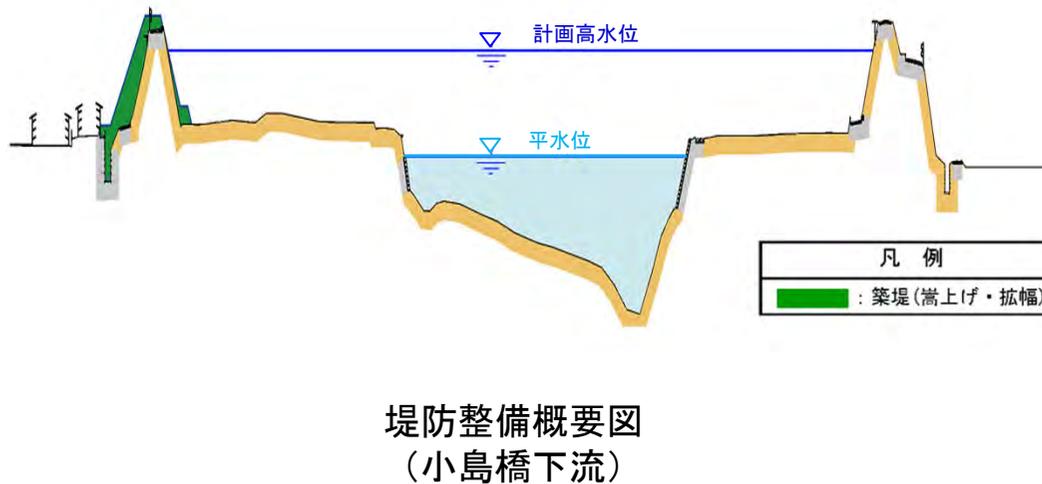
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

堤防整備

国土交通省
熊本河川国道事務所

○白川水系河川整備計画に基づき、2,400m³/sの流量が安全に流下できる河道とすることを目標に、堤防高・幅が不足している地区において堤防整備を実施する。

取組内容の説明



令和3年度時点の取組進捗状況

白川水系河川整備計画では直轄管理区間において小島橋下流、大甲橋～明午橋、子飼橋上流の堤防整備が位置づけられており、令和3年度は小島橋下流の一部を実施する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	堤防整備	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

高潮堤防整備

国土交通省
熊本河川国道事務所

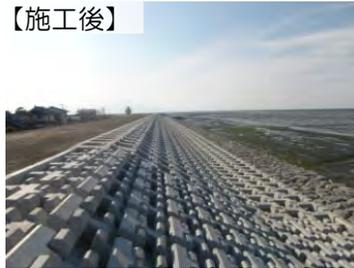
○緑川水系河川整備計画に基づき、高潮区間（緑川平木橋下流、浜戸川太郎兵衛橋下流）においてまず平成11年9月の高潮規模に対応できるようT.P. 4.50mの堤防を整備し、その後、既往最大規模のT.P. 6.00mの堤防を整備する。

取組内容の説明

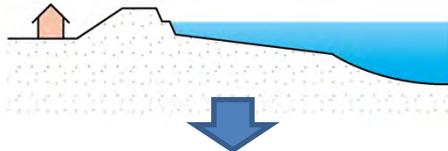
【施工前】



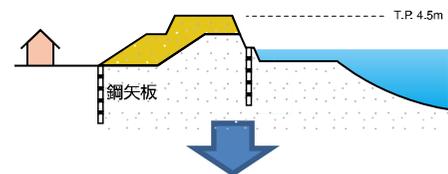
【施工後】



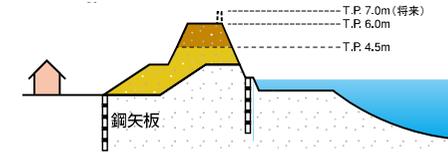
■ 現況



■ 当面 (T.P. 4.5m: H32年度完成予定)
※平成11年台風18号規模対応の整備



■ 整備計画 (T.P. 6.0m)
※既往最大規模 (昭和2年9月) 対応の整備



令和3年度時点の取組進捗状況

緑川水系河川整備計画では緑川本川平木橋下流及び浜戸川太郎兵衛橋下流の高潮堤防整備が位置づけられており、令和3年度は本川右岸2km付近のT.P.4.00m整備及び本川、浜戸川の左右岸下流より順次T.P.6.00mの整備を実施する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
高潮堤防整備	高潮堤防整備 T.P.4.5m対応 T.P.6.0m対応	R3時点 目標	目標	目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

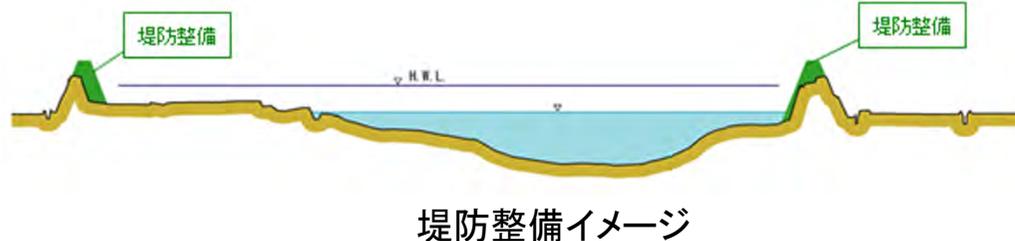
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

堤防整備

国土交通省
熊本河川国道事務所

○緑川水系河川整備計画に基づき、既往最大である昭和18年9月洪水と同規模の洪水が再度発生した場合でも、浸水被害の防止又は軽減が図られることを目標に、堤防高・幅が不足している地区において堤防整備を実施する。

■ 取組内容の説明



■ 令和3年度時点の取組進捗状況

緑川水系河川整備計画では宇土市、熊本市、嘉島町、御船町、甲佐町内において堤防高・幅が不足している箇所での堤防整備が位置づけられており、令和3年度は本川右岸の熊本市南区川口町において堤防整備を実施する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築 等	堤防整備	本川中流部	目標 本川上流部	目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

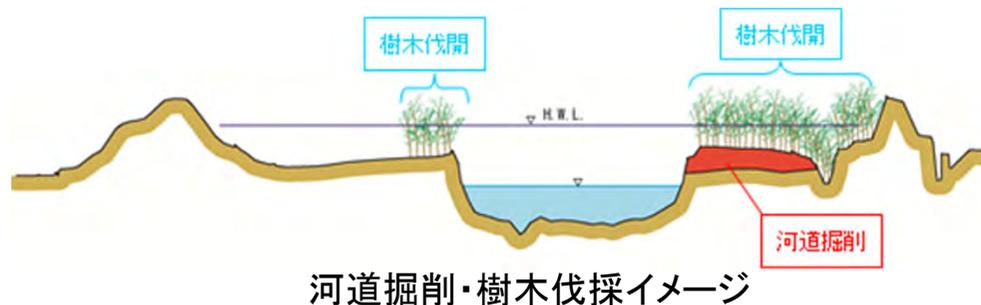
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道掘削、樹木伐採

国土交通省
熊本河川国道事務所

○緑川水系河川整備計画に基づき、既往最大である昭和18年9月洪水と同規模の洪水が再度発生した場合でも、浸水被害の防止又は軽減が図られることを目標に、河積が不足している地区において河道掘削及び樹木伐採を実施する。

取組内容の説明



令和3年度時点の取組進捗状況

緑川水系河川整備計画では熊本市、嘉島町、甲佐町内において河積が不足している河道掘削及び樹木伐採が位置づけられており、令和3年度は加勢川下流部の熊本市南区美登里町において河道掘削を実施する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築等	河道掘削、樹木伐採 支川加勢川	R3時点	目標	目標
			本川中流部 目標	本川上流部 目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策

河川防災ステーション等の整備

国土交通省
熊本河川国道事務所

○緑川下流部（浜戸川）にある既存の防災ステーションに加え、緑川中上流部において新たに防災ステーションや水防拠点を整備することで、災害時において水系全体で円滑かつ効果的な河川管理施設保全活動及び緊急復旧活動が可能となる。

■取組内容の説明



■令和3年度時点の取組進捗状況

緑川上流部における船津地区河川防災ステーションについては、今年度より基盤整備を実施していく。既設の浜戸川防災ステーション（緑川）については必要に応じて備蓄資材の整備等を実施していく。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	防災ステーション・防災拠点の整備	R3時点		目標

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

従来型水位計及び危機管理水位計の設置

国土交通省
熊本河川国道事務所

○白川、緑川水系の国管理区間において、アドホック水位計を危機管理型水位計に更新し、運用。
○出水時に危険箇所実位置での水位観測（現状把握）を行うことにより、関係市町へ、より正確な防災情報を提供。

取組内容の説明



■ 国管理区間内
市町別設置数
熊本市: 10か所
宇土市: 1か所
嘉島町: 2か所
甲佐町: 3か所
御船町: 5か所

令和3年度時点の取組進捗状況

白川、緑川水系の国管理区間において、令和3年度時点で危機管理型水位計を21箇所運用中。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水災害リスク情報の充実	従来型水位計及び危機管理水位計の設置	R3時点		目標

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

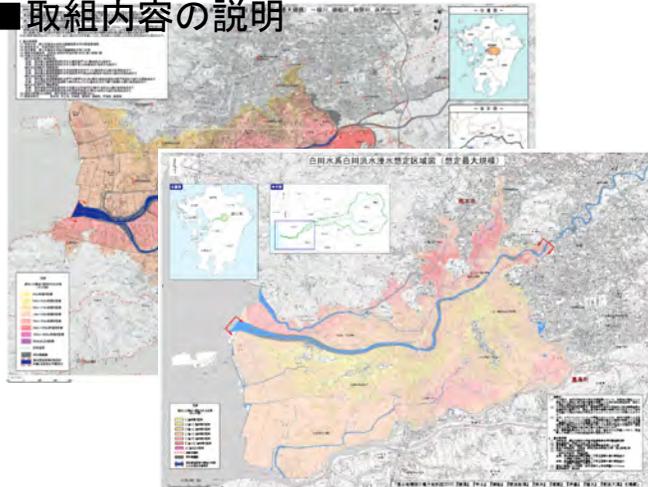
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

広域避難を含むハザードマップ、水防災教育等に関する自治体支援

国土交通省
熊本河川国道事務所

- 国管理区間のL2浸水想定区域図（白川、緑川）を公表し、各市町の浸水リスク情報を配布。
- 各市町の実務担当者で構成する広域避難作業部会の発足
- 学校関係者が集まる場にて、「防災教育教材の活用」に向けた普及活動を実施、また教材を教科書の副教材として活用した授業の実施。
- 熊本市教育委員会と熊本県立教育センターのサーバーに教材データをアップロードし、先生方が自由にデータを取得できる環境を整備。

取組内容の説明



国管理(一級河川)のL2浸水想定区域図を作成・公表(H29.5.30公表)

白川・緑川 水防災意識社会再構築協議会
第1回 広域避難作業部会
日時：平成30年12月27日(木) 10:00~12:00
場所：熊本河川国道事務所 2階
議事次第(案)

- 1) 前回幹事会での作業内容の確認
【議題】
※各市町の作業予定（いつまでに何をやるか？）
※各市町の作業上の課題（どの作業がネックか？）
- 2) 各市町でイメージされる広域避難の完成イメージについて
【議題】
※各市町の広域避難の完成イメージ（どのようなアウトプットか？）
※アウトプットは、①全体広域マップが、②各市町のHMに追加か？
※避難先を明示するか、標線（江東5号方式）とするか？
※広域避難料標準を明記するか？
- 3) 広域避難の全体スケジュールの確認について
【議題】
※スケジュールの確認（R2年度に大きな作業を終了し、R3年度に調整）
※各市町の作業体制の確認（R3年度中に作業可能か？）

白川・緑川 第1回
広域避難作業部会
(H30.12.27)



龍田小学校 (R02.12.11)



甲佐小学校 (R02.12.17)

授業の様子



熊本地学研修会の様子

令和3年度時点の取組進捗状況

浸水想定区域図に関する自治体からの疑義に対する問い合わせ対応等の支援及び教材の更新。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	広域避難を含むハザードマップ、水防災教育等に関する自治体支援	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

立野ダム建設

国土交通省
立野ダム工事事務所

○白川沿川の洪水被害を防ぐことを目的に、昭和28年6月洪水と同程度の洪水を安全に流すことを目指して、基準地点である代継橋地点における基本高水のピーク流量3,400m³/sを、立野ダムにより400m³/sの洪水調節を行い、計画高水流量3,000m³/sに低減し、洪水被害の防止又は軽減を図る。

■取組内容の説明



立野ダム位置図



立野ダムの工事状況(令和4年2月)
(下流側より望む)



立野ダムの完成イメージ

■令和3年度時点の取組進捗状況

令和4年2月末時点でのコンクリート打設量は累計約16.3万m³で、進捗率は約45%となっています。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
立野ダム建設	ダム建設	R3時点	目標	

10

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

砂防堰堤整備等による土砂洪水氾濫対策

国交省 阿蘇砂防事務所
熊本県

○豪雨による山腹崩壊や土石流等に起因する災害から住民の命と暮らしを守るため、人家等に対する直接的な土砂災害防止及び下流河川の河床上昇に伴う洪水被害の防止を図ることを目的として砂防事業を実施中。

■取組内容の説明

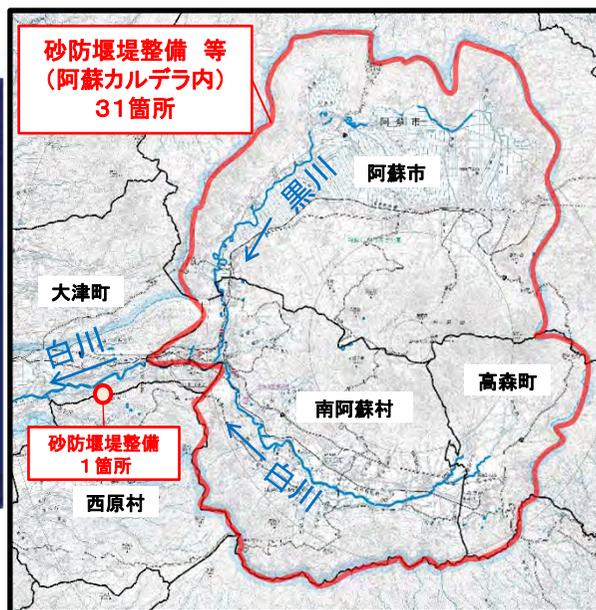
■砂防堰堤整備

砂防堰堤があると・・・



土石流となって流れ出てくる土砂や流木を砂防堰堤でしっかりと受け止めることで、下流の民家等に被害が出るのを防ぎます。

事業箇所図（令和3年度）



事業の進捗状況



砂防堰堤のはたらき



■令和3年度時点の取組進捗状況

- ・砂防堰堤を32箇所事業推進中。うち22箇所工事中（令和3年度1箇所完成予定）。
- ・豪雨時には、整備済みの砂防堰堤が土砂・流木を捕捉し、下流人家等への被害を防止した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土砂洪水氾濫対策	砂防堰堤整備	R3時点		目標

流域流木対策

森林整備や治山ダムによる流木発生抑制、透過型砂防堰堤や流木捕捉施設による流木の捕捉を、林野事業と砂防事業が連携して一体的に実施することで、流域全体の流木被害を防止・軽減する。

調査、計画策定

林野庁、砂防部

- 流木発生ポテンシャル調査
(立木密度調査、流木発生量調査)

例) 航空レーザー測量等による詳細な森林情報(立木)の把握



→単木単位の識別が可能

- 流木発生抑制や流木の捕捉・処理に係る計画策定

対策

【生産エリア】

林野庁

- 保安林整備等による流木発生抑制
- 治山ダムによる山腹崩壊や溪流の荒廃の防止



例: 適正な森林管理の実施

【流下・氾濫エリア】

砂防部

- 透過型砂防堰堤による流木の捕捉
- 土砂・洪水氾濫に伴って大量に発生・流下する流木も効果的に捕捉できる施設の開発と整備



例: 流木捕捉効果の高い砂防堰堤の設置



例: 大量流下する流木の捕捉施設の設置

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

既存ダムの洪水調節機能の強化

国土交通省
緑川ダム管理所

○ダムによる洪水調節は、下流の全川にわたって水位を低下させ、堤防の決壊リスクを低減させるのに加え、内水被害等を軽減する有効な治水対策である。
○緑川水系においても、緊急時に既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう、事前放流の実施等についてダムの管理者及び関係利水者と治水協定を令和2年5月29日に締結。

■取組内容の説明

【緑川水系既存ダム洪水調節機能強化に係る協議会メンバー】

国土交通省 熊本河川国道事務所、緑川ダム管理所

熊本県土木部、熊本県企業局、熊本県農林水産部、御船町役場、九州農政局、熊本地方気象台



ダム名	※1 有効貯水 容量 (万m ³)	洪水調節容量 (万m ³)	※2 洪水調節可能 容量 (万m ³)	水害対策に使える容量 (万m ³)
緑川ダム	3,520	2,400	1,341.8	3,741.8
船津ダム	107	0	0	0
天君ダム	134	0	134	134
合計	3,761	2,400	1,475.8	3,875.8

※1 総貯水容量から堆砂容量及び死水容量を除いた容量

※2 水利用への補給を行う可能性が低い期間等において水位を低下させた状態とする貯水池運用を行うことにより確保可能な容量を含む

○水害対策に使える容量(ダム)

・協定前: 2,400万m³ → 協定後 3,876万m³ 約1,500万m³の増加

■令和3年度時点の取組進捗状況

令和3年度は事前放流を実施する予測降雨の発表は無かったが、8月には九州の直轄河川で堤防越水の事象が生じたため、洪水調節後の後期放流を活用して貯水位を低下させ、次の降雨に備えた。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
既存ダムの洪水調節機能の強化	既存ダムの洪水調節機能の強化	R3時点		目標

13

白川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

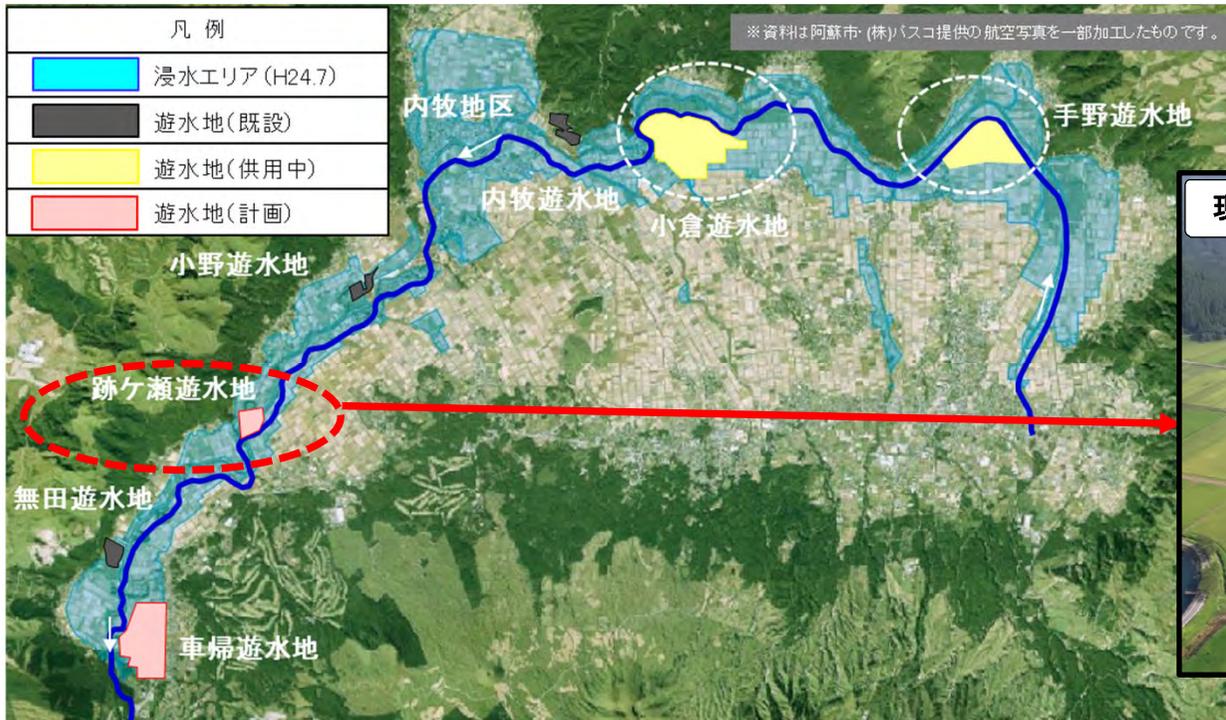
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

遊水地の整備

熊本県

○白川水系河川整備計画に基づき、浸水被害解消のため黒川遊水地群の整備を実施中。

位置図



令和3年度時点の取組進捗状況

・跡ヶ瀬遊水地において関係機関との調整を図りながら、用地買収等を実施。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	遊水地の整備	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川バイパス区間の整備

熊本県

○緑川水系潤川河川整備計画に基づき、140m³/sの流量が安全に流下させることを目標に、河川バイパス区間の河道整備を実施。



■令和3年度時点の取組進捗状況

・河川バイパス区間における河道掘削や護岸整備を実施。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築等	河川バイパス区間の河道整備	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

砂防堰堤整備等による土砂洪水氾濫対策

(熊本県)

○豪雨による山腹崩壊や土石流等に起因する災害から住民の命と暮らしを守るため、人家等に対する直接的な土砂災害防止及び下流河川の河床上昇に伴う洪水被害の防止を図ることを目的として砂防事業を実施中。

■ 砂防堰堤整備

砂防堰堤があると・・・



土石流となって流れ出てくる土砂や流木を砂防堰堤でしっかりと受け止めることで、下流の民家等に被害が出るのを防ぎます。

位置図 (令和3年度)



R3年度完了箇所(津留谷川)



事業の進捗状況

整備中箇所(五老ヶ谷川)



R3年度完了箇所(津留谷川)



砂防堰堤の効果事例

山出川砂防堰堤(H6完成)



土砂・流木被害を防止



R3.8月豪雨にて土砂・流木を捕捉

■ 令和3年度時点の取組進捗状況

- ・砂防堰堤を10箇所で開催中(令和3年度に1箇所完成)。
- ・令和4年度以降も、継続して砂防堰堤の整備及び新規整備箇所の調査を実施

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土砂洪水氾濫対策	砂防堰堤整備	R3時点		目標

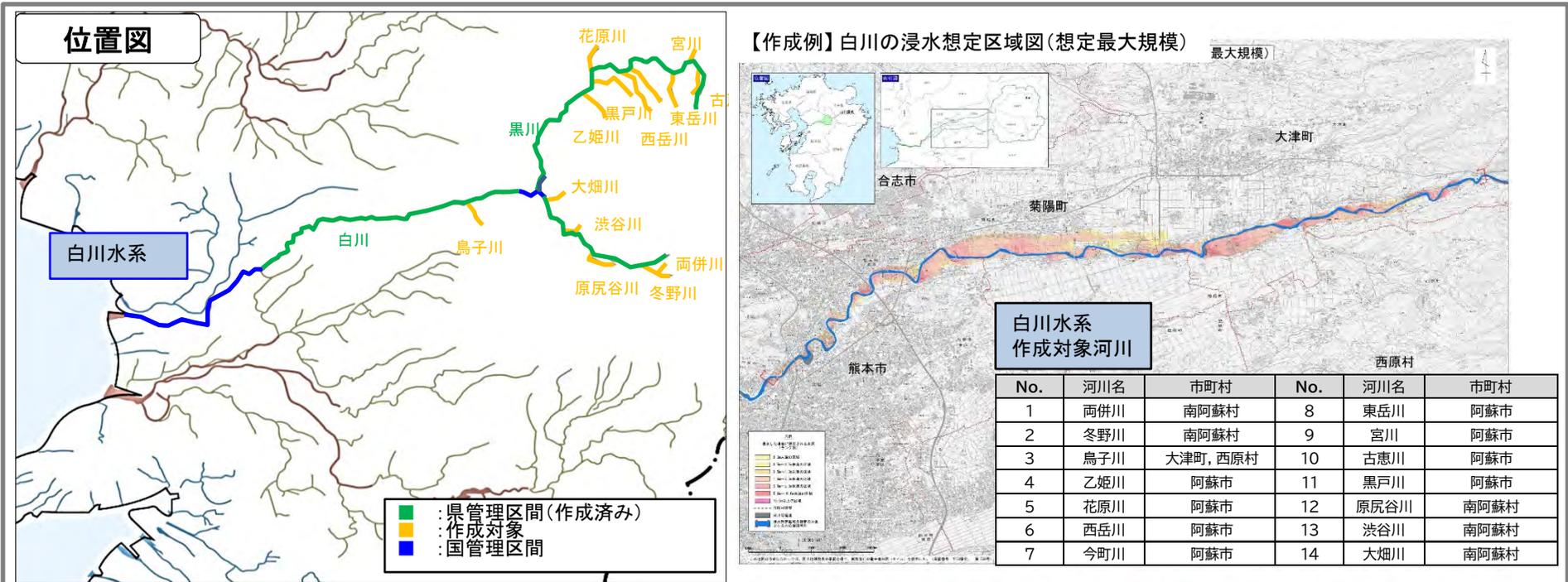
白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

洪水・土砂災害ハザードマップ土地のリスク情報の充実(浸水想定区域図の作成)

熊本県

○白川水系の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)について、水位周知河川2河川は作成済み。
○その他白川水系県管理河川(14河川)についても、洪水浸水想定区域図(想定最大規模)の作成を進め、土地のリスク情報の充実を図る。



令和3年度時点の取組進捗状況

・作成対象河川について、令和4年3月末に作成・公表済み。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	水位周知河川以外の河川の洪水浸水想定区域図の作成	R3時点		目標

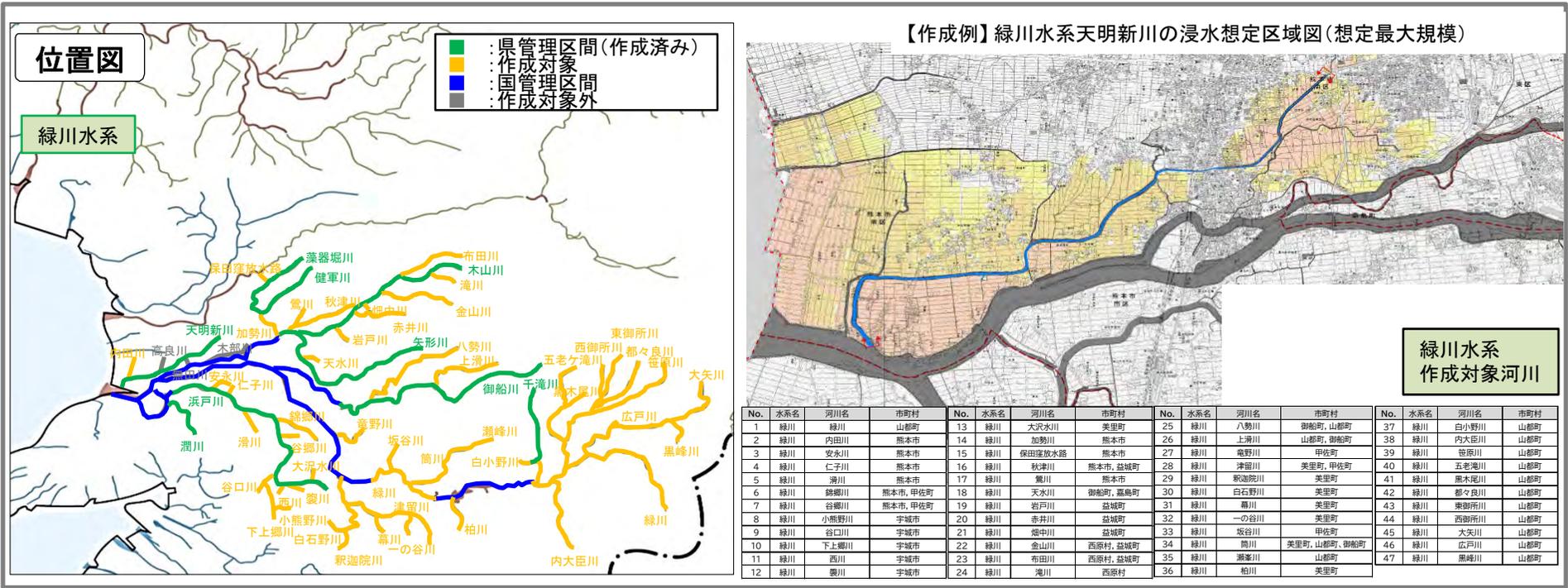
緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

洪水・土砂災害ハザードマップ土地のリスク情報の充実(浸水想定区域図の作成)

熊本県

○緑川水系の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)について、水位周知河川9河川は作成済み。
○その他緑川水系県管理河川(47河川)についても、洪水浸水想定区域図(想定最大規模)の作成を進め、土地のリスク情報の充実に努める。



令和3年度時点の取組進捗状況

・作成対象河川について、令和4年3月末に作成・公表済み

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	水位周知河川以外の河川の洪水浸水想定区域図の作成	R3時点	→	目標

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水流出抑制

熊本市

- 一定規模以上 (5000㎡)の開発行為に対する雨水貯留施設(調整池)の設置を推進
- 一定規模以上 (1000㎡)の開発行為に対する雨水浸透ます設置を推進
- 透水性舗装を推進

■取組内容の説明

■熊本市での設置例

■ 開発区域の面積5,000㎡以上



5,000㎡以上の開発行為に対する調整池の設置例

■ 開発区域の面積5,000㎡未満



1,000㎡以上の開発行為に対する新設道路内、雨水浸透柵の設置例

■ 敷地内からの雨水流出抑制対策
透水性舗装等を推進



駐車場内の透水性舗装施工例

■令和3年度時点の取組進捗状況

開発行為申請に対し雨水流出抑制指導を行っている。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	一定規模以上の開発行為に対する雨水貯留施設設置指導	R3時点		目標

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

住宅等における雨水浸透施設の設置補助

熊本市

○地下水の涵養対策、節水対策及び雨水の流出抑制による水害軽減を図るため、雨水浸透ますの設置を推進する。

■取組内容の説明

(住宅等における雨水浸透施設の設置補助)

(参考配置図)



(着工前写真)



(竣工写真)



■令和3年度時点の取組進捗状況

令和2年度までにおいて、雨水浸透柵7259基※の設置補助を行っている。

令和3年度においては、令和3年12月末時点において、雨水浸透柵12基※の設置補助を実施した。

※熊本市域全域

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道拡幅、橋梁架替、既存調整池容量拡充、校庭貯留、河川浚渫等

熊本市

○洪水による被害の防止・軽減を図るため、河道拡幅、橋梁架替、貯留施設の整備、河川の浚渫等を実施。

■取組内容の説明



【整備前】河道拡幅(旧天明新川)



【整備後】河道拡幅(旧天明新川)



既存調整池容量拡充の状況(鶯川調整池)

■令和3年度時点の取組進捗状況

改修を実施している主な河川の整備率は以下のとおり。

健軍川(約82%)、藻器堀川(約71%)、鶯川(約52%)、旧天明新川(約10%)。 ※令和3年4月時点

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等	<div style="border-top: 1px dashed red; border-bottom: 1px dashed red; position: relative; height: 10px;"> R3時点 目標 </div>		

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水排水施設保全事業(雨水排水用及び農業用排水排水機場の改築更新等)

熊本市

- 大雨時における浸水被害軽減を目的に野田排水機場のポンプ能力を現状の約1.5倍 ($1.2\text{m}^3/\text{s} \Rightarrow 1.7\text{m}^3/\text{s}$) に増強を図る。
- 老朽化した第一海路口排水機場の施設更新を行うとともに排水能力の増強を図る。 ($3.0\text{m}^3/\text{s} \Rightarrow 8.0\text{m}^3/\text{s}$)

■取組内容の説明 (雨水排水用排水機場ポンプ改築更新等)

(野田地区浸水状況)



(野田排水機場ポンプ増強着手前)



(農業用排水機場ポンプ改築更新等)

(第一海路口排水機場更新)



■令和3年度時点の取組進捗状況

雨水排水用排水機場の改築更新等については、野田排水機場のポンプ増強において令和2年度までに流出解析モデルを用いたシミュレーションや基本設計を実施し、令和3年度に詳細設計を実施する。農業用排水機場の改築更新等については、第一海路口排水機場の更新を実施している。(H27～R6)

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	排水機場整備	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

浸水解消対策事業(下水道浸水対策事業、一般排水路整備、農業用排水路整備)

熊本市

- 大雨時における浸水被害軽減を目的に下水道浸水対策、一般排水路整備、農業用排水路整備を実施する。
- 市街化区域における内水対策として、熊本市下水道浸水対策計画に基づき浸水対策重点6地区の整備を実施。

■ 取組内容の説明

(下水道浸水対策)

(一般排水路整備)
(未整備水路の改築更新)

(農業用排水路整備)
(未整備水路の改築更新)

(対策前)

(対策後)

(対策前)

(対策前)

(対策後)



(バイパス管の例)

(分水施設の例)

(対策後)

(排水機場の老朽導水路更新)



腐食した鋼矢板

■ 令和3年度時点の取組進捗状況

内水氾濫対策として浸水解消策事業の下水道浸水対策、一般排水路整備整備、農業用排水路整備を実施する。
下水道浸水対策は、鶯川第2排水対区の詳細設計及び水理模型実験を実施、一般排水路整備は、杉島地区の排水路整備を実施、農業用排水路整備は、内田沖田地区の排水路整備を実施、今後、海路口(第1期)地区の排水路整備を実施する。

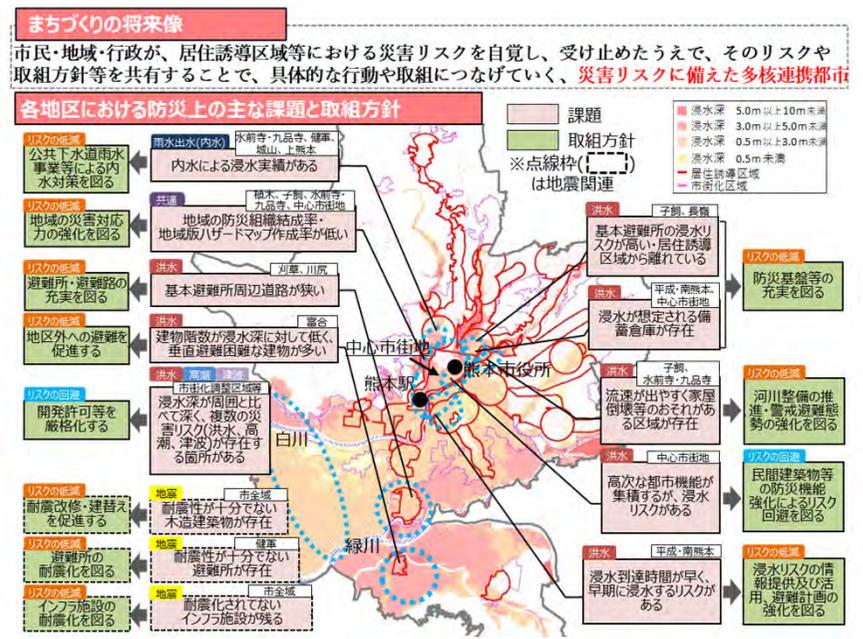
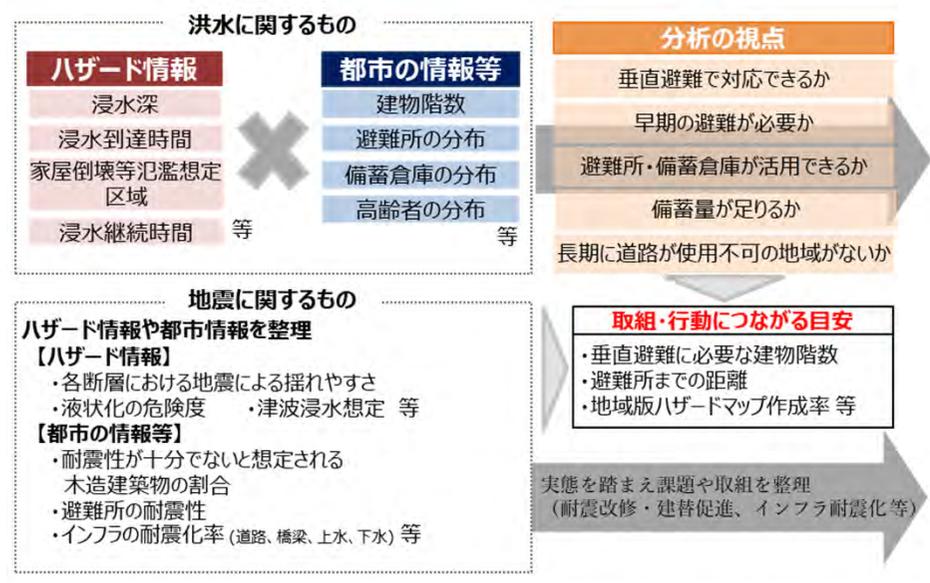
対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	下水道等の排水施設の整備	R3時点 → 目標		

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)	熊本市
-----------------	------------------------	-----

- 立地適正化計画に防災指針を追加し、災害リスクに備えた多核連携都市を目指す。
- 居住誘導区域を中心に防災部局等の保有するハザード情報と都市部局が保有する都市の情報を組み合わせ災害リスクを分析。
- 各地区の防災上の課題を踏まえ、関係部局と連携し災害リスクの回避や低減を図るための取組を総合的に組み合わせ展開。

取組内容の説明



令和3年度時点の取組進捗状況

令和3年3月の立地適正化計画改定により追加した“防災指針”を活用し、防災部局や市民部局などと連携した災害リスクの周知や各種取組の推進を図る。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)	R3時点		目標

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策

土砂災害特別警戒区域からの移転促進事業

熊本市

熊本県では土砂災害特別警戒区域（以下、レッドゾーン）内に居住する方々の安全な区域への住宅移転を促進する「土砂災害危険住宅移転促進事業」を平成27年に創設しており、本市においても「熊本市土砂災害危険住宅移転促進事業」を創設し、住宅移転を促進している。

取組内容の説明



土砂移転チラシ

- 事業創設後、毎年数件の申請があり、市内の安全な区域へ移転
- 対象者には移設費最高300万円の補助あり
- 県内移転であれば、本事業の活用が可能である
(各市町村の土砂災害危険住宅移転促進事業を活用)

令和3年度時点の取組進捗状況

本年度は4件申請があり、レッドゾーンから熊本市内に移転している。(申請件数は市全体の数)

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	土砂災害特別警戒区域からの移転促進		住宅移転	

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策

がけ地近接等危険住宅移転事業

熊本市

〇がけ崩れ、土石流、地すべり等の危険から住民の生命の安全を確保するため、災害危険区域等内に居住する人に対して、補助金を交付し、危険住宅からの移転を促進する。

■取組内容の説明

■事業対象住宅(危険住宅)

次の(1)から(3)のいずれかの区域に存する既存不適格住宅又は(1)から(5)のいずれかの区域に存する住宅のうち、災害等により市が移転勧告、是正勧告、避難勧告、避難指示等を行ったもので、がけ地の崩壊等による危険が著しいもの。

- (1) 災害危険区域(急傾斜地崩壊危険区域)
- (2) がけ条例により建築を制限している区域
- (3) 土砂災害特別警戒区域(通称レッドゾーン)
- (4) 土砂災害特別警戒区域(通称レッドゾーン)に指定される見込みのある区域
- (5) 事業着手時点で過去3年間に災害救助法の適用を受けた区域

■補助金交付要件

これまで住んでいた住宅を除却し、跡地に住宅等を建築しないこと。

■補助対象経費・補助限度額

経費	経費の内容	補助限度額
除却等費	危険住宅の撤去、動産の移転、仮住居、跡地整備費等に要する経費	1戸あたり97万5千円
建物助成費	危険住宅に代わる住宅の建設、購入及び改修をするために要する資金を金融機関等から借り入れた場合において、当該借入金利子に相当する額の経費	1戸当たり421万円 (建物325万円、土地96万円) ※特殊土壤地帯 1戸当たり731万8千円 (建物465万円、土地206万円、敷地造成60万8千円)

■令和3年度時点の取組進捗状況

令和3年度は補助金交付0件

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	がけ地近接等危険住宅移転事業	R3時点		目標

27

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策

中心市街地における、老朽建築物の建替え促進による防災機能の強化

熊本市

- まちなか再生プロジェクトは、容積率割増等の3つの取組により、老朽建築物の建替え等を促すとともに、併せて、空地を生み出すことで災害時の避難・活動空間を確保するなど、災害に強い上質な都市空間を創出。
- 財政支援の取組では、水害時でも建物の機能が確保されるよう電気設備等の浸水対策※を図ることを条件としている。
※浸水想定深以上に、電気設備を配置すること等。

■取組内容の説明

○令和2年度は、まちなか再生プロジェクトを活用した建替えが6件。

まちなか再生プロジェクト適用案件	①容積率の割増	②高さ基準の特例承認	③財政支援
(仮称)下通ゲートプロジェクト(旧パルコ)	—	—	○
(仮称)新市街ホテル店舗複合開発新築計画(カンデオホテル)	—	○	○
(仮称)ダイワロイネットホテル熊本銀座通り	—	—	○
(仮称)KS2プロジェクト	—	—	○
(仮称)NTT西日本桜町ビル	—	○	○
日本生命熊本ビル	○	○	○



■令和3年度時点の取組進捗状況

○“まちなか”における建替え件数※1の目標として、10年※2間で100件※3を掲げている

※1: 店舗(ホテル含む)・事務所を含む建築実績

※2: 令和2年4月1日～令和12年3月31日

※3: 熊本地震前の、まちなかの一定規模以上の建物の新築件数が年5件。これを、倍増させる。(5件×2×10年)

○令和2年度は、まちなか再生プロジェクトを活用したものが6件、その他が5件。合計11件。

○令和3年度も、まちなか再生プロジェクトの財政支援等により、老朽建築物等の建替えを促進する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期(1～4年目)	中期(5～7年目)	中長期(8～10年目)
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	中心市街地における老朽建築物の建替促進による防災機能の強化	R3時点 11件		目標100件

28

白川・緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

熊本市ハザードマップ等を活用した情報発信

熊本市

○熊本市ハザードマップのスマートフォン版を令和3年4月から本格運用、紙版については令和3年3月に全戸配布
 ○熊本市防災情報ポータルを更新し、避難所の混雑状況や避難ルートも閲覧可能に
 ○上記システムの活用については、出水期前に本市広報誌及びマスメディアを活用して周知啓発を行った

取組内容の説明



出水期前に市政だより(6月号)で重点的に広報

スマートフォンで簡単に確認できるように改良

混雑情報も分かるように改良

令和3年度時点の取組進捗状況

熊本市ハザードマップ(スマートフォン版、紙版)の作成・運用、熊本市防災情報ポータルの更新、出水期前の積極的な周知啓発

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	防災システム等の周知啓発	ハザードマップ等を活用した周知啓発		

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

監視カメラの追加設置

宇土市

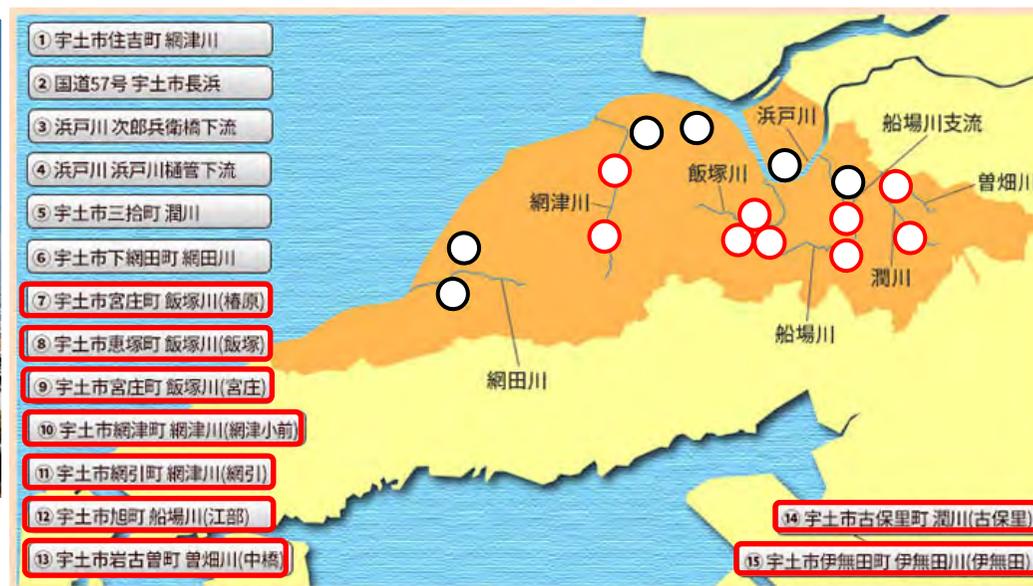
○簡易型河川監視カメラを設置し、沿線居住者に対し河川状況をインターネットで公開することにより、自主的避難の判断材料とする。

取組内容の説明

河川監視カメラ



カメラ画像



宇土市内設置公共ライブカメラマップ 宇土市設置分

令和3年度時点の取組進捗状況

河川監視カメラ 9基設置（飯塚川 3基，網津川 2基，潤川 1基，船場川 1基，船場川支流 1基，曾畑川 1基）

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
土地の水災害リスク情報の充実	河川監視カメラの追加設置	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ため池ハザードマップの作成

宇土市

○地域住民の自主防災意識の向上を図り、ため池の防災対策や災害時の被害軽減を目的とし、ため池ハザードマップを作成。

取組内容の説明

ため池ハザードマップ作成箇所



ため池ハザードマップ(花園池・立岡池)

令和3年度時点の取組進捗状況

- ・ため池ハザードマップ(全26箇所)を作成し、Webにて公開している。
- ・各ため池にハザードマップを掲載した標識を設置する予定。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	ハザードマップ作成・看板設置	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

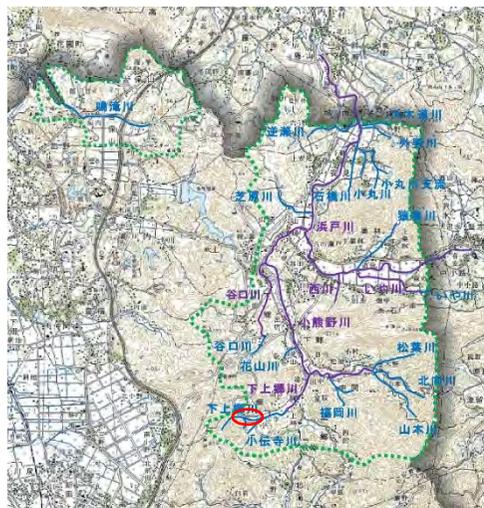
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

堆積土浚渫

宇城市

○緑川水系上流部にあたる支流において、周辺地域の水害の減少及び下流部（本流）への土砂流出防止を目的に、河川に堆積した土砂の撤去を行う。

取組内容の説明



	流域
	指定区間
	準用・普通河川



土砂撤去箇所及び撤去前後状況

令和3年度時点の取組進捗状況

出水期前後の河川パトロールを実施し土砂流出及び堆積が多い箇所の堆積土を撤去する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	堆積土撤去	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

河川の定期的なパトロール

宇城市

○河川の定期的なパトロール
河川のパトロールを実施し、変異箇所等の存在を早期に発見し処置する。

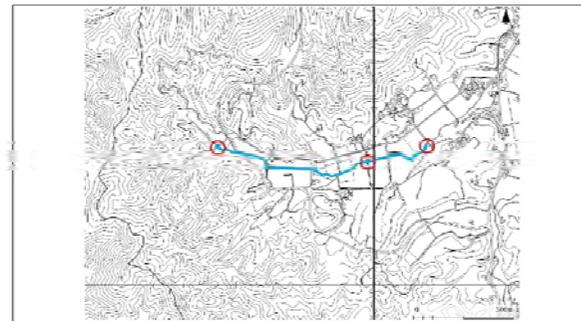
■ 取組内容の説明



パトロール対象河川(一部)

点検結果報告書

水系	川島野川	管区	河川名	下之樋川	点検時期	実施なし
点検日時	令和3年4月29日	点検者			異常あり	
点検箇所	管区	河川名				



点検箇所



点検写真

点検チェックシート

河川名	管区	河川名	点検日時	点検者	異常の有無	異常の内容
川島野川	下之樋川	A	河川管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		A	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		B	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		C	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		D	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		E	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		F	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		G	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		H	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	
		I	河川の管理	河川の清掃/除草	<input type="checkbox"/>	

チェックシート

■ 令和3年度時点の取組進捗状況

河川パトロール(出水期前後)を実施

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	河川パトロール	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策

黒川出水災害危険区域の指定

阿蘇市

○建築基準法第39条の規定に基づき、一級河川白川水系黒川流域の災害危険区域を指定し、区域内における建築物の建築を制限することにより、住民等の安全・安心を確保する。

取組内容の説明

阿蘇市黒川出水災害危険区域 縮尺 1:20,000
※縮尺はA1版



土地嵩上げ施工後
(建築物は建替)



施工前

令和3年度時点の取組進捗状況

当該区域内に住宅等を建築する場合は一部の建物を除き、災害危険設定水位以上の高さまで地盤面を嵩上げする必要があり工事に着手する前に、所定の申請手続きも必要(建築確認申請時の添付資料となる)。令和3年度は、申請実績無し。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	災害危険区域の指定	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

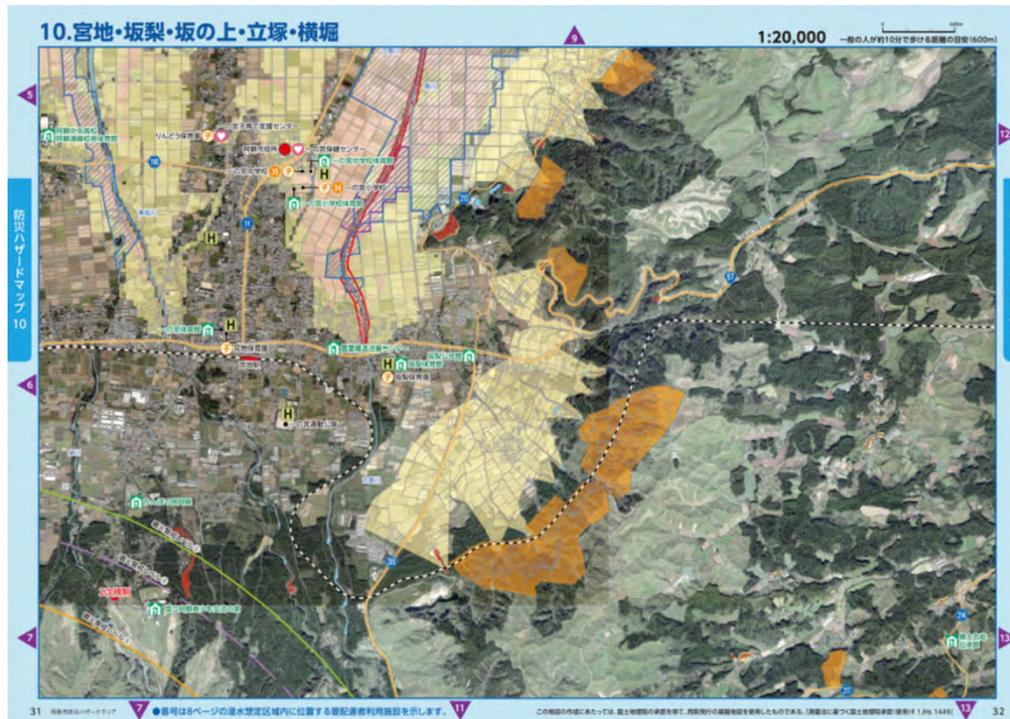
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ハザードマップの更新

阿蘇市

○水防法に基づき、想定し得る最大規模等の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される、洪水浸水想定区域及び想定される水深を表示した洪水浸水想定区域図及び避難所等の情報を表示し、洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図る。

■ 取組内容の説明



■ 令和3年度時点の取組進捗状況

市に転入された方や住所を変更された市民の方へ、住基担当部署を介してハザードマップを配布。今後は、県が令和4年3月に予定している洪水想定浸水想定区域図見直しに伴うハザードマップの見直し及び内水ハザードマップの作成等についても検討。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	ハザードマップの更新	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

自主防災組織の活動の推進

阿蘇市

○地区防災力向上のための、地区防災計画作成支援と地区防災リーダーの養成等による自主防災組織活動の活性化を推進する。

■ 取組内容の説明



■ 令和3年度時点の取組進捗状況

県の自主防災組織エキスパート(活動支援員)による、自主防災組織のリーダー的役割の位置づけが期待できる方(区長、食生活改善推進員)への研修

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	地区防災計画の作成支援	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

防災行政無線のデジタル化

阿蘇市

○災害情報伝達の要となる防災行政無線の強靱化を進め、多種多様な情報伝達手段と組み合わせ、迅速、一斉、的確な防災情報を市民の方へお届けする体制の整備を図る。

取組内容の説明



令和3年度時点の取組進捗状況

本年度中に防災無線の重要な基盤となる親局・中継局・屋外拡声子局などが完了。半導体不足の影響で遅延が発生していた戸別受信機は、4月末から各世帯に配布・設置の見込みとなり、11月には、全ての整備工事が完了する見通し。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	防災行政無線のデジタル化	R3時点	目標	

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

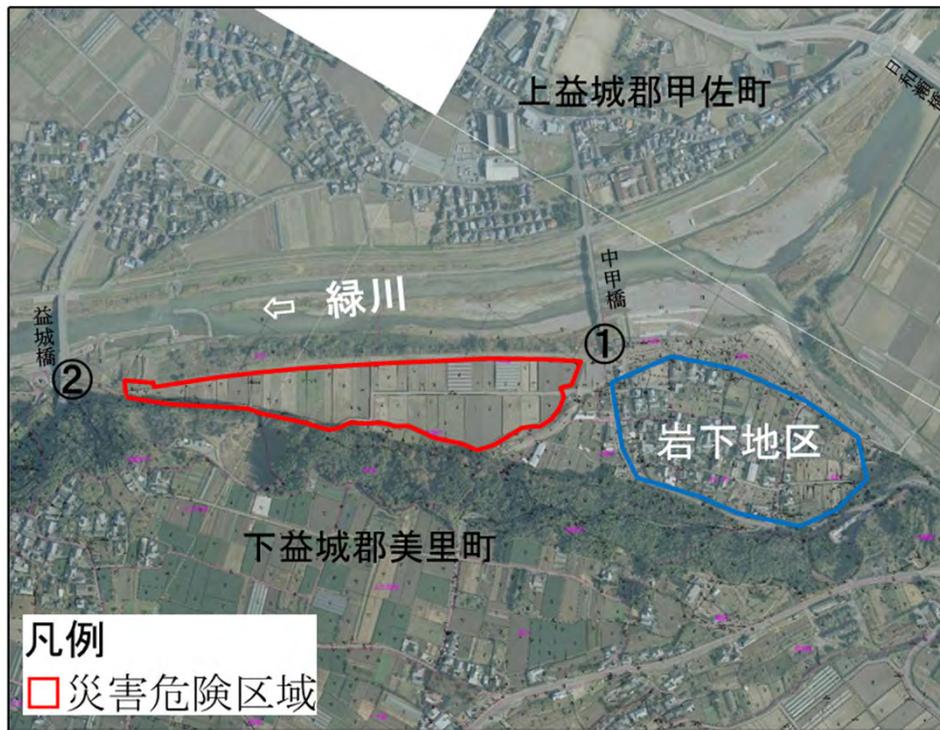
被害対象を減少させるための対策

災害危険区域の指定

美里町

○出水による災害を未然に防止するため建築物の建築制限を行うため災害危険区域を指定する。
□美里町災害危険区域に関する条例(平成16年11月1日条例第138号)

■取組内容の説明



■令和3年度時点の取組進捗状況

条例を制定済で指定区域に変更はないため、取組進捗なし

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	災害危険区域の指定	R3時点		

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

総合防災マップの配布、自主防災組織活動

美里町

○美里町総合防災マップは町民が災害による被害に遭う前に的確な避難行動をとるための一助として全戸に配布している。
○自主防災組織は現在59組織が活動を行っており避難訓練や情報伝達訓練、資機材の点検などを行っている。町でも育成のために組織の代表者を集めた研修会を行っている。

■取組内容の説明



自主防災組織(防災訓練及び代表者研修の様子)



■令和3年度時点の取組進捗状況

- ・R3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため避難訓練や情報伝達訓練を中止した。
- ・自主防災組織の代表者研修やリーダースキルアップ研修を行い、知識の向上につなげた。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制の強化	総合防災マップ配布、自主防災組織活動	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ため池ハザードマップの作成

美里町

○ため池ハザードマップとは、規模の大きな地震によりため池の堤体が決壊した場合の備えとして、安全で迅速な避難行動に役立てていただくことを目的に作成するものです。
 ○本町には51箇所のため池があり、内25箇所を防災重点ため池として指定し、令和2年度に指定した全箇所についてハザードマップを作成した。また、令和4年度には同箇所の防災重点ため池について看板設置を予定している。

取組内容の説明



令和3年度時点の取組進捗状況

令和3年度においては、令和4年度に事業実施できるよう国へ予算要望及び計画承認申請を行った。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	ため池ハザードマップの作成	R3時点	目標	

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・
減らすための対策

浸透枿・調整池の整備

大津町

○開発地域における調整池及び浸透枿設置

■取組内容の説明

宅地開発が進んでおり、町中心部への大雨時の影響が大きいいため、大津町開発事業等指導要綱に基づき開発地に対して調整池及び浸透枿設置の指導を行っている。

また、宅地に対しての雨水浸透枿の設置補助を行っている。

■令和3年度時点の取組進捗状況

雨水浸透枿設置補助事業、開発事業等指導要綱に基づく浸透枿設置の指導を実施している。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助	R3時点		目標

41

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

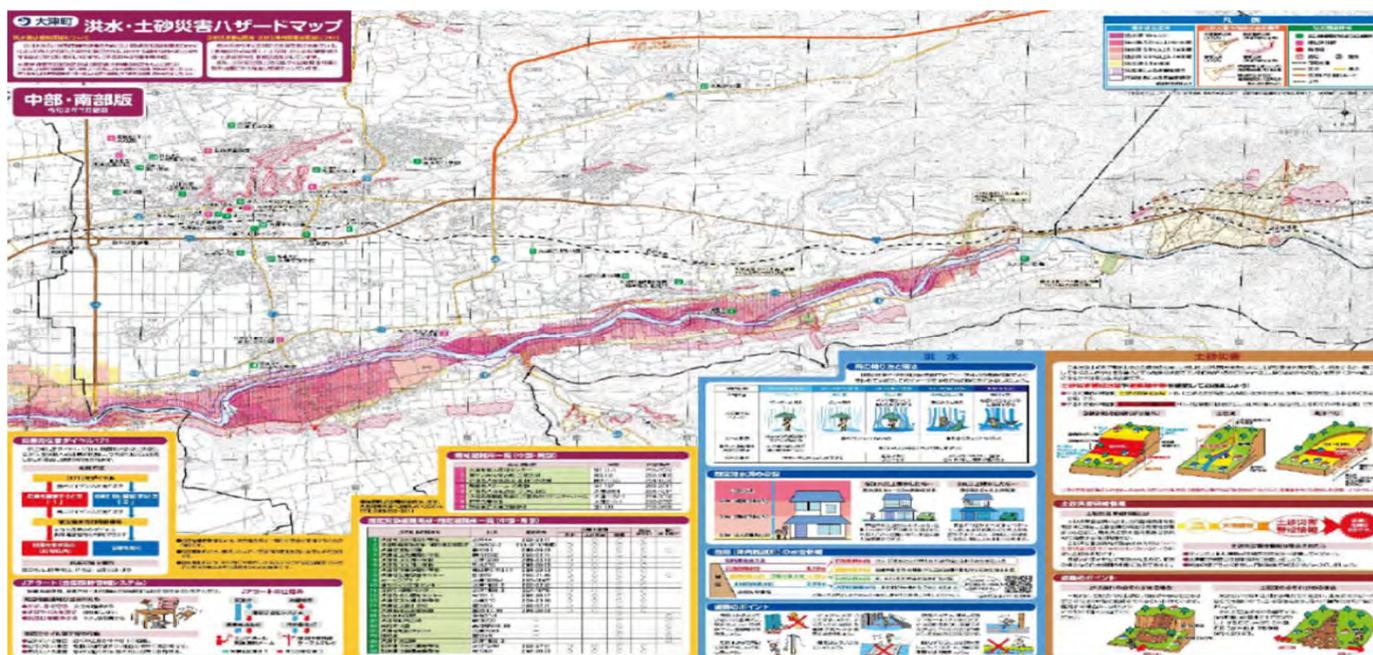
洪水・土砂災害ハザードマップづくり

大津町

○洪水・土砂災害ハザードマップづくり

■取組内容の説明

白川流域である大津町の中部・南部地区において、洪水・土砂災害ハザードマップを作成し、町民の方々に非常時避難に利用してもらう。



■令和3年度時点の取組進捗状況

令和2年度にハザードマップを作成し、災害時において、町民の方々に利用してもらっている。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制の強化	ハザードマップ作製	R3時点		

白川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

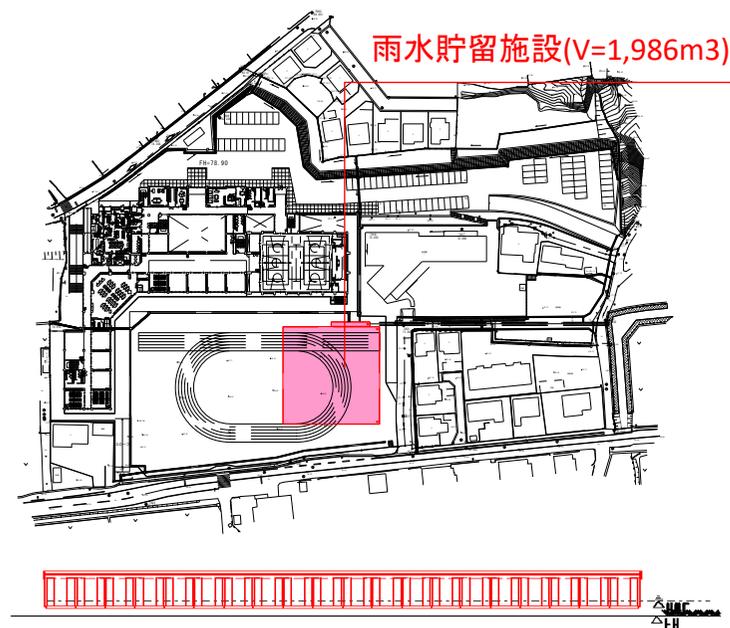
校庭貯留施設整備

菊陽町

○菊陽中部小学校運動場地下に雨水貯留施設（V=1,986m³）を整備し、放流量の調整を図っている。

■取組内容の説明

菊陽中部小学校
運動場 概要図



■令和3年度時点の取組進捗状況

本取り組みについて、現在新規による計画はありません。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	校庭貯留施設の整備	R3時点 (完了)		

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

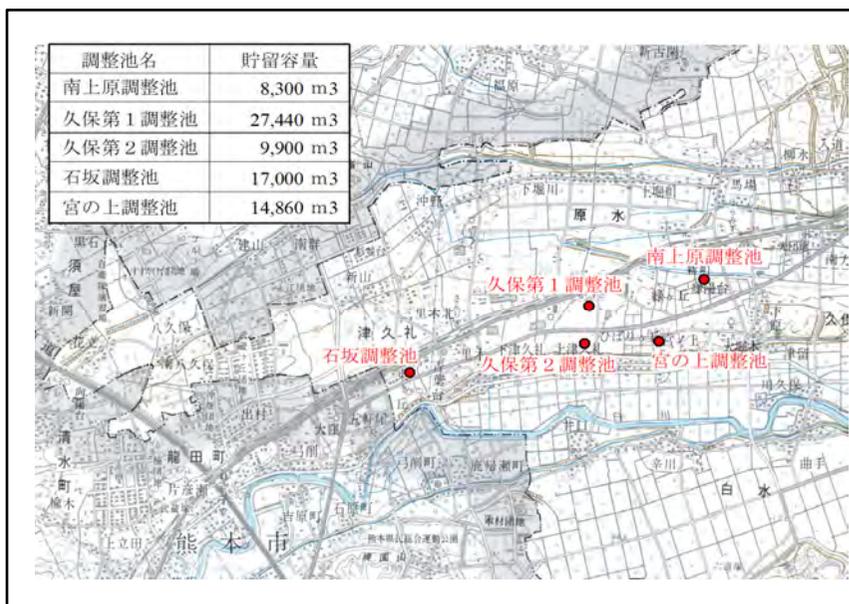
調整池整備による下流域への雨水排水調整

菊陽町

○雨水排水を調整池にて浸透させ、流出抑制により、白川下流域への水害軽減を図る。
5箇所の調整池で77,500m³の貯留量がある。

■取組内容の説明

町内調整池の位置図



久保第1調整池



石坂調整池

■令和3年度時点の取組進捗状況

本取り組みについて、現在新規による計画はありません。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	調整池の整備	R3時点 (完了)		

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

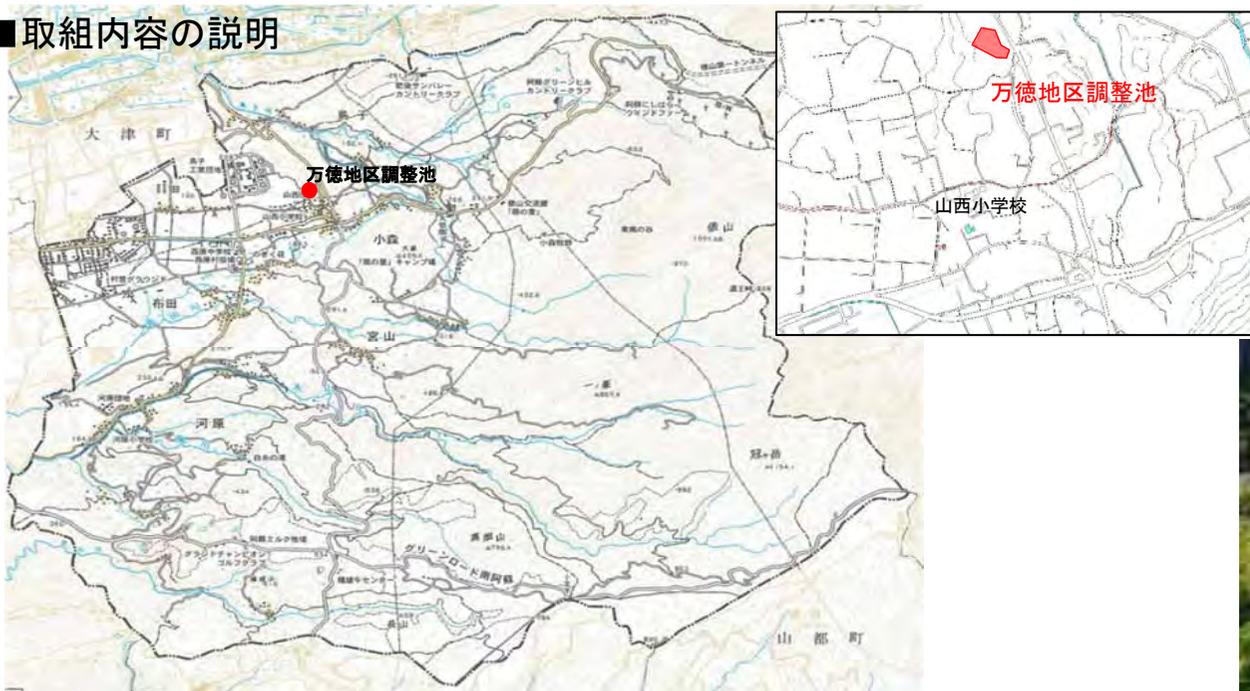
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

調整池整備による下流域への排水調整

西原村

○大雨時における下流域浸水被害防止として、高遊原台地からの排水を貯留・流量調整を行うことにより、浸水被害を軽減させる。

取組内容の説明



調整池の整備状況



万徳調整池

令和3年度時点の取組進捗状況 すでに整備は完了している。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	調整池の整備	R3時点 (完了)		

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

調整池整備による下流域への排水調整

西原村

○大雨時における下流域浸水被害防止として、高遊原台地からの排水を貯留・流量調整を行うことにより、浸水被害を軽減させる。

■取組内容の説明



調整池の整備状況



■令和3年度時点の取組進捗状況

すでに整備は完了している。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	調整池の整備	R3時点 (完了)		

白川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

田んぼダム実証試験

南阿蘇村

○熊本大学大学院先端科学研究部の皆川朋子准教授と連携して村内7か所のほ場で田んぼダムの実証試験を実施した

■取組内容の説明

田んぼダムのタイプ	門型 (一体型)	穴あき型 (機能分離型)	排水柵無型
写真			
メリット	低コスト 設置が容易	農家は通常の管理 農家に外されにくい	低コスト
デメリット	板がなくなりやすい	排水柵への設置が困難	ほ場ごとに形状が異なる

■令和3年度時点の取組進捗状況

村内の水田に門型3か所、穴あき型3か所、排水柵無型1か所の田んぼダムを設置し、降雨時の水田の水位を水位計「水田farmo」で測定した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	水田の貯留機能向上	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

内水排除用仮設ポンプ設置、雨水対策検討

御船町

- 大雨時の浸水被害対策として仮設ポンプを設置し、周辺住宅等の内水浸水被害を軽減する。
- 今後、雨水管理総合計画を策定し、内水被害軽減対策を実施予定。

■取組内容の説明

令和3年度設置状況



R1. 6豪雨時



内水排除用仮設ポンプ設置状況

■令和3年度時点の取組進捗状況

- 引き続き、御船川沿いの2地区（2箇所）に仮設ポンプを設置し、内水排除を実施する。
- 雨水管理総合計画を策定し、今後の対策の検討を行う。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	仮設ポンプによる内水排除、雨水管理総合計画策定に向けた検討	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・
減らすための対策

住宅等における雨水浸透施設の設置補助

嘉島町

- 地下水の涵養対策、節水対策及び雨水の流出抑制による水害の軽減を図るため、雨水浸透ますの設置を推進。
- 地下水の保全及び水資源の有効利用の促進を目的に、住居等への雨水貯留タンクの設置を推進。
-

■取組内容の説明

- 雨水浸透ます
 - ・ 1基あたり10,000円または設置費のいずれか少ない額。(4基上限)
- 雨水貯留タンク
 - (容量200L以上)
 - ・ 1基あたり設置費の全額、上限35,000円
 - (容量200L未満)
 - ・ 1基あたり設置費の2分の1、上限24,000円

■令和3年度時点の取組進捗状況

実績なし。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・
減らすための対策

雨水浸透ますの設置補助

益城町

○地下水の涵養対策、節水対策及び雨水の流出抑制による水害軽減を図るため、雨水浸透ますの設置を推進。

○
○

■取組内容の説明

○雨水浸透ます設置の補助額

・1基当たりの設置費の全額とし、10,000円を上限とする。(1,000円未満は切り捨て)

■令和3年度時点の取組進捗状況

4件(13基)の申請があり、補助を行なった。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	雨水貯留施設の設置補助	R3時点		目標

50

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

内水排水設備(常設ポンプ)の設置・仮設排水設備(仮設ポンプ)による内水排水

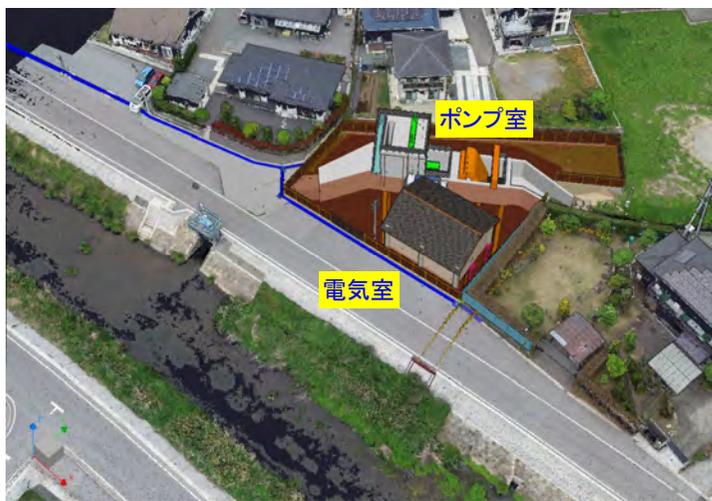
益城町

○熊本地震で地盤が沈下し、出水期に内水被害が発生している3地区において、浸水被害を発生しないよう、益城町雨水管理総合計画に基づき、内水排水設備(常設ポンプ)を施工中
 ○熊本地震で地盤が沈下し、出水期に内水被害が発生している3地区に、仮設排水設備を配置し、地元消防団と協力して排水作業を行うことで、内水被害を軽減

■取組内容の説明



施工状況(仮設水路設置)



完成イメージ図



仮設ポンプによる排水状況

■令和3年度時点の取組進捗状況

3地区のうち2地区については契約が完了しており、早期完成に向けて施工中である。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	内水排水設備(常設ポンプ)の設置	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害対象を減少させるための対策

立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)

益城町

- 立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)により、災害リスクを考慮した安全なまちづくりを進める。
- 災害リスク情報(浸水想定区域等)を活用した居住誘導区域の検討。
- 居住誘導区域内では、「防災指針」に基づく、防災・減災対策を検討。

取組内容の説明

◆災害ハザードエリアにおける開発抑制
(開発許可の見直し) ※令和4年4月施行予定

<災害レッドゾーン>

- 都市計画区域全域で、住宅等(自己居住用を除く)に加え、**自己の業務用施設**(店舗、病院、社会福祉施設、旅館・ホテル、工場等)の**開発を原則禁止**

<災害イエローゾーン>

- 市街化調整区域における住宅等の**開発許可を厳格化**(安全上及び避難上の対策を許可の条件とする)

(住宅等の開発に対する勧告・公表)

- 災害レッドゾーン内での住宅等の開発※について**勧告に従わない場合は公表**できることとする

※ 3戸以上又は1000㎡以上の住宅等の開発で開発許可の対象とならないもの

区 域	対 応
災害レッドゾーン	市街化区域 市街化調整区域 非線引き都市計画区域
災害イエローゾーン	市街化調整区域

【都市計画法、都市再生特別措置法】

災害レッドゾーン

- ・災害危険区域(崖崩れ、出水等)
- ・土砂災害特別警戒区域
- ・地すべり防止区域
- ・急傾斜地崩壊危険区域

災害イエローゾーン

- ・土砂災害警戒区域
- ・浸水想定区域(洪水等の発生時に生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある土地の区域に限る。)

◆立地適正化計画の強化
(防災を主流化)

- 立地適正化計画の**居住誘導区域から災害レッドゾーンを原則除外** ※令和3年10月施行予定
- 立地適正化計画の居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める**「防災指針」の作成** ※令和2年9月施行

【避難路、防災公園等の避難地、避難施設等の整備、警戒避難体制の確保等】
【都市再生特別措置法】

◆災害ハザードエリアからの移転の促進

- 市町村による**防災移転支援計画** ※令和2年9月施行

【市町村が、移転者等のコーディネートを行い、移転に関する具体的な計画を作成し、手続きの代行等】

※上記の法制上の措置とは別途、予算措置を拡充(防災集団移転促進事業の要件緩和(10戸→5戸等))
【都市再生特別措置法】

出典元: 国土交通省「改正都市再生特別措置法について」

令和3年度時点の取組進捗状況

令和4年3月に立地適正化計画を策定した。 ※益城町では「防災指針」を作成し、適切に災害リスク分析を行い、災害リスクが高い地域を原則居住誘導区域から除外するとともに、誘導区域に残存する災害リスクに対して防災・減災対策を進めている。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

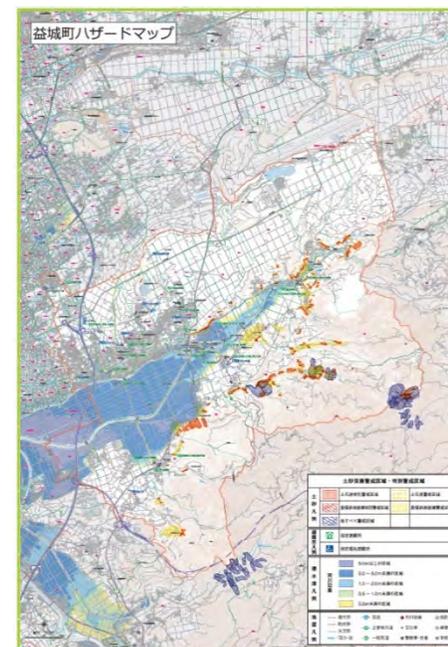
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ハザードマップの一部更新(全戸配布)

益城町

○水防法第14条に基づく洪水浸水想定区域の変更に伴い、ハザードマップを改訂し、全戸配布を行う。
 ○災害時におけるマイタイムラインの掲載、気象情報の知識や避難路、避難場所の確認を行うことで、いざという時の迅速な対応に役立ててもらおう。

■取組内容の説明



■令和3年度時点の取組進捗状況

令和3年6月に改訂を行い、全戸配布を行なった。また、町のホームページにも掲載し、周知を行なった。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	ハザードマップの一部更新(全戸配布)	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

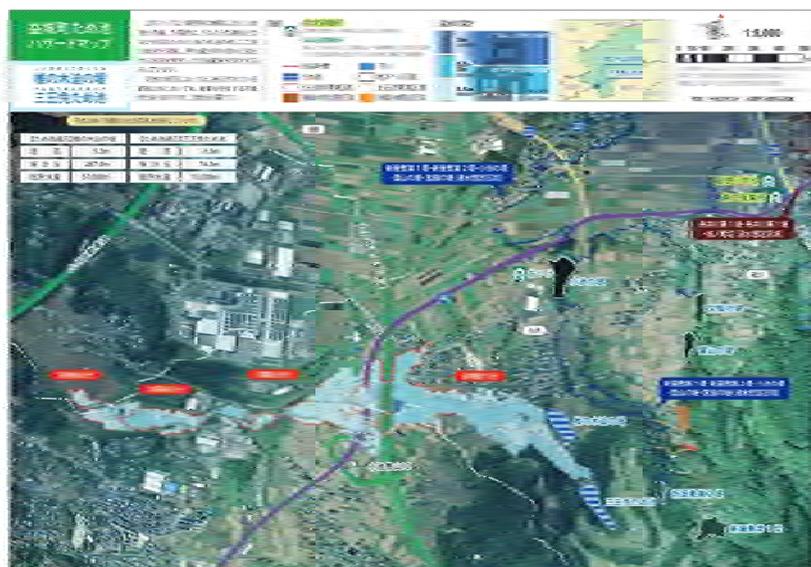
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ため池ハザードマップの作成

益城町

- ため池堤体の決壊が発生した場合を想定し、氾濫水の浸水想定区域・浸水深、避難場所や避難時の注意点などを掲載したため池ハザードマップを作成する。
- ため池災害時に備え、迅速な避難行動ができるように活用してもらう。

取組内容の説明



令和3年度時点の取組進捗状況

15箇所のため池を6つのマップに分けて作成(令和3年3月)し、該当する地区に対して全戸配布を行なった。
また、4月に町ホームページに掲載し、併せて重点ため池については、現地に立看板を設置し、災害対策強化を行なった。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	ため池ハザードマップの作成	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

防災士の養成、自主防災組織の活動の推進

益城町

○防災士の養成、自主防災組織の活動の推進を図り、地域の防災力向上につなげる。

■取組内容の説明

○防災士の養成

防災士資格取得に係る教科書代、資格取得試験受験料、防災士登録料を全額補助

※ただし、資格取得後、益城町防災士連絡協議会に入会することが条件

○自主防災組織の活動推進

設立支援金(50,000円)、活動支援金(25,000円/年)の補助

■令和3年度時点の取組進捗状況

防災士資格取得者数:11人

自主防災組織数:11団体(うちR3年度新規設立:1団体)

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	防災士の養成、自主防災組織の活動の推進			

55

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

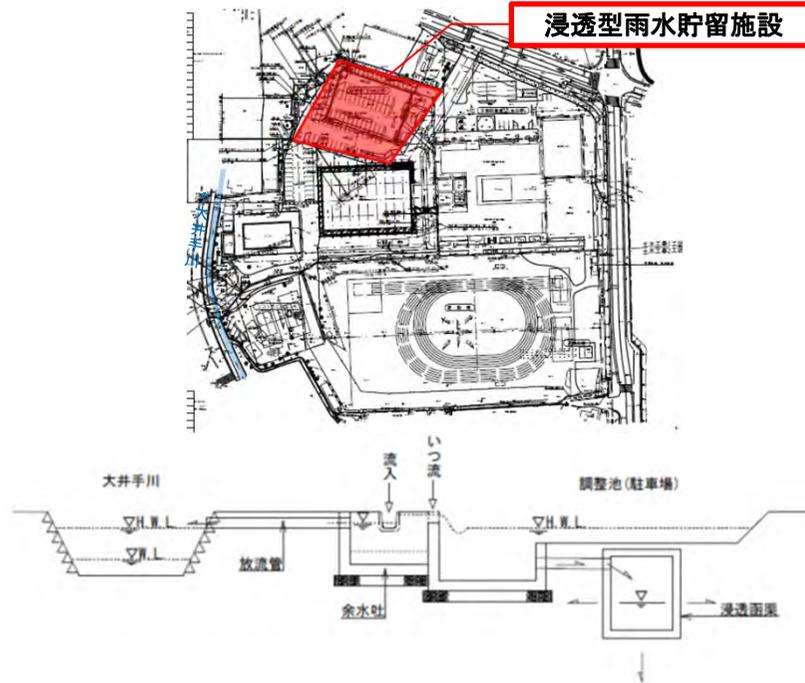
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

小学校敷地内雨水貯留施設整備

甲佐町

○甲佐小学校駐車場に浸透型雨水貯留施設（V=1,050m³）を整備

■ 取組内容の説明



■ 令和3年度時点の取組進捗状況 整備完了

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
流域の雨水貯留機能向上	校庭貯留施設の整備	R3時点 (完了)		

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

下横田排水ポンプ場整備

甲佐町

○甲佐町の下横田地区では過去の洪水において道路や家屋の浸水被害が発生しており、令和2年7月豪雨では、内田川の水位上昇により浸水被害が発生している。浸水被害軽減対策として、自然流下できない内水を緑川へ導水し、緑川へポンプ排水できるようにするため、既設調整池の2つを接続し、釜場の新設、排水ポンプの配備を実施した。

取組内容の説明

1)過去の被害状況(R2.7豪雨)



A池越水により町道冠水

内田川増水状況

2)内水対策概要図

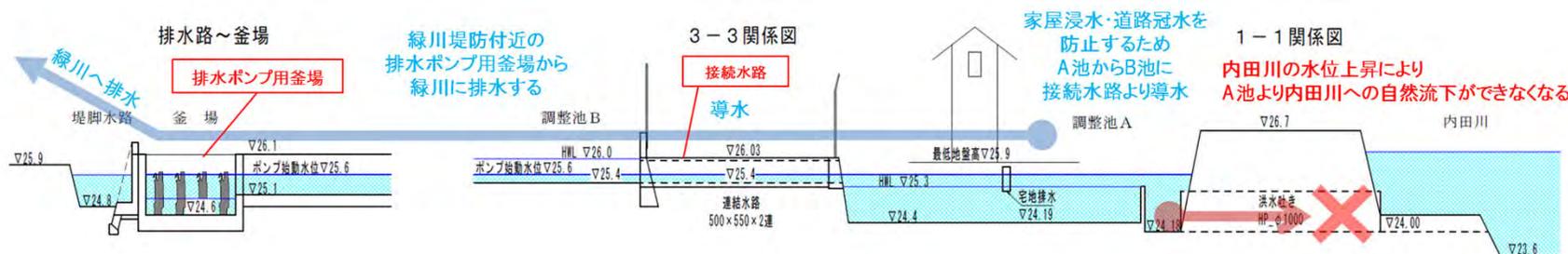


3)施設完成状況



下横田排水ポンプ場(R3.12完成)

4)対策模式図



令和3年度時点の取組進捗状況

工事着手し、釜場の新設、排水ポンプの配備を実施した。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	排水ポンプ用釜場整備	R3時点 (完了)		

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

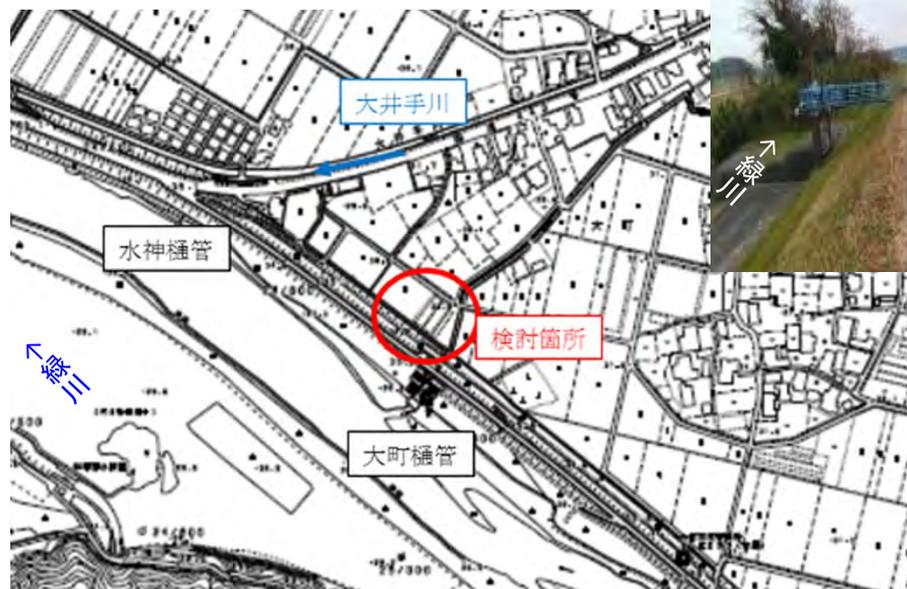
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

大町・吉野樋管樋管排水機場整備

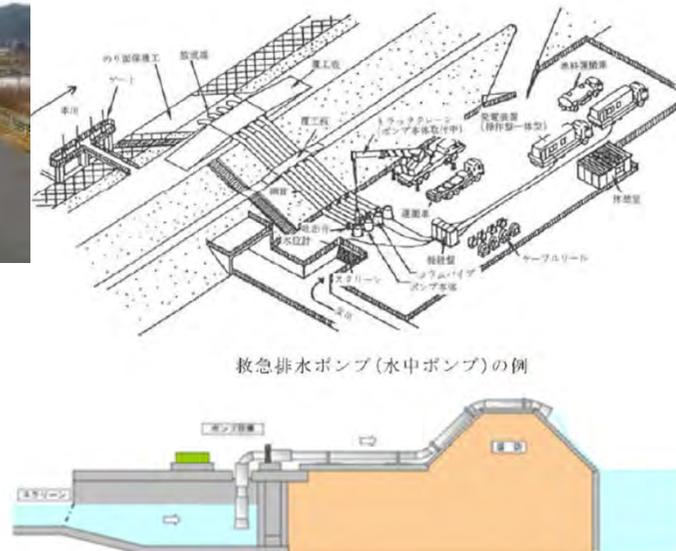
甲佐町

○近年、頻発する集中豪雨により、大井出川沿川において浸水被害が発生しており、H19.7月洪水、H28.6月洪水においては大町樋門付近で内水被害が発生している。内水対策として、大町樋管に排水機場を整備し、併せて大井手川水位を低下できるような既存排水路を利用した対策を行う。

■取組内容の説明



緊急排水ポンプ場イメージ図



救急排水ポンプ(水中ポンプ)の例

排水方式：緊急排水ポンプ（堤防乗越）

■令和3年度時点の取組進捗状況 令和4年度に基本設計着手予定

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	排水機場整備	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

馬門川浸水対策

甲佐町

○甲佐町の船津地区・有安地区では過去の洪水において道路や家屋の浸水被害が発生しており、平成19年7月豪雨では、馬門川の水位上昇により浸水被害が発生している。浸水被害軽減対策として、河道拡幅や洪水調節施設の設置等、地域特性を最大限に活かした対策を検討し工事を実施することで浸水被害の軽減を図る。

■ 取組内容の説明

1) 過去の被害状況(H19.7豪雨)



2) 浸水被害軽減対策の検討

様々な治水対策案を検討し、最適な改修案を検討する。

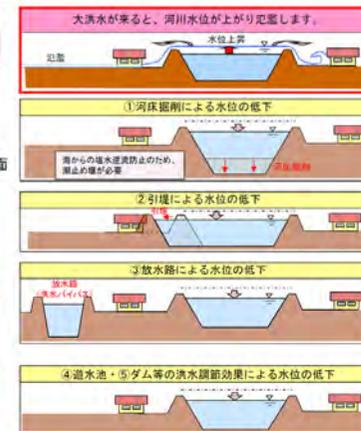
治水の原則

国土交通省

○治水の原則は洪水時の河川水位をさげること。そのために、様々な治水対策を活用。

治水の原則
洪水時の河川の水位を下げ、洪水を安全に流す

- ①河床掘削：
河床を掘り下げて河川の断面積を大きくする。
- ②引堤：
堤防を移動して川幅を広げることにより、河川の断面積を大きくする。
- ③放水路：
新しく水路を作り洪水をバイパスすることにより、河川(本川)の流量を減らす。
- ④遊水池：
平地部のある限られた区域に洪水の一部を貯めることにより、河川における洪水のピーク流量を減らす。
- ⑤ダム等：
洪水の一部をダム貯水池等で貯留し、下流河川における洪水のピーク流量を減らす。



第1回「水災害対策とまちづくりの連携のあり方」検討会(2020年1月8日開催)
資料3-1: 水災害対策の取り組み状況について(水管理・国土保全局)より抜粋

■ 令和3年度時点の取組進捗状況

浸水被害軽減対策として、河道拡幅や洪水調節施設の設置等の治水対策案の検討に着手。
今後も検討を進め、当該地域に最適な対策案を決定の上、工事に着手する。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
支川等氾濫対策	河川浚渫、遊水池等整備検討	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

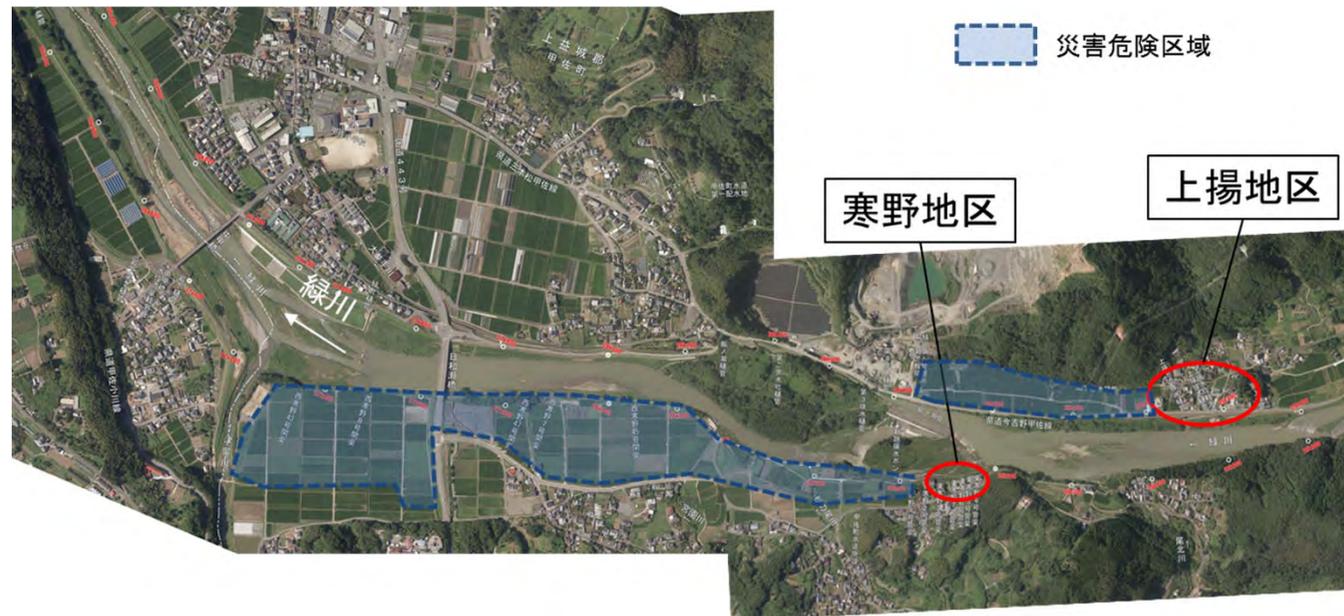
被害対象を減少させるための対策

災害危険区域の指定

甲佐町

○寒野地区、上揚地区の土地利用一体型水防災事業（国土交通省施工）にあわせて、災害危険区域を指定
甲佐町災害危険区域に関する条例（平成18年6月23日 甲佐町条例第15号）

■ 取組内容の説明



■ 令和3年度時点の取組進捗状況 区域指定済

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	災害危険区域の指定	R3時点 (完了)		

60

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

広域避難を考慮したハザードマップ等の検討

甲佐町

○災害時の備えとして準備しておくためのガイドブックとして総合防災マップを作成。マップに広域避難図を掲載

取組内容の説明



- ・B4判の総合防災マップを作成し、全戸配布。
- ・学校施設や企業、要配慮者利用施設などに総合防災マップとあわせてA1判ハザードマップを添付して配布。
- ・町民の防災意識が深まるように別途防災マップ活用のチラシを作成、広域避難についても掲載し配布。

令和3年度時点の取組進捗状況 作成済・配布済

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	総合防災マップ作成	R3時点 (完了)		

緑川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

総合防災マップの配布と防災アプリの活用

山都町

- 水害・土砂災害等に関する危険区域の周知や、災害発生時に的確な行動をとるための情報提供を目的とした総合防災マップを町内全戸に配布。
- スマートフォンを活用することで、迅速な防災情報の提供及び災害等に関する情報の収集を目的とした防災アプリの導入。

■取組内容の説明

土砂災害警戒区域のほか浸水想定区域や避難所情報等を掲載した総合防災マップを作成し、町内の全世帯へ配布。地震や火災発生時の行動マニュアル等も掲載し、自主防災組織との連携により活用促進を図っている。



【総合防災マップ】

消防・警察・自衛隊と連携した町の総合防災訓練を実施。消防団は防災アプリの写真投稿機能等を活用し、災害発生現場の詳細な情報をいち早く災害対策本部へ伝達した。



【防災訓練の状況】



【防災アプリの画面】

■令和3年度時点の取組進捗状況

大規模な土砂災害等を想定した総合防災訓練を実施した。防災マップや防災アプリが最大限の効果を発揮できるよう継続して取り組むこととしている。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	総合防災マップの配布、防災アプリの活用	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

治山事業による土砂や倒木の流出対策

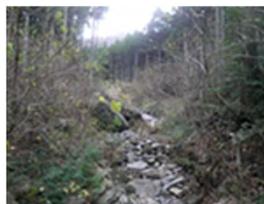
熊本県、熊本森林管理署

○令和2年7月豪雨等により発生した林地崩壊や溪流荒廃を踏まえ、下流への土砂・倒木の流出を抑止するため、緊急的な治山施設等の整備を実施
 ○山地災害が発生した箇所又はおそれのある箇所（山地災害危険地区）等を対象として、土砂の流出抑止や被害箇所の森林への復旧のため、流木捕捉式治山ダムを設置するなど流木対策を推移。

■取組内容の説明

○溪流荒廃箇所の復旧

・溪岸が浸食された溪流において、谷止工を施工し土砂等の流出を防ぐ取組を実施



・市町村：阿蘇市
 ・工事内容：谷止工



・市町村：高森町
 ・工事内容：谷止工・水路工



○山腹崩壊箇所の復旧

・林地が崩壊した箇所において、山腹工を施工し森林へ復旧する取組を実施



・市町村：西原村
 ・工事内容：山腹工



■令和3年度時点の取組進捗状況

○山地災害が発生した箇所について、谷止工や山腹工等の復旧工事を実施。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
森林の整備・保全、治山施設の整備	治山施設の整備	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト 【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

治山事業による土砂や倒木の流出対策

熊本県、熊本森林管理署

○令和2年7月豪雨等により発生した林地崩壊や溪流荒廃を踏まえ、下流への土砂・倒木の流出を抑止するため、緊急的な治山施設等の整備を実施
 ○山地災害が発生した箇所又はおそれのある箇所（山地災害危険地区）等を対象として、土砂の流出抑止や被害箇所の森林への復旧のため、流木捕捉式治山ダムを設置するなど流木対策を推移。

■取組内容の説明

○溪流荒廃箇所の復旧

・溪岸が浸食された溪流において、谷止工を施工し土砂等の流出を防ぐ取組を実施



・市町村 : 山都町
 ・工事内容 : 谷止工



○山腹崩壊箇所の復旧

・林地が崩壊した箇所において、山腹工を施工し森林へ復旧する取組を実施



・市町村 : 甲佐町
 ・工事内容 : 山腹工



○流木対策の実施

・倒木の流出のおそれがある溪流に、立木捕捉式ダムを施工し流木の発生を防ぐ対策を実施



・市町村 : 甲佐町
 ・工事内容 : スリットダム



■令和3年度時点の取組進捗状況

○山地災害が発生した箇所について、谷止工や山腹工等の復旧工事を実施。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
森林の整備・保全、治山施設の整備	治山施設の整備	R3時点		目標

白川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

森林の有する公益的機能の発揮に向けた森林整備・保全

熊本県、熊本森林管理署、森林整備センター熊本水源林整備事務所

- 森林の有する山地災害防止機能や水源涵養機能等の公益的機能の適切な発揮に向け、山地災害危険地区や白川・緑川上流域等の森林を主体として、引き続き、間伐等の森林整備を推進。
- また、森林整備を効率的・効果的に進めるため、森林経営管理制度の活用や施業技術の実証・普及等を併せて実施。

■取組内容の説明

○白川・緑川上流域の森林整備を主体とした間伐等の森林整備の実施等



間伐後の森林

○森林経営管理制度を活用した、適切な経営管理が行われてこなかった森林の集約



森林経営管理制度を活用した森林の集約化

○造林作業等の省力化・低コスト化に向けた、新たな技術等の実証・普及



苗木運搬用ドローンの導入

■令和3年度時点の取組進捗状況

- 白川・緑川上流域の森林を主体とした間伐や再造林、鳥獣被害対策の実施等を行った。
- 市町村での森林経営管理制度の活用の促進に向け、市町村職員を対象とした研修の開催や巡回指導による技術支援等を実施した。
- 造林作業等の省力化・低コスト化に向け、新技術の導入支援等を通じて、林業現場への導入を進めた。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
森林の整備・保全、治山施設の整備	森林整備・保全	R3時点		目標

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

森林の有する公益的機能の発揮に向けた森林整備・保全

熊本県、熊本森林管理署、森林整備センター熊本水源林整備事務所

- 森林の有する山地災害防止機能や水源涵養機能等の公益的機能の適切な発揮に向け、山地災害危険地区や白川・緑川上流域等の森林を主体として、引き続き、間伐等の森林整備を推進。
- また、森林整備を効率的・効果的に進めるため、森林経営管理制度の活用や施業技術の実証・普及等を併せて実施。

■取組内容の説明

○白川・緑川上流域の森林整備を主体とした間伐等の森林整備の実施等



間伐後の森林

○森林経営管理制度を活用した、適切な経営管理が行われてこなかった森林の集約



森林経営管理制度を活用した森林の集約化

○造林作業等の省力化・低コスト化に向けた、新たな技術等の実証・普及



コンテナ苗の自動植穴掘機の導入

■令和3年度時点の取組進捗状況

- 白川・緑川上流域の森林を主体とした間伐や再造林、鳥獣被害対策の実施等を行った。
- 市町村での森林経営管理制度の活用の促進に向け、市町村職員を対象とした研修の開催や巡回指導による技術支援等を実施した。
- 造林作業等の省力化・低コスト化に向け、新技術の導入支援等を通じて、林業現場への導入を進めた。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
森林の整備・保全、治山施設の整備	森林整備・保全	<div style="border-top: 1px dashed red; border-bottom: 1px dashed red; padding: 5px;"> R3時点 目標 </div>		

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

林野(森林)部門と連携・協働した保安林整備等の検討

緑川流域会議

○林野(森林)部門と連携し、緑川ダム上流域における森林整備区間の「植樹、下刈、除伐、枝打ち等」の協働作業に取り組むことで、緑川の流域治水(山地の災害防止・水源かん養)に資する。

■取組内容の説明



下刈り状況



植林状況

■令和3年度時点の取組進捗状況

○緑川流域会議に所属する「天明水の会」が中心となり、山都町神ノ前にて植林活動と下草刈りを実施。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
森林の整備・保全	保安林整備等の検討	<div style="border-bottom: 1px dashed red; position: relative; height: 15px;"> R3時点 目標 </div>		

67

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水対策内容のフォローアップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

災害時における流域連携による復興支援等の検討

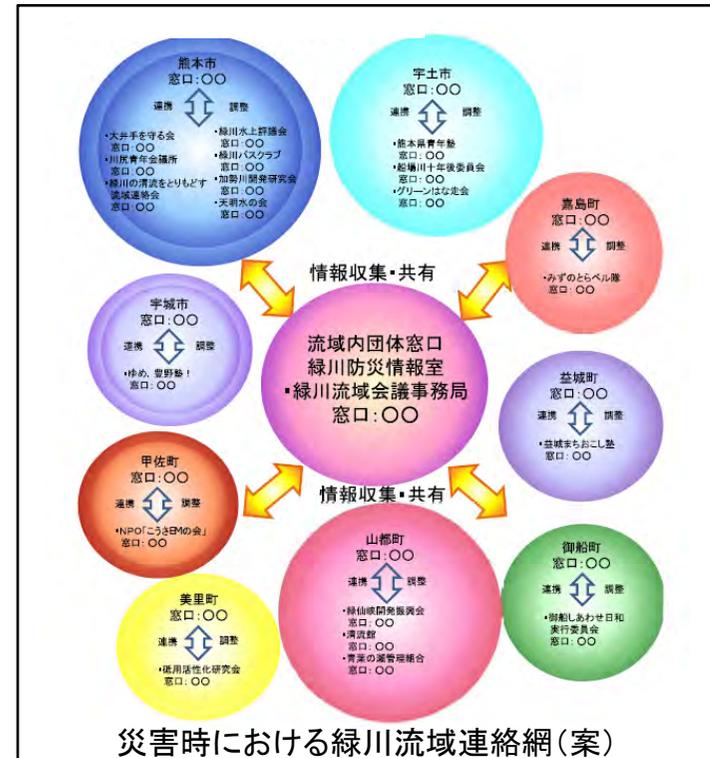
緑川流域会議

○「緑川流域会議」において、災害時に各自治体と各流域団体がお互いに必要な情報を共有し、円滑な災害復旧等に寄与することを目的として、「災害時における緑川流域連絡網（案）」を検討。

■ 取組内容の説明



被災を受けた球磨川沿川の各地へ全国からの支援物資の中継地点としての支援を実施。(R2)



■ 令和3年度時点の取組進捗状況

○緑川流域会議にて災害時における緑川流域の連絡網作成について検討。来年度以降に作成予定。

対策内容	実施内容	取組工程の進捗状況		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	災害時における流域連携による復興支援等の検討	R3時点		目標

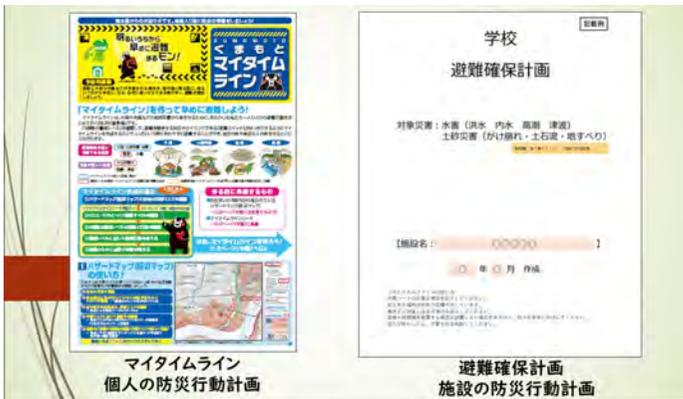
1) 重点取組み方針における各機関の進捗状況について

広域避難、防災教育、情報共有(各機関毎)

【 熊本市 】

【防災教育】 白川・緑川の素材を活かした防災教育のさらなる拡充

○学校安全管理者へマイタイムライン講習（オンライン）を実施（令和3年8月）



マイタイムライン
個人の防災行動計画

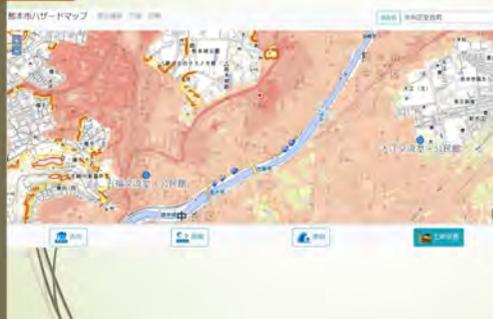
学校
避難確保計画

対象災害：水害（洪水、内水、高潮、津波）
土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）

マイタイムライン
個人の防災行動計画

避難確保計画
施設の防災行動計画

①ハザードマップで自宅の災害リスクを確認



- ① 自宅の場所を確認
- ② 自宅周辺に色がついていないか確認
- ③ 色がっている場合は災害リスクを確認
- ④ 災害リスクに応じて避難先を確認
- ⑤ 災害リスクに移動する経路を確認（災害リスクを避けて通る）

学校安全管理者講習資料

- 本市教育委員会と連携して市内の学校安全管理者向けにマイタイムライン講習を実施。
- マイタイムラインの考え方に加え、ハザードマップや河川情報の見方等の防災情報の見方について説明。
- 講和後、オンライン上でグループディスカッションを実施、防災力向上を図った。

【情報共有】 防災情報の共有の拡充

○スマートフォンで防災情報を確認できるようにQRコードを記載した啓発チラシを作成
 ○中心市街地や協定先、大学等で啓発チラシの掲載



市政だより(2021年6月号)

- 命を守るQRコードから、ハザードマップや避難情報、避難所の混雑情報等、本市の防災情報を確認することができる。
- 出水期前に、市広報誌の市政だよりにてQRコードチラシの啓発を図るとともに、市外の観光客にも防災情報を提供できるよう、中心市街地の関係者にご協力頂き、店頭に掲載。
- 中心市街地以外にも、協定先や大学等の関係機関にも協力頂き掲載。

1) 重点取組み方針における各機関の進捗状況について

広域避難、防災教育、情報共有(各機関毎)

【 嘉島町 】

1) 重点取組み方針における各機関の進捗状況について

広域避難、防災教育、情報共有(各機関毎)

【 甲佐町 】

【広域避難】 多様な避難方法による確実な避難の実施

○ 甲佐町と美里町との包括連携協定書の締結 R3. 8. 23



美里町との包括連携協定締結

令和3年8月23日(月)、甲佐町と美里町は、地域の課題解決、活性化および持続的発展に資することを目的として、包括連携協定を締結しました。

相互の地域資源の活用を図りながら、幅広い分野で連携協力し、地域の持続的発展に向けた取り組みを推進していきます。

<連携に基づく取り組み>

- 防災対策の強化
避難所の相互利用、防災訓練の共同実施など
- 生活環境の整備
生活関連機能サービスの広域化など)
- 観光・イベントの広域振興
連携による観光・イベントの魅力向上など)

【防災教育】 白川・緑川の素材を活かした防災教育のさらなる拡充

○気象予報士を招いての防災ワークショップの実施（甲佐小学校）



甲佐の災害リスクを地域の皆さんと考えました！ 学校運営協議会主催:大雨時ワークショップ 6月24日

星地域の区長さん・民生委員さん・防災士さん方に参加していただき、ハザードマップで地域の災害リスクを確認しながら、過去の災害の様子も教えていただきました。気象予報士の早田蛍さんに教えていただきながら、大雨時にどんな行動をとるのかみんなで考えていきました。そのことをもとに、6年生は家に持ち帰って家族会議を開き、大雨時のマイタイムラインを家族と一緒に考えました。

【情報共有】 防災情報の共有の拡充

○新たな防災情報発信手段の構築【メールアプリシステム（こうさ情報たしかめーる）の導入】



甲佐町では、住民のみなさまの携帯電話やスマートフォンのメール・アプリ機能を活用して、

- 新型コロナウイルス関連情報
- 防災・防犯などの安全安心情報
- くらしに役立つ生活情報・観光イベント情報

等を迅速、正確にお知らせするメールアプリシステム「こうさ情報たしかめーる」を導入しました。ぜひ登録してご利用ください。

1) 重点取組み方針における各機関の進捗状況について

広域避難、防災教育、情報共有(各機関毎)

【 美里町 】

【広域避難】 広域避難を考慮したハザードマップ等の検討

- R4年度に防災マップの更新を予定しているため、R3年度より掲載項目の検討を開始予定。
- 近隣関係自治体と広域避難の枠組みの検討及び協議の実施。
- 防災情報（危険個所やL2の追加）随時更新のためWEB版の導入検討。

写真・図等なし

コメントなし

【防災教育】 白川・緑川の素材を活かした防災教育の推進

- H30年度町内校長会において説明会実施。
- R1年度砥用小学校において防災教育の授業を実施。
- R2年度励徳小学校において防災教育の授業を実施。R3年度は授業時間の確保のため実施見送り



砥用小学校での授業(R1. 11. 11)

町内3校のうちR2年度までに2校の実施を行った。R3年度には町内小学校全校での実施を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症による蔓延防止措置の対応などにより、各学校との調整に躊躇したことや授業時間の確保のために実施を見送った。R1年度に行った砥用小学校では、5年生の理科の授業で防災教育を実施され、先生が緑川で実際に写真を撮影され、学習教材として利用し授業が行われた。子供たちも身近な場所の話や写真などでの授業ということで、積極的に授業に取り組み、活発に意見をしていた。

1) 重点取組み方針における各機関の進捗状況について

広域避難、防災教育、情報共有(各機関毎)

【 熊本地方気象台 】

【情報共有】 防災情報の共有の拡充

- 大雨になる可能性がある場合に、熊本地方気象台が実施する、県市町村に対する「大雨についての解説」



(参加者集合画面)



(Web会議室での解説の様子)

今年度から、早期注意情報[高](危険度が高まりつつあり、「警報に切り替える可能性が高い注意報」や「予告的な府県気象情報」がすでに発表されているか、まもなく発表される)となった場合、気象台の危機感を伝えるとともに市町村の防災対応(早めの防災対応、体制検討、心構え、首長への説明等)に役立てていただくため、web会議システムを活用し、「大雨についての解説」を実施。

今年度、台風説明会とは別に、計6回開催。

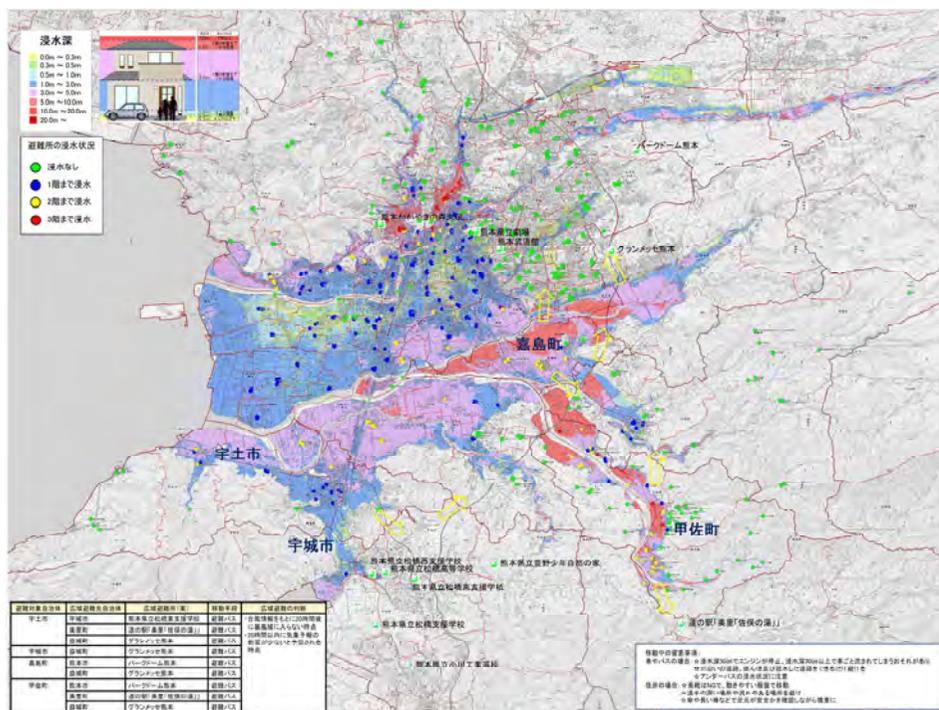
1) 重点取組み方針における各機関の進捗状況について

広域避難、防災教育、情報共有(各機関毎)

【 熊本河川国道事務所 】

【広域避難】 多様な避難方法による確実な避難の実施

○広域避難を考慮したハザードマップ作成に向けた検討を実施



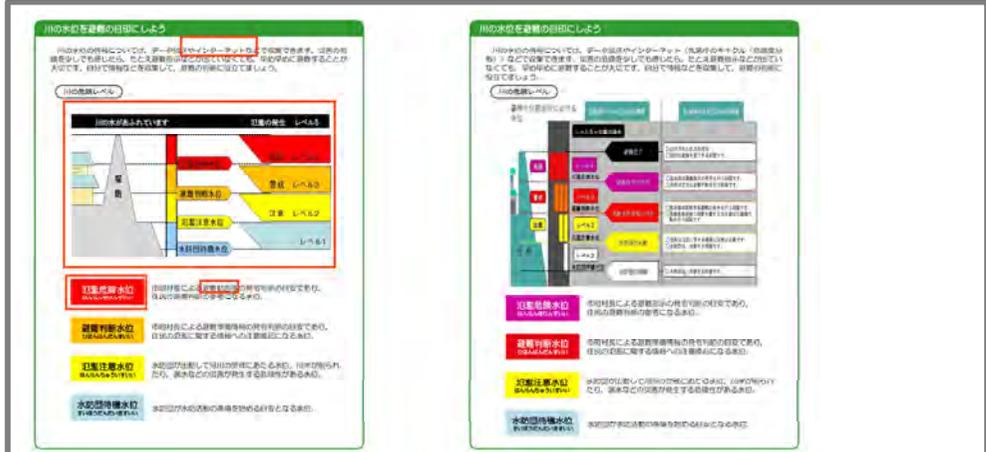
検討により作成した広域避難ハザードマップ(案)

- 広域避難に関する先行事例を収集した。
- 広域避難の対象地区から広域避難先までの移動時間(情報伝達や準備を含めたリードタイム、移動開始から避難完了までに要する時間)の算定を行った。
- リードタイムを考慮して広域避難の実施判断の基準の検討を行った。
- 避難先までの移動手段の検討を行った。
- 関係市町すべてが含まれる地図をベースとして、浸水エリア、避難所、広域避難地区がわかる大判広域避難ハザードマップ(案)を作成した。

■白川・緑川の減災に関する重点取組方針

【防災教育】 白川・緑川の素材を活かした防災教育のさらなる拡充

○新学習指導要領に則った『白川緑川防災学習支援教材』の教材を更新
 ○更新教材を関係機関ホームページ等に提供した。



更新した水防災学習プログラム教材

- 新学習指導要領はH29に作成され、R3年度に完全移行されている。既存の白川緑川水防災学習プログラム教材への変更点は、主に以下のとおり。
- (理科) 変更なし
- (社会) 小学校5学年 → 小学校4学年(自然災害からくらしを守る)
- 対象学年の変更に伴う引用漢字等の修正を行った。
- 情報提供やハザードマップを最新の情報に更新した。
- 更新した『白川緑川防災学習支援教材』の教材を下記のページにアップした。
- 熊本県立教育センター: ホームページ
- 熊本市教育委員会: 内部e-net

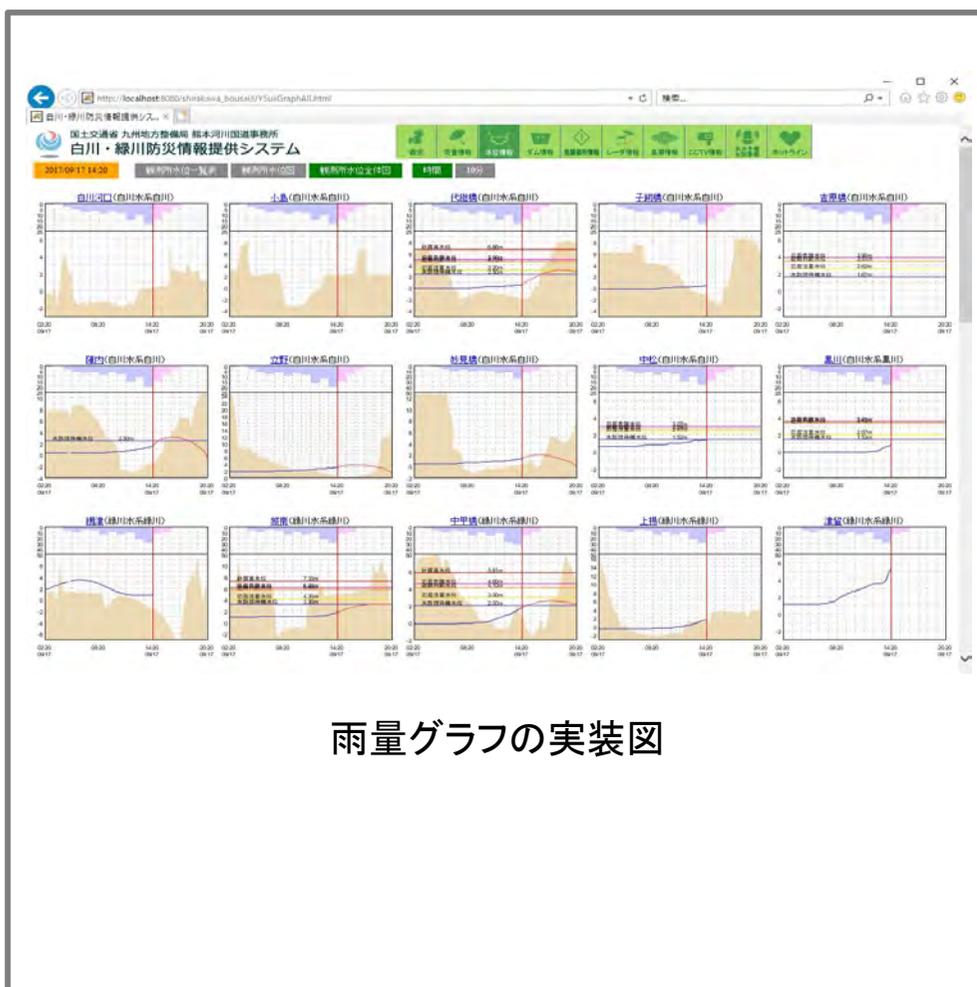
※e-netは学校(各先生方)と教育委員会が確認できるネットワークシステム



『白川緑川防災学習支援教材』の更新状況

【情報共有】 防災情報の共有の拡充

○防災情報提供システムを用いたホットラインの検討を開始



- 水位情報の観測所水位全図について、過去及び今後の雨量を確認するための雨量グラフ(実績・予測)の表示機能を実装
- 過去の水位グラフの履歴を確認するための横スクロール機能を実装
- ホットライン用情報として、水位、今後の雨量、基準水位へ達する予測時間を確認もしくは出力する機能を実装
- 危機管理型水位計の水位データの取り込み・表示機能を実装
- ホットライン時におけるWEB会議機能の活用について、防災情報提供システムの改良を検討

2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

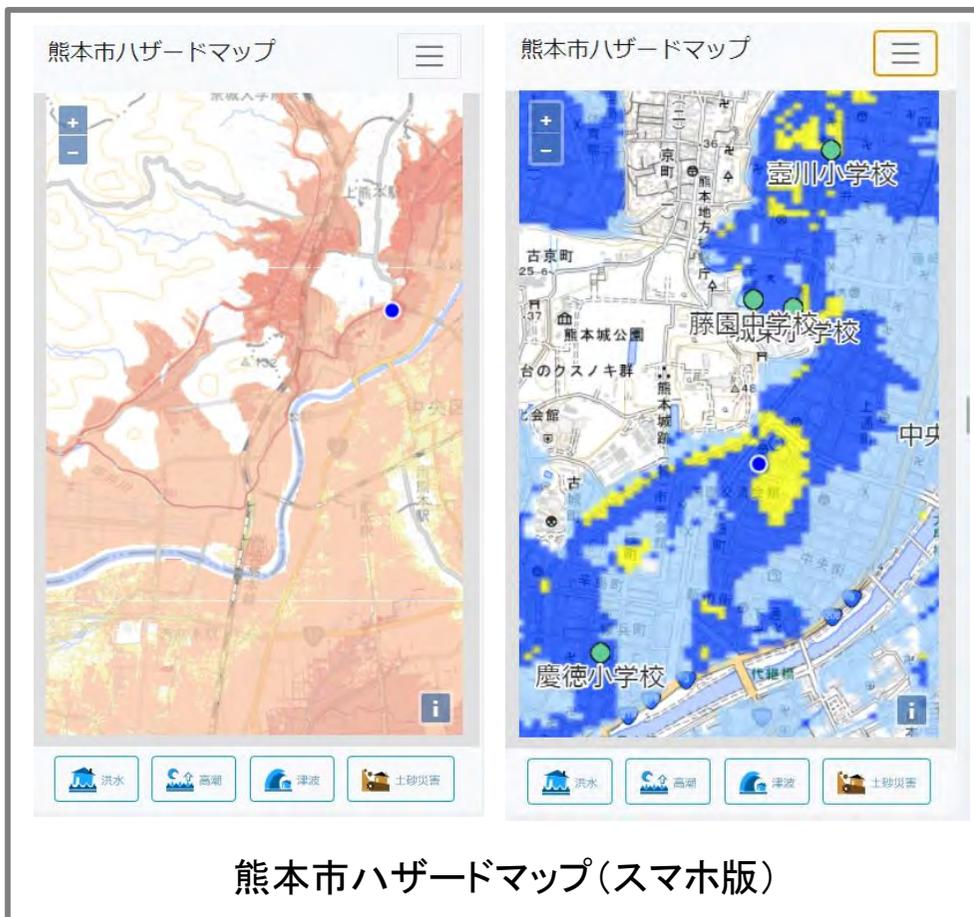
【 熊本市 】

【ソフト対策】1-② 想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底

熊本市

●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成

- スマートフォンに適した熊本市ハザードマップの更新 (R3. 4月)
- 熊本市ハザードマップ (紙版) の作成、全戸配布 (R3. 3月)



- R2. 4月に市ホームページに想定最大規模を反映したハザードマップを公開したが、R3. 4月にスマートフォンでも簡単に確認できるハザードマップへ更新 (GPS機能付き、現在地をその場で確認可)
- R3. 3月にハザードマップ (紙版) を全戸配布。

●ハザードマップの普及・啓発

- 市広報誌（市政だより）やSNS、マスメディアを活用した普及啓発
- 各講演会等のイベントでのハザードマップ周知啓発



市政だより(R3年6月号)



外国人防災訓練(R3年7月)

- ハザードマップ等の防災情報を市広報誌、マスメディア、SNS等を活用して広く発信。
- 外国人への防災訓練、大学のイベントや要配慮者利用施設の避難確保計画作成講座、学校安全管理者講習、マイタイムライン研修等で広く周知啓発。

●地域版ハザードマップの普及・啓発

○主に町内単位で、地域住民と行政（各区総務企画課）が一体となってワークショップや勉強会、まち歩きを行い、地域の実情に合わせて地域版ハザードマップを作成しており、平成25年から事業を開始している。



地域住民らによる話し合いの様子

■コメント

昨年度に続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限され、地域版ハザードマップの作成数が少なかった。

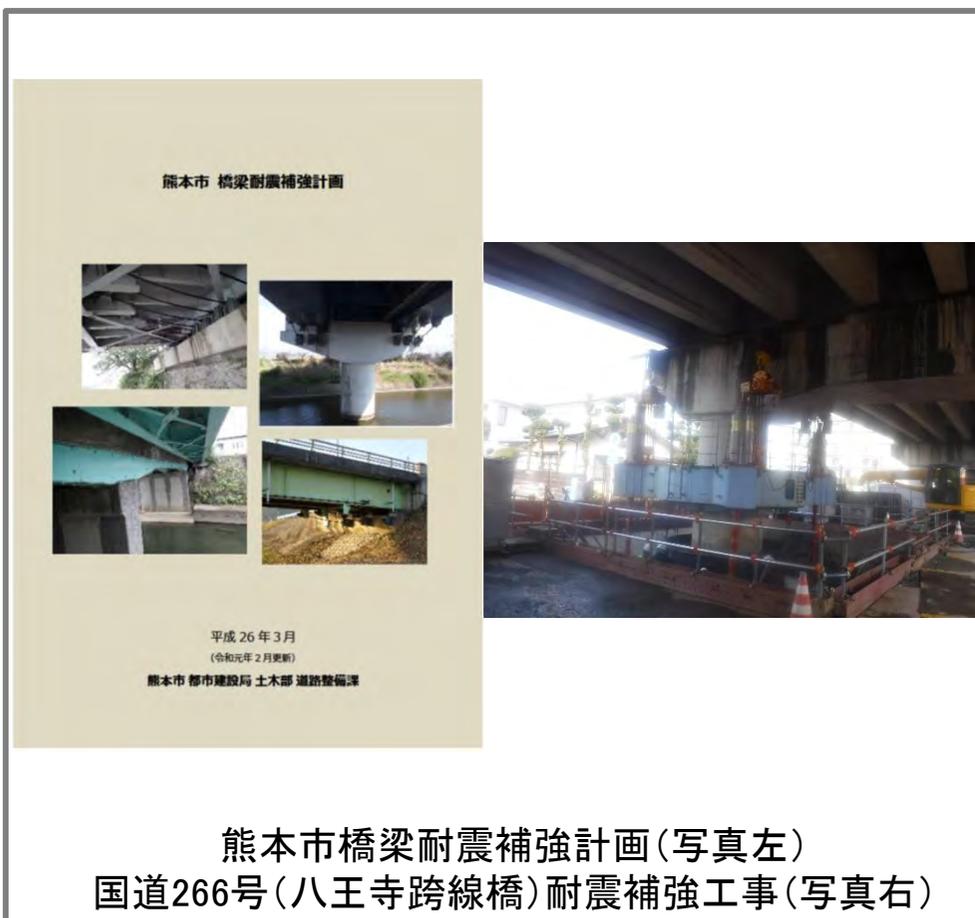
■取組にあたっての課題や苦労した点
新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限された。

■課題への対応結果
新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら活動を順次再開していく。

●大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定、認定路線における対象橋梁の耐震化

○熊本市橋梁耐震補強計画の策定（平成26年3月策定、令和元年2月更新）

○当該計画に基づき、緊急輸送道路に係る対象橋梁の耐震補強工事を実施中。



熊本市橋梁耐震補強計画における以下の条件に基づく橋梁の耐震化を実施。

緊急輸送道路に係る橋梁で、

- ・橋長15m
- ・2径間以上
- ・平成8年より前の道路橋示方書に基づく設計

に該当し、かつ目標とする耐震性能を満たさない橋梁。

令和3年度実施の橋梁

1. 八王寺跨線橋(国道266号)
2. 新世安橋(市道 二本木2丁目新大江1丁目第1号線)
3. 白川橋(主要地方道 熊本停車場線)
4. 平成大橋(主要地方道 熊本高森線)

●早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援

- BCPセミナーの開催
- 事業継続力強化支援計画の策定推進



「過去の事例から学ぶBCPとそのポイント」セミナー

●令和3年(2021年)11月の「先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2021」において、県内事業者を対象とした「過去の事例から学ぶBCPとそのポイント」セミナーを開催した。

本セミナーは過去の大規模災害の教訓を紹介するとともに、感染症リスクについて事業継続の観点から講演した。

●毎年、本市のビジネス支援センターにおいて「中小企業向け事業継続計画(BCP)の進め方セミナー」(2日間)を開催している。

●商工会等と連携して事業継続力強化支援計画を策定し、指導・助言など企業のBCP策定に向けた支援を行う。

令和3年(2021年)12月末時点で、市内9つの商工会のうち7つの商工会で事業継続力強化支援計画を策定。

●要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援

○要配慮者利用施設の施設管理者向けに複数回、避難確保計画作成研修会を実施。



ハザードマップの確認
■熊本市から公開されているハザードマップで施設の危険性を確認しましょう。
■熊本市のホームページ「防災情報くまもと」では、洪水時に浸水の原因となる河川、浸水河などを確認することができます。(次頁参照)

命を守るポイント 1
【熊本市ハザードマップ(PDF)】
熊本市の災害危険区域を掲載しています。

・GPS機能で現在地を確認
・洪水、土砂災害、高層、津波を確認できる
・浸水時間を確認できる
・最大浸水深さ(実測値)を確認できる

命を守るポイント 2
①安全な避難先と避難経路を決めましょう。
②避難経路を実際に歩いて、避難に必要な時間を確認しておきましょう。

避難先①
洪水発生時に開放する避難所
熊本市ハザードマップ

避難先②
指定緊急避難場所
熊本市ハザードマップ

避難先③
その他
系列施設、同種類施設

研修説明資料、研修風景

- 障がい者施設向けオンライン研修 (R3. 8)
- 保育園施設向けオンライン研修 (R3. 10)
- 避難確保計画作成研修 (未作成施設対象) (R3. 11~12)

●地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進

- 市広報誌（市政だより）にて広く防災情報を啓発（出水期前全戸配布）
- 中心市街地や協定先、大学等でQRコードチラシの掲載



市政だより(R3年6月号)



掲載したQRチラシ

●市広報誌（市政だより）にて広く防災情報を啓発（ハザードマップや避難情報を確認するツールの紹介、警戒レベル等の防災情報について幅広く啓発。

●QRコードチラシについて、中心市街地のお店や協定先のコンビニエンスストア、大学等で掲載。

2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

【 宇土市 】

●水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施

○令和3年7月に、宇土市消防団で水防工法である木流し工法を実施(参加者21名)。



木流し工法の様子①



木流し工法の様子②

●水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有

○例年、各地区の消防団による水防資機材の確認及び不足分の補充。

写真・図等なし

コメントなし

●毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施

○令和3年7月に、宇土市消防団で水防工法である木流し工法を実施（参加者21名）。



木流し工法の様子①



木流し工法の様子②

2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

【 宇城市 】

●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成

- ハザードマップ作成
- ハザードマップ周知



令和2年度に作成したハザードマップには
緑川の浸水想定区域を追加して、
宇城市の全世帯に令和3年5月に届く様な
形で配布し、周知を行った。

●地域版ハザードマップの普及・啓発

○NHKとの連携により、ARポスターを作成し、浸水の深さが伝わるような活動を行った。



小川支所デジタルサイネージ
掲示状況

NHKと連携してハザードマップで浸水する
想定の高さをARで表現したポスターを作
成し、宇城市の浸水が想定される施設や
市役所本庁および支所に展示し、住民へ
の周知及び浸水の深さを視覚に訴える形
で啓発を行った。

展示場所

松橋駅

宇城市役所本庁

不知火支所

不知火防災拠点センター

小川支所

●自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施

- 自主防災組織の訓練及び講習会
- 自主防災組織未加入組織



宇城市としては、改めて未設置組織への働きかけと、既存の自主防災組織への活動支援や教育啓発活動の推進を図っていかねばならないと考えている。

また、既存自主防災組織間での防災士有志による組織化も計画されているようである。市も連携をとりながら、自助・共助の力の向上に一層取り組んでいく。

自主防災組織訓練状況

●多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施

- twitterで宇城市防災のアカウントを作成して周知を行っている。
- twitterのアカウントの県防災情報共有システムとの連携



宇城市防災

@uki_bousai

宇城市防災消防課公式アカウントです。市の防災、災害、防災無線等に関する情報を発信します。なお、当アカウントは情報発信専用とし、リプライやDMへの回答、また、市からのフォロー、リツイートなどは行いませんのでご了承ください。

📍 熊本県宇城市松橋町大野85番地

🌐 city.uki.kumamoto.jp

宇城市防災プロフィール画面

宇城市では、防災に特化したtwitterのアカウントを作成して、防災情報の周知を行っている。また、非常時には県防災情報共有システムと連携して、幅広く情報が発信できる手段として活用している。

2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

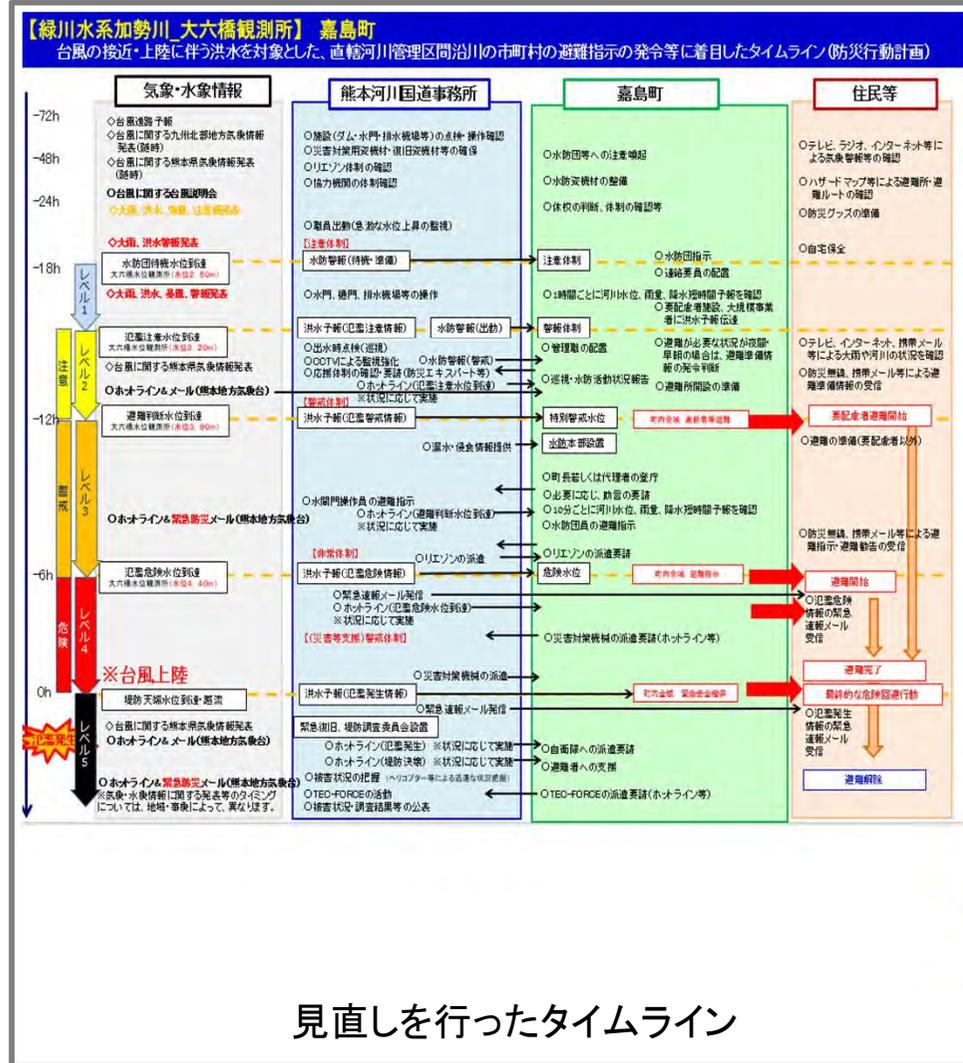
【 嘉島町 】

【ソフト対策】1-① 避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施

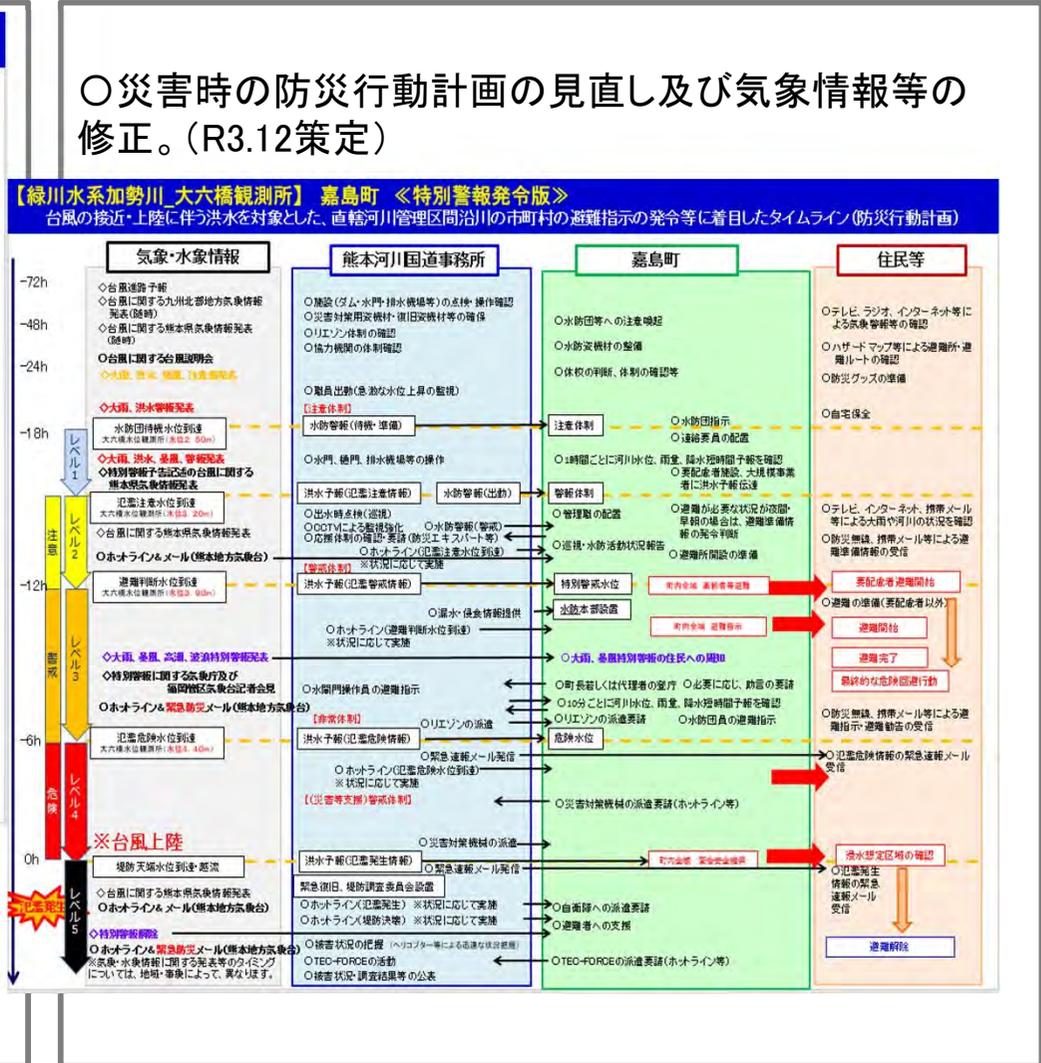
●実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し

○水害タイムラインの見直し。

○災害時の防災行動計画の見直し及び気象情報等の修正。(R3.12策定)



見直しを行ったタイムライン



●防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施

- 熊本県及び関係機関との合同で豪雨対応訓練実施
- 熊本地方気象台との気象防災ワークショップへの参加



豪雨対応訓練状況

○令和2年7月豪雨の教訓から、県と市町村がしっかりと連携し、確実に状況の把握、情報の共有を行うことを目的に訓練を通じ豪雨時の対応手順の確認及び情報共有システムの操作の確認を実施。

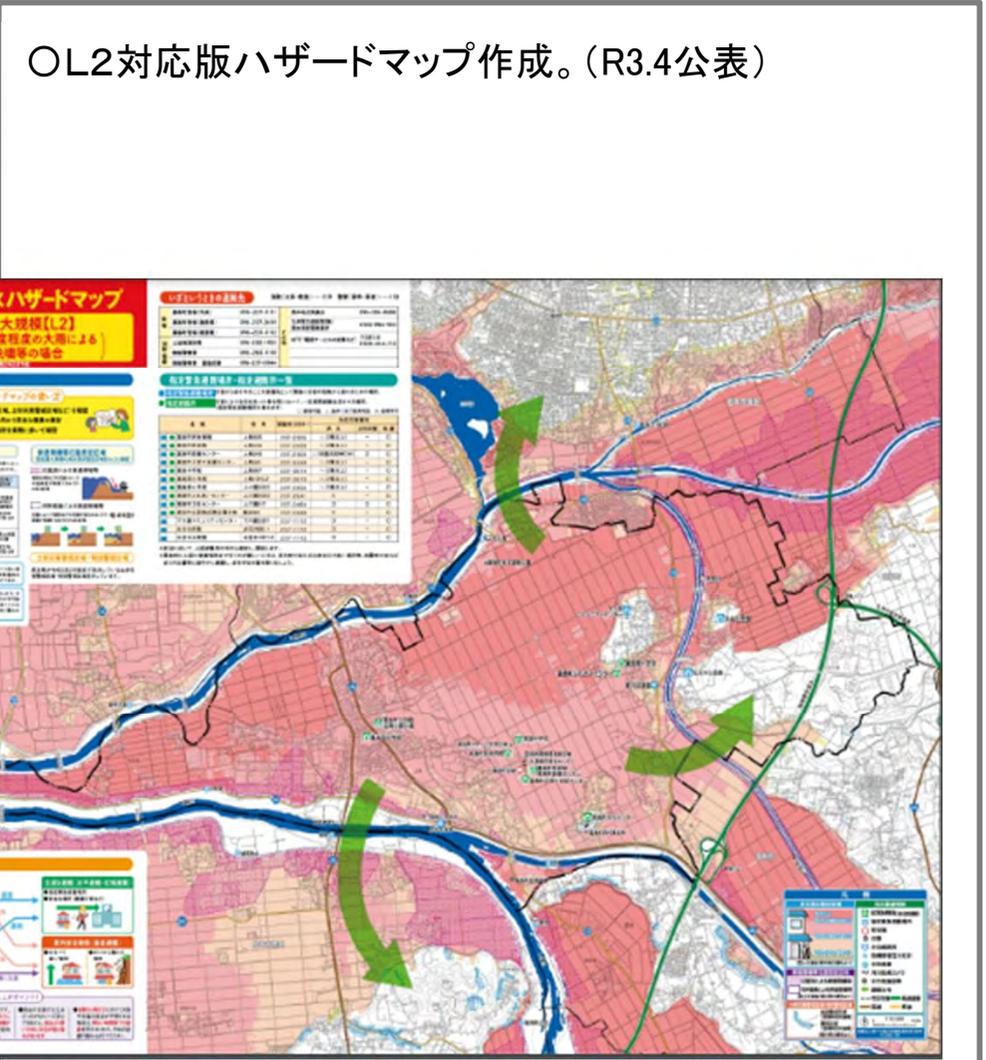
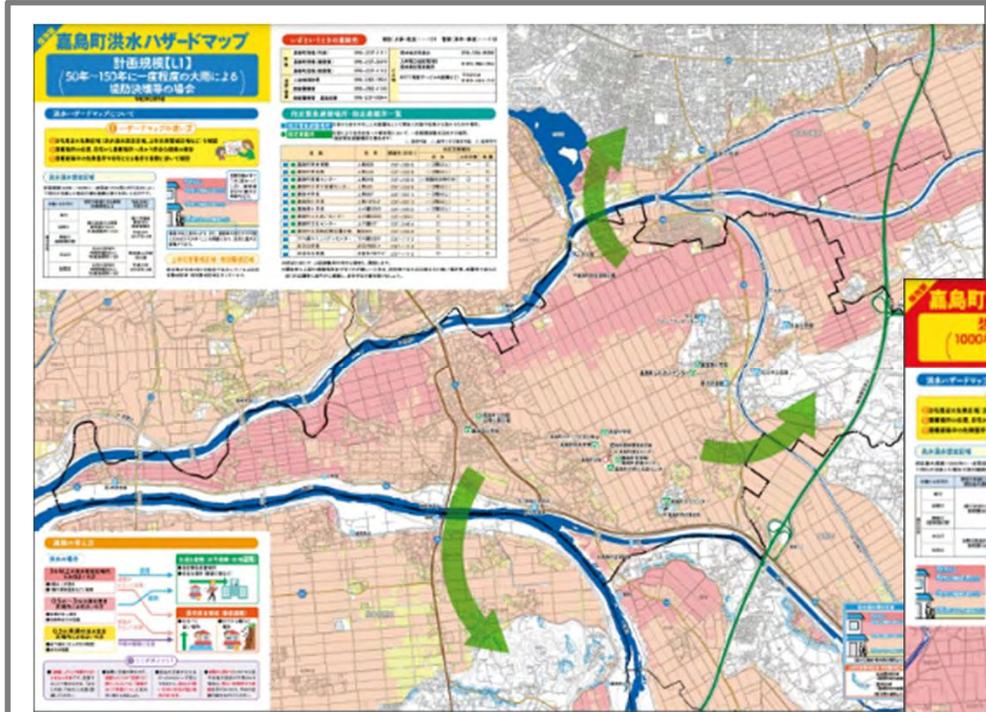
○気象防災ワークショップでは、気象台等から発表される様々な情報を参照しながら、防災気象情報の理解や、有効活用、体制の強化や避難指示の発令のタイミングなど判断のポイントを学び、水害対応タイムラインの検証を行うなど、防災対応力の向上に役立てた。

【ソフト対策】1-② 想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底

嘉島町

●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成

○L2対応版ハザードマップの作成



○L2対応版ハザードマップ作成。(R3.4公表)

嘉島町洪水ハザードマップ

【ソフト対策】1-② 想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底

嘉島町

●ハザードマップの普及・啓発

○L2対応版ハザードマップの全戸配布及びホームページ掲載。(R3.4)

○L2対応版ハザードマップ作成。(R3.4公表・全戸配布)

嘉島町洪水ハザードマップ

【ソフト対策】1-② 想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底

●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定

○洪水ハザードマップへの掲載。

○嘉島町洪水ハザードマップへ掲載(条件付き)

いざというときの連絡先

嘉島町役場(代表)	096-237-1111	嘉島町民体育館	096-356-0060
嘉島町役場(総務課)	096-237-2619	嘉島町公民館	0120-906-994
嘉島町役場(建設課)	096-237-1112	嘉島町立図書館	0120-906-994
上級保健指導	096-282-7958	NTT(電話サービス)の受付窓口	113または0120-444-113
消防事務課	096-282-1110		
福祉事務課	096-237-0044		

指定緊急避難場所・指定避難所一覧

名称	住所	電話番号(3桁)	洪水	土砂災害	地震
● 嘉島町民体育館	上島620	237-2929	△(避難所上)	—	○
● 嘉島町公民館	上島46	237-2338	△(避難所上)	—	○
● 嘉島町保健センター	上島685	237-2336	△(避難所(臨時のみ))	○	○
● 嘉島町子育て支援センター	上島651	237-5558	△(避難所上)	—	○
● 嘉島中学校	上島837	237-8014	△(避難所上)	—	○
● 嘉島小学校	上島1519-2	237-8013	△(避難所上)	—	○
● 嘉島小中学校	上島2043	237-2182	△(避難所上)	—	○
● 嘉島町ふれあいセンター	上島2055	237-2641	X	—	○
● 嘉島町文化センター	上島207	237-8484	○	○	○
● 嘉島町公民館(公民館分館)	新2023	237-2338	X	—	○
● フォレスト・コミュニティセンター	下島2087	237-1112	○	—	○
● 河中央児童館	新島2068-1	237-1112	○	—	○
● 老健会公民館	北島1907-2	237-1112	○	—	○

嘉島町洪水ハザードマップ(条件付き)

●水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施

○緑川水防演習の実施(水防団)



○今年度は、新型コロナウイルスの影響により全体ではなく、関係各機関において実施。



緑川水防演習 演習風景

●水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有

○例年、出水期前に開催している災害対策会議内で水防団（消防団）等に水防資機材の情報を含んだ本町水防計画について情報共有を図っている。



※令和元年6月時の会議の様子

○新型コロナウイルスの影響により、災害対策会議の開催はされていないが、水防計画書を送付し情報共有を図っている。

●水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施

○地元水防団（消防団）による勧誘活動、町広報誌による水防団（消防団）員募集の広報。

嘉島町消防団員募集

嘉島町消防団は地元地域のために活動していただける新入団員を募集しています。消防団は団員同士が楽しく集う場であり、災害対応のノウハウを培う場でもあります。積極的に参加願います。

なお、勧誘活動の一環として、地元消防団員が各家庭をお伺いすることがあります。消防団活動へのご理解、ご協力を重ねてお願いいたします。

熊本地震でも大活躍！ 消防団は地域の最も身近なボランティア！！

「平成28年熊本地震」の際には人命救助や地域の巡視などを中心に活動し、多くの人命を救い、地域の安全活動に大きく貢献できました。消防団は「自分たちのまちを、自分たちで守りたい」という自主的な活動をしている団体です。地域住民にとって消防団は最も身近なボランティアグループであり、いざという時に頼りになる存在です。

なぜ消防団が必要なのか？

けたたましく鳴り響くサイレンの音…。そこには、炎に包まれ途方にくれている人がいるかもしれません。その人は誰かの大切な家族であり、友人であり、掛け替えのない存在。助けに来てくれる人を持っているはず。さあ、あなたの出番。地域のことをよく知っている消防団は、地域に密着した効率的な消火・救助活動を行うことができます。

消防団員の処遇と任務は？

消防団員は非常勤特別職の地方公務員として処遇されます。

入 団 資 格	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉島町に居住し、または勤務する方 ・年齢18歳以上の方 	
入 団 後 の 待 遇	<ul style="list-style-type: none"> ・消防活動中、負傷した場合の補償制度があります ・消防団活動に必要な制服などが貸与されます ・退職報償制度（要5年以上の活動実績） ・年報額+出勤報償支給（個人に直接支給） 	

消防団の主な任務

平 常 時	<ul style="list-style-type: none"> ・火災予防運動（巡回広報、一人暮らしの高齢者宅訪問など） ・警備警戒活動（年末警備など） ・教育訓練活動（出初め式、規律訓練、操法訓練など） ・消防機械、器具などの点検、整備
災 害 時	<ul style="list-style-type: none"> ・火災（建物、枯れ草、車両など） ・風水害（台風、集中豪雨、洪水） ・地震 ・その他（人命救助、避難誘導、行方不明者捜索など）
その他の活動	<p>消防団活動だけでなく、地域の祭りなどにも参加しています。</p> <p>※消防音楽隊は、出初め式や消防点検、その他にも消防啓発のため、積極的に地域のイベントに参加しています。</p>

消防音楽隊員も募集しています！

吹奏楽などの経験、性別、年齢は問いません。興味のある方はお問い合わせください。

【お問い合わせ先】 役場総務課 消防担当 ☎237-1112

水防団（消防団）員募集広報

○令和3年度3月号の「広報かしま」より抜粋

●排水施設の情報共有、排水手法等の検討

○白川・緑川排水ポンプ場運転調整協議会の発足

写真・図等なし

コメントなし

●要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援

○要配慮者利用施設に対して訓練の実施及び支援

対象施設管理者の皆様へ 避難訓練の報告はお済みですか？

- ◆水防法及び土砂災害防止法の規定により、浸水想定区域内や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設[※](市町村地域防災計画に定められた施設)の管理者等は、①避難確保計画の作成、②年1回以上の避難訓練の実施、③避難確保計画及び避難訓練実施結果報告書の市町村への提出の3点が義務づけられています。
※要配慮者利用施設とは社会福祉施設、学校、医療施設など、避難時に配慮を要する者が利用する施設です。
- ◆今年度、まだ避難訓練実施結果報告書を提出していない施設におかれましては、令和4年2月28日までに避難確保計画チェックリストと併せて市町村の防災担当課まで御提出ください(提出先は最後のページを御確認ください)。
- ◆避難訓練実施結果報告書の様式などは以下の県ホームページに掲載しています。
県HP：洪水時における要配慮者利用施設の避難確保計画について
URL：https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/105_51655.html
※「熊本県 要配慮者」で検索してください
※スマートフォンやタブレットから、右のQRコードを読み込んでアクセスできます。
- ◆「避難訓練の実施方法がわからない」、「コロナ禍で避難訓練が実施できない」など、避難訓練でお困りの施設は、次のページを参考にしてください。

こんな時は…

- ◆火災を想定した避難訓練は毎年実施しているが、洪水や土砂災害を想定した避難訓練研修をどのように実施すれば良いかわからない。
⇒ 避難訓練実施時に注意すべきポイントをまとめた避難訓練研修動画をYoutubeに掲載していますので参考にしてください。
※右のQRコードからアクセスしてください。
また、県ホームページ(1ページ目参照)からもアクセスできます。
- ◆コロナ禍のため、施設入所者を含めた避難訓練が実施できない。
⇒ 全ての訓練を一度に実施する必要はありません。施設の状況に応じて図上訓練や情報伝達訓練などできる訓練から実施し、避難訓練実施結果報告書を提出してください。
特に情報伝達訓練(防災情報の取得方法の確認、管理者への伝達訓練)は少人数かつ短時間で実施可能です(詳細は上記研修動画を参考にしてください)。
- ◆避難確保計画チェックリストとは??
⇒ 施設で作成された「避難確保計画」の実効性を高めるために国土交通省が作成したチェックリストです。既に避難確保計画を作成された施設におかれましては、避難訓練時に計画をチェックし、避難訓練実施結果報告書と併せて市町村へ提出してください。
※チェックリストは県ホームページ(1ページ目参照)に掲載しています

訓練等依頼文書

コロナ禍で実施可能な訓練の提案などを実施

●毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施

○国土交通省と町（町長と実務主管課長）でホットラインによる情報共有訓練を実施。

写真・図等なし

コメントなし

●市町長だけでなく、副市町長、防災担当部課長等とのホットラインの確立

○ホットライン名簿の更新。

写真・図等なし

○毎年、ホットライン名簿の更新を実施している。

【ソフト対策】3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化

嘉島町

●多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施

○デジタル防災行政無線更新の設計業務委託費を令和4年度当初予算に計上

写真・図等なし

SNS・個別受信機等の導入の検討を行う。

●携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知

○災害時に熊本県防災情報共有システムを活用したエリアメールを配信

写真・図等なし

コメントなし

●関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備

○デジタル防災行政無線更新の設計業務委託費を令和4年度当初予算に計上

写真・図等なし

コメントなし

●毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認

○例年、出水期前に開催している災害対策会議内で水防団（消防団）等に連絡先の確認、本町防災計画について情報共有を図っている。

写真・図等なし

コメントなし

●毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施

○緑川流域市町で連携し実施する水防演習に参加。



嘉島町水防団(消防団)員が「シート張り工法」を実演。



緑川水防演習 演習風景



2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

【 御船町 】

●防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施

○防災訓練の実施



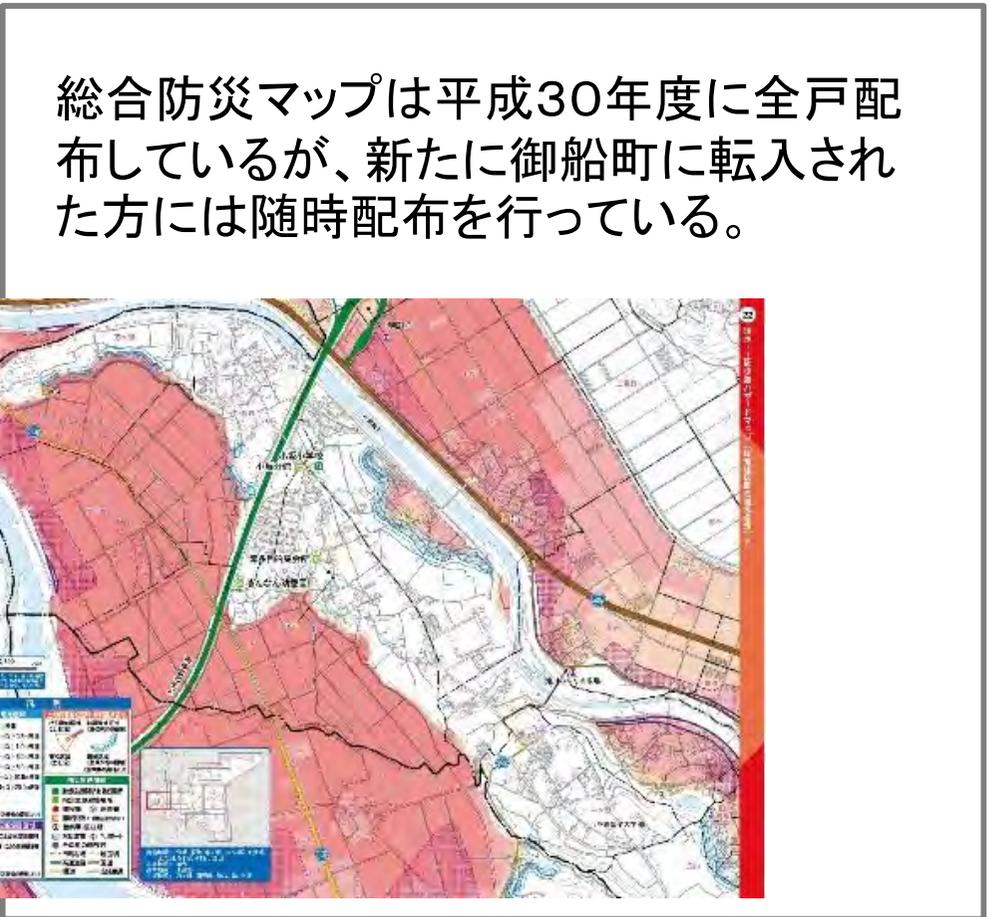
豪雨対応訓練

熊本県主催の豪雨対応訓練に参加し職員のスキルアップを図った。また、他の自治体からコントローラーの派遣も行われ、より実践向きの訓練を行った。

【ソフト対策】1-② 想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底

●ハザードマップの普及・啓発

○総合防災マップの配布



総合防災マップは平成30年度に全戸配布しているが、新たに御船町に転入された方には随時配布を行っている。

●地域版ハザードマップの普及・啓発

- 地区防災計画の作成の推進
- 自主防災組織の活動促進



地区説明会

自主防災組織の活動促進と地区防災
計画の作成を推進するため、町内10
地区で意見交換会を行い、活動の促
進を行った。

●水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施

○出水期前に各関係機関と緑川水防演習を実施している。



土嚢積み工法

毎年関係市町村と打ち合わせを行い、各市町村がさまざまな工法による演習を行い出水期に備えている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各町でそれぞれ開催した。

●水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有

- 土嚢作り作業
- 資機材の確認



土嚢作り作業

水防団などの団体による土のう作りなどの水防資機材の備蓄を出水期前に行っており、地域毎に配置している。



●排水施設の情報共有、排水手法等の検討

○内水排水用ポンプ設置



大雨時における内水排除用として仮設排水設備を配置し、内水被害を防いでいる。また、内水被害発生した場合は、水防団にも応援要請をし、小型ポンプ排水を行っている。



排水ポンプ

●要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援

○災害区域内の要配慮者利用施設避難計画の作成促進

写真・図等なし

御船町内にある災害区域内の要配慮者利用施設は避難確保計画がすべて提出されている状況。計画を元に、避難訓練の実施を依頼している。

●緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充

○防災教育の実施

写真・図等なし

令和3年度は御船高校と滝尾小学校で
防災教育を実施した。
主な内容は、災害の歴史・災害からの復
旧、復興、災害への備えを説明。

●市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施

○防災士養成講座の実施



防災士養成講座

近年の激甚化した災害に備えた地域防災力向上の防災リーダー育成を目的に、町主催で防災士養成講座を実施し、約50名の方が受講した。

主な内容は、災害救助、災害対策や気象災害、風災害、避難所運営などに講座を行った。

今後は地区の自主防災組織の中心となって活動を実施する。

●市町長だけでなく、副市町長、防災担当部課長等とのホットラインの確立

○ホットライン名簿の更新

写真・図等なし

毎年、国(国交省・気象庁)や県(危機管理防
災課)ホットライン名簿の更新を実施している

●多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施

○防災情報伝達の多様化

写真・図等なし

現在、防災行政無線、緊急速報メール、登録制メール、ホームページ、職員メール、電話応答機能による情報の伝達を行っている。

●毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認

○水防団との情報共有

写真・図等なし

大雨予報が出た場合は水防団（消防団）に事前連絡による情報共有を図り、広報活動や巡回を依頼。

●毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施

○出水期前に各関係機関と緑川水防演習を実施している。



土嚢積工法

毎年関係市町村と打ち合わせを行い、各市町村がさまざまな工法による演習を行い出水期に備えている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各町でそれぞれ開催した。

●出水時の河川巡視情報等の共有

○河川パトロールの実施と関係機関への連絡



河川・道路パトロールを実施していく中で、内水被害のある箇所は、水防団（消防団）と情報共有を行い、内水の排水や土のうを配置するなど、必要に応じて水防団長へ出動要請している。



写真タイトル

●防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討

○戸別受信機の普及



戸別受信機

戸別受信機を条件や要件に応じて無償で貸し出している。
また、防災行政無線が聞こえにくい家庭にも戸別受信機の設置を呼びかけを行っている。

2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

【 甲佐町 】

●防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施

○球磨村防災管理官による防災講演（令和2年7月豪雨について）11/21（日）



中渡防災管理官による防災講演

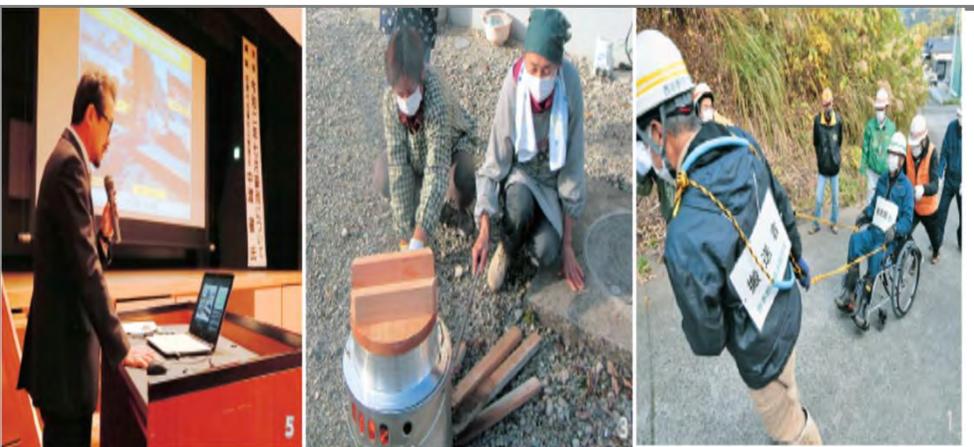
職員の献身的な災害対策活動

中渡防災管理官は、「未曾有の災害の中で、職員は、発災直後の混乱の中で、災害対策本部の編成に基づき、関係機関との調整、応急復旧、避難所運営、物資の集積・配分、災害ごみ対応、ボランティア調整等の任務を遂行した。自らも被災し、家族及び自宅を失いながらも、コロナ禍という複合災害を乗り越え与えられた使命を最後まで全うした。心より敬意を表したい。」と職員の活動に感謝を述べられた。

また、「田舎に行けば行くほど行政に対する依存度が大きくなる傾向にあるが、こと防災について、自分の命を行政に依存してはならない。」と話された。

●水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施

甲佐町総合防災訓練
熊本地震を忘れないためにできる事



■2年ぶりに全町で取り組む総合防災訓練

11月21日(日)町内各地で、甲佐町総合防災訓練が開催されました。

2年ぶりの開催となった総合訓練は感染症対策を行いながら実施。午前8時に大雨による特別警報が発表されたという想定で訓練放送が流れると各地で訓練が行われました。緑川の氾濫で浸水被害が予想される西寒野区では、高台への歩行困難者搬送訓練を実施。切り出した真竹とブルーシートで作った簡易担架や車いす、リヤカーを使いながら、搬送方法を確認しました。

緑町区では、高齢者を対象

に防災マップを活用して避難経路を確認。自主防災組織の活動支援事業を活用して防災用かまどを整備した世持区では、炊き出し訓練を実施しました。糸田区では、町くらし安全推進室の佐々木室長を招いた防災教室を開催し、防災への意識を高めました。

■町職員や民生委員・児童委員が専門家に学ぶ

町生涯学習センターでは球磨村の防災管理官を務める中渡さんが講演。町職員が熊本豪雨の体験などに耳を傾けました。12月9日(木)には民生委員・児童委員などが熊本大学の竹内さんから地域防災への取り組みを学びました。

【ソフト対策】1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施

甲佐町

●排水施設の情報共有、排水手法等の検討

○大規模災害時の排水ポンプ場における支援活動に関する協定書の締結(R4.3)



甲佐町と甲佐町建設業協会は、大規模災害時の排水ポンプ場(R3.12完成)における支援活動に関して協定を締結！

大規模災害時の排水ポンプ場における支援活動に関する協定書

甲佐町（以下「甲」という。）と甲佐町建設業協会（以下「乙」という。）は、大規模災害時の排水ポンプ場における支援活動に関して次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、大規模な風水害等の災害（以下「大規模災害」という。）が発生し、又はその恐れが生じた場合、内水排除を行うための排水ポンプ場の稼働にかかる支援活動を迅速かつ確に実施するため必要な事項を定めるものである。

(対象となる大規模災害)

第2条 この協定の対象となる大規模災害は、次のとおりとする。

- (1) 災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第23条第1項及び同法第42条第1項の規定により作成された甲佐町地域防災計画に基づき甲佐町災害対策本部が設置された災害。
- (2) 前号と同程度の災害で乙の支援活動が必要であると甲が認めた災害。

(支援活動の内容)

第3条 甲が乙に対して協力を要請する支援活動は、次のとおりとする。

- (1) 排水ポンプ設備の設置、操作等の内水排除に必要な一連の作業。
- (2) 甲が緊急に行う必要があると認め要請する応急措置等。

(支援活動の場所)

第4条 支援活動を行う排水ポンプ場施設は以下のとおりとする。

- (1) 下横田排水ポンプ場 甲佐町大字麻生原字中川原26番3

●要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援

○要配慮者利用施設で避難訓練を実施！



6月28日午後2時から、甲佐町岩下の要配慮者利用施設「綾の家」(宮崎真樹子施設長)において、大雨を想定した避難訓練が実施されました！

＜訓練内容＞

- 緑川の中甲橋観測所で避難判断水位(4.1m)に達したと想定
- 防災無線を確認し、管内放送にて避難誘導を実施
- エレベーターで2階へ避難誘導
- 担架による搬送方法の実施
- 訓練内容の振り返り

●小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充

○気象予報士を招いての防災ワークショップの実施（甲佐小学校）

防災ワークショップ

地域の皆さんと考える(こうさの災害リスク)

令和3年6月24日 参加者83名



甲佐の災害リスクを地域の皆さんと考えま
した！ 学校運営協議会主催:大雨時ワークショップ 6月24日

星地域の区長さん・民生委員さん・防災士さん方に参加していただき、ハザードマップで地域の災害リスクを確認しながら、過去の災害の様子も教えていただきました。気象予報士の早田蛍さんに教えていただきながら、大雨時にどんな行動をとるのかみんな考えていきました。

そのことをもとに、6年生は家に持ち帰って家族会議を開き、大雨時のマイタイムラインを家族と一緒に考えました。

【ソフト対策】3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化

甲佐町

●多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報入手できる手段の検討・実施

○新たな防災情報発信手段の構築【メールアプリシステム（こうさ情報たしかめーる）の導入】

甲佐町では、住民のみなさまの携帯電話やスマートフォンのメール・アプリ機能を活用して、

- 新型コロナウイルス関連情報
- 防災・防犯などの安全安心情報
- くらしに役立つ生活情報・観光イベント情報

等を迅速、正確にお知らせするメールアプリシステム「こうさ情報たしかめーる」を導入しました。ぜひ登録してご利用ください。

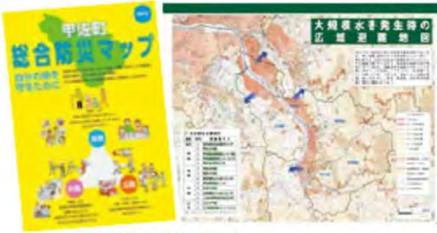
●地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進

○広報誌への防災情報の掲載



防災マップを広げてみよう

災害から自分の身を守るためには、普段から地域に潜む危険を理解し、刻々と変化する情報と冷静な判断で安全に避難することが大切です。防災マップは皆さんの身近な場所の災害リスクを知り、いざという時の行動の手助けとなるものです。いつか必ず起こる災害に備えて、今できることをあなたの大切な人と一緒に考えてみてください。



▲甲佐町総合防災マップ
緑川流域に12時間総雨量595mmの大
雨が降った場合の浸水域を予測した
もの。町指定避難所なども記載され
ています。
「甲佐町総合防災マップ」はこちらからご覧いただけます。

■日々の備えが冷静な判断につながる
町では、令和2年9月に緑川の氾濫による浸水想定
区域を予測し、地図上に可視化した「甲佐町ハザード
マップ」を策定しました。「避難の心得」や避難に時
間を要する「要配慮者への対応」など共にもとめた
甲佐町総合防災マップを各戸へ配布しています。
防災マップなどを見ることで、自分が住んでいる地
域にどんな災害リスクがあるのかを理解しておきま
しょう。また、自分の家や家族の状況などを踏まえ、
どんな避難がベストなのか検討してください。住宅の
耐震性や食料の備蓄など、自宅の安全が確認できる場
合は、「在宅避難」も選択肢の一つです。
大切なのは、「事前の準備」と「早めの避難」。災害
の危険が迫るとともに避難の選択肢が狭まります。た
めらわずに冷静な判断ができるよう、今のうちに避難
を始めるタイミングや避難所までの経路について家族
や友人と話し合ってみましょう。

自主防災組織の備えは万全ですか。

町内在住の防災士が、避難経路の確認や防災訓練の計画づくりといった自主防災組織の活動のお手伝いを行っています。「防災士」は一定の防災知識や技能を証明する民間資格で、現在11人が町と連携しながら地域の防災リーダーとして活躍中です。地域の防災力向上に取り組んでみませんか。

●お問い合わせ先
町くらし安全推進室 096-234-1167

命を守るための努力を

内閣府が示す「避難情報に関するガイドライン」では、住民などが持つべき避難に対する基本姿勢として、行政に依存し過ぎることなく、「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自主的な避難行動をとることが必要とされています。被害を軽減するのは想像力です。大きな被害が発生するときは自然の脅威が私たちの想像を上回ってしまつたときです。「大丈夫は絶対ありません。」

地域で災害に備える

平成28年6月豪雨から5年前に、町内の全地域で自主防災組織が設立されています。昨今の災害でも住民主体の取り組みで難を逃れた事例があります。皆さんの自主的な行動が、町全体の防災力向上にもつながります。自然の脅威が想像を超えてからは間に合いません。あなたの命を守るのは自分自身という強い覚悟を持ちましょう。

各警戒レベルに基づく町民や町の行動

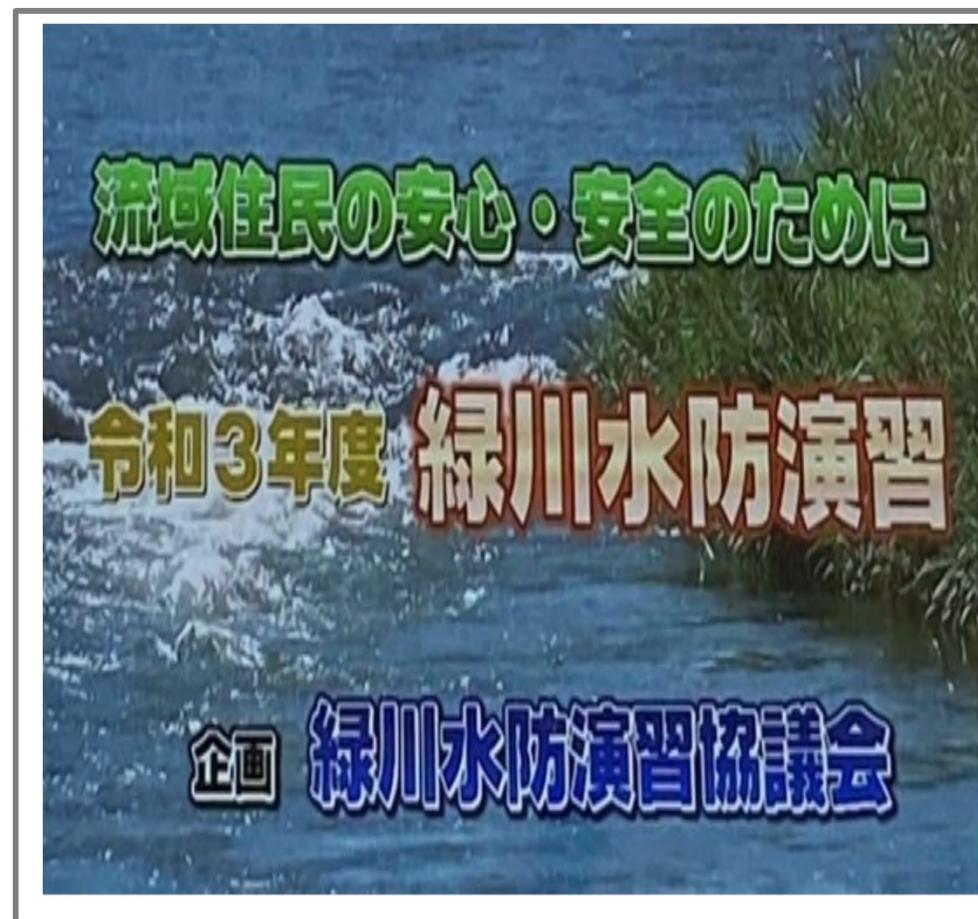
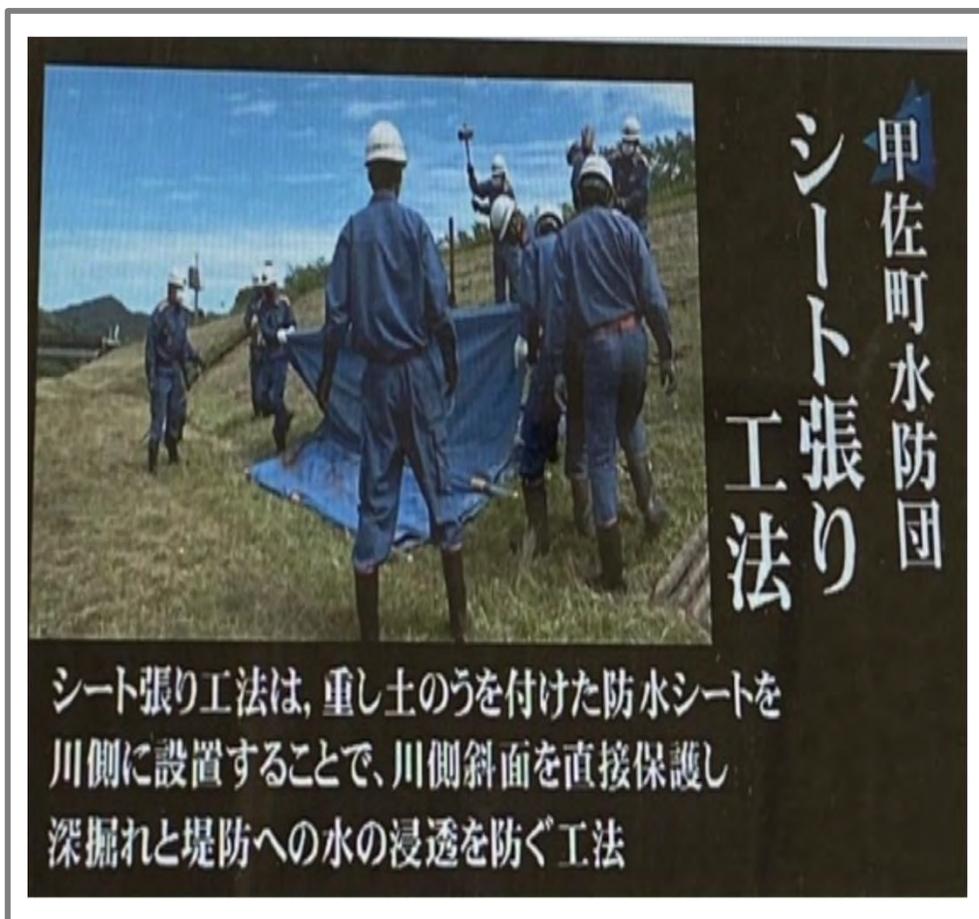
※「避難勧告」は「避難指示」に一体化

警戒レベル	災害情報などの目安	町民の行動	町（役場）の動き
警戒レベル 5	<ul style="list-style-type: none"> 大雨特別警報 災害が発生 氾濫発生情報 	命を守る最善の行動	<ul style="list-style-type: none"> 町民の命を守る最善の行動
警戒レベル 4	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒情報 災害が緊迫 氾濫危険水位超える 	全員避難	<ul style="list-style-type: none"> 「避難指示」の発令
警戒レベル 3	<ul style="list-style-type: none"> 大雨警報 洪水警報 避難判断水位超える 	高齢者などは避難	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者等避難」の発令
警戒レベル 2	<ul style="list-style-type: none"> 大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意水位超える 	自らの避難行動を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報を収集 避難所の開設準備
警戒レベル 1	<ul style="list-style-type: none"> 今後気象状況が悪化するおそれ 	災害への心構えを高める	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報を収集

内閣府が示した「避難情報に関するガイドライン」について詳しくは
内閣府「防災情報のページ」をご確認ください。 内閣府 避難指示 **検索**

●毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施

○令和3年度 緑川水防演習



●防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討

○新たな防災情報発信手段の構築【メールアプリシステム（こうさ情報たしかめーる）の導入】



甲佐町では、住民のみなさまの携帯電話
やスマートフォンのメール・アプリ機能を活用して、

- 新型コロナウイルス関連情報
- 防災・防犯などの安全安心情報
- くらしに役立つ生活情報・観光イベント情報

等を迅速、正確にお知らせするメールアプリシステム「こうさ情報たしかめーる」を導入しました。ぜひ登録してご利用ください。

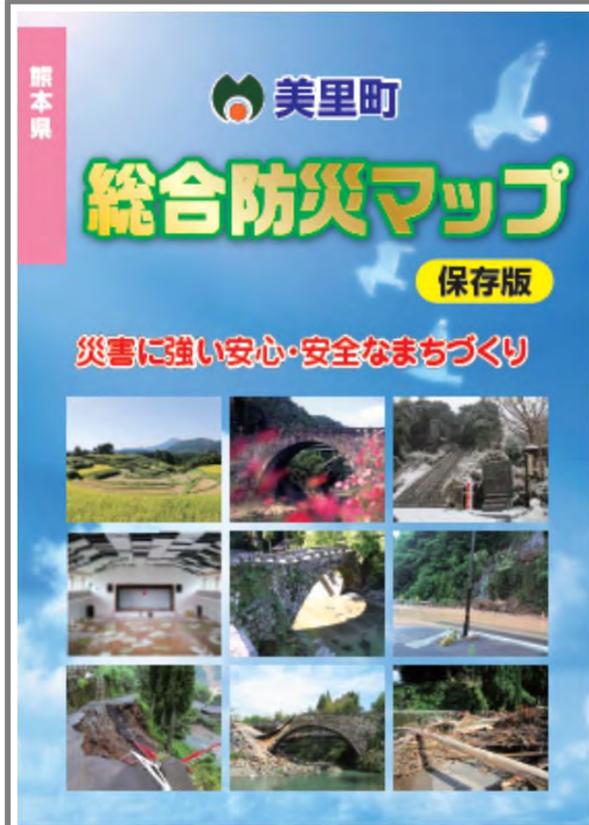
2)各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

【 美里町 】

●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成

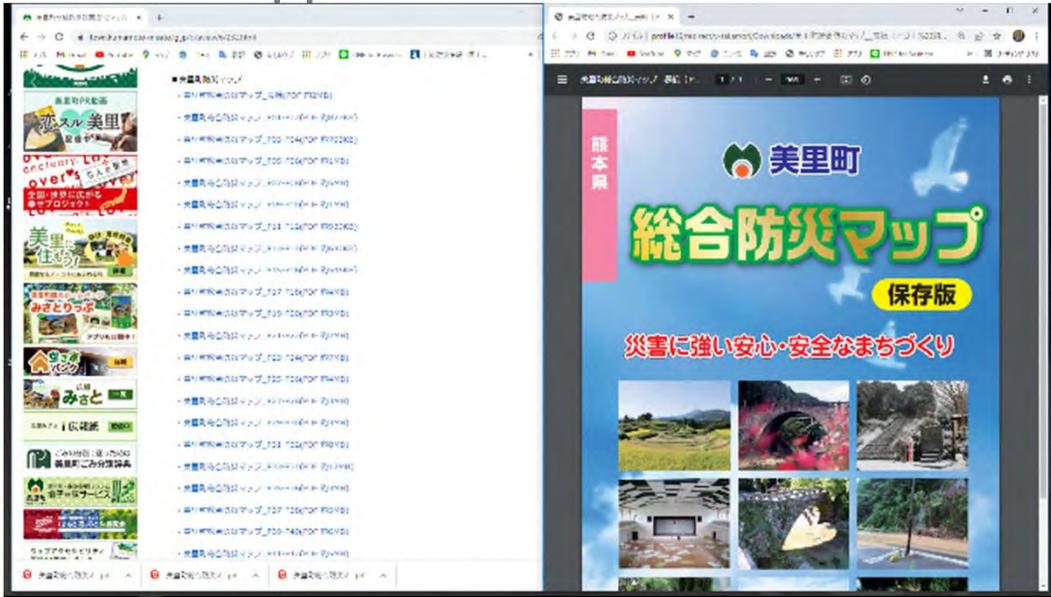
- 平成30年度に総合防災マップを作製し一部L2対応済み。
- 令和4年度の総合防災マップ更新時にL2対応予定。
- 情報を随時更新できるWEB版の検討。



美里町総合防災マップ(H30年度作成)

- ・R4年度L2対応に更新予定
- ・新たに、情報更新の反映をリアルタイムで行えるようWEB版を構築予定。
- ・掲載内容についても再度検討予定。

美里町総合防災マップ(町HP)



●ハザードマップの普及・啓発

- 平成31年5月に全戸配布済み。
- 自主防災組織研修や小学校の防災教育などで防災マップを使用し啓発を行う。
- 町HPに掲載。

美里町総合防災マップ(町HP)



●想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定

○H29年度に対象地区（岩下地区）のL2対応避難訓練を実施。

写真・図等なし

コメントなし

●水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施

○毎年度6月第1日曜日に実施。

○R3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止。

写真・図等なし

コメントなし

●水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施

OR2年度に団員の士気向上及び魅力アップを目的に、救助用半長靴の全団員への配布や雨衣・ライフジャケットの配備を行った。



着用し訓練を行う団員

コメントなし

●自治体の防災担当者間の連携促進

- 緑川水防演習協議会等により合同訓練を行っている。
- 宇城・八代地域での広域避難勉強会を行っている。R3年度は未実施。

写真・図等なし

コメントなし

●要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援

- R1年度防災訓練において要配慮者利用施設の避難訓練を実施。
- R3年度より対象を被災想定施設に拡大し実施を検討。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により中止。



避難訓練(R1. 6. 2)

R1. 6. 2に町の防災訓練シナリオに合わせ要配慮者利用施設(社会福祉協議会)が避難誘導・搬送訓練を行った。
訓練後に水防の講義を住民と一緒に受講し、炊き出し等の訓練を見学した。

●大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施

- 令和元年度に防災力機能向上を目的として本庁舎（中央庁舎）に非常用電源設備を整備した。
- 今後代替庁舎として利用予定の砥用庁舎にも非常用電源設備を整備する予定。



中央庁舎非常用電源

コメントなし

●小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充

- R2年度に町内の3小学校の依頼により防災教育実施。（防災に関する質疑応答や備蓄品避難用品の説明）
- R3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止。
- R4年度は依頼があれば内容を変更し実施したい。

写真・図等なし

コメントなし

●教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施

○H30年度町内校長会において説明会実施。

○R1年度砥用小学校において防災教育の授業を実施。

○R2年度励徳小学校において防災教育の授業を実施。R3年度は授業時間の確保のため実施見送り。



砥用小学校での授業(R1. 11. 11)

町内3校のうちR2年度までに2校の実施を行った。R3年度には町内小学校全校での実施を行う予定だったが新型コロナウイルス感染症による蔓延防止措置の対応などにより、各学校との調整に躊躇したことや授業時間の確保のために実施を見送った。R1年度に行った砥用小学校では、5年生の理科の授業で防災教育を実施され、先生が緑川で実際に写真を撮影され、学習教材として利用し授業が行われた。子供たちも身近な場所の話や写真などでの授業ということで、積極的に授業に取り組み、活発に意見をしていた。

●毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施

○各種関係機関と出水期前に実施。

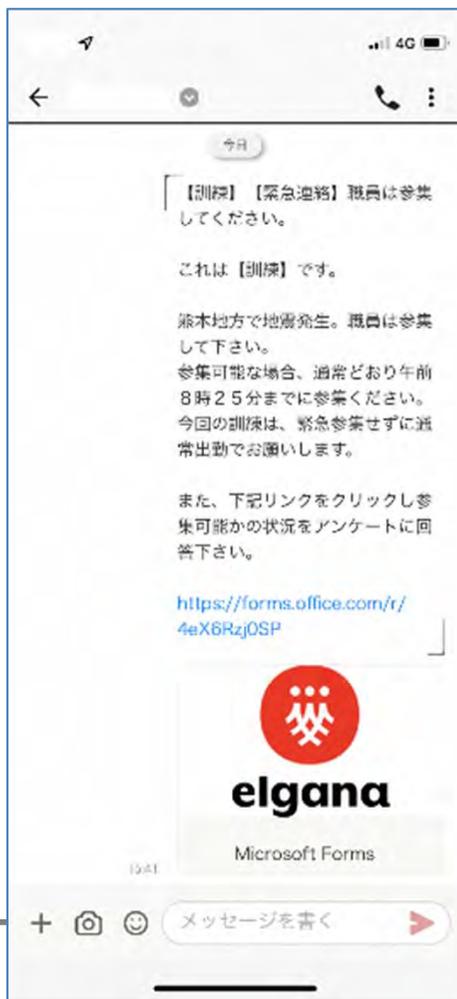
写真・図等なし

コメントなし

●市町長だけでなく、副市町長、防災担当部課長等とのホットラインの確立

○出水期前に連絡体制確認。

○R3年度は職員間連絡アプリを導入し首長や幹部職員含め全職員に双方向で連絡を取り合えるようにした。



職員間連絡アプリ

コメントなし

【ソフト対策】3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化

美里町

●多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施

○防災無線、町HP、RKKデータ放送『デタポン』、町公式『LINE』により情報配信を実施。
○現在新たな情報配信の整備方針を検討中であり、R4年度中に整備方針を決定する。



町のホームページ



町の公式『LINE』

●携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知

- 町広報誌に洪水情報の緊急速報メール配信内容を掲載。
- 防災アプリを現在検討中であり、R4年度中に整備方針を決定する。

写真・図等なし

コメントなし

●関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備

○防災アプリを現在検討中であり、R4年度中に整備方針を決定する。

写真・図等なし

コメントなし

●毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認

○消防(水防)団の名簿及び連絡先の更新・確認を行った。

写真・図等なし

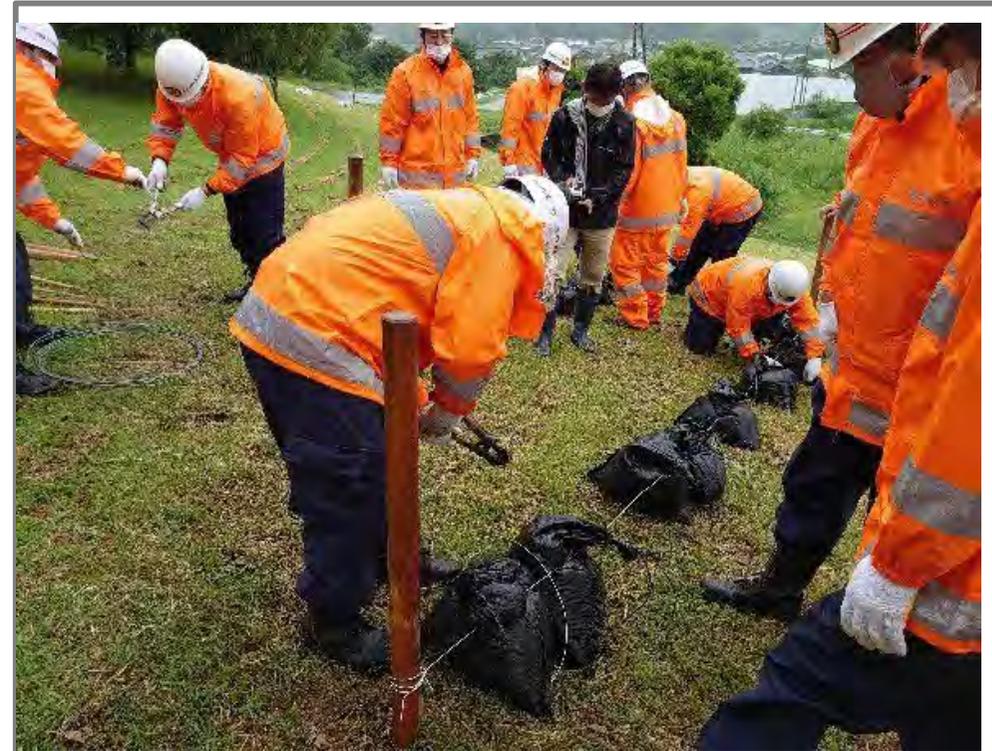
コメントなし

●毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施

- 令和元年度に白川・緑川総合水防演習に参加した。
- R3年度は緑川水防演習協議会による水防演習により実施。



演習風景



演習風景

●出水時の河川巡視情報等の共有

- 水防団及び各地区囑託員による河川巡視を実施している。
- 5月に行う消防団の幹部会議及び囑託員会議で実施のお願いと連絡体制の確認を行っている。

写真・図等なし

コメントなし

●防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討

○防災情報受発信の複層化を目的に防災アプリも含めた検討を行っており、R4年度中に整備方針を決定する。

写真・図等なし

コメントなし

【ハード対策】3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の 備蓄計画の策定

美里町

●備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定

- 令和元年度に油圧ジャッキ、チェーンソーを導入。
- 令和2年度にライフジャケット、投光器を導入。
- 今後台帳整備を行い備蓄の検討を行う予定。

写真・図等なし

コメントなし

2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

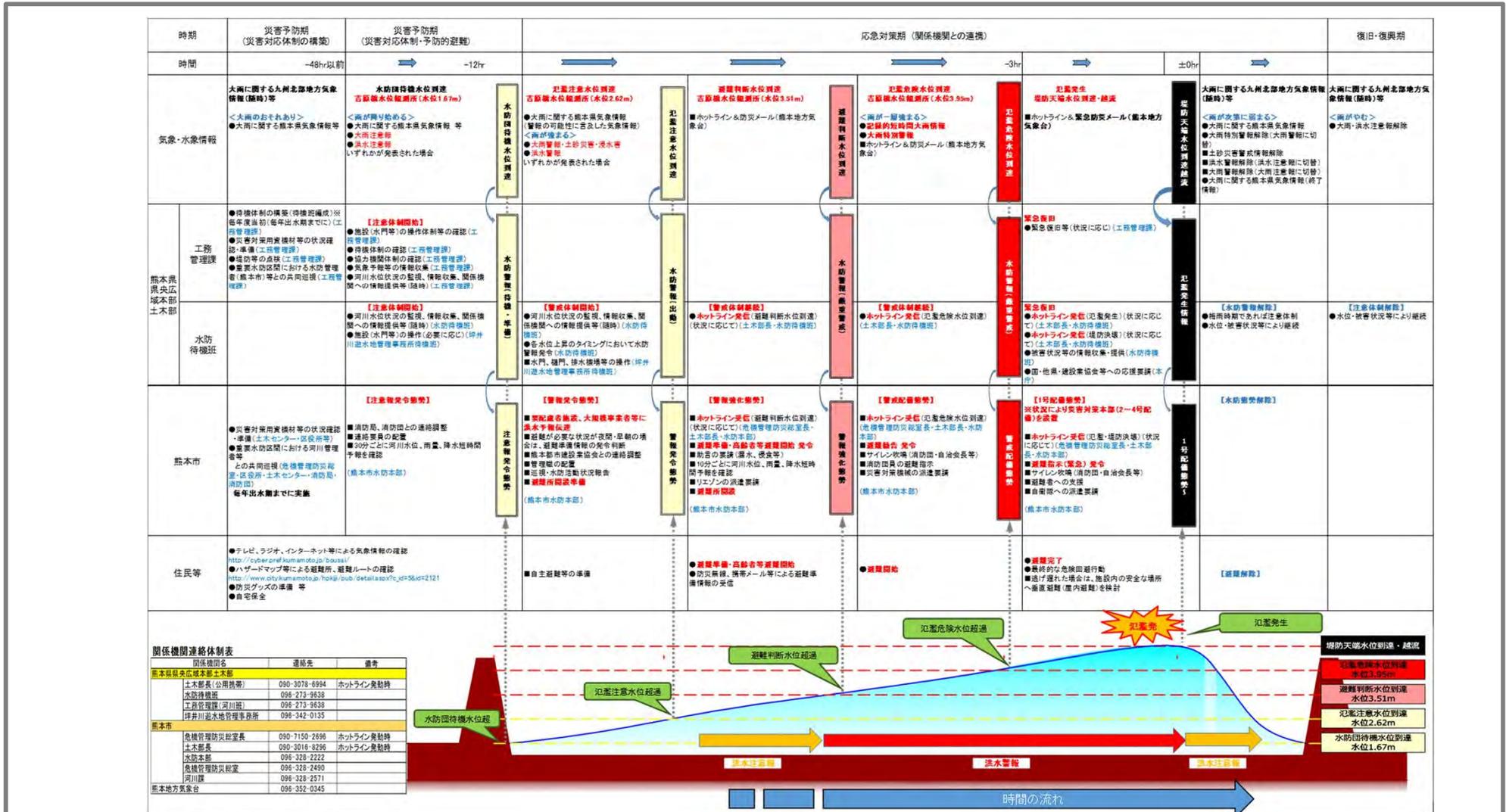
【 熊本県 】

【ソフト対策】1-① 避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施

熊本県

●実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し

- 白川・緑川流域を含む県管理の水位周知河川（67河川）について避難勧告着目型タイムラインを作成
- 災害予防期から復旧・復興期における各機関の行動について記載



大雨に伴う洪水を対象とした水位周知河川沿川市町村の避難勧告の発令等に着目したタイムライン

【ソフト対策】1-① 避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施

熊本県

●防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施

- 県及び県内市町村では、令和2年7月豪雨の経験をふまえ、防災担当職員の災害対応能力向上及び連携強化を目的として、豪雨対応能力向上訓練を実施。
- 訓練内容は、コロナ禍における市町村の初動体制確保や、市町村・県・消防・警察等関係機関が連携した情報の収集・伝達を中心とし、各市町村には県から職員を派遣し助言等を行った。

訓練スケジュール

県、市町村連携による豪雨対応訓練

取組概要	R3 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月 ~9月	10月 ~3月
県、市町村連携による豪雨対応訓練 ※全市町村、各地域振興局、県警、消防、自衛隊、気象台参加 <あさぎり町での訓練の様子> 	①豪雨対応訓練 玉名地域	②豪雨対応訓練 宇城・上益城地域	③豪雨対応訓練 球磨地域	④豪雨対応訓練 天草・戸北地域	⑤豪雨対応訓練 熊本市・鹿本・菊池・玉名地域	⑥豪雨対応訓練 阿蘇地域	⑦豪雨対応訓練 球磨・八代・上益城地域	住民参加型訓練
	県内各地域の災害特性（土砂崩れ、河川、離島等）に応じた実践的な豪雨対応訓練						出水期 梅雨・台風 災害対応	県総合防災訓練 当該年度出水期・台風期の振り返りをかまえた訓練
庁内訓練 <県災害対策本部の様子> 	①庁内訓練			②庁内訓練 職員参集訓練	③庁内訓練		7月豪雨災害をふまえた豪雨対応訓練	7月豪雨災害をふまえた豪雨対応訓練
				転入者を含めた本部室運営能力向上訓練			随時、必要に応じた防災情報共有システム改修	随時、必要に応じた防災情報共有システム改修
							県総合防災訓練準備	県総合防災訓練準備

- ・目的
県（広域本部・地域振興局を含む）と市町村の豪雨対応の訓練を行い、初動対応能力を向上させる。
- ・訓練の狙い
(1) 豪雨時における県及び各市町村防災担当職員の対応能力の向上
(2) 県と各市町村の連携の強化
- ・訓練参加機関
(1) 訓練対象機関
県（危機管理防災課及び消防保安課、広域本部・地域振興局）、市町村
(2) 訓練協力機関
熊本地方気象台 熊本県警察（各警察署） 各消防本部（局）、自衛隊等
- ・実施時期
年明けから出水期（1～5月）にかけて実施
- ・訓練の方式
ブラインド（シナリオを明示しない）方式
- ・訓練の振り返り
訓練終了後、各市町村訓練参加者と県コントローラ、警察・消防等LOIにより、成果・問題点及び今後の課題等を案出する

【ソフト対策】1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化

熊本県

●水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施

○毎年、出水期前に県管理河川における出水時の情報伝達訓練を実施
 ○令和3年度は宇城市を流れる大野川について、同市と訓練を実施

令和3年5月12日(水)

時間	情報の種類	伝達内容	伝達ルート		伝達手段	様式	備考
			発信	着信(経路)			
9:30	大雨洪水警報発令	演習開始	整備局	河川課→宇城市局→宇城市	メール	任意	
9:40	氾濫注意水位突破 2.67m (上久具橋観測局)						
	水防警報発表(第1報)	宇城市へ通知、水防団出動、パトロール開始	宇城市局	宇城市、河川課	メール	水防警報様式(出動)	
10:30	避難判断水位突破 3.22m						
	水防警報発令(第2報) 水位情報の周知	警戒情報(避難判断水位到達) 水位情報の通知・周知	宇城市局	宇城市、河川課	メール	水防警報様式(警戒)	
10:40	水位がさらに上昇の見込みであるため 宇城市長より避難勧告発令の報告		宇城市	宇城市→河川課	NTT電話	口頭	
11:00	氾濫危険水位突破 3.60m						
	水防警報発表(第3報)	嚴重警戒情報(氾濫危険水位到達) 水位情報の通知・周知	宇城市局	宇城市、河川課	メール	水防警報様式(嚴重警戒)	
	ホットラインの実施	首長へ警戒情報(氾濫危険水位到達)	宇城市局	宇城市	NTT電話	口頭	
	出水状況報告(第1報)	11:00には氾濫危険水位を突破し、さらに上昇中	河川課	整備局 (地域河川課)	メール	出水様式-総括	
11:20	災害情報(速報)	宇城市松橋町久具(3k600)付近で堤防より 越水発生	宇城市	宇城市→河川課	NTT電話	口頭	
	被害情報報告(第1報)	ホットラインにより本省と整備局に直接連絡	河川課	本省 (治水課) 整備局 (地域河川課)	マイクロ	口頭	
11:40	出水状況報告(第2報)	水位状況報告	河川課	整備局 (地域河川課)	メール	出水様式-総括	
	被害情報報告(第1報)	宇城市松橋町久具(3k600)付近で堤防より 越水発生	河川課	整備局 (地域河川課)	メール	出水様式-2(1) 出水様式-2(2)	
12:55	宇城市より大野川 右岸3k600付近の堤防決壊報告	堤防が決壊、増破の恐れあり	宇城市	宇城市→河川課	NTT電話	口頭	
13:00	災害支援要請	整備局 地域河川課へ排水ポンプ車(30m3/分)を1台の支援要請	河川課	整備局 (防災課)	FAX (マイクロ)	九州地方における大規模な災害時の応援に関する協定書 別紙-1	
13:10	出水状況報告(第3報)	水位状況報告	河川課	整備局 (地域河川課)	メール	出水様式-総括	
	被害情報報告(第3報)	被害情報報告(氾濫情報、一般被害)	河川課	整備局 (地域河川課)	メール	出水様式-2(1) 出水様式-2(2)	
13:30	災害支援	④に対する回答(災害支援の要請訓練)	整備局	河川課	FAX (マイクロ)	九州地方における大規模な災害時の応援に関する協定書 別紙-2	

- ・毎年、異なる県管理河川を対象に訓練を実施
- ・県(地域振興局)から市町村へのホットライン訓練も併せて実施

演習シナリオ(抜粋)

●要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援

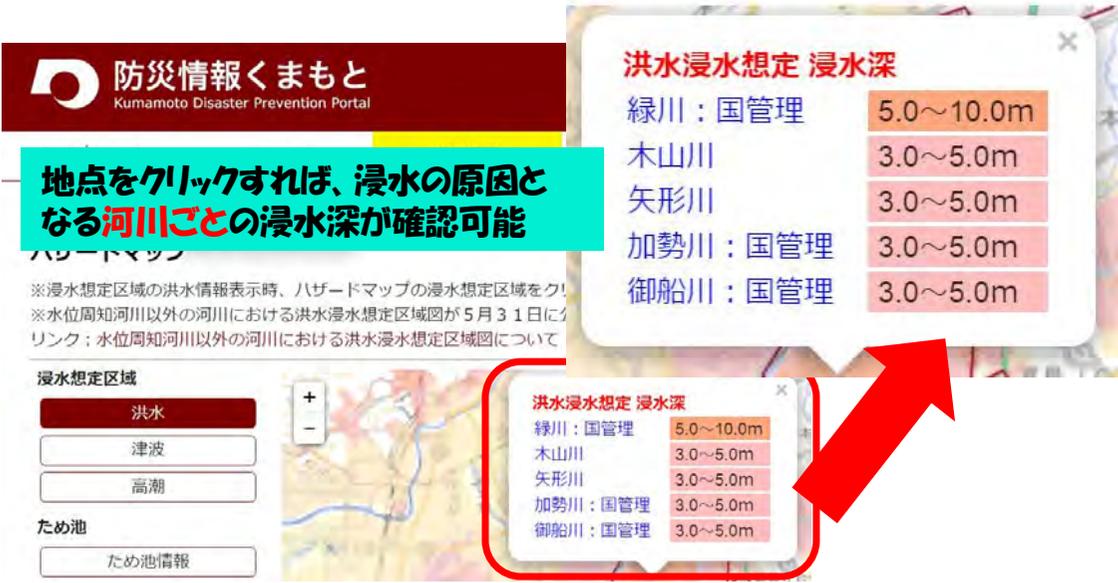
【全県的な取組み】

○県内全ての要配慮者利用施設が早期に避難確保計画を作成するよう、施設管理者を対象に以下の取組を実施。その結果、本県の計画作成率（洪水）は2.9%（H31.3月）から89.9%（R3.9月）に向上

- ① 避難確保計画作成講習会の開催及び施設への個別訪問の実施
- ② 講習会に参加できなかった施設に向けて、計画作成支援動画を作成し、Youtubeで公開
- ③ 施設が容易に自施設の浸水深を確認できるよう、県ホームページ（防災情報くまもと）を改修

○施設に洪水時の避難訓練実施方法を伝えるため、避難訓練研修会をWeb開催（約1,000施設が参加）

県ホームページ(防災情報くまもと)の改修内容



研修風景



●地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進

- 一人ひとりの避難行動を時系列にまとめた防災行動計画「マイタイムライン」ガイドブックを県ホームページに掲載し、ガイドブック概要版（広報誌）を全世帯に配布。
- マイタイムラインシートを手軽に作成できる専用WEBサイトも開設。



○「命を守る」ためには、確実に「避難する」ことが何よりも重要であり、住民の「自分の命は自分で守る」という意識を醸成し、避難行動につなげる「マイタイムライン」の普及促進に取り組んだ。

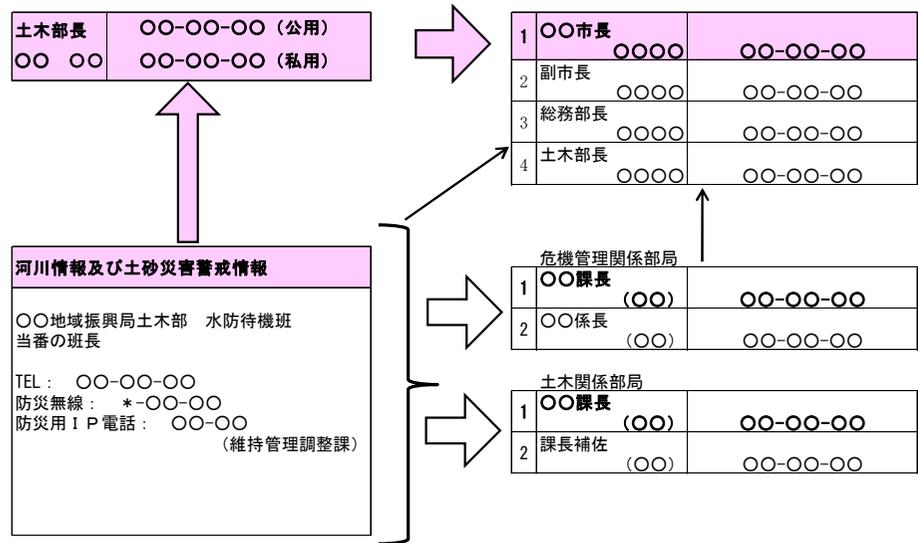
○一人ひとりの避難行動を時系列にまとめた防災行動計画「マイタイムライン」ガイドブックを県ホームページに掲載（R3.4～）し、また、概要版を県内全世帯（約74万部）に配布（R3.6）。マイタイムラインシートを手軽に作成できる専用WEBサイトも開設（R3.9～）。

●毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認

- 出水期前に地域振興局ごとに実施する水防連絡会で、地域振興局（河川管理者）と管内市町村間のホットライン連絡体制を確認
- ホットラインは県の水位周知河川における水位上昇時だけでなく、土砂災害警戒情報発表時も実施

令和3年度 ホットライン 連絡体制表（〇〇市）

取扱い注意



※ホットラインの運用内容

・水防警戒河川（水位周知河川）で、**避難判断水位**に達した際に、上記連絡体制により河川水位情報を提供する。



・土砂災害警戒情報が発令された際に、上記連絡体制により情報を提供する。

土砂災害警戒情報は、大雨警報（土砂災害）等が発表されている状況で、土砂災害発生危険度がさらに高まったときに、**市町村長の避難指示等の判断を支援するよう、また、住民の自主避難の参考となるよう、対象となる市町村を特定し警戒を呼びかける情報**で、熊本県と気象庁が共同で発表しています。

熊本県	熊本地方気象台
土砂災害危険度情報	土壌雨量指数

共同発表

土砂災害警戒情報

ホットライ

土砂災害

避難情報に関するガイドライン(R3.5 内閣府)

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)

●出水時の河川巡視情報等の共有

○県が管理する水位周知河川において氾濫が発生した際は、確認後、水防管理者（市町村）や報道等へ氾濫発生情報として発表
 （避難判断水位や氾濫危険水位を超過した際も、水防警報や水位超過情報として発表）

〇〇川 氾濫発生情報

令和〇年〇月〇日
 〇〇時〇〇分発表
 〇〇地域振興局（広域本部）

【主文】

【警戒レベル5相当情報[洪水]】

〇〇川では、〇〇市〇〇地区（△△岸）付近より（堤防決壊による）氾濫が発生しました。

直ちに、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

【問い合わせ先】
 〇〇地域振興局（広域本部） 土木部
 電話 0000-00-0000
 FAX 0000-00-0000

関係各位

令和 4年 2月22日18時20分
 熊本県 水防本部

氾濫危険水位以上に達した観測局 0箇所
 避難判断水位以上に達した観測局 0箇所

1 / 4

河川名	観測所名	地先名	観測値	(超過時刻) 氾濫 注意水位	(超過時刻) 避難 判断水位	(超過時刻) 氾濫 危険水位	備考
しろかわ 白川	ましろばし 吉原橋	熊本市北区龍田町弓削字小坂 屋敷310-2	0.59	2.62	3.51	3.95	
つばいがわ 坪井川	つるはたばし 鶴羽田橋	熊本市北区四方寄町80	-0.38	2.46	3.22	3.42	
	つばい 坪井	熊本市中心区坪井5丁目16 番地 坪井川左岸	1.89	5.30	5.65	5.72	
	たかひらばし 高平橋	熊本市北区高平2丁目23番 坪井川右岸	0.39	3.20	3.20	3.72	
せんげんえご 千間江湖	せんげんえご 千間江湖	熊本市南区白石町1495	0.12	2.54	2.54	2.93	
まげがわ 除川	まげがわ 除川	熊本市西区沖新町3330	0.90	3.32	3.80	3.93	
しょうけぼりがわ 薄器堀川	しょうけぼりがわ 薄器堀川	熊本市中心区水船寺公園 147-1番 水船寺江津湖公園内	0.31	1.76	1.76	2.02	
てんめいしんのがわ 天明新川	みなみたかえ 南高江	熊本市南区南高江町4丁目1番 地先	1.15	2.84	2.84	3.12	
はまとのがわ 浜戸川	はまとのがわ 浜戸川	熊本市南区城南町敷田 浜戸 川右岸	-0.08	2.96	2.96	3.42	
いせりがわ 井芹川	にしきよ 西里	熊本市北区磯川町井芹川左岸 (庄屋口橋)	-0.02	1.48	1.48	1.79	
	いせりのうえ 池上	熊本市西区池上町池上第3排 水橋場内	0.63	2.60	2.60	3.08	
つるのぼし 鶴野橋	つるのぼし 鶴野橋	熊本市西区花園7丁目12-1	0.25	2.76	2.76	3.13	
	けんぐわ 健軍川	けんぐわ 健軍川	熊本市東区鶴ヶ丘1番 鶴ヶ丘 公園内	0.03	1.45	1.45	1.99
おまのがわ 大野川(宇)	おまのがわ 上久良橋	宇城市松橋町久良 上久良橋 右岸	0.44	2.67	3.22	3.50	
すなのがわ 砂田	おのわ 小田	宇城市小川町大宇南小川字井					

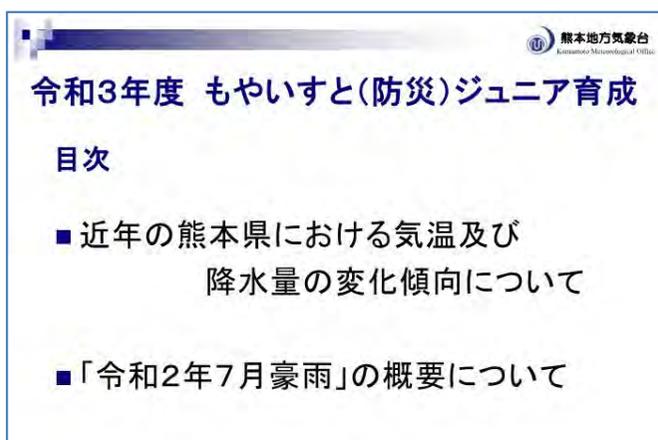
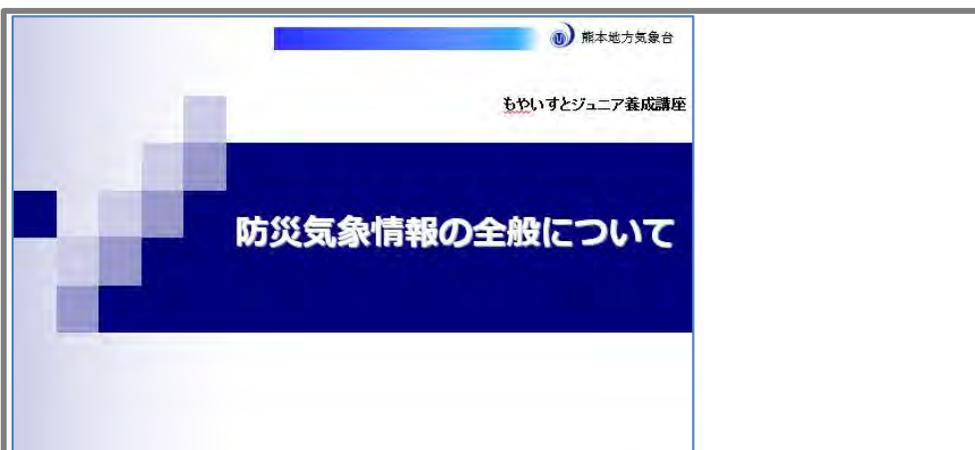
2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

各機関の取組状況(各機関毎)

【 熊本地方気象台 】

●市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施

- 熊本県立大学「もやいすとジュニア育成（防災）講座」オンデマンド配信（10/1）
- 御船町防災士養成講座（2/26）



熊本県立大学「もやいすとジュニア育成（防災）講座」については、新型コロナへの対策として、予め講義資料の動画を作成し、生徒はオンデマンドで講座を視聴。

御船町については、防災士養成講座（気象災害と防災気象全般について）講義

●毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施

○洪水予報対応演習を熊本河川国道事務所と共同で実施(4/16、5/11)

写真・図等なし

新型コロナウイルスの影響により、作業者が集まることを懸念し、部外伝達演習モードでは実施せず、担当官署間演習モードで実施することになった。
また、なるべく多く演習ができるように日を分けて実施した。

●市町長だけでなく、副市町長、防災担当部課長等とのホットラインの確立

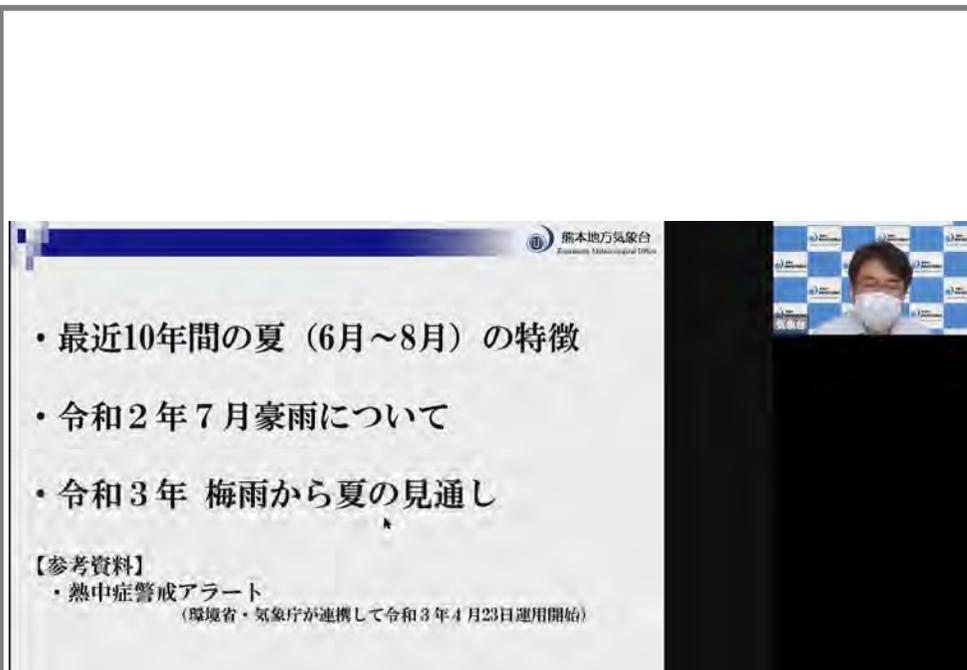
○出水期前にホットライン（電話番号、主担当者）確認を実施（5/24～6/4）

写真・図等なし

例年通り、全市町村を対象に、出水期前にホッ
トライン確認を実施。

●報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施

○毎年報道機関を対象とした気象連絡会を実施しているが、今年度はweb会議形式で開催（6/7）



web解説の様子

気象連絡会は、出水期前に例年通り開催しており、今年度は、

- ・梅雨から夏にかけての天候の見通し
 - ・警報・注意報の暫定基準の見直し
 - ・最新の気象庁の取り組み
 - ・阿蘇山の火山活動状況
 - ・熊本県の地震活動
 - ・地域防災支援の取り組み
- などを報道機関に対して説明。

●毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認

○洪水予報対応演習を熊本河川国道事務所と共同で実施(4/16、5/11)

写真・図等なし

新型コロナウイルスの影響により、作業者が集まることを懸念し、部外伝達演習モードでは実施せず、担当官署間演習モードで実施することになった。
また、なるべく多く演習ができるように日を分けて実施した。

●毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施

○熊本県 市町村大雨対応訓練への協力(2月～5月) (予定を含む)



訓練の様子(県防災センター)

令和3年度は令和2年7月豪雨の教訓を反映した対応訓練を実施したが、今年度も、県庁職員および市町村の防災対応能力の維持・向上をはかるための訓練を実施。
気象台は、コントローラーとして参加。
昨年度同様、県内の市町村もブロックごとに演習に参加。

訓練対象機関

県(危機管理防災課、消防保安課、地域振興局)、市町村

訓練協力機関

熊本地方気象台、熊本県警察(各警察署)、各消防本部、自衛隊、熊本海上保安部

2) 各機関の取組状況(重点取組み方針以外)について

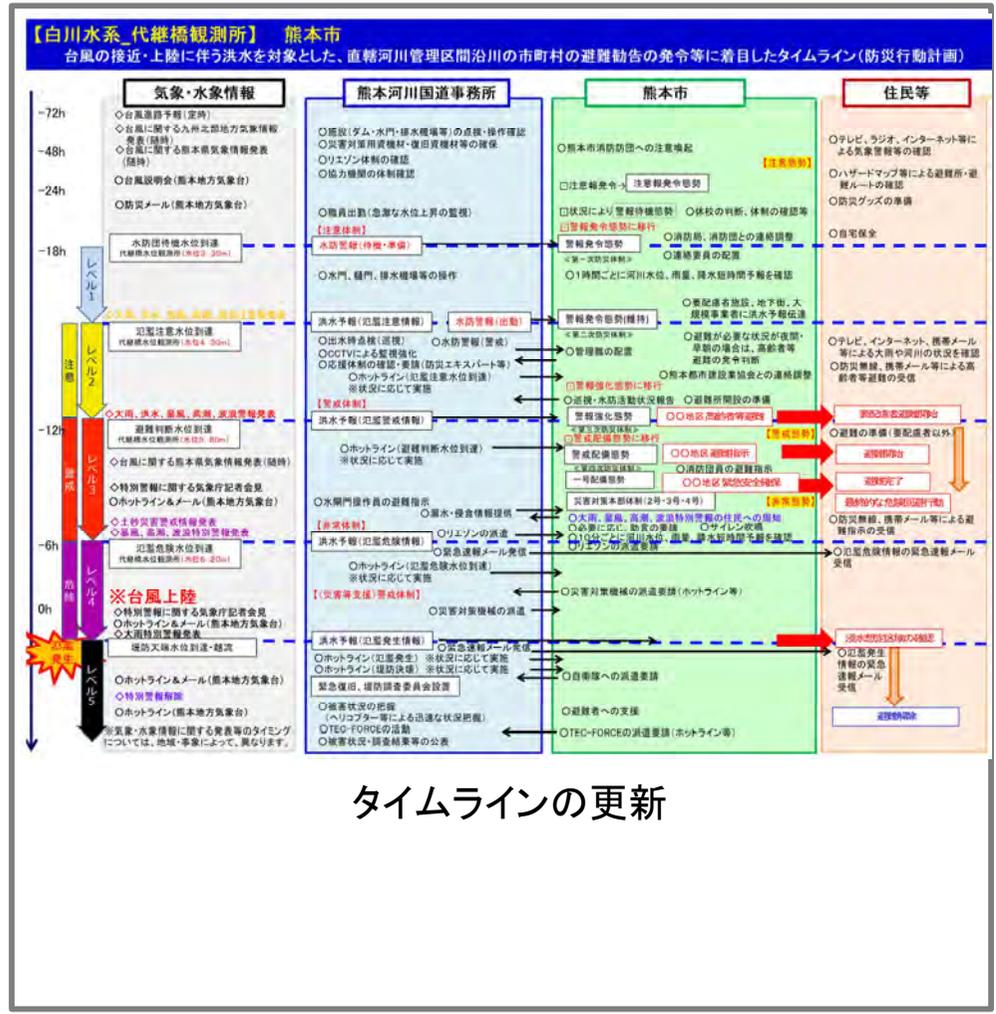
各機関の取組状況(各機関毎)

【 熊本河川国道事務所 】

【ソフト対策】1-① 避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施

●実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し

○新たな警戒レベル（5月20日適用）に対応したタイムラインの更新



- 令和3年5月20日に適用された新たな警戒レベル（避難勧告の廃止、避難指示で必ず避難 等）に対応して、白川・緑川の各観測所のタイムラインを更新した。

令和3年5月20日から 避難指示で必ず避難 避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報
4	避難指示※2	避難指示(緊急)・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報(発表)	大雨・洪水・高潮注意報(発表)
1	早期注意情報(発表)	早期注意情報(発表)

※1 特別警戒レベル5は、避難勧告の発令に代わり、緊急安全確保が発令される場合があります。
※2 避難指示は、避難勧告よりも緊急度の高い避難情報です。
※3 警戒レベル3は、高齢者等のみならず、必要に応じて避難勧告の対象となるため、避難の準備が完了した時点で、高齢者等避難開始が発令されます。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル5緊急安全確保の発令を持ってはいけません！

避難勧告は廃止されます。これからは、警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間がかかる高齢者や障害のある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁

「避難」って何すればいいの？

小中学校や公民館に行くことだけが「避難」ではありません。「避難」とは「避けること」。「下」の4つの行動があります。

- 行政が指定した避難場所への立退き避難
- 安全なホテル・旅館への立退き避難
- 安全な親戚・知人家への立退き避難
- 屋内安全確保

「3つの条件」がすべて満たされれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

- 1 避難情報等(緊急安全確保)が発令されていない(入っていない)
- 2 浸水深より避難は高い(水がひくまで待てる)
- 3 避難場所が自宅より安全な場所である

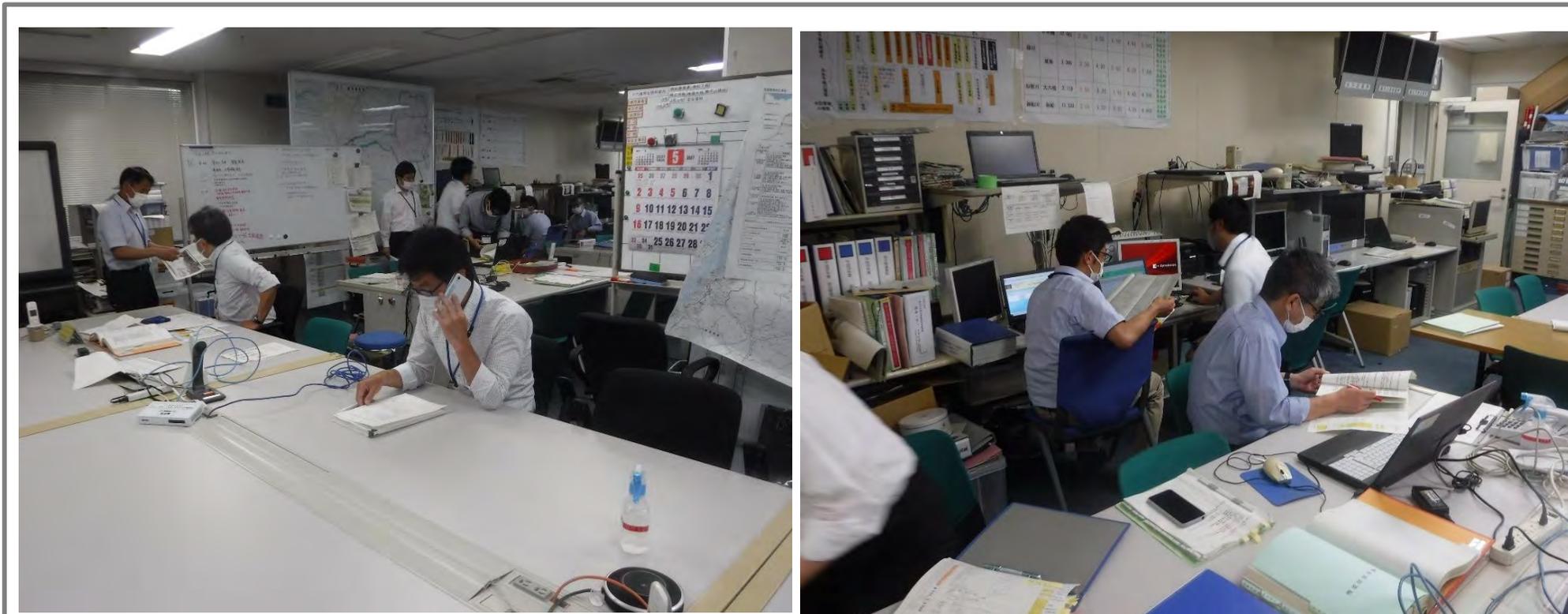
※1 避難情報等(緊急安全確保)が発令されていない(入っていない)とは、避難情報等(緊急安全確保)が発令されていない(入っていない)ことを指します。

※2 浸水深より避難は高いとは、浸水深より避難は高いことを指します。

※3 避難場所が自宅より安全な場所であるとは、避難場所が自宅より安全な場所であることを指します。

●防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施

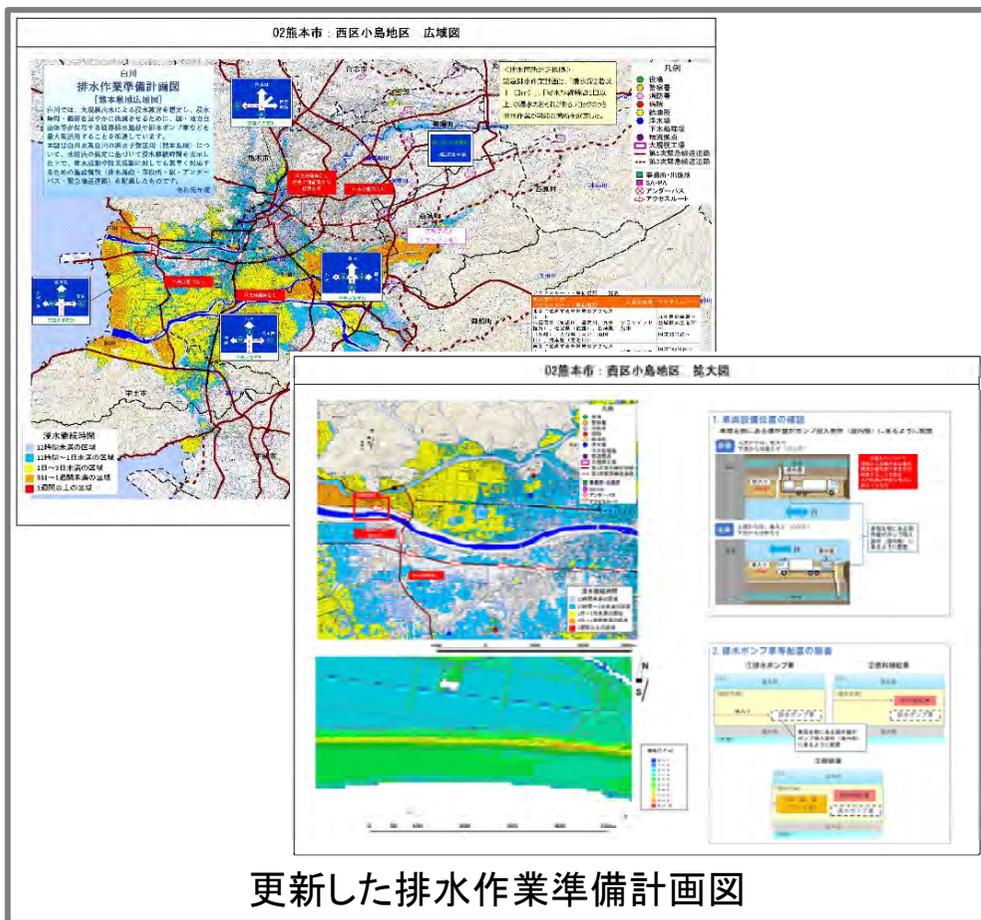
○洪水対応演習への防災担当職員の参加



洪水対応演習の実施状況

●緊急排水計画の策定

○令和3年度から排水箇所の追加検討を行い、令和4年度版排水作業準備計画図を作成



- 「浸水継続時間が長い(3日以上)」「浸水深が2階以上(3m以上)」「窯場(大きな水路、樋門の排水先)がある」などを選定基準として、排水箇所を追加した。
- 排水箇所は8箇所を追加した。
- 追加箇所を含む排水ブロックに対して最も影響が大きい決壊地点を整理した。
- 洪水時における排水ポンプ車等の要請台数の参考となるように、設定した排水ポンプ車等の配置場所、作業開始時間等をもとに、複数ケース(早期排水及び通常排水)について排水解析を行い、排水作業による効果を分析した。

●自治体の防災担当者間の連携促進

○水防連絡会・洪水予報連絡会を開催し、自治体および関係機関の防災担当者との間で水防情報の共有を実施

○3. 5. 10に、対面とWEB併用しての開催



水防連絡会・洪水予報連絡会の開催状況

●小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充

- 令和3年度は日吉東小学校（4年生：90名）、菊陽西小学校（5年生：140名）の2校で防災に関する出前講座を実施。
- 日吉東小学校の出前講座では防災知識の普及啓発等に取り組んでいる防災WESTと連携し、雲発生実験、浸水ドア体験などの体験学習を実施した。
- 菊陽西小学校の出前講座では降雨体験や浸水ドア体験、VR動画体験を実施した。



日吉東小出前講座



降雨体験(日吉東小)



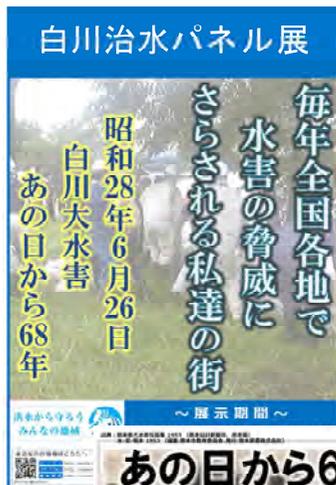
浸水ドア体験(日吉東小)



菊陽西小出前講座(VR体験)

●白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充

○白川治水パネル展の開催



- 昭和28年白川大水害や平成24年九州北部豪雨などの洪水被害を受けた白川水系で、過去の水害状況や治水事業の整備状況、水防災に関する各種情報を認識して頂くことを目的に「白川治水パネル展」を開催しました。

- 期間; 令和3年6月9日～6月22日
- 場所; くまもと県民交流会館パレオ



パネル展の開催状況

展示パネル

●白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進

○白川親子流域体験学習の実施



白川親子流域体験学習
～来て、見て、ふれて、川のことを学ぼう～

令和3年7月25日(日)
午前8:30～午後4:00 小雨決行！
※予備日：8月9日(月)振替休日

対象：小学校4年生～中学生までの児童・生徒及びその保護者

定員：親子10組 20名程度
先着順に、定員に到達まで受け付けます。

費用：1人 1,000円 ※昼食及び熱中症対策費・傷害保険代として
(アムレギー等により昼食が不要な場合は500円)

会場：白川地域防災センター(集合場所)
(住所：白川わくわくランド)
※体験場所へは、徒歩で移動し、帽子等もご用意ください。

◆実施内容 河川環境学習(ひざくらいまで川に入り、実感をします。)
川の安全利用講習(昔までもしくは全身、川に入り、実感をします。)
※当日のスケジュール(プログラム)は変更となる場合がございます。1日
持参品等については、申込後に事務局からご案内します。
※本年度も、白川の清掃・子供環境などで実施予定です。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて実施します。マスクを着用ください。

◆申込方法 裏面の申込用紙に必要事項を明記の上、下記までEAXまたは郵送で
お送り下さい。※郵送費は申込者の負担となります。ご了承ください。

◆問い合わせ 白川地域防災センター(白川わくわくランド)
& 申込先 〒860-0654 熊本県中央区菓子園町8-55
TEL: 096-346-5454 FAX: 096-346-5411

主催：国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所

参加者募集チラシ



河川環境学習の様子



川の安全利用講習の様子

- 親子で白川について学んでいただくために、「白川親子流域体験学習」をR3.7.25に開催しました。
- 河川環境学習として、白川の水質調査による透明度の確認や、水生生物の調査を行いました。
- 座学で川の安全利用を学んだあとに、ウェットスーツ等に替えて頂き、実際に川の中に入って実習を行いました。

●住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及

○白川親子流域体験学習の実施



白川親子流域体験学習
～来て、見て、ふれて、川のことを学ぼう～

令和3年7月25日(日)
午前8:30～午後4:00 小雨決行！
※予備日：8月9日(月)振替休日

対象 小学校4年生～中学生までの児童・生徒及びその保護者

定員 親子10組 20名程度
先着順に、定員に到達まで受け付けます。

費用 1人 1,000円 ※昼食及び熱中症対策費・傷害保険代として
(アスレジャー等により服装が不適な場合は500円)

会場 白川地域防災センター(集合場所)
(住所：白川町くわくランド)
※体験場所へは、徒歩で移動し、徒歩、帽子等もご用意ください。

◆実施内容 河川環境学習(ひざくらいまで川に入り、実感をします。)
川の安全利用講習(昔までもしくは全身、川に入り、実感をします。)
※当日のスケジュール(プログラム)は変更となる場合がございます。1日
持参品等については、申込後に事務局からご案内します。
※本年度も、白川の清掃・子供向けなど実施予定です。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて実施します。マスクを着用ください。

◆申込方法 裏面の申込用紙に必要事項を明記の上、下記までEAXまたは郵送で
お送り下さい。※郵送費は申込者の負担となります。ご了承ください。

◆問い合わせ 白川地域防災センター(白川くわくランド)
& 申込先 〒860-0654 熊本中央区菓子園8-55
TEL: 096-346-5454 FAX: 096-346-5411

主催：国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所

参加者募集チラシ



河川環境学習の様子



川の安全利用講習の様子

- 親子で白川について学んでいただくために、「白川親子流域体験学習」をR3.7.25に開催しました。
- 河川環境学習として、白川の水質調査による透明度の確認や、水生生物の調査を行いました。
- 座学で川の安全利用を学んだあとに、ウェットスーツ等に替えて頂き、実際に川の中に入って実習を行いました。

【ソフト対策】3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確 認・強化

- 水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進
- 毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施
- 市町長だけでなく、副市町長、防災担当部課長等とのホットラインの確立

○市町長だけでなく、副市町長、防災担当部課長等とのホットライン確立のため、令和3年度版に更新を行い、全市町に情報提供を行った。
○出水期前の水防演習の中でホットライン訓練（熊本市、嘉島町）を実施した。

市町	市町長	副市町長	防災担当部課長									
熊本市	市長 大塚 隆夫	副市長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一	市長 大塚 隆夫	副市長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一	市長 大塚 隆夫	副市長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一	市長 大塚 隆夫	副市長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一
嘉島町	町長 山本 浩一	副町長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一	町長 山本 浩一	副町長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一	町長 山本 浩一	副町長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一	町長 山本 浩一	副町長 山本 浩一	防災担当部長 山本 浩一

令和3年度 白川・緑川沿線市町ホットライン一覧



水防演習にてホットライン訓練
（熊本市、嘉島町）を実施

- 多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施
- 携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知

○洪水予報発表時のTwitter自動配信

- 洪水予警報システムから警報が配信されると同時に、Twitter向け配信内容が作成される。



図 4-1 指定河川洪水予報の Twitter 配信例



図 4-2 水位周知河川情報の Twitter 配信例

Twitterによる洪水予報の配信画面

●関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備

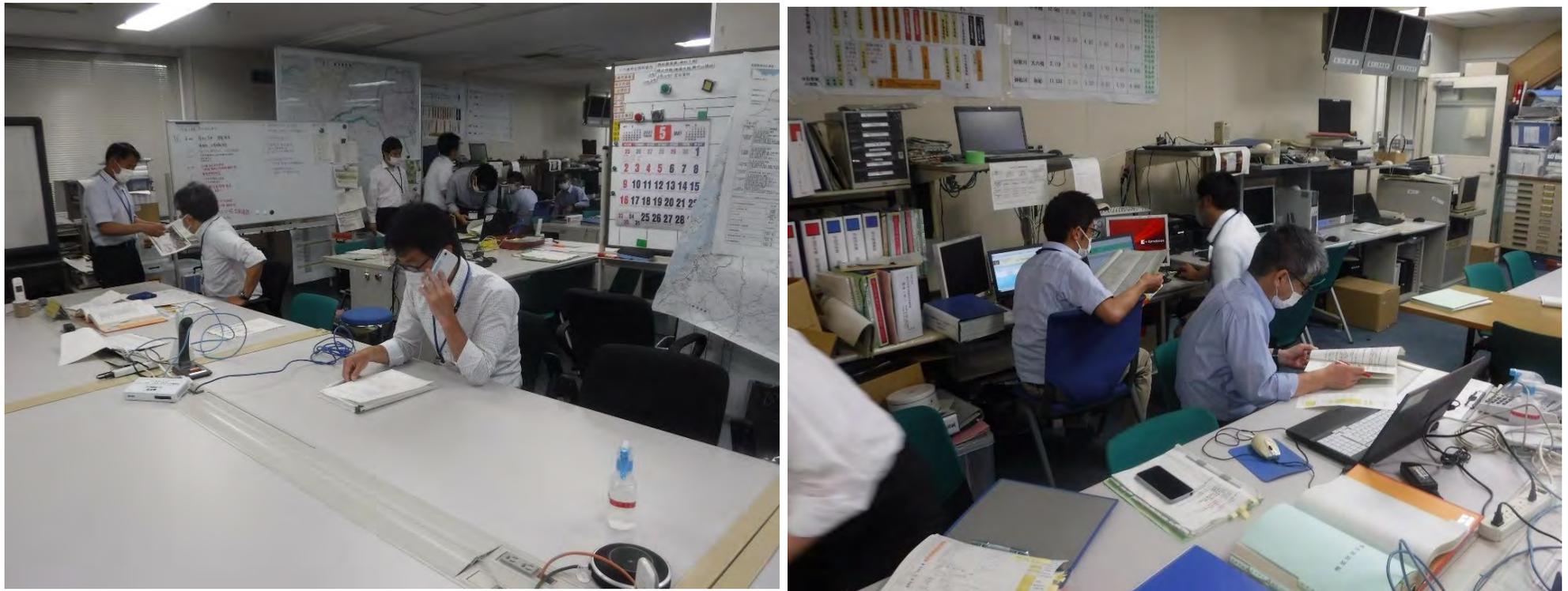
○防災情報提供システムを用いたホットラインの検討を開始



- 水位情報の観測所水位全図について、過去及び今後の雨量を確認するための雨量グラフ(実績・予測)の表示機能を実装
- 過去の水位グラフの履歴を確認するための横スクロール機能を実装
- ホットライン用情報として、水位、今後の雨量、基準水位へ達する予測時間を確認もしくは出力する機能を実装
- 危機管理型水位計の水位データの取り込み・表示機能を実装

●毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施

○出水期前に洪水対応演習を実施

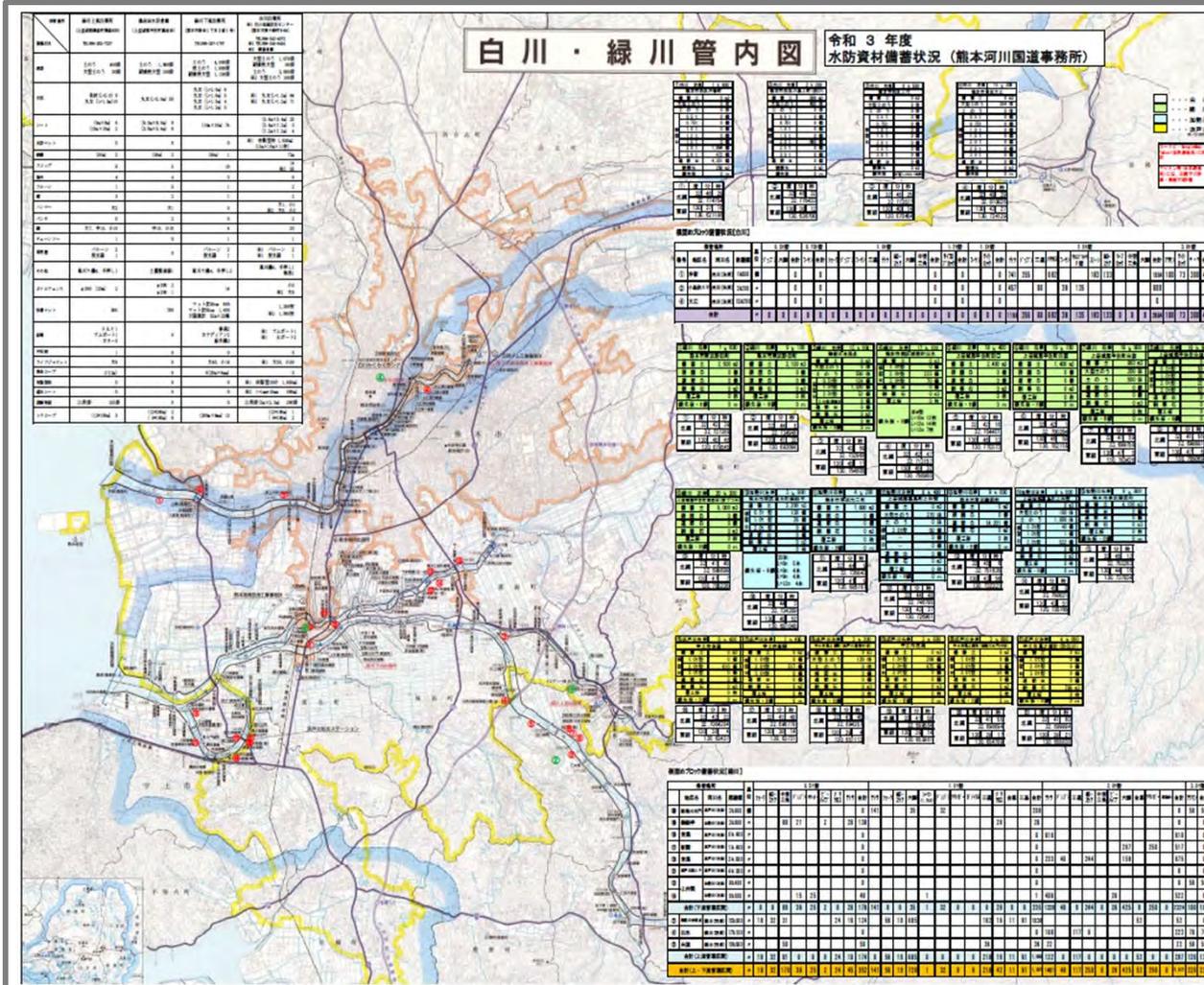


洪水対応演習の実施状況

【ハード対策】3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定

●備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定

○毎年、出水期前に備蓄している水防資機材の現状把握を実施



水防資機材の整理資料(毎年更新)

令和2年度までの各機関の取組状況について

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本市・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ				取組の達成状況		実施状況のフォローアップ	
作業項目		白川	緑川			※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。 ※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。	
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築						
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築						
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施						
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○	達成済み	水防業務を通じてチェックシートやマニュアルを活用して行っている。		
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○	達成済み	白川水防演習等を通じて、関係機関と連携した訓練の実施。関係機関との図上訓練の実施。		
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○	達成済み	水防業務を随時見直し、出水期前に研修等を行っている。		
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底						
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎	◎	達成済み	令和2年度に公開完了。今後、その他中小河川の想定最大規模についても掲載予定。		
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎	◎	未達成	今後関係機関と協議し、必要性も含めて検討していく。		
	ハザードマップの普及・啓発	○	○	達成済み	出水期前に広報誌、SNSやマスメディアを通じて広く呼びかけを行っている。		
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○	達成済み	地域と連携して地域版ハザードマップの作成、啓発に努めている。		
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○	未達成	今後関係機関と協議し、必要性も含めて検討していく。		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎	◎	未達成	今後関係機関と協議し、検討していく。		
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化						
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○	達成済み	水防演習にて実施		
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○	達成済み	地域版ハザードマップ作成時にまちあるき等を行って確認している。/重要水防箇所の合同巡視を行っている。		
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○	達成済み	重要水防箇所の合同巡視等を通じて水防団と資機材について情報共有を図っている。		
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○	○	達成済み	定期的な募集している。		
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施						
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○	未達成	今後関係機関と協議し、検討していく。		
	緊急排水計画の策定	○	○	未達成	今後関係機関と協議し、検討していく。		
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○	未達成	今後関係機関と協議し、検討していく。		
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化						
	自治体の防災担当者間の連携促進		○	達成済み	各種会議を通じて連携強化を図っている。		
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討						
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定	○	○	達成済み	平成27年に一般国道4路線、主要地方道・県道11路線、熊本市道9路線を認定済み。		
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援	○		達成済み	地域防災計画で企業向けBCPについて掲載している。		
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○		達成済み	本市では6施設作成済み		
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○	○	達成済み	継続的に支援を行っている。		
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○	達成済み	代替施設の検討も含めて実施		
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○	達成済み	継続的に整備を行っている。		
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進						
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進						
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充						
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○	達成済み	継続的に関係機関と連携して実施している。		
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○	未達成	今後、教育委員会と協議が必要		
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○		達成済み	継続的に関係機関と連携して実施している。		
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育						
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進	○		達成済み	関係機関と連携して実施している。		
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎	◎	達成済み	継続的に教育委員会と連携して実施している。		
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	○	達成済み	防災士養成講座を実施している。			
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○	達成済み	出前講座等での研修。/マイタイムライン研修中での学習			
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	○	未達成	今後関係機関と協議し、必要性も含めて検討していく。			
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信							
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信							
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化							
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進	○	○	達成済み	水防業務を通じてチェックシートやマニュアルを活用して行っている。			
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○	達成済み	出水期前に実施している。			
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○	達成済み	関係機関等とのホットラインを確立している。			
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化							
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○	達成済み	多様な情報伝達手段を構築している。			
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○	達成済み	エリアメール、災害情報メール等での配信。			
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○	達成済み	広報誌、ホームページ、マスメディアを通じて広く啓発。			
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎	達成済み	本市ホームページで一元的に見ることができる。			
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○	達成済み	報道機関とは密に連携を図り、積極的に啓発発信をしている。			
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施							
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○	達成済み	継続的に実施。			
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○	達成済み	水防演習にて実施。			
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○	達成済み	水防業務の中で連携、共有を図っている。			
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備							
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置							
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○	未達成	今後、必要性も含めて検討していく。			
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充							
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○	達成済み	継続的に整備している。			
3-⑤迅速かつ確実な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定							
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○	達成済み	継続的に整理が必要。			

ソフト対策

ハード対策

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇土市・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ					
作業項目		白川	緑川	取組の達成状況	実施状況のフォローアップ
				※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。	
				※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。	
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築				
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築				
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施				
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○	達成済み	国からの情報収集、先進地の取組を確認。
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○	達成済み	情報伝達訓練の実施。
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○	達成済み	継続的に実施。
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底				
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎	達成済み	平成31年2月に作成。令和4年度初めに最新の情報に更新して作成中。
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成		◎	未達成	他市町村の動向を注視し検討する。
	ハザードマップの普及・啓発				
	地域版ハザードマップの普及・啓発				
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発				
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎	達成済み	地域防災計画の更新時に、避難所の検討・指定を合わせて行う。
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化				
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○	達成済み	令和3年7月に実施。
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施		○	未達成	自主防災組織、地域住民へハザードマップ配布に合わせ洪水リスクの意識の高揚を図る。
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○	達成済み	資機材の増減があれば、その都度報告。
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○	達成済み	広報により実施。
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施				
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○	未達成	引き続き、排水手法の検討を重ねる。
	緊急排水計画の策定				
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○	未達成	感染症の収束後、実施を検討。
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化				
	自治体の防災担当者間の連携促進		○	未達成	県に相談し、連携の可能性を探る。
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討				
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定				
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援				
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援				
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援				
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	達成済み	令和5年竣工の新庁舎は機能向上を踏まえ検討済み。
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	達成済み	継続して機能維持、機能向上の検討を図る。
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進				
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進				
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充				
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○	達成済み	引き続き学校に協力を依頼する。
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○	達成済み	感染症収束後、地域へ研修の周知を図る。
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充				
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育				
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進				
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施		◎	達成済み	令和2年2月に走湯小学校、令和3年2月に緑川小学校で防災教育を実施。令和3年は未実施。
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施		○	未達成	先進事例を参考に学習機会の設置を検討する。	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○	未達成	連携可能な団体と接触を図り、普及方法を探る。	
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施		○	未達成	感染症の収束と先進事例を踏まえ実施を調整する。	
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信					
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信					
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化					
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進		○	未達成	先進事例を参考に推進を図る。	
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○	達成済み	毎年実施。引き続き実施。	
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○	達成済み	毎年連絡体制を確認。引き続き実施。	
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化					
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○	達成済み	YAHOO防災速報に掲載開始（令和2年度）	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○	達成済み	YAHOO防災速報（令和2年度）で携帯による情報普及	
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○	達成済み	出水期前に毎年広報紙に掲載。ホームページは新たな情報を逐次掲載。	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎	未達成	先進地の情報を収集し検討する。	
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○	達成済み	避難所開設情報が県の情報共有システムをとおり報道機関も確認できるようになった（令和2年）	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施					
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○	達成済み	継続して実施。	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○	達成済み	令和3年7月に実施。	
出水時の河川巡視情報等の共有					
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備				
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置				
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○	未達成	先進設置事例等情報収集する。
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充				
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○	達成済み	平成28年度にデジタル化が完了。住民の意見を聞きながら改善を図る。
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定					
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○	達成済み	引き続き、継続して実施する。	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇城市・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ		取組の達成状況		実施状況のフォローアップ		
作業項目		白川	緑川	※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。 ※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。		
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築					
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築					
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施					
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○	達成済	昨年と変更がないため、検証済	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○	未達成	緑川のタイムラインに沿った訓練は出来なかった。国交省に合わせて出来ればしたい。	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○	達成済	職員内で可能な限り実施した。	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底					
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎	達成済	R3.5に配布済	
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成		◎	未達成	コロナの影響で話し合いが出来なかった。	
	ハザードマップの普及・啓発					
	地域版ハザードマップの普及・啓発					
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発					
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎	達成済	避難所については、検討してハザードマップとともに配布予定	
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化					
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○	達成済	最近2年間は訓練は出来ていない。	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施		○	達成済	一部の地域で実施（不知火町御領自主防災組織）	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○	達成済	水防倉庫の土のうなど確認・情報共有を水防団（消防団）と行っている	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○	達成済	水防団（消防団）の募集を随時行っている	
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施					
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○	達成済	上下水道課で内水ハザードマップに基づき、検討を行っている	
	緊急排水計画の策定					
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○	未達成	コロナの影響で訓練が出来なかった	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化					
	自治体の防災担当者間の連携促進		○	未達成	コロナの影響が出る前までは、協議を行っていた	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討					
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定					
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援					
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援					
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援			達成済		
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	達成済		
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	達成済		
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進					
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進					
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充					
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○	達成済		
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○	未達成		
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充					
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育					
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進					
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施		◎	達成済	防災教育は行ったが、資料配布等が出来ず出来なかった	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施		○	達成済	一部の地域で実施（不知火町御領自主防災組織）		
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○	達成済	一部の地域で実施（不知火町御領自主防災組織）		
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施		○	未達成	コロナの影響で訓練が出来なかった		
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信						
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信						
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化						
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進		○	達成済	R3.5		
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○	達成済	R3.5		
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○	達成済	R3.4		
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化						
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○	達成済	県情報共有システムとtwierを連動させた（R3.6）		
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○	未達成	予算の関係		
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○	未達成	予算の関係		
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎	未達成	予算の関係		
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○	達成済	NHKと連携した。		
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施						
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○	達成済	R3.4		
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○	未達成	コロナの影響で訓練が出来なかった		
出水時の河川巡視情報等の共有						
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備						
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置						
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○	未達成	予算の関係		
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充						
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○	達成済	宇城市デジタル整備完了（R3.12）		
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定						
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○	達成済	水防資機材の確認は行っている（R3.5）		

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】嘉島町・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ				実施状況のフォローアップ	
作業項目		白川	緑川	取組の達成状況	実施状況のフォローアップ
					※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。 ※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築				
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施				
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○		達成済み	水害対応タイムラインの見直し。(R3.12)
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○		未達成	今後実施検討。
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○		達成済み	熊本地方気象台とのワークショップへ参加。(R4.1) 熊本県・消防署・警察との豪雨対応訓練 (R4.2)
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底				
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎		達成済み	L2対応版ハザードマップ作成。(R3.4公表)
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎		未達成	今後、協議・検討していく。
	ハザードマップの普及・啓発			達成済み	L2対応版ハザードマップ作成。(R3.4公表)
	地域版ハザードマップの普及・啓発			未達成	町域が狭いため各地域版のハザードマップなどの策定予定はなし。
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発			未達成	今後、協議・検討していく。
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎		達成済み	・町域のほとんどが浸水想定区域内にあるが、新規避難所の建設は困難。浸水想定区域外にある公民館等を指定緊急避難場所に指定。ハザードマップ上に掲載済み。また災害時協定により、民間企業の駐車場を確保し対応。
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化				
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○		達成済み	関係機関(自主防災組織を除く)が連携し、緑川水防演習の実施。
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○		未達成	地区防災計画作成に併せ地区の危険箇所マップ作成済。(一部の地区)次年度以降点検等を実施予定
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○		達成済み	出水期前に開催される、災害対策会議内で水防団(消防団)等に水防機材の情報を含んだ水防計画について情報共有を行っている。
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○		達成済み	地元水防団(消防団)による勧誘活動、町広報誌による水防団(消防団)員募集の広報。
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施				
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○		未達成	今後、検討予定。
	緊急排水計画の策定			未達成	今後、検討予定。
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○		未達成	今後、検討予定。
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化				
	自治体の防災担当者間の連携促進	○		達成済み	熊本地方気象台とのワークショップへ参加。(R4.1) 熊本県・消防署・警察との豪雨対応訓練 (R4.2)
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討				
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定			未達成	今後、検討予定。
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援			未達成	今後、検討予定。
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援			-	該当箇所なし
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○		達成済み	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成済、熊本県のHPIに掲載して避難訓練等の案内を実施 (R4.2)
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○		未達成	今後、検討予定。
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○		未達成	今後、検討予定。
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進				
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充				
	小中学校等と連携を回り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○		未達成	今後、検討予定。
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○		未達成	今後、検討予定。
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充			未達成	今後、検討予定。
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育				
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進			未達成	今後、検討予定。
	教育委員会等と連携を回り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎		未達成	今後、検討予定。
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○		未達成	今後、検討予定。
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○		未達成	今後、検討予定。
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○		-	防災ステーションなし。	
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる。正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる。正確でわかりやすい防災情報の発信					
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化					
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進	○		達成済み	水害対応タイムラインの見直し (R3.12)。今後随時見直しを行う。	
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○		達成済み	国土交通省と町(町長と実務主管課長)でホットラインによる情報共有訓練を実施。	
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○		達成済み	ホットラインの名簿更新。	
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化					
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報入手できる手段の検討・実施	○		達成済み	防災行政無線の更新に併せて、戸別受信機、SNSの検討 R4設計予算計上 (R4.3)	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○		達成済み	登録制メール配信及び熊本県防災システムを活用した緊急連絡メールを配信	
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○		達成済み	NHK防災アプリ等の紹介を実施 (R3.10)	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎		達成済み	防災行政無線の更新に併せてシステム内で検討 R4設計予算計上 (R4.3) 【気象情報・河川情報・ウェブカメラ等】	
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○		未達成	今後、検討予定。	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施					
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○		達成済み	継続実施(災害対策会議・書面) (R3.5)	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○		達成済み	毎年、緑川水防演習の実施。(出水期前)	
出水時の河川巡視情報等の共有			達成済み	防災行政無線の更新に併せてシステム内で検討 R4設計予算計上 (R4.3)	
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備				
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置				
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○		未達成	浸水実績の表示について、今後、設置検討予定。
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充				
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○		達成済み	防災行政無線の更新 R4設計・工事予定予算計上 (R4.3)
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定					
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○		未達成	現在の備蓄箇所では、さらなる備蓄を許容できるスペースが確保できないため、今後検討予定。	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】甲佐町・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ				実施状況のフォローアップ	
作業項目		白川	緑川	取組の達成状況	
				※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。	
				※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。	
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築				
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築				
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施				
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	未達成	詳細なタイムラインを作成中	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	未達成	タイムライン作成後に実施を検討	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	未達成	①県の研修に参加（R3.10及びR3.11のスキルアップ研修）。②新規防災担当職員の防災士資格取得予定。	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底				
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎	達成済み	R2.10→L2対応のハザードマップを各戸に配布。	
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎	未達成	検討中。※R3.8隣接の美里町との広域連携協定を締結	
	ハザードマップの普及・啓発		達成済み	①R2.10→L2対応のハザードマップを各戸に配布。②役場ホームページにも掲載。③チラシを作成し各戸に配布 ④R3.1.8熊日新聞に掲載	
	地域版ハザードマップの普及・啓発				
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発				
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎	未達成	検討中	
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化				
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	達成済み	コロナ禍の影響で、出水期前に町水防団の単独訓練を実施（R3.6.20）	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	達成済み	出水期前に実施	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	達成済み	出水期前に実施	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○	達成済み	加入促進活動を継続的に実施中。※R4.4国の要請に基づき、消防団員の報酬の見直しを予算化	
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施				
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	達成済み	消防団、役場建設課等、担当間で情報共有、排水手法を検討（①R3.12下横田に排水ポンプ場を整備、R4.3建設業協会と災害時の排水ポンプ場における支援活動に関する協定締結予定 ②有安地区にポンプ排水、遊水地検討 ③甲佐小学校には浸透型の雨水貯留施設を整備済）	
	緊急排水計画の策定				
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○			
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化				
	自治体の防災担当者間の連携促進	○	達成済み	担当者間で情報共有している。 ※美里町とは、包括連携協定（R3.8）に基づき防災担当者間で意見交換を実施（R3.12.6）	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討				
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定		未達成	国道443号及び県道嘉島甲佐線等を検討	
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援				
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援				
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援		達成済み	R2.8避難確保計画は100パーセント作成済。複数の施設で訓練実施。※取り組み状況とりまとめ（全取り組み）で報告	
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	未達成	検討中	
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	未達成	検討中	
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進				
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進				
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充				
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	達成済み	小中高校の防災研修の支援を実施。（甲佐小防災ワークショップ、甲佐高防災公開授業、その他総学校の避難訓練時に講話を実施。）	
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	達成済み	緑川の歴史をテーマに町史歴史研究会を開催	
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充				
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育				
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進				
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎	達成済み	教育委員会と連携し、小中高校の防災研修の支援を実施。（甲佐小防災ワークショップ（※取り組み状況とりまとめ（重点取り組み）で報告）、甲佐高防災公開授業、その他総学校の避難訓練時に講話を実施。）	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	達成済み	緑川の歴史をテーマに町史歴史研究会を開催。公民館講座（社会教育課）で町民に防災講話を実施中。		
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○				
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	未達成	緑川沿いに、防災ステーション（有安地区、上揚地区）を建設中※緑川本川で初めてとなる「河川防災ステーション整備計画」が登録（国交省）		
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業等の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信					
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信					
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化					
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進	○				
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	達成済み	出水期前に実施		
市町長だけでなく、副町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	達成済み	出水期前に連絡体制を確認		
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化					
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報入手できる手段の検討・実施	○	達成済み	町ホームページ、SNS、ツイッターにて情報提供を実施。※R3.3から新たな情報発信（こうさ情報たしかめーる）にて配信（※取り組み状況とりまとめ（重点取り組み）で報告）。		
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	達成済み	R3.3から新たな情報発信（こうさ情報たしかめーる）にて配信中。		
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	達成済み	広報誌や町ホームページで防災情報を継続的に掲載中 ※取り組み状況とりまとめ（全取り組み）で報告		
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	達成済み	町ホームページに「国交省ホームページ（緑川水位、雨量情報、緑川ライブカメラ）」へのリンクを貼付。		
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○		Lアラートを活用		
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施					
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	達成済み	出水期前に実施		
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	達成済み	町防災会議、水防団の合同訓練を実施中		
出水時の河川巡視情報等の共有		達成済み	役場ホームページに「国交省川の情報」等のホームページをリンク		
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備					
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置					
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	未達成	※R4年度に町内及び指定避難所にリアルハザードマップ（表示板）の設置を予定		
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充					
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○	達成済み	①個別受信機の新規購入 ②新たな情報発信（こうさ情報たしかめーる）の機能強化を推進		
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定					
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	未達成	①緑川沿いに、防災ステーション（有安地区、上揚地区）を建設中。②備蓄倉庫を指定避難所（小中学校）に設置予定（R3年度中）		

ソフト対策

ハード対策

【白川・緑川水防防災意識社会再構築協議会】美里町・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ				実施状況のフォローアップ	
作業項目		白川	緑川	取組の達成状況	
					※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。 ※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築				
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施				
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○	未達成	R1年度までにタイムラインに沿った訓練を行ったが、タイムラインの見直しまでには至らなかった。
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○	未達成	各関係機関（警察・消防・水防団・自主防災組織等）が参加しての訓練を実施したが、すべての機関がタイムラインに沿って対応するところまで実施するに至らなかった。
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○	達成済み	県が実施する豪雨対応訓練等に参加し実施。
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底				
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成		◎	未達成	R4年度にL2対応で更新する予定。 継続して検討・作成
	ハザードマップの普及・啓発			達成済み	H30年度作成及び全戸配布済み。R1年度に町公式HPに内容掲載。町公式LINE等により啓発。
	地域版ハザードマップの普及・啓発			未達成	R4年度にL2対応で更新するハザードマップを活用し地域防災計画と併せて普及・啓発を行う予定。
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発			未達成	R4年度にL2対応で更新するハザードマップを活用し避難マニュアルを作成し普及・啓発を行う予定。
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎	未達成	R4年度にL2対応で更新するハザードマップや水防避難マニュアルを活用し地域防災計画の作成時に検討を行う予定。
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化				
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○	達成済み	毎年度6月に水防訓練を実施している。（R2・R3は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施		○	未達成	関係機関（消防・警察・消防団）と合同での点検は毎年度行っている。今後は各地域の囃託員や自主防災組織の代表者等と協議し合同で実施できるように検討していきたい。
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○	未達成	R3年度までに資機材の整備を進めてきた。今後は台帳管理を行い情報共有していきたい。
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○	未達成	消防団（水防団）の人材不足解消のための検討を進めていく。
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施				
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○	未達成	
	緊急排水計画の策定			未達成	
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○	未達成	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化				
	自治体の防災担当者間の連携促進		○	達成済み	白川・緑川水防演習や宇城・八代地域での広域避難勉強会等により行っている。
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討				
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定			未達成	国、県との計画のすり合わせや検討会議が必要だと思われる。今後、手法なども含め国、県の計画や接続道路の意見などをいただき検討していきたい。
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援			未達成	該当なし
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援			未達成	該当なし
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援			達成済み	毎年度町の防災訓練（6月）において、合同の避難訓練を行っている。（対象1施設）
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	達成済み	R2年度中央庁舎の非常用発電設備を整備済み。R4年度には本庁舎被災時の代替庁舎となる砥用庁舎の非常用発電設備を整備予定。
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	未達成	全ての学校施設において大規模出水時の被災リスクがないため。
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進				
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充				
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○	達成済み	R2年度に町内3小中学校の依頼により防災教育を実施。
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○	未実施	内容や講師なども含め今後協議させていただきたい。
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充				
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育				
	白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進				
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施		◎	達成済み	国土交通省からの説明を実施。R1.11.11に砥用小において授業実施。R3.3学期に勸徳小学校で実施。
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施		○	未実施	毎年6月に行っている囃託員会議や民生委員児童委員会議では防災教育を実施。今後は自主防災組織代表者研修会や各地区での自主防災組織研修会で実施していきたい。
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○	未実施	現在実施なし。今後検討したい。
	防災ステーションを活用した水防教育等の実施		○	未実施	防災ステーションについて今後必要性について継続し検討していく。
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信				
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化				
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進		○	未達成	今後作成に向けて準備していく。
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○	達成済み	各種関係機関と出水期前に実施。
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立		○	達成済み	出水期前に連絡体制確認。R3年度は職員間連絡アプリを導入し首長や幹部職員含め全職員に双方向で連絡を取り合えるようにした。
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化					
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○	達成済み	防災無線、町HP、RKKデータ放送『デタポン』、町公式LINEにより情報配信を実施中。	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○	達成済み	エリアメールやyahoo防災などの情報入手方法を、地区の代表者（囃託員）や民生委員児童委員、自主防災組織の代表者会議で説明している。R3年度はNHKの防災アプリをNHKの担当者より説明いただいた。	
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○	達成済み	町HPや広報誌、庁舎掲示板、地区公民館での防災情報発信を行った。	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎	未達成	R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。	
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○	達成済み	Lアラート及びデタポンを活用し避難情報を出している。提供情報の内容については、迅速に発信・発令ができるようテンプレート化し災害の種類、状況に応じて	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施					
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○	達成済み	各年度末に名簿の更新を行い、連絡体制の確認を行っている。	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○	達成済み	緑川水防演習協議会による水防演習により実施。	
出水時の河川巡視情報等の共有		○	達成済み	水防団及び各地区囃託員による河川巡視を実施している。5月に行う消防団の幹部会議及び囃託員会議で実施のお願いと連絡体制の確認を行っている。	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備					
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置					
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○	未達成	町内各地域において過去の浸水実績がほとんどないため標識設置の検討で断念。	
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充					
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○	未達成	R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。	
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定					
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○	未達成	R3年度までにある程度の資器材の整備を完了したためR4年度より保有する資器材の台帳整備を開始する。また、台帳の整備完了に合わせ備蓄計画を策定予定。	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本県・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ		取組の達成状況		実施状況のフォローアップ		
作業項目		白川	緑川	※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。 ※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。		
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築					
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築					
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施					
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○	実施済	県内全ての水位周知河川（県管理河川）に係る避難勧告着目型タイムラインをR2年度までに作成済	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○	実施済	水害対応タイムラインを活用した洪水対応演習の実施（R3.5月）※R3年度は宇城市と実施	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○	実施済	県内全市町村を対象に、豪雨対応訓練を実施	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底					
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎		実施済	水位周知河川以外の中小河川についても洪水浸水想定区域図を作成し、避難マニュアルやハザードマップの作成を支援（～R4.3月）	
	ハザードマップの普及・啓発	○	○	実施済	市町村防災担当者説明会でハザードマップの周知等を依頼するとともに、活用できる補助金についても周知	
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○	実施済	水位周知河川以外の中小河川についても洪水浸水想定区域図を作成し、避難マニュアルやハザードマップの作成を支援（～R4.3月）	
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○	実施済	水位周知河川以外の中小河川についても洪水浸水想定区域図を作成し、避難マニュアルやハザードマップの作成を支援（～R4.3月）	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定					
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化					
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○	実施済	水害対応タイムラインを活用した洪水対応演習の実施（R3.5月）※R3年度は宇城市と実施【再掲】	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○	実施済	毎年出水期前に実施（R3年度はコロナの影響により未実施）	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○	実施済	「熊本県水防計画書」に県が保有する水防資材を掲載し、水防管理者へ情報共有（R3.5月）	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施					
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施					
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○	未実施	国と連携して情報共有等を実施	
	緊急排水計画の策定	○	○	未実施	国と連携して必要に対応を実施	
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○	未実施	策定された計画等に基づき、国と連携して必要に対応を実施	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化					
	自治体の防災担当者間の連携促進		○	実施済	県内全市町村を対象に、豪雨対応訓練を実施（再掲）	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討					
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定					
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援					
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援					
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援					
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村舎の機能維持及び機能向上の検討・実施					
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施					
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進					
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進					
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充					
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充					
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充					
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充					
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育					
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進					
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施					
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施					
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及						
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施						
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信						
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信						
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化						
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進						
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施						
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立						
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化						
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○	実施済	市町村が入力した情報を防災情報メール、緊急速報メール、Lアラート、yahoo防災並びにSNS等により配信できるよう、情報伝達手段の多重化に対応		
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○	実施済	「熊本県防災情報メール」によりプッシュ式で情報発信中		
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○	実施済	一人ひとりの避難行動を時系列にまとめた防災行動計画「マイタイムライン」ガイドブックを県ホームページに掲載し、概要版を全世帯に配布。マイタイムラインシートを手軽に作成できる専用WEBサイトも開設。		
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎	実施済	「熊本県防災情報共有システム」を運用中		
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○	実施済	県の水位周知河川について避難判断水位、氾濫危険水位に到達した際や氾濫発生を確認した際は、随時報道機関へ情報提供を実施中（継続）		
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施						
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○	実施済	出水期前に実施する水防連絡会においてホットラインの連絡体制を確認（継続）		
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施						
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○	実施済	県の水位周知河川について避難判断水位、氾濫危険水位に到達した際や氾濫発生を確認した際は、水防警報や水位到達情報等により、市町村や報道機関へ情報提供を実施中（継続）		
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備						
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置						
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置						
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充						
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討						
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定						
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定						

ソフト対策

ハード対策

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】気象台・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ				取組の達成状況		実施状況のフォローアップ	
作業項目		白川	緑川	※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。 ※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。			
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築						
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築						
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施						
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○	未達成	取組期間中に、協力依頼がなかったため未達成だが、引き続き取組項目とすることから、トリガー情報としての気象情報の見直し等必要であれば、気象台を活用いただきたい。		
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○	達成済	熊本大学公開講座（タイムライン）へ協力（R1.12）		
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○	達成済	甲佐町防災講座（R1.6）		
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底						
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成						
	ハザードマップの普及・啓発						
	地域版ハザードマップの普及・啓発						
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発						
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定						
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化						
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○	未達成	取組期間中に、協力依頼がなかったため未達成だが、引き続き取組項目とすることから、もし訓練シナリオ作成の依頼があれば、気象台を活用いただきたい。		
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施						
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有						
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施						
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施						
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討						
	緊急排水計画の策定						
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○	未達成	取組期間中に、協力依頼がなかったため未達成だが、引き続き取組項目とすることから、もし訓練シナリオ作成の依頼があれば、気象台を活用いただきたい。		
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化						
	自治体の防災担当者間の連携促進						
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討						
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定						
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援						
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援						
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援						
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村舎の機能維持及び機能向上の検討・実施							
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施							
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進							
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進							
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充							
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○	達成済	龍田西小学校気象講座（R1.9）、熊本大学夢科学探検への協力（R1.11）、熊本マリスト中学校への出前講座（R1.12）			
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○	未達成	取組期間中に、協力依頼がなかったため未達成だが、引き続き取組項目とすることから、出前講座等の協力依頼があれば対応していく。			
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○		未達成	取組期間中に、協力依頼がなかったため未達成だが、引き続き取組項目とすることから、出前講座等の協力依頼があれば対応していく。			
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育							
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進							
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施						防災教育講習会へ協力（R1.8）	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	○	達成済	自助力強化キャラバンステージイベントへの協力（R1）			
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及						白川水防災体験行事への協力（R2、R3はコロナで中止）	
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施							
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信							
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信							
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化							
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進	○	○	未達成	取組期間中に、協力依頼がなかったため未達成だが、引き続き取組項目とすることから、タイムライン利用の際、気象情報等への質問があればぜひ活用いただきたい。			
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○	達成済	出水期前に洪水予報対応演習を熊本河川国道事務所と共同で実施			
市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立	○	○	達成済	出水期前にホットライン（電話番号、担当者）確認を実施			
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化							
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施							
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知							
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進							
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎	達成済	随時協力し、すでに運用開始している			
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○	達成済	出水期前に実施			
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施							
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○	達成済	出水期前に洪水対応演習を実施			
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○	達成済	熊本県大雨対応訓練へ協力（R1、R2、R3）			
出水時の河川巡視情報等の共有							
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備						
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置						
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置						
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充						
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討						
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定							
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定							

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】九州地方整備局・前5年間の取組方針の実施状況フォローアップ				取組の達成状況		実施状況のフォローアップ	
作業項目		白川	緑川	※1) 「取組の達成状況」が「達成済み」の取組は、「実施した内容」、「実施時期」を記載してください。 ※2) 「取組の達成状況」が「未達成」の取組は、「達成できなかった理由」や「今後の取組予定」を記載してください。			
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築						
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築						
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施						
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○	達成済み	水害対応タイムラインを活用した洪水対応演習で検証を実施（毎年5月頃に実施）		
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○	達成済み	市町の水防避難訓練の支援（H30, R1, R2）		
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○	達成済み	洪水対応演習で防災担当職員の自身の役割や職務内容を確認している。		
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底						
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎	◎	達成済み	国管理区間の想定最大規模（L2）の洪水浸水想定区域図（白川、緑川）を公表済み（H29作成済）		
	ハザードマップの普及・啓発	○	○	達成済み	流域自治体のL2洪水ハザードマップ作成の検討支援を行った。（R3までに全市町公表済み）		
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○	達成済み	自治会開催の防災会議にて説明を実施（H31 向山地区）		
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○	未達成	関係機関・自治会等からの要請に応じて支援する。		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定						
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化						
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○	達成済み	白川・緑川総合水防演習において関係機関が連携した水防訓練を実施（毎年5月頃に実施）		
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○	達成済み	白川・緑川重要水防箇所合同巡視を実施（毎年4月～5月頃に実施）		
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○	達成済み	水防連絡会で情報共有を実施（毎年5月頃に実施）		
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施						
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施						
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○	達成済み	水防連絡会で情報共有を実施（毎年5月頃に実施）		
	緊急排水計画の策定	○	○	達成済み	排水作業準備計画書をR1に作成済み、		
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○	未達成	市町にて排水ポンプ車の配置可否を確認していない		
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化						
	自治体の防災担当者間の連携促進		○	達成済み	関係機関の顔の見える担当者様式を継続して作成		
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討						
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定	○	○	達成済み	計画立案済み（提示済み）、※）市町にて可否を確認していない		
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援						
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援						
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援						
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	達成済み	各市町の庁舎の地盤高や浸水深等を調査して様式を整理（H28）		
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○	達成済み	各市町の避難所の地盤高や浸水深等を調査して様式を整理（H28）		
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進						
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進						
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充						
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○	達成済み	流域内市町の小学校への出前講座を実施（H30；富合小学校、R1；嘉島中学校、R2；御船小学校など）		
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○	達成済み	自治会等への出前講座を実施（H30；善町自治会）		
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○		達成済み	NPO法人と連携した啓発活動を実施（R1.6まちなか防災2019など）		
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育						
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進	○		達成済み	白川親子流域体験学習を開催（R1.10など）		
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎	◎	達成済み	令和2年度には全ての関係自治体で防災学習支援教材を使用した試行授業を実施		
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	○	達成済み	自治会等への出前講座を実施（H30；善町自治会）		
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○	達成済み	白川や緑川をフィールドに親子流域体験学習を開催（R1.8など）			
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	○	未達成	地域の防災教育等による活用方法を検討する。			
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信							
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信							
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化							
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進	○	○	達成済み	毎年の水防訓練において活用			
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○	達成済み	毎年所長と首長とでホットライン訓練を実施（R2；嘉島町）			
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○	達成済み	白川・緑川沿川市町ホットライン一覧を毎年作成			
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化							
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○	達成済み	R1よりTwitterを活用した情報発信を実施			
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○	達成済み	H30.5より緊急速報メールの配信を開始			
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○	達成済み	ホームページ、大型ビジョン等に防災マニュアル等の防災情報を掲出			
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎	達成済み	河川の防災情報の提供に特化した情報提供ツールとして、白川緑川防災情報提供システムを構築・運用			
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○	達成済み	報道機関との防災情報の提供のあり方について勉強会を開催（H30.6、R1.8など）			
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施							
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○	達成済み	洪水対応演習の中で関係機関との連絡体制を確認している			
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○	達成済み	毎年、白川・緑川総合水防演習を実施			
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○	未達成	今後、関係機関への共有方法を検討する。			
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備							
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置							
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○	達成済み	浸水シール（本山区）で貼り付け済み			
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充							
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討							
3-⑤迅速かつ確実な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定							
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○	達成済み	毎年、出水期前に備蓄している水防資機材の現状把握（保有量の把握）を実施			

令和3年度以降の各機関の取組工程表(各機関毎)

【白川・緑川水防意識社会再構築協議会】熊本市・新5年間の減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限	令和4年3月17日更新
作業項目		白川	緑川	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度					備考		
幹事会 (○)															
協議会 (◎)			◎												
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築														
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○												
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○												
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○												
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎	◎												
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎	◎												
	ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	○	○												
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎	◎												
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○												
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施	○	○												
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○												
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○	○												
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○												
	緊急排水計画の策定	○	○												
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○												
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化														
	自治体の防災担当者間の連携促進		○												
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討														
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定、認定路線における対象橋梁の耐震化	○	○													
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援	○														
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○														
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○	○													
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○													
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○													
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進															
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進															
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充															
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○													
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○													
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○														
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育															
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進	○														
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎	◎													
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○	○													
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○													
防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○	○													
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化															
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○	○													
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○													
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○													
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化															
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○													
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○													
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○													
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎													
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○													
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施															
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○													
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○													
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○													
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置															
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○													
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充															
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○														
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○													

【白川・緑川水防意識社会再構築協議会】宇城市・新5年間の減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限	令和4年3月3日更新
作業項目		白川	緑川	R3年度	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	R7年度	備考
幹事会 (○)															
協議会 (◎)			◎												
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築														
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○												作成したタイムラインによる実際の対応後に検証を行っていく
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○												
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○												
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎												達成済
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成		◎												広域避難に関して、関係市町と今後、幹事会を通して話をしていく。
	ハザードマップの普及・啓発														
	地域版ハザードマップの普及・啓発														
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎												
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○												
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施		○												
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○												
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○												
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○												
	緊急排水計画の策定														
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○												
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化														
	自治体の防災担当者間の連携促進		○												
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討														
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															
地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進															
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進															
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充															
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○													
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○													
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育															
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進															
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施		◎													
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施		○													
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○													
防災ステーションを活用した水防教育等の実施															
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化															
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進		○													
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○													
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○													
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化															
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○													
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○													
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○													
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎													
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○													
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施															
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○													
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○													
出水時の河川巡視情報等の共有															
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置															
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○													
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充															
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○													
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○													

【白川・緑川水防意識社会再構築協議会】嘉島町・新5年間の減災に係る取組工程全体スケジュール		令和4年3月3日更新														
作業項目		8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	備考			
		R3年度			R4年度			R5年度			R6年度			R7年度		
幹事会 (○)																
協議会 (◎)		◎														
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○											(継続的に実施)			
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○											検討実施			
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○											研修・訓練の実施			
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎												・国や県・気象台などが実施する研修や訓練に参加することで対応。		
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎												・R3.4作成。		
	ハザードマップの普及・啓発													・水防避難マニュアル(仮)の検討予定		
	地域版ハザードマップの普及・啓発													・全戸配布及びホームページ掲載(R3.4)		
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発													・町域が狭いため各地域版のハザードマップなどの策定予定はなし。		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎												(継続的に実施)		
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○												(継続的に実施)		
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施	○												(継続的に実施)		
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○												(継続的に実施)		
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○												(継続的に実施)		
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○													排水施設の情報共有、手法の検討	
	緊急排水計画の策定														緊急排水計画を踏まえた課題に対する検討	
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○													検討実施	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
	自治体の防災担当者間の連携促進	○													各種会議を活用した連携強化	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定														緊急防災道路の検討	
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援														緊急防災道路の認定(調整)		
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援														要配慮者利用施設への避難確保計画の作成、避難訓練の支援		
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○													検討		
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○													検討		
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○													出前講座の実施・拡充		
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○													啓発活動の実施・拡充、各種イベントへの参加呼びかけ		
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎													教育委員会調整		
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○													学習・水防教育の実施		
住民団体・NP0等と連携した川の安全な体験活動の普及	○													体験活動の推進と普及に向けた取組の実施		
防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○													防災ステーション設置検討、随時、流域自治体に拡大		
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○													検討・随時見直し		
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○													洪水対応演習を活用した訓練等の実施		
市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立	○													継続実施(首長補佐間、課長間、担当之間)		
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報入手できる手段の検討・実施	○													情報伝達方法の検討、実施		
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○													緊急通報メール等を継続して活用		
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○													定期的な防災情報を掲載		
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎													検討、一元的に集約した情報ツールの確認、実施		
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○													情報提供手法の検討・実施		
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○													連絡体制の確認		
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○													水防演習の実施		
出水時の河川巡視情報等の共有														一元化に集約した情報ツールを活用した情報共有の実施		
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○													設置可能地域の抽出、設置、(「まるごとまちごとハザードマップ」の実施)		
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○													防災無線更新(設計・工事)		
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○													備蓄状況の確認		
														備蓄計画の策定、必要資機材の整備		
														・現在の備蓄箇所では、さらなる備蓄を許容できるスペースが確保できないため、新たな備蓄スペースを確保する必要あり。		

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】甲佐町・新5年間の減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限	令和4年3月4日更新	
作業項目		白川	緑川	R3年度	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	備考		
幹事会 (○)																
協議会 (◎)			◎													
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○												・詳細版タイムラインの検討中	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○												・タイムライン完成後、関係機関等との勉強会や協議会が完成後、訓練の実施を検討。	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○												・県の研修に積極的参加（スキルアップ研修など）。また、新規防災担当職員の防災士資格取得予定。	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎													・R2.10-12対応のハザードマップを各戸に配布。
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成		◎													・検討中。※R3.8開催の美里町との広域連携協定を締結
	ハザードマップの普及・啓発															・12対応のハザードマップを各戸に配布、役場ホームページにも掲載、チラシ作成全戸配布、熊日新聞に掲載。
	地域版ハザードマップの普及・啓発															・防災士と連携し実施。
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発															・他市町との調整が必要
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎													・引き続き検討
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○													出水期前に緑川水防演習を実施
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施		○													引き続き検討
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○													出水期前に消防団行事として実施
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○													加入促進活動を継続的に実施中。※R4.3国の要請に基づき、消防団員の報酬の見直しを予算化
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○													消防団、役場建設課等、担当間で情報共有、排水手法を検討（①R3.12下横田に排水ポンプ場を整備、R4.3建設課協会と災害時の排水ポンプ場における支援活動に関する協定締結予定 ②有安地区にポンプ排水、遊水地検討 ③甲佐小学校には浸透型の雨水貯留施設を整備済）
	緊急排水計画の策定															
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○													
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
	自治体の防災担当者間の連携促進		○													町ごと担当者間での情報共有。 ※美里町とは、包括連携協定（R3.8）に基づき防災担当者間で意見交換を実施（R3.12.6）
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															国道443号及び県道高島甲佐線等を検討
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															R2.8避難確保計画は100パーセント作成済。複数の施設で訓練実施。
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													引き続き検討	
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													引き続き検討	
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○													小中高校と連携し防災研修の支援を実施。（ワークショップ、防災公開授業、その他小学校の避難訓練時に講話を実施。）防災士とも連携。	
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○													緑川の歴史をテーマに町史歴史研修会を随時開催（社会教育課と連携）	
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															学校教育課と連携して実施	
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進																
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施		◎													教育委員会と引き続き連携し防災教育を実施	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施		○													緑川の歴史をテーマに町史歴史研修会を開催。公民館講座（社会教育課）で町民に防災講話を実施。	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○													防災士を活用するなどして実施	
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施		○													緑川沿いに、防災ステーション（有安地区、上揚地区）を建設中※緑川本川で初めてとなる「河川防災ステーション整備計画」が登録（国交省）	
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進		○													検討・随時見直し	
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○													洪水対応演習を活用した訓練等の実施	
市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立		○													継続実施（首長補佐間、課長間、担当者間）	
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○													町ホームページ、SNS、ツイッターにて情報提供を実施。※R3.3から新たな情報発信（こうき情報たしかめー）にて配信中。	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○													R3.3から新たな情報発信（こうき情報たしかめー）にて配信中。	
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○													広報紙や町ホームページで防災情報を継続的に掲載中	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎													町ホームページに「国交省ホームページ（緑川水位、雨量情報、緑川ライブカメラ）」へのリンクを貼付。	
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○													1アラートを活用	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○													連絡体制の確認	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○													水防演習の実施	
出水時の河川監視情報等の共有															一元化に一元的に集約した情報ツールを活用した情報共有の実施	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															役場ホームページに「国交省川の情報」等のホームページをリンク	
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○													※R4年度に町内及び指定避難所にリアルハザードマップ（表示板）の設置を予定	
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○													情報伝達状況の検証、検証を踏まえた新設・増設	
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															①個別受信機の新規購入 ②新たな情報発信（こうき情報たしかめー）の機能強化を推進	
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○													①緑川沿いに、防災ステーション（有安地区、上揚地区）を建設中。 ②備蓄倉庫を指定避難所（小中学校）に設置予定（R3年度中）	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】美里町・新5年間の減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限	令和4年3月4日更新									
作業項目		白川	緑川	R3年度	4月	8月	R4年度	4月	8月	R5年度	4月	8月	R6年度	4月	8月	R7年度	12月	備考						
幹事会 (○)																								
協議会 (◎)			◎																					
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																							
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																							
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																							
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○																訓練実施後に庁内協議を行い、検証を行ったうえで見直しに着手していく。					
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○																	6月に実施する防災訓練時に併せて実施できるよう調整していく。				
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○																	各種防災研修等への参加や、職員防災訓練等の実施を検討していきたい。				
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底																							
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎																		R4年度にL2対応ハザードマップに更新予定。			
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成		◎																		関係機関や近隣自治体と協議し検討していく。			
	ハザードマップの普及・啓発																				継続的に行っていく。			
	地域版ハザードマップの普及・啓発																				町内の防災士や自主防災組織リーダーと協議を行っていく。			
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発																				今後検討する。			
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎																		L2対応のハザードマップ配布後に自主防災組織のリーダー等と協議し検討していく。			
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																							
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○																			6月に行う町の防災訓練に併せて関係機関や自主防災組織と連携し実施していく。		
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施		○																			6月に行う町の防災訓練時に併せて実施を検討していく。		
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○																			継続的に随時更新でできるよう、河川管理者等と協議していく。		
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○																			水防団は消防団員が兼ねているが、消防団員の減少に歯止めがかからない。		
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																							
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○																				担当課及び地区の管理者と情報共有しながら検討する。	
	緊急排水計画の策定																						担当課及び地区の管理者と情報共有しながら検討する。	
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○																				担当課及び地区の管理者と情報共有しながら検討する。	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																							
	自治体の防災担当者間の連携促進		○																				広域避難の枠組みを生かし検討していきたい。	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																							
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																						広域的な検討や認定が必要となってくる。国や県の計画を参考に検討したい。	
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																							
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																							
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																						L2ハザードマップを活用しR5年度までに計画策定を行い継続的に訓練を実施したい。	
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○																				必要なものがあれば検討し実施していく。	
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○																				必要なものがあれば検討し実施していく。		
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																								
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																								
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																								
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○																					実施に向けて関係機関と講師や日程等を調整したい。	
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○																					実施に向けて関係機関と講師や日程等を調整したい。	
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																								
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																								
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進																								
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施		◎																					R4年度より町内3小学校で継続的に実施したい。	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施		○																					関係機関や自主防災組織、消防団等と実施に向け協議を行いたい。	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○																					関係機関と協議する必要がある。	
防災ステーションを活用した水防教育等の実施		○																					防災ステーション設置の必要性検討。	
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業・的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																								
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																								
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																								
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用の推進		○																						出水期前に確認・更新を行う。
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○																						出水期前に実施。
市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立		○																						出水期前に確認・更新を行う。
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																								
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○																						R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○																						R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○																						R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎																						R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○																						R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																								
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○																						関係機関と連携し、毎年、実施している。（緑川水防演習）
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○																						関係機関と連携し、毎年、実施している。（緑川水防演習）
出水時の河川巡視情報等の共有																								水防団（消防団）と連携し行っている。
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																								
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																								
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○																						設置については今後検討したい。
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																								
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○																						R3年度より検討に着手。R4年度より検討委員会を立ち上げ整備計画に着手予定。
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																								
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○																						随時更新が行えるよう計画の策定を検討する。

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本県・新5年間の減災に係る取組工程表全体スケジュール		8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月												令和4年3月17日更新	
作業項目		白川	緑川	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	備考						
幹事会 (○)															
協議会 (◎)			◎												
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築														
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○												
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○												
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○												
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成														
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎													
	ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○												
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定														
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○												
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施	○	○												
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○												
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施														
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○												
緊急排水計画の策定	○	○													
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○													
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
自治体の防災担当者間の連携促進	○														
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															
地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村舎の機能維持及び機能向上の検討・実施															
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施															
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進															
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進															
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充															
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充															
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育															
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進															
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施															
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施															
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及															
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施															
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化															
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進															
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施															
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立															
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化															
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○													
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○													
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○													
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎													
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○													
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施															
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○													
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施															
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○													
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置															
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置															
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充															
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討															
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定															
ハード対策															

【白川・緑川水防意識社会再構築協議会】気象台・新5年間の減災に係る取組工程表全体スケジュール			8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月												令和4年2月25日更新
作業項目			白川	緑川	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	備考					
幹事会 (○)															
協議会 (◎)				◎											
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し			○	○										
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施			○	○										
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施			○	○										
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成														
	ハザードマップの普及・啓発														
	地域版ハザードマップの普及・啓発														
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定														
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施			○	○										
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施														
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有														
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施														
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討														
	緊急排水計画の策定														
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施			○	○										
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
自治体の防災担当者間の連携促進															
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															
地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村舎の機能維持及び機能向上の検討・実施															
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施															
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進															
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充															
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充			○	○											
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充				○											
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充			○												
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育															
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進															
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施															
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施			○	○											
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及															
防災ステーションを活用した水防教育等の実施															
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化															
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進			○	○											
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施			○	○											
市町長だけでなく、副市長、防災担当部長等とのホットラインの確立			○	○											
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化															
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施															
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知															
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進															
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備			◎	◎											
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施			○	○											
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施															
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認			○	○											
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施			○	○											
出水時の河川巡視情報等の共有															
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置															
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置															
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充															
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討															
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定															

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】九州地方整備局・新5年間の減災に係る取組工程表全体スケジュール			現時点										令和4年3月17日更新		
作業項目			8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	備考	
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標達成期限							
幹事会 (○)															
協議会 (◎)		◎													
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築														
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○												
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○												
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○												
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎	◎												
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成														
	ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	○	○												
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定														
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○												
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施	○	○												
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○												
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施														
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○												
緊急排水計画の策定	○	○													
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○													
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
自治体の防災担当者間の連携促進	○														
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○														
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○														
ハード対策	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進														
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進														
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充														
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○												
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○												
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○													
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育														
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進	○													
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎	◎												
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○	○												
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○												
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	○												
	ハード対策	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信													
		・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信													
		3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化													
		水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○	○											
		毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○											
		市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立	○	○											
		3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化													
		多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○											
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○	○												
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○	○												
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎	◎												
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○	○												
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施															
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○	○												
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○	○												
出水時の河川巡視情報等の共有		○	○												
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置															
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○	○												
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充															
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討															
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○													

【熊本水防区大規模氾濫減災協議会】 減災に係る取組みのフォローアップ（令和3年度まで）

取組事項	実施主体		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
	熊本県	熊本市					
幹事会開催（○） 協議会開催（◎）				○ ◎	○ ◎	○ ◎	○
1. 熊本水防区内河川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための「計画策定」や、地域コミュニティの活性化による「避難体制の構築」							
1-① 情報伝達、避難計画等に関する発令に着目した水害対応タイムライン等の作成・検証・見直しや訓練の実施	平成30年度に「白川における水害タイムライン」を作成し、令和2年度に「管内全ての水位周知河川における水害タイムライン」を作成。	◎	◎				
	要配慮者利用施設の避難確保計画について、熊本市と協力しながら「要配慮者施設のピックアップ」、「要配慮者使用施設の避難確保計画作成支援」を実施。令和3年度末時点で概ね完成。	◎	◎				
1-② 想定しうる最大規模の洪水を踏まえたハザードマップの作成・改善及び周知徹底	平成30年度から平成元年にかけて水位周知河川において「想定最大規模の洪水浸水想定区域図」を作成。これをうけて熊本市において「統合型ハザードマップによる想定最大規模の浸水想定周知」を実施。また、令和3年度に水位周知河川以外の河川についても「洪水浸水想定区域図」を作成し周知を実施。	◎	◎				
1-③ 円滑かつ迅速な避難に資する施設等の整備	平成30年度に、簡易型河川監視カメラを設置（11基新設）、危機管理型水位計を設置（3基新設）した。令和2年度に簡易型河川監視カメラをの増設（3基新設）。また、熊本市においても河川監視カメラの整備を実施。今後も要望等にあわせて設置を検討。	◎	◎				
1-④ 水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化	令和2年度に「水防資機材保有量及び保管場所の見える化」を行い各資材の保管場所及び水防資材数等の情報の共有化を実施。	◎	◎				
2. 水位が上昇や特徴の異なる複数の河川が流れる熊本水防区（熊本市街部）の流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、「正確でわかりやすい防災情報の発信」							
2-① 関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化	令和2年度に水位情報における氾濫発生情報の発表及び実情に合わせた「ホットラインの見直し」、「ホットラインの訓練」を実施。	◎	◎				
3. 関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための「施設整備」							
3-① 大規模出水時における河川管理施設整備の実施	適正な河道断面を確保するため、「重要水防区間の河道掘削」等を実施。また、熊本市においても「災害時SNS（LINE）の活用促進」等を実施。	◎	◎				

上益城水防区水防災意識社会再構築協議会 減災に係る取組のフォローアップ(令和3年度まで)

令和4年3月23日時点

実施する施策	具体的取組	取組機関	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	備考	
ア 大規模氾濫減災協議会の設置	平成30年出水期までに、既に設置されている「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく協議会を、改正水防法に基づく「都道府県大規模氾濫減災協議会」へ移行。(※規約上に水防法に基づき組織された協議会であることを明記。また、対象となる河川、協議会の構成員等を記載。)	全て	◎	○	◎	○◎	○◎	◎	◎:協議会開催 (H30年6月1日に水防法に基づく協議会に移行) (R2、R3は新型コロナウイルス感染防止対策のため書面のみ) ○:幹事会開催
	毎年、協議会を開催して以下の各項目の取組状況をフォローアップし、必要に応じて取組方針の見直しを実施。	全て							
イ 洪水時における河川管理者からの情報提供等(ホットラインの構築)	協議会の場合を活用し、平成30年出水期までに、水位周知河川の沿川の町と河川管理者において、ホットラインを構築。	県・対象町							・H30年6月1日に、ホットライン構築。
ウ 避難勧告等発令の対象区域、判断基準等の確認(水害対応タイムライン)	協議会の場合等を活用して、平成30年度中に水位周知河川の沿川等で対象となる町を検討・調整し、平成33年度までに水害対応タイムラインを作成。	県・対象町							・H31年1月に、大雨及び台風に対するタイムラインを作成。
	訓練等の実施により明らかになった課題等を踏まえて、避難勧告発令基準や水害対応タイムライン等を見直し。	県・対象町							
エ 水害危険性の周知促進	平成33年度を目途に、近年、浸水被害が発生した河川等について、新たに簡易な方法も活用して河川水位等の情報を提供。	県							・H30年度:危機管理型水位計を7基(秋津川、赤井川、岩戸川、竜野川、五郎ヶ滝川、笹原川、大矢川)設置。 ・R1年度:簡易型監視カメラを6基(御船川、木山川、岩戸川、竜野川、矢形川、千滝川)設置。 ・R2年度:簡易監視型カメラを1基(木山川)追加設置。
	協議会の場合を活用し、水位周知河川の追加について検討を行う。	全て							
オ 要配慮者利用施設における避難計画の作成及び避難訓練の実施	平成33年度までに対象の要配慮者利用施設における避難確保計画の作成・避難訓練の実施を目指す。	御船町							対象要配慮者利用施設:29(全て避難確保計画策定済)
		嘉島町							対象要配慮者利用施設:46(全て避難確保計画策定済)
		益城町							対象要配慮者利用施設:20(全て避難確保計画策定済)
		甲佐町							対象要配慮者利用施設:40(全て避難確保計画策定済)
		山都町							対象要配慮者利用施設:1(全て避難確保計画策定済)
		県							
カ 想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と周知	水位周知河川について、今後5年間で想定最大規模の降雨による浸水想定区域図等を、順次作成・公表。	県							・平成31年3月、水位周知河川4河川の浸水想定区域図を作成済。 ・令和3年6月、木山川の浸水想定区域図を修正。 ・水位周知河川以外の河川は、引き続き検討する
キ 水害ハザードマップの改良、周知、活用	想定最大規模の洪水による浸水想定区域図が作成された場合は、町において当該浸水想定に基づく水害ハザードマップを作成・周知。	御船町							・水害ハザードマップ(想定災害規模) 県管理河川分は作成中(令和5年度公表予定)
		嘉島町							・水害ハザードマップ(想定災害規模)作成済
		益城町							・水害ハザードマップ(想定災害規模)作成済。 ・令和3年6月、浸水想定区域図の修正に伴いハザードマップ更新。
		甲佐町							・県管理河川の浸水想定区域図(想定最大規模)が未作成
		山都町							・水害ハザードマップ(想定災害規模)作成中(令和5年度公表予定)
ク 堤防と河川管理施設の整備(洪水氾濫を未然に防ぐ対策)	熊本地震及びH28年6月豪雨等により甚大な被害が発生した河川管理施設の復旧工事を着実に推進する。	県							令和3年5月、河川管理施設の復旧工事完了

令和 3 年度

水防連絡会及び洪水予報連絡会 活動報告

令和 4 年度

水防連絡会及び洪水予報連絡会 活動計画

令和3年度 出水実績

熊本河川国道事務所災害対策支部

・体制発令状況

	日付	原因	体制発令状況				対象観測所	ピーク水位	ピーク時間		水位種別
			注意	警戒	非常	解除					
1	2021/5/17	梅雨	3:41	6:30			御船	4.02	5月17日	7:30	避難判断水位
	城南						3.81	5月17日	8:40	水防団待機水位	
	大六橋						2.62	5月17日	11:00	水防団待機水位	
	代継橋						3.17	5月17日	10:10	水防団待機水位	
	2021/5/17				18:21						
2	2021/5/20	梅雨	9:05				代継橋	2.79	5月20日	21:20	水防団待機水位
	御船						2.02	5月20日	20:10	水防団待機水位	
	2021/5/21				8:03						
3	2021/5/27	梅雨	3:15								
	2021/5/27										
4	2021/7/9	梅雨	9:42								
	2021/7/11										
5	2021/8/1		1:35								
	2021/8/1										
6	2021/8/7		18:02								
	2021/8/7										
7	2021/8/8	台風	6:00								
	2021/8/9										
8	2021/8/11		16:10	10:50			大六橋	3.04	8月11日	19:20	水防団待機水位
	城南						4.44	8月13日	12:30	氾濫注意水位	
	中甲橋						2.78	8月13日	12:10	水防団待機水位	
	御船						2.81	8月13日	12:10	水防団待機水位	
	代継橋						2.92	8月13日	13:50	水防団待機水位	
	2021/8/13		16:30								
9											
10											
合計			9	2	0	7					

・水防警報発令状況

	日付	発令河川	対象水位観測所	水防警報発令状況					
				待機	(待機)	準備	出動	警戒	解除
1	2021/5/17	御船川	御船	6:30	9:30		6:40		11:00
	2021/5/17	緑川	城南	8:00					11:00
	2021/5/17	白川	代継橋	8:10					11:50
2									
合計			7	3	0	1	0	3	

・洪水予報発令状況

	日付	発令河川	対象水位観測所	洪水予報発令状況								
				はん濫注意情報		はん濫注意情報 (警戒情報解除)		はん濫警戒情報		はん濫危険情報	発生情報	解除
1	2021/5/17	御船川	御船	6:40		9:00		7:10				11:20
2												
合計			2	1								1

白川・緑川水系における既往洪水の出水状況(最高水位)

水系	白川							
河川名	白川							
観測所名	代継橋		子飼橋		陣内		立野	
はん濫危険水位	5.0m		—		—		—	
避難判断水位	4.7m		—		—		—	
はん濫注意水位	3.7m		—		—		—	
水防団待機水位	2.5m		—		—		—	
順位	m	年月日	m	年月日	m	年月日	m	年月日
1位	6.32	H24.7.12	7.59	H24.7.12	8.17	H24.7.12	※	H24.7.12
2位	5.88	S55.8.30	6.84	H2.7.2	7.66	S55.8.30	5.48	S55.8.30
3位	5.78	H2.7.2	6.47	S55.8.30	7.24	S57.7.24	5.38	H28.6.21
4位	5.52	S52.6.16	6.42	S57.7.24	6.93	H28.6.21	4.82	S52.6.16
5位	5.43	S46.7.22	5.82	H28.6.21	6.91	H2.7.2	4.81	R2.7.8
6位	5.4	S47.7.6	5.7	S47.7.6	6.72	S37.8.10	4.69	H19.7.7
7位	5.4	S57.7.24	5.68	S52.6.12	6.51	S52.6.16	4.58	S57.7.24
8位	5.22	S50.6.25	5.56	H5.6.18	6.30	S50.6.25	4.52	H13.6.29
9位	4.95	S55.7.30	5.53	H9.7.10	6.28	S55.7.30	4.50	H5.6.18
10位	4.93	H19.7.7	5.5	S46.7.22	6.20	S46.7.22	4.45	H9.7.10

※H24.7.12の立野については、欠測のために記録なし

水系	緑川							
河川名	緑川				加勢川		御船川	
観測所名	城南		中甲橋		大六橋		御船	
はん濫危険水位	6.2m		4.6m		4.4m		4.3m	
避難判断水位	5.8m		4.1m		3.9m		3.6m	
はん濫注意水位	4.3m		3.0m		3.2m		3.0m	
水防団待機水位	3.3m		2.0m		2.5m		2.0m	
順位	m	年月日	m	年月日	m	年月日	m	年月日
1位	6.55	S47.7.6	5.07	H19.7.6	4.96	S63.5.3	6.46	S63.5.4
2位	6.05	S57.7.24	4.39	H28.6.21	4.96	H9.7.10	5.74	S49.7.16
3位	5.84	H19.7.6	4.10	S47.7.6	4.87	S57.7.24	4.32	H28.6.21
4位	5.62	H28.6.21	4.02	H18.6.24	4.86	H2.7.2	4.20	S52.8.9
5位	5.37	S63.5.3	3.91	S39.8.24	4.59	H3.7.1	4.15	S55.8.30
6位	5.32	S40.6.30	3.86	S40.6.30	4.46	S62.7.18	4.02	R3.5.17
7位	5.30	S39.8.24	3.83	H17.9.6	4.44	H7.7.4	3.99	S50.6.25
8位	5.19	H18.6.24	3.81	S37.7.6	4.32	S47.7.6	3.97	S50.6.21
9位	5.00	H7.7.4	3.64	S57.7.24	4.32	H5.6.18	3.86	H19.7.6
10位	4.94	R2.7.11	3.57	S63.5.3	4.12	S60.7.9	3.85	R1.6.30

令和3年度 水防連絡会及び洪水予報連絡会活動報告

1. 活動状況

- (1) 白川・緑川水防連絡会及び洪水予報連絡会
(令和3年5月10日) ※Web開催
- (2) 白川・緑川洪水対応演習 (令和3年5月11～12日)
- (3) 緑川水防演習 個別で実施
 熊本市水防訓練 (新型コロナ対応の為中止)
 熊本県総合防災訓練 (新型コロナ対応の為中止)
- (4) 白川・緑川重要水防箇所合同巡視 (新型コロナ対応の為中止)
- (5) 白川水防災体験行事 (新型コロナ対応の為中止)

2. 令和3年度 洪水予報について

<令和3年度の洪水予報発令状況>

白川 なし

緑川 令和3年5月17日 御船

3. 令和3年度 水防警報について

<令和3年度の水防警報発令状況>

白川 令和3年5月17日 代継橋

緑川 令和3年5月17日 御船、城南

2022年度 洪水予報・水防関係 行事实施予定

熊本河川国道事務所

実施項目	実施機関	実施日	場所	実施概要
白川・緑川水防連絡会	白川・緑川水防連絡会	4月26日	Web 併用開催	国土交通省、県、市町との連絡会議
白川・緑川洪水予報連絡会	白川・緑川洪水予報連絡会	4月26日	Web 併用開催	白川・緑川の洪水予報に関する連絡会議 国土交通省、気象台、県、市町、九電、JR、NTT、NHK、自衛隊
広報活動 (ポスター等)	国土交通省 熊本河川国道事務所	水防月間中 (5月1日～31日)		ポスター、チラシの配布 (白川・緑川流域市町等) 横断幕の掲示
まちなか防災2022	白川流域リバーネットワーク	6月18日～19日	熊本市内	パネル展
水防災体験行事	白川緑川流域市町	9月末～10月中旬頃	白川緑川流域内	内容については検討中
水防演習の実施	緑川流域市町村	5月15日	緑川河川敷 (釈迦堂橋付近) 嘉島町	「緑川水防演習」を実施
	熊本市	5月18日	白川右岸 小島河川防災センター敷地内	「熊本市水防訓練」を実施
	熊本県	10月下旬～11月上旬		「熊本県総合防災訓練(図上訓練)」を実施
洪水予報、水防警報等の「洪水対応演習」実施	国土交通省 熊本河川国道事務所	5月10日 11日		出水時の水防警報、洪水予報の伝達演習 国土交通省、県、関係市町
重要水防箇所合同巡視	国土交通省 熊本河川国道事務所	5月下旬	白川水系	重要水防区域及び水防資材備蓄箇所の点検
		5月下旬	緑川水系	国土交通省、県、流域市町、防災エキスパート

実施項目	実施機関	実施日	場所	実施概要
熊本ブロック洪水予報担当者会議	熊本河川国道事務所 八代河川国道事務所 菊池川河川事務所 熊本地方気象台	未定		洪水予報の円滑かつ確実な実施のための連絡調整
防災に関する広報活動	各機関	適宜実施		防災に関する取組等について、各機関が積極的に広報活動を実施
水防災意識社会再構築協議会（幹事会）	白川緑川流域市町 熊本県、熊本河川国道事務所、緑川ダム管理所, JR, 九電	年1回 (年1回)		『水害に強いまちづくり』と『迅速で的確な避難行動』を目指し、各取り組みを実施

白川・緑川水系
防災情報等の伝達について

白川・緑川水系 基準水位観測所諸元

基準水位

(単位：m)

河川名	観測所名	零点高	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	避難判断 水位	氾濫 危険水位	計画 高水位
白川	代継橋	7.656	2.50	3.70	4.70	5.00	6.680
緑川	中甲橋	32.480	2.00	3.00	4.10	4.60	5.913
	城南	3.305	3.30	4.30	5.80	6.20	7.350
加勢川	大六橋	2.119	2.50	3.20	3.90	4.40	4.898
御船川	御船	11.500	2.00	3.00	3.60	4.30	4.660

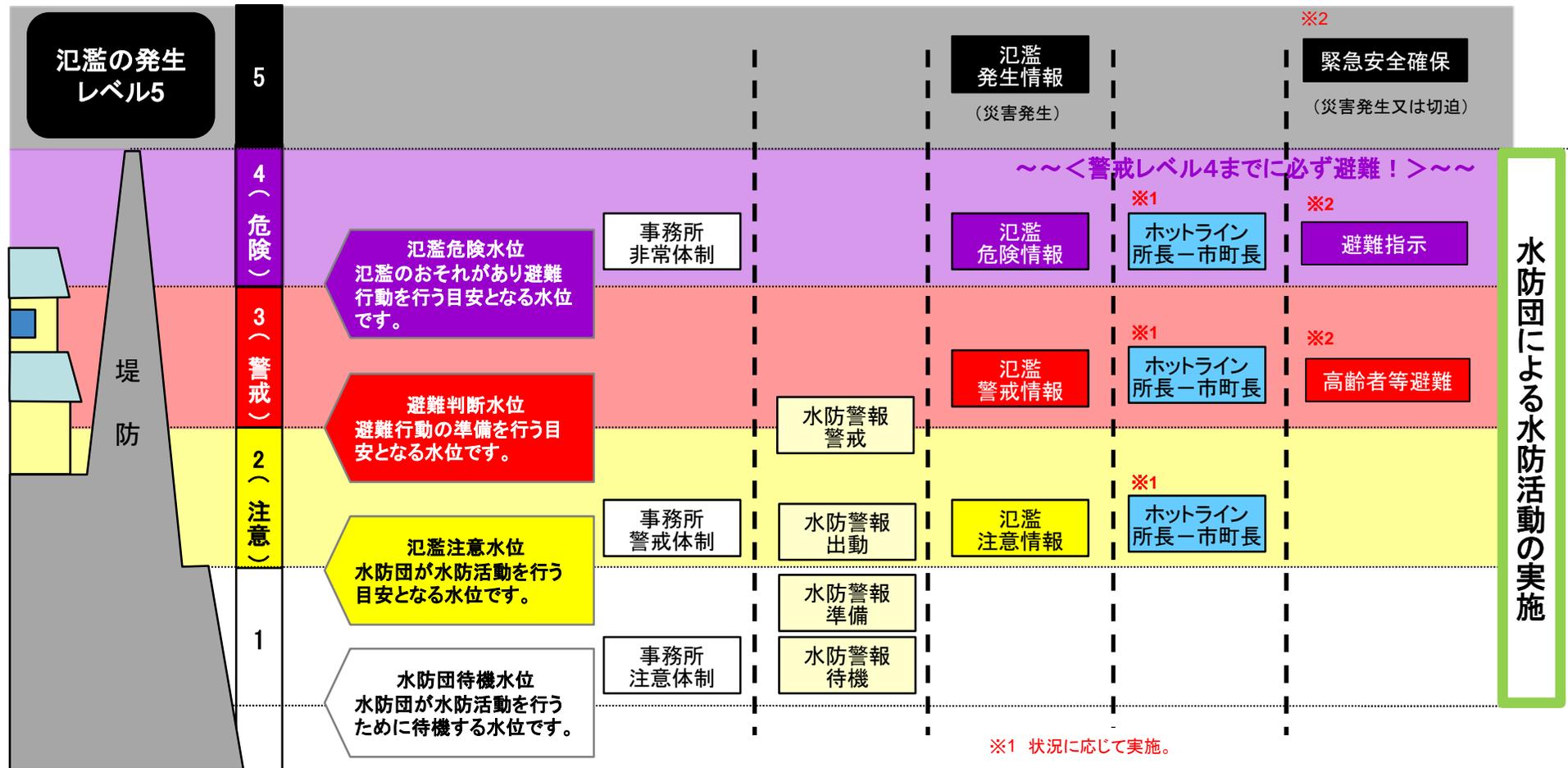
水防時の防災情報発令について

令和3年5月20日から運用

水位危険度レベルに応じた各機関の主な行動

熊本河川国道事務所

市町村



洪水予報の通知文について

- 平成30年7月豪雨による水害・土砂災害を受け、市町村や住民等による災害発生の恐れの高まりに応じた避難勧告等の発令や避難行動の支援を目的に、5段階の警戒レベルとの関係が明確に伝わる通知文に変更しています。(令和元年5月29日から)

記載例

〇〇川氾濫危険情報

〇〇川洪水予報第〇号
洪水警報

令和〇〇年〇月〇日〇〇時〇〇分
〇〇河川事務所・〇〇地方気象台共同発表

(見出し)

【警戒レベル4相当情報 [洪水]】〇〇川では、氾濫危険水位に到達し、氾濫のおそれあり

(主文)

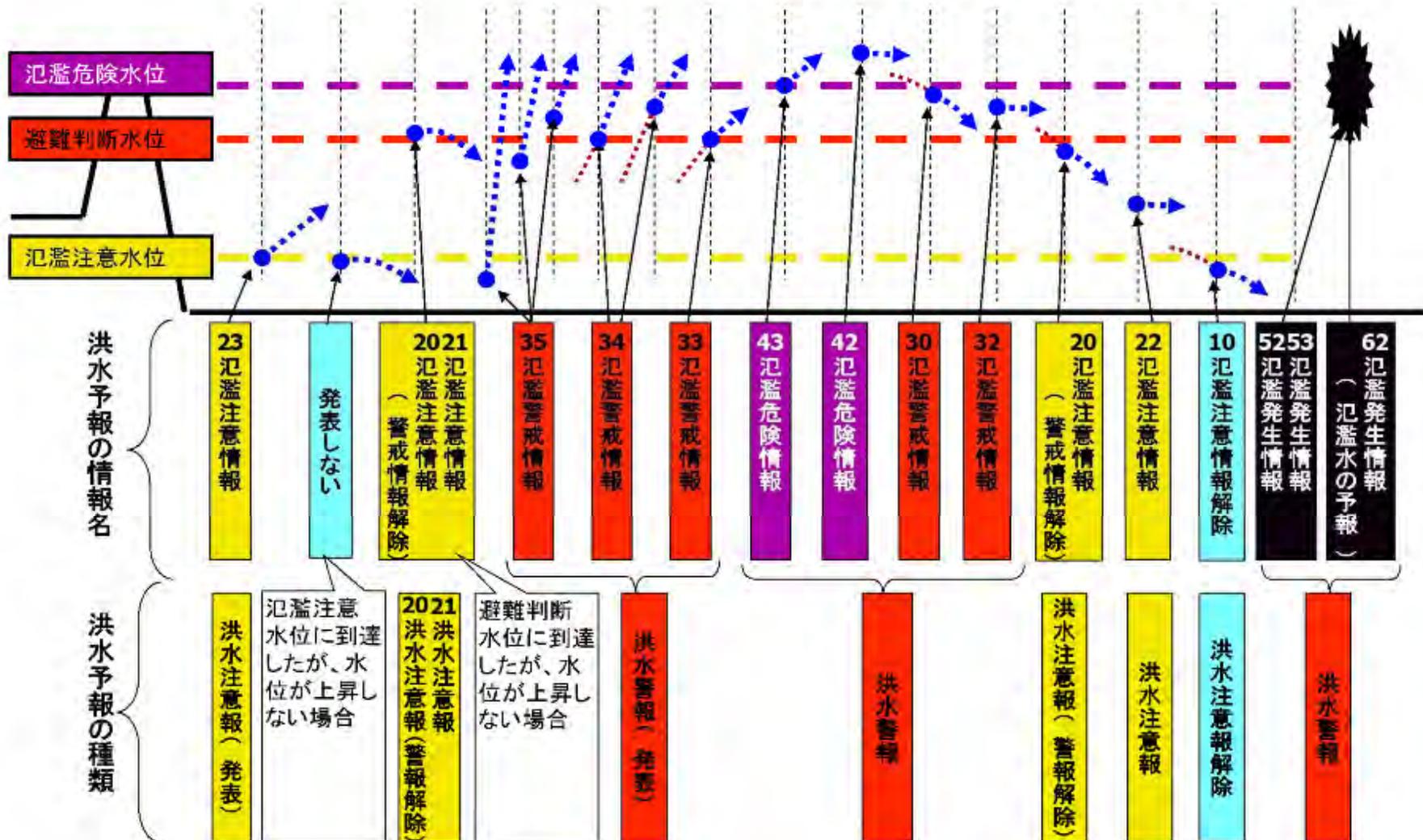
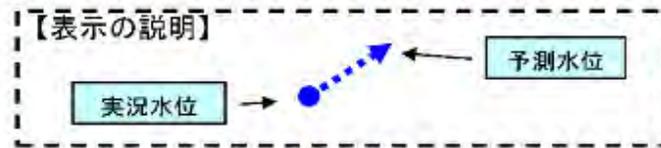
【警戒レベル4相当】これは、避難指示の発令目安です。〇〇川の〇〇水位観測所(〇〇市〇〇)では、「氾濫危険水位」に到達しました。〇〇川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、〇〇市、〇〇市、〇〇町では、浸水するおそれがあります。直ちに、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

※令和3年6月1日より見出し・主文の変更あり

洪水予報の発表イメージ

現行

洪水予報の発表イメージ



洪水予報の標題、種類、見出し、主文の例（全パターン）

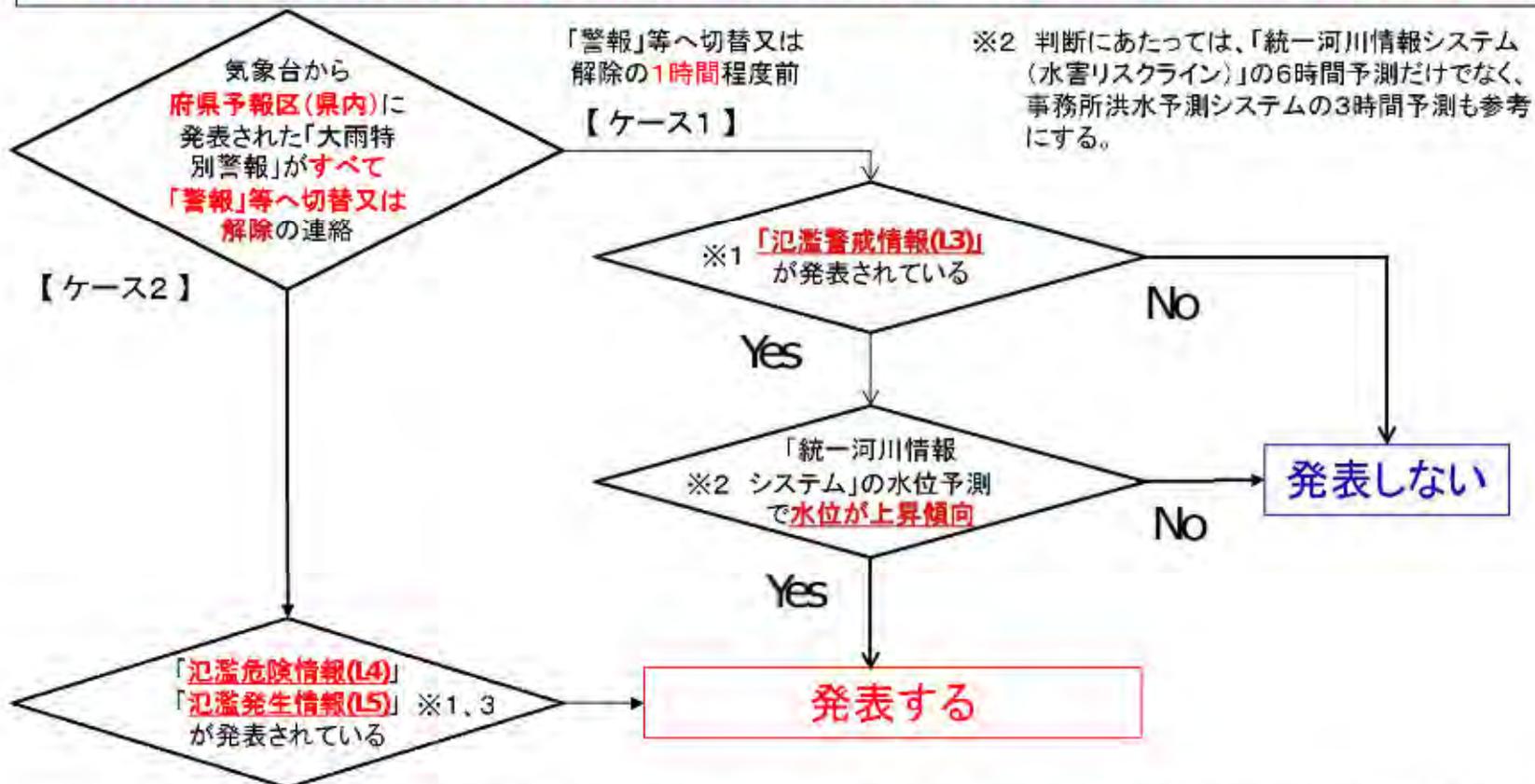
No.	標題	種類	見出し	主文
10	〇〇川氾濫注意情報解除	洪水注意報解除	〇〇川では、氾濫注意水位を下回る	〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「氾濫注意水位」を下回りました。
20	〇〇川氾濫注意情報 （警戒情報解除）	洪水注意報 （警戒解除）	【警戒レベル2相当情報【洪水】に引下げ】〇〇川では、避難判断水位を下回る	【警戒レベル2相当に引下げ】〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「避難判断水位」を下回りました。引き続き、洪水に関する情報に注意してください。
20	〇〇川氾濫注意情報 （警戒情報解除）	洪水注意報* （警戒解除）	【警戒レベル2相当情報【洪水】に引下げ】〇〇川では、避難判断水位に到達したが、今後、水位は上昇しない見込み	【警戒レベル2相当に引下げ】〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「避難判断水位」に到達しましたが、今後、水位は上昇しない見込みです。引き続き、洪水に関する情報に注意してください。
21	〇〇川氾濫注意情報	洪水注意報*	【警戒レベル2相当情報【洪水】】〇〇川では、避難判断水位に到達したが、今後、水位は上昇しない見込み	【警戒レベル2相当】〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「避難判断水位」に到達しましたが、今後、水位は上昇しない見込みです。引き続き、洪水に関する情報に注意してください。
22	〇〇川氾濫注意情報	洪水注意報*	【警戒レベル2相当情報【洪水】】〇〇川では、当分の間、氾濫注意水位付近の水位が続く見込み	【警戒レベル2相当】〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、当分の間、「氾濫注意水位」付近の水位が続く見込みです。引き続き、洪水に関する情報に注意してください。
23	〇〇川氾濫注意情報	洪水注意報*	【警戒レベル2相当情報【洪水】】〇〇川では、氾濫注意水位に到達し、今後、水位はさらに上昇する見込み	【警戒レベル2相当】〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「氾濫注意水位」に到達し、今後、水位はさらに上昇する見込みです。洪水に関する情報に注意してください。
30	〇〇川氾濫警戒情報	洪水警戒	【警戒レベル3相当情報【洪水】に引下げ】〇〇川では、氾濫危険水位を下回る	【警戒レベル3相当に引下げ】高齢者等避難の発令の目安に引下げます。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「氾濫危険水位」を下回りました。引き続き、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。
32	〇〇川氾濫警戒情報	洪水警戒*	【警戒レベル3相当情報【洪水】】〇〇川では、当分の間、避難判断水位付近の水位が続く見込み	【警戒レベル3相当】これは、高齢者等避難の発令の目安です。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、当分の間、「避難判断水位」付近の水位が続く見込みです。引き続き、市町村からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。
33	〇〇川氾濫警戒情報	洪水警戒*	【警戒レベル3相当情報【洪水】】〇〇川では、避難判断水位に到達し、今後、水位はさらに上昇する見込み	【警戒レベル3相当】これは、高齢者等避難の発令の目安です。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「避難判断水位」に到達しました。今後、水位はさらに上昇する見込みです。市町村からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。
34	〇〇川氾濫警戒情報	洪水警戒*	【警戒レベル3相当情報【洪水】】〇〇川では、避難判断水位に到達し、今後、氾濫危険水位に到達する見込み	【警戒レベル3相当】これは、高齢者等避難の発令の目安です。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「避難判断水位」に到達しました。今後、「氾濫危険水位」に到達する見込みで、避難指示の発令の目安である警戒レベル4相当となる可能性があります。〇〇川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、〇〇市、〇〇市、〇〇町では浸水するおそれがあります。市町村からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。
35	〇〇川氾濫警戒情報	洪水警戒*	【警戒レベル3相当情報【洪水】】〇〇川では、今後、氾濫危険水位に到達する見込み	【警戒レベル3相当】これは、高齢者等避難の発令の目安です。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、〇〇日〇〇時頃に、「氾濫危険水位」に到達する見込みで、今後、避難指示の発令の目安である警戒レベル4相当となる可能性があります。〇〇川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、〇〇市、〇〇市、〇〇町では浸水するおそれがあります。市町村からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。
42	〇〇川氾濫危険情報	洪水警戒	【警戒レベル4相当情報【洪水】】〇〇川では、当分の間、氾濫危険水位付近の水位が続く見込み	【警戒レベル4相当】これは、避難指示の発令の目安です。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、当分の間、「氾濫危険水位」付近の水位が続く見込みです。〇〇川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、〇〇市、〇〇市、〇〇町では浸水するおそれがあります。市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。
43	〇〇川氾濫危険情報	洪水警戒*	【警戒レベル4相当情報【洪水】】〇〇川では、氾濫危険水位に到達し、氾濫のおそれあり	【警戒レベル4相当】これは、避難指示の発令の目安です。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、「氾濫危険水位」に到達しました。〇〇川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、〇〇市、〇〇市、〇〇町では浸水するおそれがあります。直ちに、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。
52	〇〇川氾濫発生情報	洪水警戒*	【警戒レベル5相当情報【洪水】】〇〇川では、（堤防決壊による）氾濫が発生中	【警戒レベル5相当】災害が発生しています。〇〇川では、●●市●●地区（△△岸）付近より氾濫しています。市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。
53	〇〇川氾濫発生情報	洪水警戒*	【警戒レベル5相当情報【洪水】】〇〇川では、（堤防決壊による）氾濫が発生	【警戒レベル5相当】災害が発生しています。〇〇川では、●●市●●地区（△△岸）付近において（堤防決壊による）氾濫が発生しました。直ちに、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。
62	〇〇川氾濫発生情報 （氾濫水の予報）	洪水警戒	【警戒レベル5相当情報【洪水】】〇〇川では、（堤防決壊による）氾濫が続く	【警戒レベル5相当】災害が発生しています。〇〇川では、●●市●●地点（△△岸）付近より氾濫しています。市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

* 最初の注意報、警戒のとき 洪水警戒(発表)、洪水注意報(発表)とする。

洪水予報（臨時）の通知文について

- 令和3年6月より、大雨特別警報の警報等への切替時における洪水予報（臨時）の発表が新たに追加となっています。

- 洪水予報の「臨時情報」であるため、洪水予報の発表状況に着目した判断とする。
- 発表の有無、内容等については、必ず対象となる地方气象台と調整の上、決定すること。
- ※下記以外のケースでも水位予測により氾濫危険水位に到達する見込みがある場合などは個別に判断すること。



※1 「氾濫警戒情報」(警戒レベル3相当情報):避難判断水位
 「氾濫危険情報」(警戒レベル4相当情報):氾濫危険水位
 「氾濫発生情報」(警戒レベル5相当情報):氾濫発生

※3 氾濫危険水位を超過している「氾濫危険情報(L4)」を発表している場合は、水位上昇の有無に関わらず注意喚起を実施。

洪水予報（臨時）の通知文について

〇〇川上流部洪水予報(臨時)
令和〇年〇月〇日〇時〇分
国土交通省 〇〇河川(国道)事務所
気象庁 〇〇地方気象台

〇県の大雨特別警報は大雨警報に切り替わりましたが、
〇〇川では今後の水位上昇に警戒が必要です。

〇県の大雨特別警報は大雨警報に切り替わりましたが、〔〇川の洪水はこれからも警戒が必要です / 〇県、〇県などに降った大雨による洪水が、これから〇川の下流に到達します〕。天候が回復しても、氾濫が発生するおそれがあるため、洪水への一層の警戒が必要です。

■ 〇〇川^{がわ}上流部 では、**氾濫発生情報(警戒レベル5相当情報)** を発表中です。

亜川の 井 水位観測所(B県B市) 区間において氾濫が発生。井 水位観測所(B県B市)では、区間内での浸水範囲の拡大に注意が必要です。各自安全確保を図るなど、適切な防災行動を取ってください。

宇川の 絵 水位観測所(C県C市)では、水位が上昇中であり、当分の間、氾濫危険水位を超える水位が続く見込み。氾濫のおそれあり。

宇川の 尾 水位観測所(D県D市)では、避難判断水位を超過しており、水位は上昇中。

香川の 木 水位観測所(E県E市)では、水位は上昇中。今後の水位に留意。

河川名	水位観測所	水位状況	今後の見込み
亜川	井 (B県B市)	氾濫発生中	浸水範囲の拡大に注意
宇川	絵 (C県C市)	氾濫危険水位超過	水位上昇中
宇川	尾 (D県D市)	避難判断水位超過	水位上昇中
香川	木 (E県E市)	今後の水位に留意	水位上昇中

発表中の指定河川洪水予報は下記のサイトからご覧いただけます。
川の防災情報 <https://www.river.go.jp/>
気象庁HP <https://www.jma.go.jp/>

問い合わせ先

水位関係：国土交通省 〇〇河川(国道)事務所 tel:xx-xxxx-xxxx

気象関係：気象庁 〇〇地方気象台 tel:xx-xxxx-xxxx

水防法（国の機関が行う洪水予報等）

（国の機関が行う洪水予報等）

第十条 気象庁長官は、気象等の状況により洪水、津波又は高潮のおそれがあると認められるときは、その状況を国土交通大臣及び関係都道府県知事に通知するとともに、必要に応じ放送機関、新聞社、通信社その他の報道機関（以下「報道機関」という。）の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

2 国土交通大臣は、二以上の都府県の区域にわたる河川その他の流域面積が大きい河川で洪水により国民経済上重大な損害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川について、気象庁長官と共同して、洪水のおそれがあると認められるときは水位又は流量を、はん濫した後においては水位若しくは流量又ははん濫により浸水する区域及びその水深を示して当該河川の状況を関係都道府県知事に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

3 都道府県知事は、前二項の規定による通知を受けた場合においては、直ちに都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者（量水標等の管理者をいう。以下同じ。）に、その受けた通知に係る事項（量水標管理者にあつては、洪水又は高潮に係る事項に限る。）を通知しなければならない。

（水防警報）

第十六条 国土交通大臣は、洪水、津波又は高潮により国民経済上重大な損害を生ずるおそれがあると認めて指定した河川、湖沼又は海岸について、都道府県知事は、国土交通大臣が指定した河川、湖沼又は海岸以外の河川、湖沼又は海岸で洪水、津波又は高潮により相当な損害を生ずるおそれがあると認めて指定したものについて、水防警報をしなければならない。

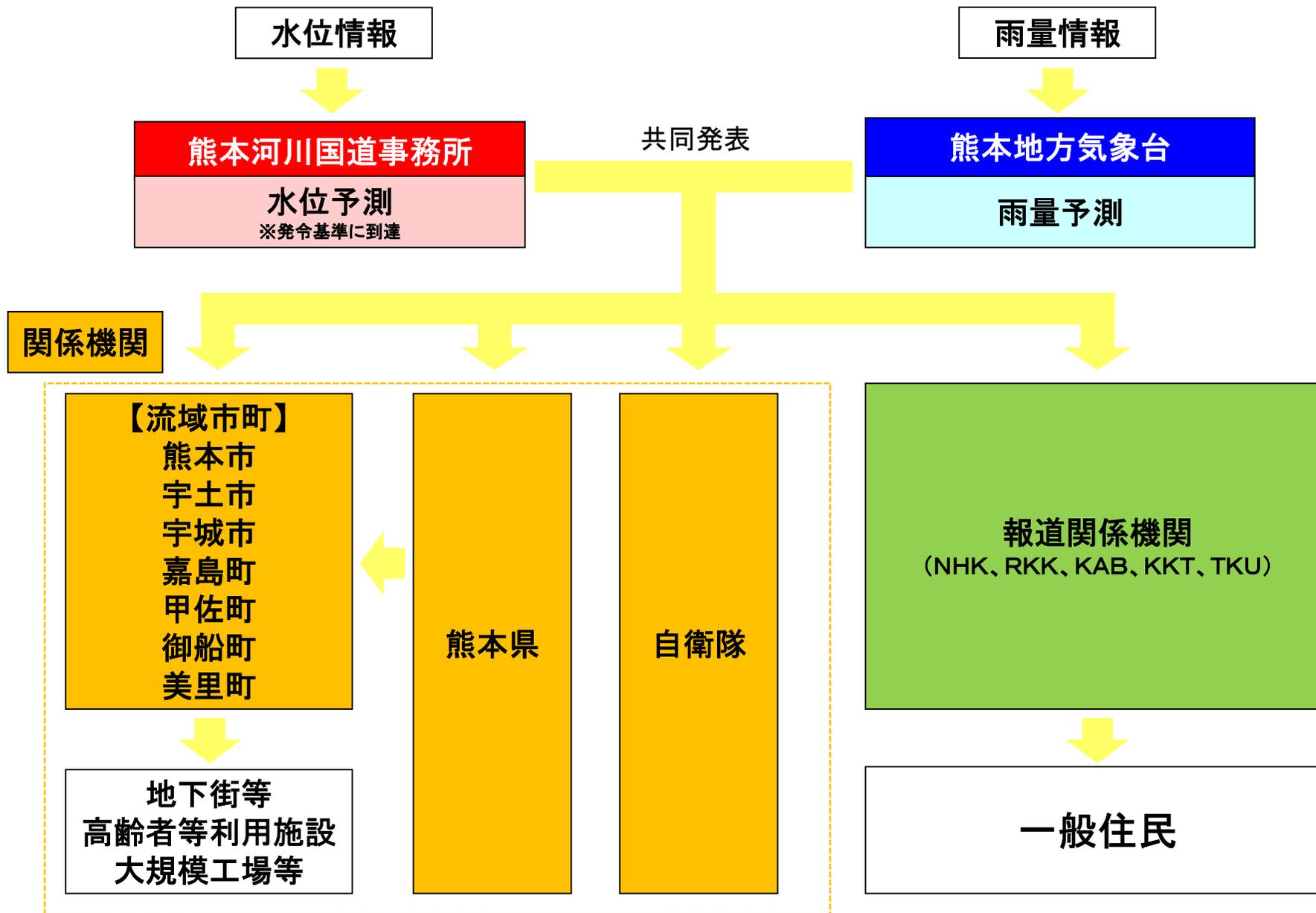
2 国土交通大臣は、前項の規定により水防警報をしたときは、直ちにその警報事項を関係都道府県知事に通知しなければならない。

3 都道府県知事は、第一項の規定により水防警報をしたとき、又は前項の規定により通知を受けたときは、都道府県の水防計画で定めるところにより、直ちにその警報事項又はその受けた通知に係る事項を関係水防管理者その他水防に関係のある機関に通知しなければならない。

4 国土交通大臣又は都道府県知事は、第一項の規定により河川、湖沼又は海岸を指定したときは、その旨を公示しなければならない。

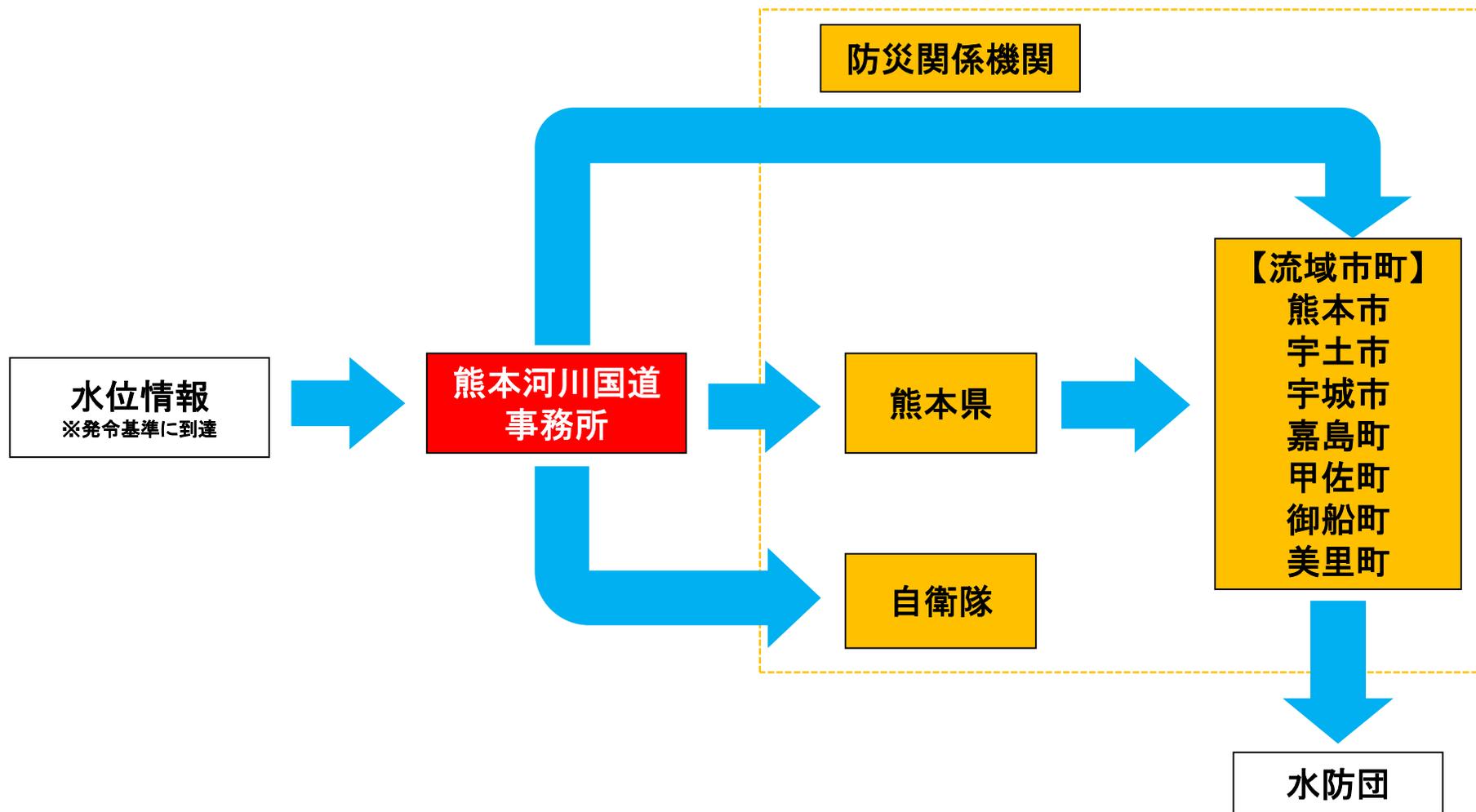
洪水予報の流れ

水位の上昇に応じて、関係機関へ情報（洪水予報）を公表します。（水防法第10条）



水防警報の流れ

水位の上昇に応じて、防災関係機関へ情報（水防警報）を発表します。（水防法第16条）



3. 水 防 警 報 (洪水)

3-1 水防警報 (洪水) を行う河川

河川名	区 域		延 長
白 川	幹 川		17 K 300
	左 岸	熊本市東区渡鹿8丁目540番の4地先 小碓橋下流端から海まで	
	右 岸	熊本市中央区黒髪町大字宇留毛浦山720番の5地先 小碓橋下流端から海まで	
緑 川	幹 川		30 K 800
	左 岸	上益城郡甲佐町大字上揚字佐戸1221番地先 から海まで	
	右 岸	上益城郡甲佐町大字上揚字宮上988番の1地先 から海まで	
	浜 戸 川		5 K 300
	左 岸	熊本市南区富合町大字碓の江字地方222番の1地先 から緑川合流点まで	
	右 岸	熊本市南区富合町大字莎崎字境目951番の1地先 から緑川合流点まで	
	加 勢 川		11 K 500
	左 岸	上益城郡嘉島町大字下六嘉字吐合1661番地の1地先 大六橋下流端から緑川合流点まで	
	右 岸	熊本市東区画図町大字下無田字烏ヶ江331番地先 大六橋下流端から緑川合流点まで	
	御 船 川		6 K 700
	左 岸	上益城郡御船町大字辺田見井手下1161番地先 から緑川合流点まで	
	右 岸	上益城郡御船町大字辺田見字甲斐山492番の1地先 から緑川合流点まで	

3-2 水防警報 (洪水) の種類と条件

(イ) 警報の種類

種 類	内 容
待 機	出水あるいは水位の再上昇が懸念される場合に、状況に応じて直ちに水防機関が出勤出来るように待機する必要がある旨を警告し、または、水防機関の出勤期間が長引くような場合に、出勤人員を減らしても差支えないが、水防活動をやめることはできない旨を警告するもの。
準 備	水防に関する情報連絡、水防資器材の整備、水門機能等の点検、通信及び輸送の確保等に努めるとともに、水防機関に出勤の準備をさせる必要がある旨を警告するもの。
出 動	水防機関が出勤する必要がある旨を警告するもの。
警 戒	出水状況及びその河川状況を示し、警戒が必要である旨を警告するとともに、水防活動上必要な越水・漏水・法崩・亀裂等河川の状態を示しその対応策を指示するもの。
解 除	水防活動を必要とする出水状況が解消した旨及び当該基準水位観測所名による一連の水防警報を解除する旨を通告するもの。

(ロ) 水防警報（洪水）対象量水標と条件

水系名	河川名	対象量水標	待機	準備	出動	警戒	解除
白川	白川	代継橋	水防団待機水位（2.50m）に達しはん濫注意水位（3.70m）に達すると思われるとき。	水防団待機水位（2.50m）を越えはん濫注意水位（3.70m）を突破すると思われるとき。	はん濫注意水位（3.70m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.70m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.70m）以下に下って再び増水の恐れがないと思われるとき。
緑川	緑川	中甲橋	水防団待機水位（2.00m）に達しはん濫注意水位（3.00m）に達すると思われるとき。	水防団待機水位（2.00m）を越えはん濫注意水位（3.00m）を突破すると思われるとき。	はん濫注意水位（3.00m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.00m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.00m）以下に下って再び増水の恐れがないと思われるとき。
		城南	水防団待機水位（3.30m）に達しはん濫注意水位（4.30m）に達すると思われるとき。	水防団待機水位（3.30m）を越えはん濫注意水位（4.30m）を突破すると思われるとき。	はん濫注意水位（4.30m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（4.30m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（4.30m）以下に下って再び増水の恐れがないと思われるとき。
	加勢川	大六橋	水防団待機水位（2.50m）に達しはん濫注意水位（3.20m）に達すると思われるとき。	水防団待機水位（2.50m）を越えはん濫注意水位（3.20m）を突破すると思われるとき。	はん濫注意水位（3.20m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.20m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.20m）以下に下って再び増水の恐れがないと思われるとき。
	御船川	御船	水防団待機水位（2.00m）に達しはん濫注意水位（3.00m）に達すると思われるとき。	水防団待機水位（2.00m）を越えはん濫注意水位（3.00m）を突破すると思われるとき。	はん濫注意水位（3.00m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.00m）に達し、なお上昇の見込みがあるとき。	はん濫注意水位（3.00m）以下に下って再び増水の恐れがないと思われるとき。

白川水系雨量及び水位観測所位置図

水源地	河原五岳
流域面積	km ² 420 (平地141 山地338)
流域延長	km 74.0
流域幅員	km 17.30
計画洪水流量	m ³ /s 白川代継橋 3,000

洪水予報実施区間



代継橋

陣内

阿蘇乙姫(気)

湯ノ谷(国)

南阿蘇(気)

高森(気)

凡	例
日記雨量観測所	☉
普通雨量観測所	○
日記水位観測所	△
普通水位観測所	△
流量観測所	□
流量観測所	□
気象観測所	☉
気象観測所	☉

(気) : 気象台 (予) : 予備



付表1 洪水予報の実施区域及び水位の予報に関する基準観測所

水系名	予報区域名	河川名	区 域	洪水予報 基準観測 所
白川	白川	白川	左岸 熊本県熊本市東区渡鹿八丁目五百四十番の四地先の小碓橋下流端から海まで 右岸 熊本県熊本市東区渡鹿八丁目五百四十番の四地先の小碓橋下流端から海まで	代継橋

付表2 洪水予報の種類等と発表基準

洪水予報の種類等とそれぞれの発表基準（臨時の洪水予報を除く）は、以下を基本とする。臨時の洪水予報については、氾濫発生情報、氾濫危険情報又は氾濫警戒情報の発表中等に、今後河川氾濫の危険性が高い場合において、発表されている大雨特別警報の警報等への切替時に、河川氾濫に関する情報として発表するものとする。

種類	情報名	発表基準
「洪水警報(発表)」 又は「洪水警報」	「氾濫発生情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫が発生したとき ・ 氾濫が継続しているとき
	「氾濫危険情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫危険水位に到達したとき ・ 氾濫危険水位を超える状態が継続しているとき
	「氾濫警戒情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫危険水位に到達すると見込まれるとき ・ 避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれるとき ・ 氾濫危険情報を発表中に、氾濫危険水位を下回ったとき（避難判断水位を下回った場合を除く） ・ 避難判断水位を超える状態が継続しているとき（水位の上昇の可能性がなくなった場合を除く）
「洪水注意報(発表)」 又は「洪水注意報」	「氾濫注意情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれるとき ・ 氾濫注意水位以上で、かつ避難判断水位未満の状態が継続しているとき ・ 避難判断水位に到達したが、水位の上昇が見込まれないとき
「洪水注意報 (警報解除)」	「氾濫注意情報 (警戒情報解除)」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫危険情報又は氾濫警戒情報を発表中に、避難判断水位を下回った場合（氾濫注意水位を下回った場合を除く） ・ 氾濫警戒情報発表中に、水位の上昇が見込まれなくなったとき（氾濫危険水位に達した場

		合を除く)
「洪水注意報解除」	「氾濫注意情報解除」	・氾濫発生情報、氾濫危険情報、氾濫警戒情報 又は氾濫注意情報を発表中に、氾濫注意水位 を下回り、氾濫のおそれなくなったとき

注1：堤防の損傷等により、氾濫のおそれが高まったと判断できる場合には、双方が協議した上で、この付表2によらずに洪水予報を発表することができる。

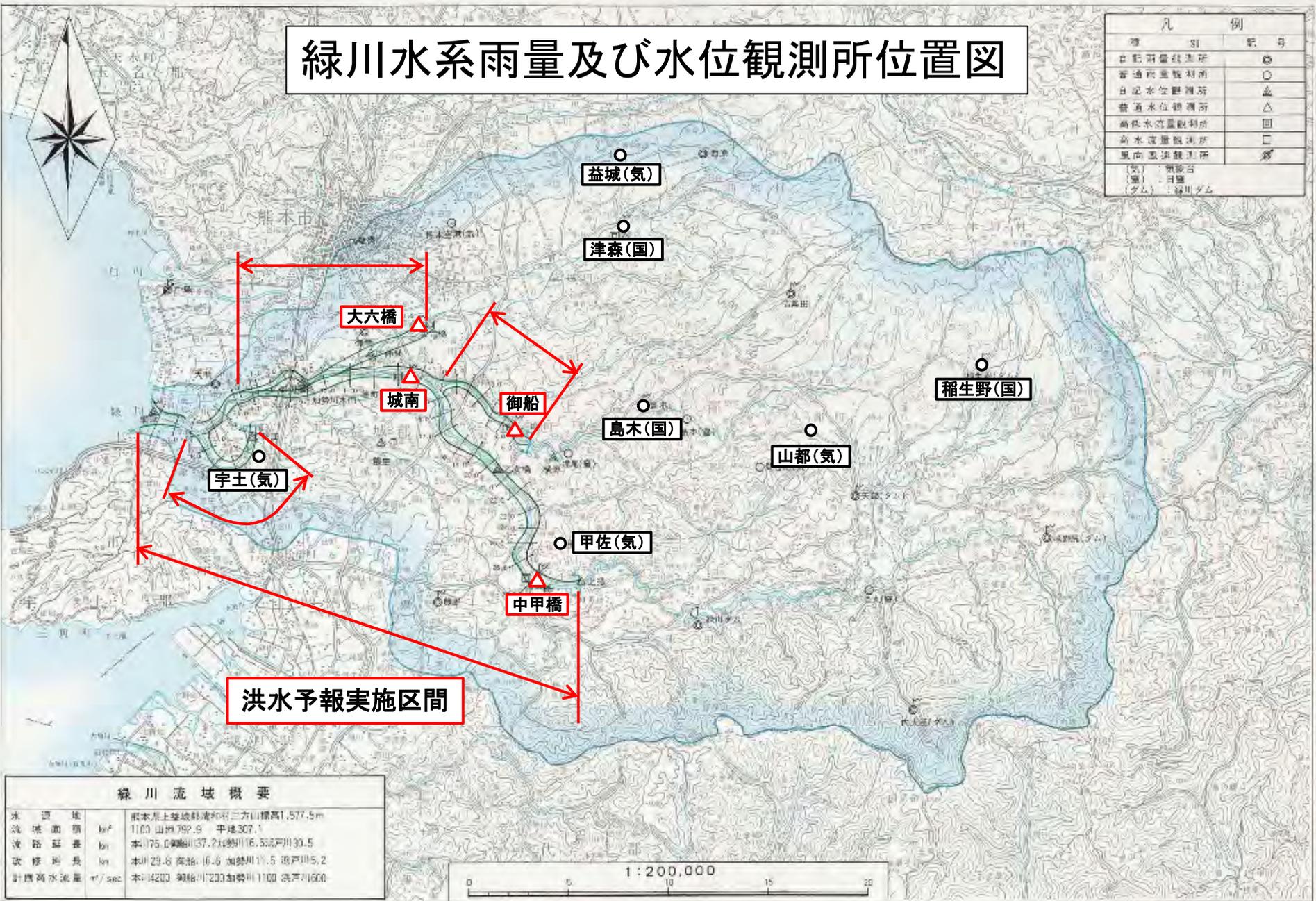
注2：「洪水警報（氾濫発生情報）」は、氾濫が発生したときに、氾濫が発生する毎に発表する。

注3：「洪水警報（氾濫発生情報）」は、氾濫発生中に、氾濫発生地点を含む受け持ち区間の基準地点の水位が氾濫危険水位に達した場合も氾濫危険水位への到達情報として発表する。

注4：「洪水警報（氾濫発生情報）」の解除は、氾濫を原因とする事象に対して安全が確認されたとき発表する。

緑川水系雨量及び水位観測所位置図

凡 例	
種 別	記 号
日記雨量観測所	◎
普通雨量観測所	○
日記水位観測所	△
普通水位観測所	△
高低水位観測所	□
洪水雨量観測所	□
風向風速観測所	◎
(気) : 気象台	
(国) : 国	
(ダム) : 緑川ダム	



緑川流域概要	
流域面積	熊本県上益城郡清和町三方山標高1,577.5m 110.0 山勢 799.9 平地 307.1
流域延長	本川 175.0 瀬川 137.2 勢川 116.5 戸川 93.5
改修延長	本川 29.8 高松 16.6 加勢川 11.5 戸川 5.2
計標準水流量	本川 1420.0 瀬川 203.0 勢川 1100.0 戸川 1600.0

付表1 洪水予報の実施区域及び水位の予報に関する基準観測所

水系名	予報区域名	河川名	区 域	洪水予報 基準観測 所
緑 川	緑川水系	緑 川	左岸 熊本県上益城郡甲佐町大字上揚字 佐戸1221番地先から海まで	中甲橋 城南
			右岸 熊本県上益城郡甲佐町大字上揚字 宮上988番地の1地先から海まで	
		浜戸川	左岸 熊本県熊本市南区富合町大字碓の 江字地方222番の1地先から緑川 合流地点まで	城 南
			右岸 熊本県熊本市南区富合町大字莎崎 字境目951番の1地先から緑川合 流地点まで	
御船川	左岸 熊本県上益城郡御船町大字辺田見 字井手下1161番地先から緑川合 流地点まで	御 船		
	右岸 熊本県上益城郡御船町大字辺田見 字甲斐山492番地の1地先から緑 川合流地点まで			
加勢川	左岸 熊本県上益城郡嘉島町大字下六嘉 字吐合1661番の1地先の旧大六 橋下流端から緑川合流地点まで	大六橋		
	右岸 熊本県熊本市東区画図町下無田字 烏ヶ江331番地先旧大六橋下流端 から緑川合流地点まで			

付表2 洪水予報の種類等と発表基準

洪水予報の種類等とそれぞれの発表基準（臨時の洪水予報を除く）は、以下を基本とする。臨時の洪水予報については、氾濫発生情報、氾濫危険情報又は氾濫警戒情報の発表中等に、今後河川氾濫の危険性が高い場合において、発表されている大雨特別警報の警報等への切替時に、河川氾濫に関する情報として発表するものとする。

種類	情報名	発表基準
「洪水警報(発表)」 又は「洪水警報」	「氾濫発生情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫が発生したとき ・ 氾濫が継続しているとき
	「氾濫危険情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫危険水位に到達したとき ・ 氾濫危険水位を超える状態が継続しているとき
	「氾濫警戒情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫危険水位に到達すると見込まれるとき ・ 避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれるとき ・ 氾濫危険情報を発表中に、氾濫危険水位を下回ったとき（避難判断水位を下回った場合を除く） ・ 避難判断水位を超える状態が継続しているとき（水位の上昇の可能性がなくなった場合を除く）
「洪水注意報(発表)」 又は「洪水注意報」	「氾濫注意情報」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれるとき ・ 氾濫注意水位以上で、かつ避難判断水位未満の状態が継続しているとき ・ 避難判断水位に到達したが、水位の上昇が見込まれないとき
「洪水注意報(警報解除)」	「氾濫注意情報(警戒情報解除)」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫危険情報又は氾濫警戒情報を発表中に、避難判断水位を下回った場合（氾濫注意水位を下回った場合を除く） ・ 氾濫警戒情報発表中に、水位の上昇が見込まれなくなったとき（氾濫危険水位に達した場合を除く）
「洪水注意報解除」	「氾濫注意情報解除」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫発生情報、氾濫危険情報、氾濫警戒情報又は氾濫注意情報を発表中に、氾濫注意水位を下回り、氾濫のおそれなくなったとき

注1：予報区域に複数の基準観測所がある場合、原則として水位上昇時には、いずれかの基準観測所で発表基準となった場合に発表（切替を含む。）を行うこととし、最も危険度の高い基準観測所の水位を基に、種類及び情報名を選定するものとする。

注2：予報区域に複数の基準観測所がある場合、原則として水位下降時には、洪水予報の切替を行わない。ただし、予報区域内の一部の観測所が明らかに安全である場合等、合理的な理由があれば洪水予報の切替を行ってもよい。

- 注3：堤防の損傷等により、氾濫のおそれが高まったと判断できる場合には、双方が協議した上で、この付表2によらずに洪水予報を発表することができる。
- 注4：「洪水警報（氾濫発生情報）」は、氾濫が発生したときに、氾濫が発生する毎に発表する。
- 注5：「洪水警報（氾濫発生情報）」は、氾濫発生中に、氾濫発生地点を含む受け持ち区間の基準地点の水位が氾濫危険水位に達した場合も氾濫危険水位への到達情報として発表する。
- 注6：「洪水警報（氾濫発生情報）」の解除は、氾濫を原因とする事象に対して安全が確認されたとき発表する。

様式-1 対象水位・雨量観測所

河川名	観測所名	水位、流量の別	備考
白川	代継橋	水位	湯ノ谷(雨量)
緑川	中甲橋	〃	稲生野(雨量)
〃	城南	〃	〃
御船川	御船	〃	島木(雨量)
加勢川	大六橋	〃	津森(雨量)

防災情報(洪水予報・水防警報)連絡先 一覧

【白川水系】

発表先所属		洪水予報	水防警報	電話番号	FAX番号
本局 (河川管理課)	本局河川管理課1	○	○		
	本局河川管理課2				
熊本県	熊本県 水防本部(白川)	○(要受信確認)	○(要受信確認)		
自衛隊	陸上自衛隊北熊本駐屯地第42即応機動連隊	○	○(要受信確認)		
	陸上自衛隊第8師団司令部	○	○		
	西部方面総監部 資料課	○	○		
熊本地方気象台	熊本地方気象台 菅原 水害対策気象官	○	/		
	熊本地方気象台 観測予報(官給携帯)				
	熊本地方気象台 防災(官給携帯)				
	熊本地方気象台 統括予報官(官給携帯)				
河川情報センター	河川情報センター(福岡)	○	○(要受信確認)		
熊本河川国道事務所	国交省熊本調1 課長	○	○		
	国交省熊本調1 専門官	○	○		
	国交省熊本調1 水防企画係長	○	○		
	国交省熊本調1 水防調整係長	○	/		
	国交省熊本白出 出張所長	○	○		
	国交省熊本白出 管理第2係長	○	○		
	国交省熊本防災室PC	○	○		
	国交省熊本調1 水防企画係長(携帯)	○	○		
立野ダム工事事務所 (流域関連ダム)	立野ダム工事事務所 専門職	○	/		
	立野ダム工事事務所 防災室PC	○	/		
市町村	熊本市 危機管理防災総室	○(要受信確認)	○		

【緑川水系】

発表先所属		洪水予報	水防警報	電話番号	FAX番号
本局 (河川管理課)	本局河川管理課1	○	○		
	本局河川管理課2				
熊本県	熊本県 水防本部(白川)	○(要受信確認)	○(要受信確認)		
自衛隊	陸上自衛隊北熊本駐屯地第42即応機動連隊	○	○(要受信確認)		
	陸上自衛隊第8師団司令部	○	○		
	西部方面総監部 資料課	○	○		
熊本地方気象台	熊本地方気象台 菅原 水害対策気象官	○	/		
	熊本地方気象台 観測予報(官給携帯)				
	熊本地方気象台 防災(官給携帯)				
	熊本地方気象台 統括予報官(官給携帯)				
河川情報センター	河川情報センター(福岡)	○	○(要受信確認)		
熊本河川国道事務所	国交省熊本調1 課長	○	○		
	国交省熊本調1 専門官	○	○		
	国交省熊本調1 水防企画係長	○	○		
	国交省熊本調1 水防調整係長	○	/		
	国交省熊本上緑出 出張所長	○	○		
	国交省熊本上緑出 管理第2係長	○	○		
	国交省熊本下緑出 出張所長	○	○		
	国交省熊本下緑出 管理第2係長	○	○		
	国交省熊本防災室PC	○	○		
国交省熊本調1 水防企画係長(携帯)	○	○			
緑川ダム管理所 (流域関連ダム)	緑川ダム管理所 管理係長	○	/		
市町村	熊本市 危機管理防災総室	○(要受信確認)	○		
	宇土市 土木課	○(要受信確認)	○		
	宇土市 危機管理課	○(要受信確認)	○		
	宇城市 防災消防課	○(要受信確認)	○		
	甲佐町 建設課	○(要受信確認)	○		
	甲佐町 暮らし安全推進室	○(要受信確認)	○		
	御船町 総務課	○(要受信確認)	○		
	御船町 建設課(兼田氏)	○(要受信確認)	○		
	嘉島町 建設課	○(要受信確認)	○		
	嘉島町 総務課	○(要受信確認)	○		
	美里町 総務課防災交通係(一斉メール)	○(要受信確認)	○		
美里町 総務課防災交通係(高森氏)	○(要受信確認)	○			

※水防法(平成25年7月11日施行)第13条の2(関係市町村長への通知)に基づく通知

白川・緑川水系
重要水防箇所について

重要水防箇所の評定基準の改訂について

平成31年2月27日付けで「重要水防箇所評定基準(案)の改訂について」が通知されており、今回、白川・緑川の重要水防箇所について、新基準により評価を行うものである。

重要水防箇所調書評定要領(案)の改定前後における種別一覧

H18.10.16 (国河治第97号) における種別	H31.2.27 (国水環第19号) における種別	備考
堤防高(流下能力)	越水(溢水)	名称変更 (評価手法は変更なし)
堤防断面	堤体漏水 基礎地盤漏水	名称・区分および 評定方法の変更
法崩れ・すべり		
漏水		
水衝・洗掘	水衝・洗掘	(評定基準の変更なし)
工作物	工作物	(評定基準の変更なし)
工事施工	工事施工	(評定基準の変更なし)
新堤防・破堤跡・旧川跡	新堤防・破堤跡・旧川跡	(評定基準の変更なし)
陸閘	陸閘	(評定基準の変更なし)

 : 「調書の改定」に相当する内容

重要水防箇所の評定基準の改訂について

(平成31年2月27日河川環境課長通知)

種別	重要度等		要注意区間
	A 水防上最も重要な区間	B 水防上重要な区間	
越水（溢水）	計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）が現況の堤防高を越える箇所。	計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）と現況の堤防高との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
堤体漏水	堤防の機能に支障が生じる堤体の変状の履歴（被災状況が確認できるもの）があり、類似の変状が繰り返し生じている箇所。 堤体の土質、法勾配等からみて堤防の機能に支障が生じる堤体の変状の生じるおそれがあり、かつ堤防の機能に支障が生じる堤体の変状の履歴（被災状況が確認できるもの）がある箇所。 水防団等と意見交換を行い、堤体漏水が生じる可能性が特に高いと考えられる箇所。	堤防の機能に支障が生じる堤体の変状の履歴（被災状況が確認できるもの）があり、安全が確認されていない箇所、又は堤防の機能に支障は生じていないが、進行性がある堤体の変状が集中している箇所。 堤防の機能に支障が生じる堤体の変状の履歴（被災状況が確認できるもの）はないが、堤体の土質、法勾配等からみて堤防の機能に支障が生じる堤体の変状の生じるおそれがあると考えられる箇所。 水防団等と意見交換を行い、堤体漏水が生じる可能性が高いと考えられる箇所。	
基礎地盤漏水	堤防の機能に支障が生じる基礎地盤漏水に関係する変状の履歴（被災状況が確認できるもの）があり、類似の変状が繰り返し生じている箇所。 基礎地盤の土質等からみて堤防の機能に支障が生じる変状の生じるおそれがあり、かつ堤防の機能に支障が生じる基礎地盤漏水に関係する変状の履歴（被災状況が確認できるもの）がある箇所。 水防団等と意見交換を行い、基礎地盤漏水が生じる可能性が特に高いと考えられる箇所。	堤防の機能に支障が生じる基礎地盤漏水に関係する変状の履歴（被災状況が確認できるもの）があり、安全が確認されていない箇所、又は堤防の機能に支障は生じていないが、進行性がある基礎地盤漏水に関係する変状が集中している箇所。 堤防の機能に支障が生じる基礎地盤漏水に関係する変状の履歴（被災状況が確認できるもの）はないが、基礎地盤漏水の土質等からみて堤防の機能に支障が生じる変状の生じるおそれがあると考えられる箇所。 水防団等と意見交換を行い、基礎地盤漏水が生じる可能性が高いと考えられる箇所。	
水衝・洗掘	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れしているが、その対策が未施工の箇所。 橋台取り付け部やその他の工作物の突出箇所で、堤防護岸の根固め等が洗われ一部破損しているが、その対策が未施工の箇所。 波浪による河岸の決壊等の危険に瀕した実績があるが、その対策が未施工の箇所。	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れにならない程度に洗掘されているが、その対策が未施工の箇所。	
工作物	河川管理施設等応急対策基準に基づく改善措置が必要な堰、橋梁、樋管その他の工作物の設置されている箇所。 橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等が計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）以下となる箇所。	橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等と計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
工事施工			出水期間中に堤防を開削する工事箇所又は仮締切等により本堤に影響を及ぼす箇所。
新堤防・破堤跡・旧川跡			新堤防で築造後3年以内の箇所。 破堤跡又は旧川跡の箇所。
陸閘			陸閘が設置されている箇所。

重要水防箇所の評定基準の改訂について

(平成18年10月16日治水課長通知)

種別	重要度等		要注意区間
	A 水防上最も重要な区間	B 水防上重要な区間	
堤防高 (流下能力)	計画高水流量規模の洪水の水位(高潮区間の堤防にあっては計画高潮位)が、現況の堤防高を越える箇所。	計画高水流量規模の洪水の水位(高潮区間の堤防にあっては計画高潮位)と、現況の堤防高との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
堤防断面	現況の堤防断面あるいは天端幅が、計画の堤防断面あるいは計画の天端幅の2分の1未満の箇所。	現況の堤防断面あるいは天端幅が、計画の堤防断面あるいは計画の天端幅に対して不足しているが、それぞれ2分の1以上確保されている箇所。	
法崩れ・すべり (堤体強度)	法崩れ又はすべりの実績があるが、その対策が未施工の箇所。	法崩れ又はすべりの実績があるが、その対策が暫定施工の箇所。 法崩れ又はすべりの実績はないが、堤体あるいは基礎地盤の土質・法勾配等からみて法崩れ又は、すべりが発生する恐れがある箇所、所要の対策が未施工の箇所。	
漏水	漏水の履歴があり、その対策が未施工の箇所。	漏水の履歴があり、その対策が暫定施工の箇所。 漏水の履歴はないが、破堤跡又は旧川跡の堤防であること、あるいは基礎地盤及び堤体の土質等からみて、漏水が発生する恐れのある箇所、所要の対策が未施工の箇所。	
水衝・洗掘	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れしているが、その対策が未施工の箇所。 橋台取付け部やその他の工作物の突出箇所で、堤防護岸の根固等が洗れ一部破損しているが、その対策が未施工の箇所。 波浪による河岸の欠損等の危険に瀕した実績があるが、その対策が未施工の箇所。	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れにならない程度に洗掘されているが、その対策が未施工の箇所。	
工作物	河川管理施設等応急対策基準に基づく改善措置が必要な堰、橋梁、樋管その他の工作物の設置されている箇所。 橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等が計画高水流量規模の洪水の水位(高潮区間の堤防にあっては計画高潮位)以下となる箇所。	橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等と計画高水流量規模の洪水の水位(高潮区間の堤防にあっては計画高潮位)との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
工事施工			出水期間中に堤防を開削する工事箇所又は仮締切等により本堤に影響を及ぼす箇所。
新堤防・破堤跡・旧川跡			新堤防で築造後3年以内の箇所。 破堤跡又は旧川跡の箇所。
陸閘			陸閘が設置されている箇所。

重要水防箇所の評定基準の改訂について

「堤体漏水」

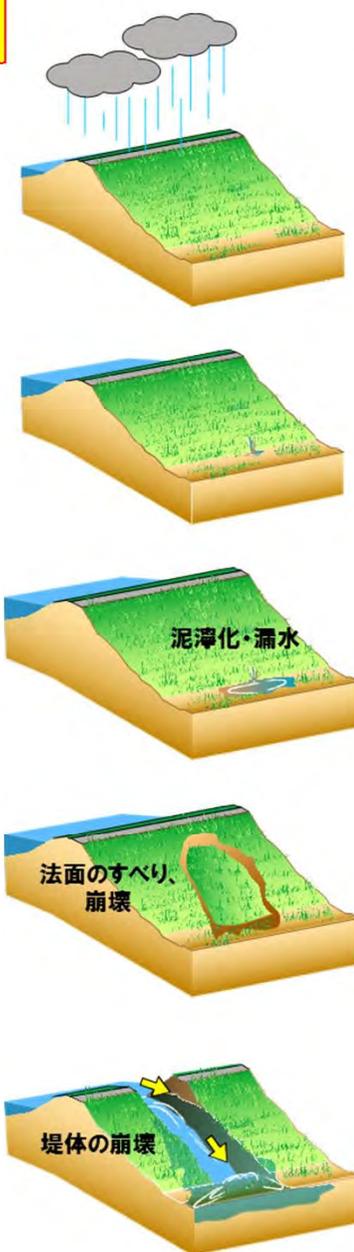
堤体漏水は、河川の水位が上昇することで堤防内に水が浸透し、法尻付近で漏水が発生し法面のすべり等により破堤に至る



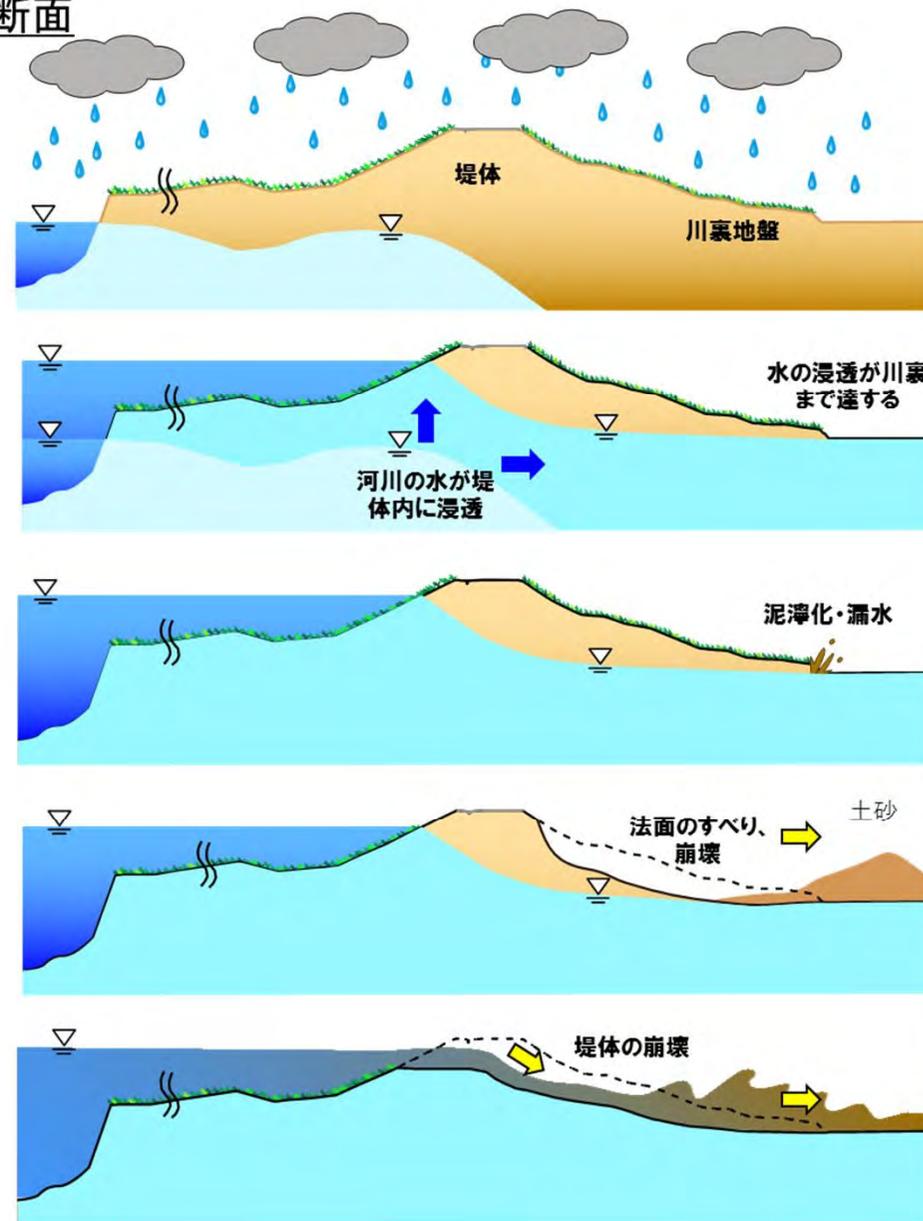
「しぼり水」の例



排水不良による法すべり



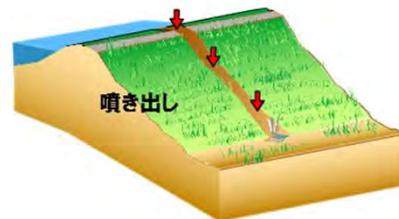
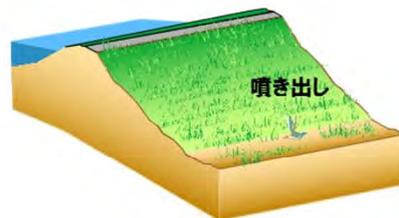
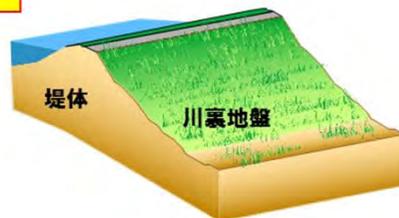
横断面



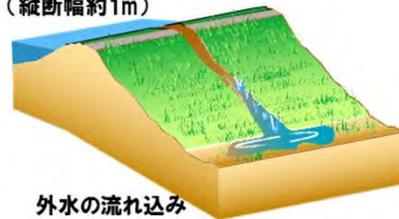
重要水防箇所の評定基準の改訂について

「基礎地盤漏水」

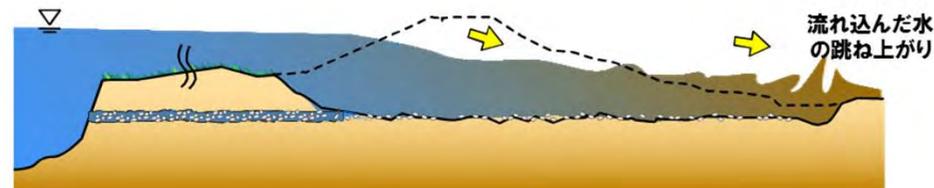
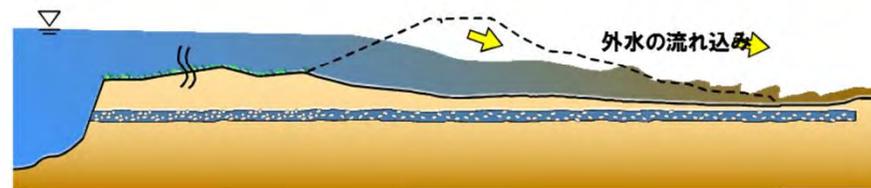
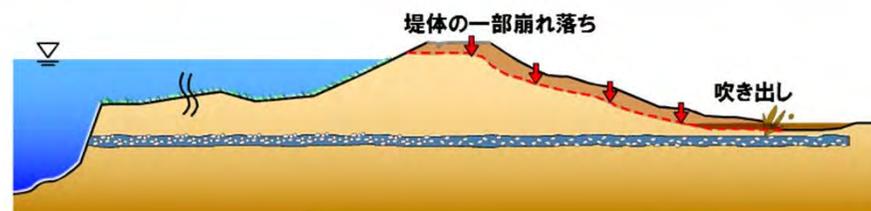
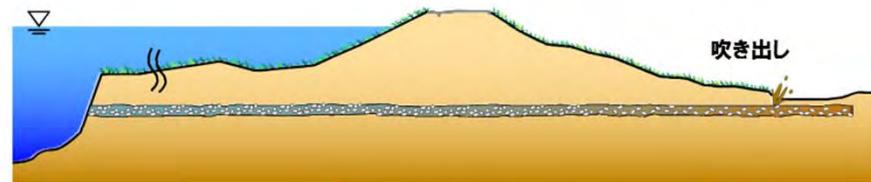
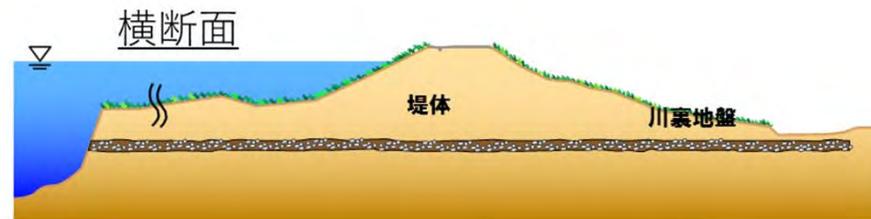
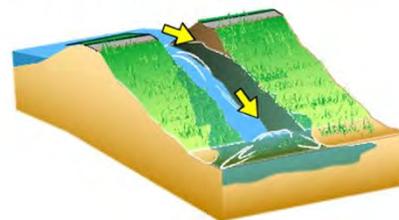
基礎地盤漏水は、
河川の水位が上昇することで堤防
下部の地層から
水みちが発生し、
川裏で漏水し、破
堤に至る



堤防決壊
(縦断幅約1m)



外水の流れ込み



漏水による噴砂の例



漏水による噴砂の例

重要水防箇所の評定基準の改訂について

○白川水系

単位: km

年度	国管理 区間延長	A区間	B区間	要注意区間	合計
R3年度(従来)	34.454	8.981	16.594	2.503	28.078
R4年度(新)	34.454	8.966	15.179	1.879	26.024
増減	0.000	-0.015	-1.415	-0.624	-2.054

白川水系…

重要水防Aランクが15m減少とほぼ変わらず、重要水防Bランクが約1,415m減少した。

ランク変更要因は、新基準である堤体漏水と基礎地盤漏水による増加よりも、旧基準の堤体断面評価がなくなることによる減少の方が、多いためである。

○緑川水系

年度	国管理 区間延長	A区間	B区間	要注意区間	合計
R3年度(従来)	99.624	19.931	57.524	5.215	82.670
R4年度(新)	99.624	9.195	64.219	6.504	79.918
増減	0.000	-10.736	6.695	1.289	-2.752

緑川水系…

重要水防Aランクが約10,736m減少し、重要水防Bランクが約6,695m増加した。

ランク変更要因は、Aランクでは、新基準である堤体漏水と基礎地盤漏水による増加よりも、旧基準の堤体断面がなくなったことによる減少の方が、多いためである。緑川水系は、AランクからBランクに変更された箇所が多いため、Bランクは増加した。

緑川

年度	国管理 区間延長	A区間	B区間	要注意区間	合計
R3年度(従来)	58.625	14.931	27.664	4.625	47.220
R4年度(新)	58.625	5.595	33.169	5.742	44.506
増減	0.000	-9.336	5.505	1.117	-2.714

加勢川

年度	国管理 区間延長	A区間	B区間	要注意区間	合計
R3年度(従来)	20.553	2.600	16.000	0.000	18.600
R4年度(新)	20.553	2.600	15.800	0.000	18.400
増減	0.000	0.000	-0.200	0.000	-0.200

御船川

年度	国管理 区間延長	A区間	B区間	要注意区間	合計
R3年度(従来)	10.477	0.600	7.000	0.000	7.600
R4年度(新)	10.477	0.600	6.850	0.322	7.772
増減	0.000	0.000	-0.150	0.322	0.172

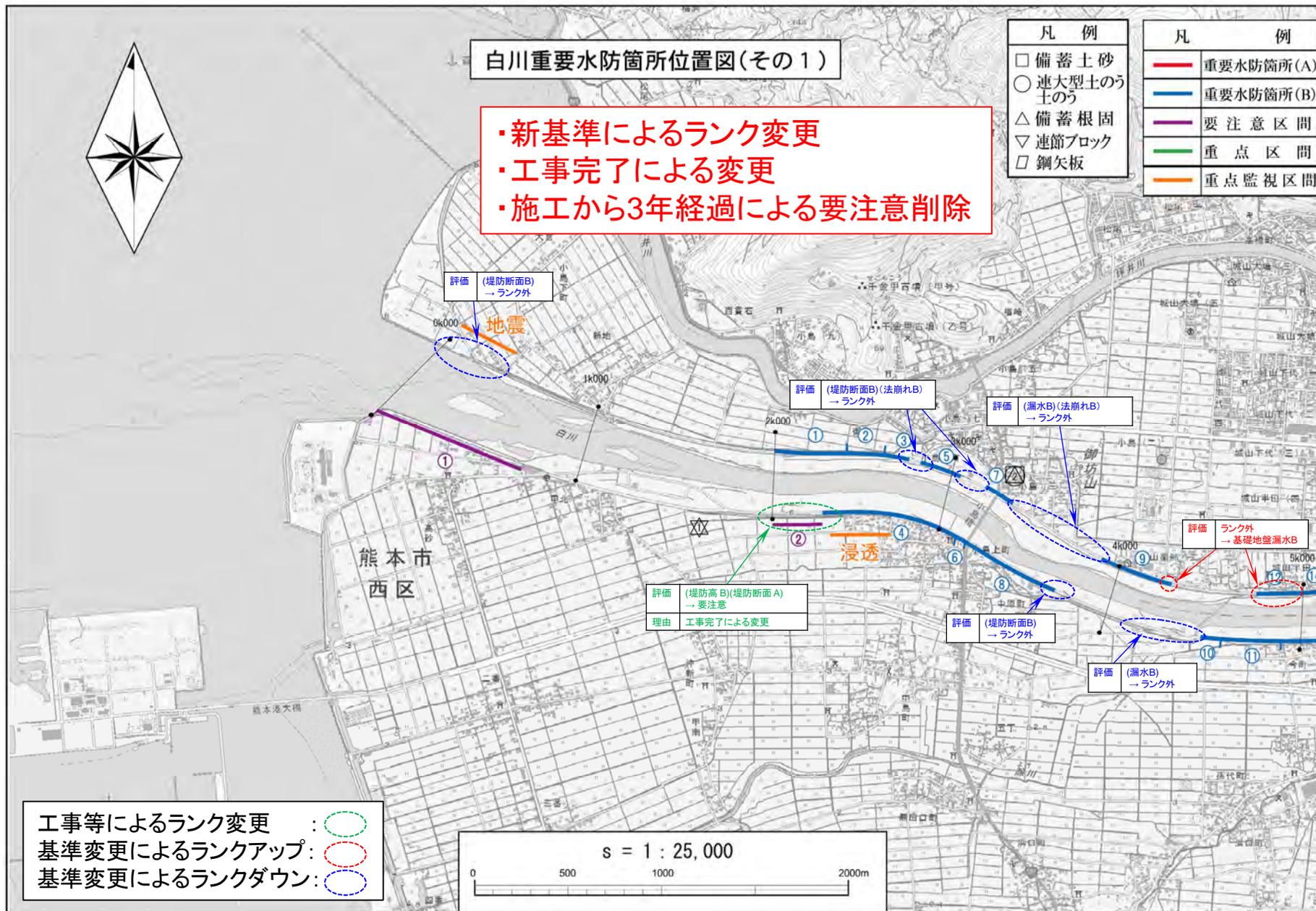
浜戸川

年度	国管理 区間延長	A区間	B区間	要注意区間	合計
R3年度(従来)	9.969	1.800	6.860	0.590	9.250
R4年度(新)	9.969	0.400	8.400	0.440	9.240
増減	0.000	-1.400	1.540	-0.150	-0.010

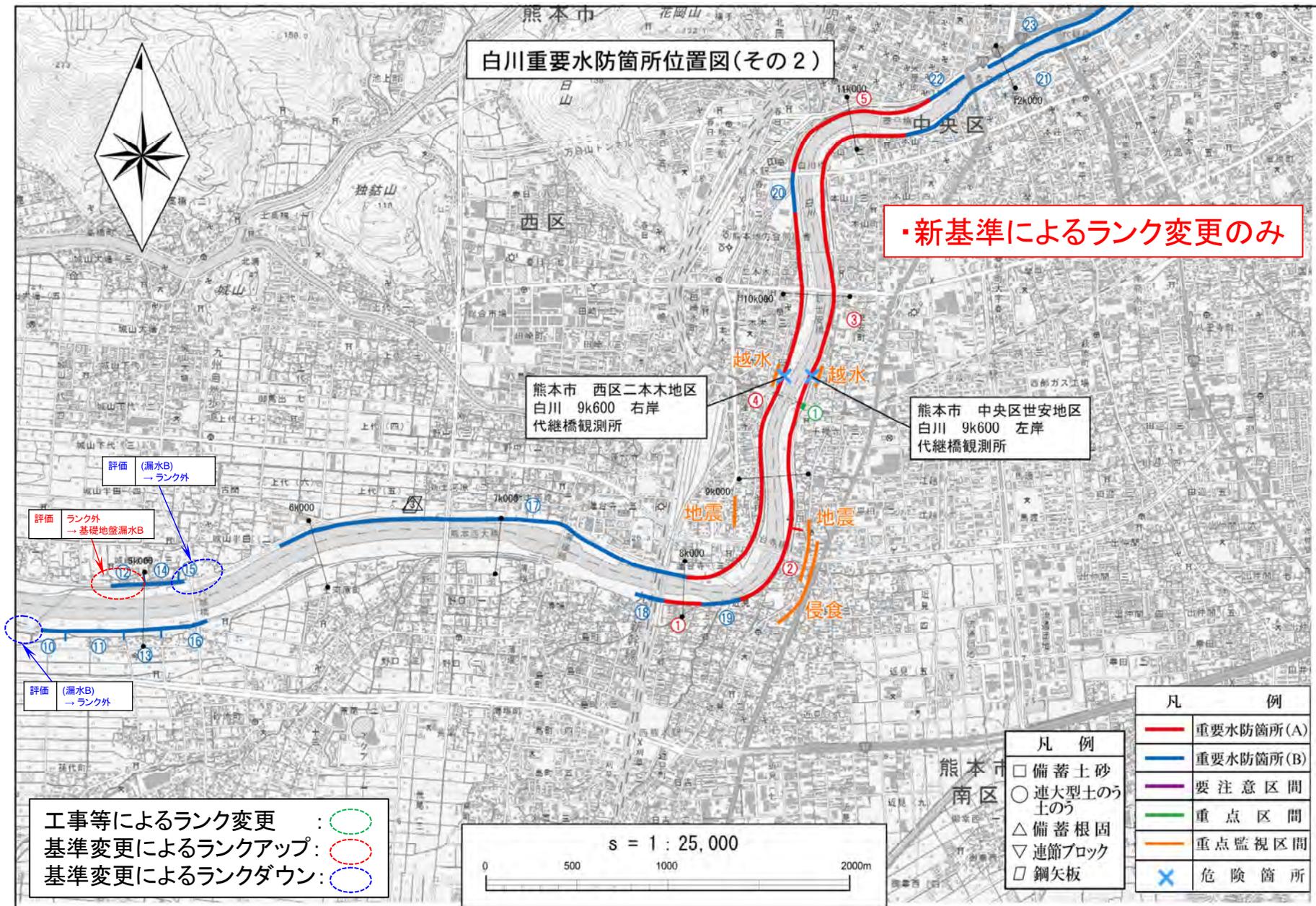
R3年度(従来): R3年度に旧評定基準により算出した結果

R4年度(新): 新評定基準により算出した結果

重要水防箇所の設定(R4.4版)



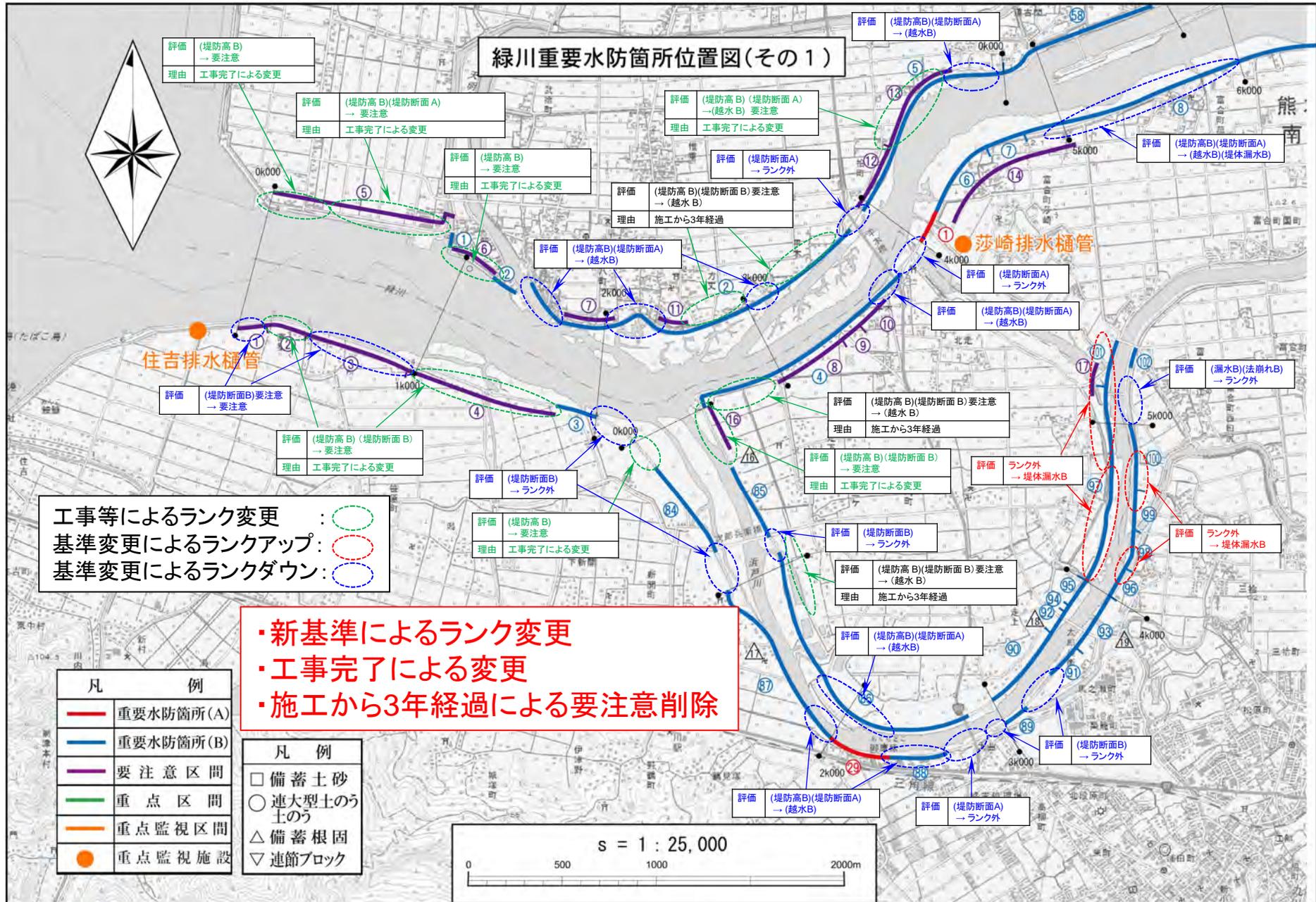
重要水防箇所の設定(R4.4版)



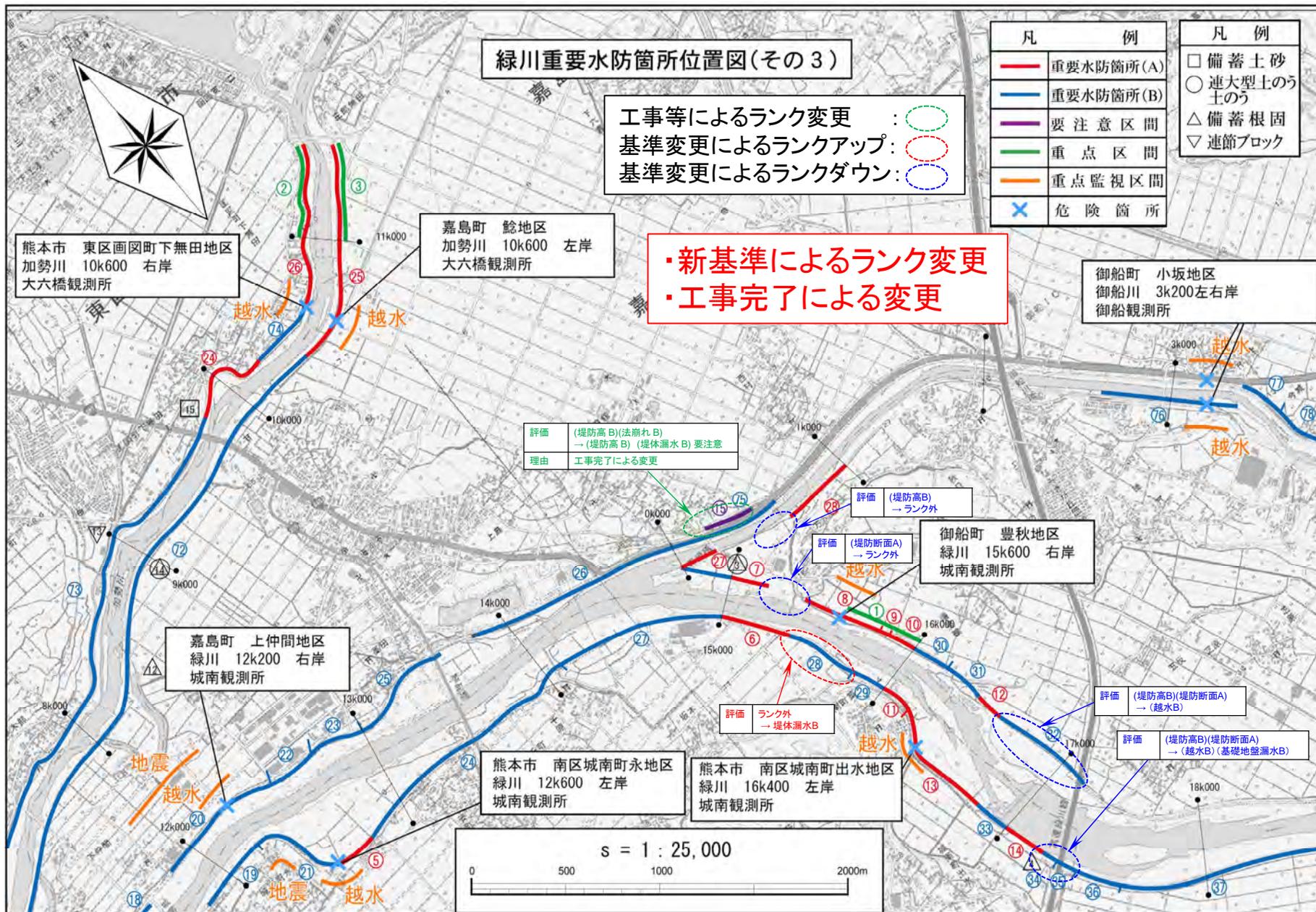
重要水防箇所の設定(R4.4版)



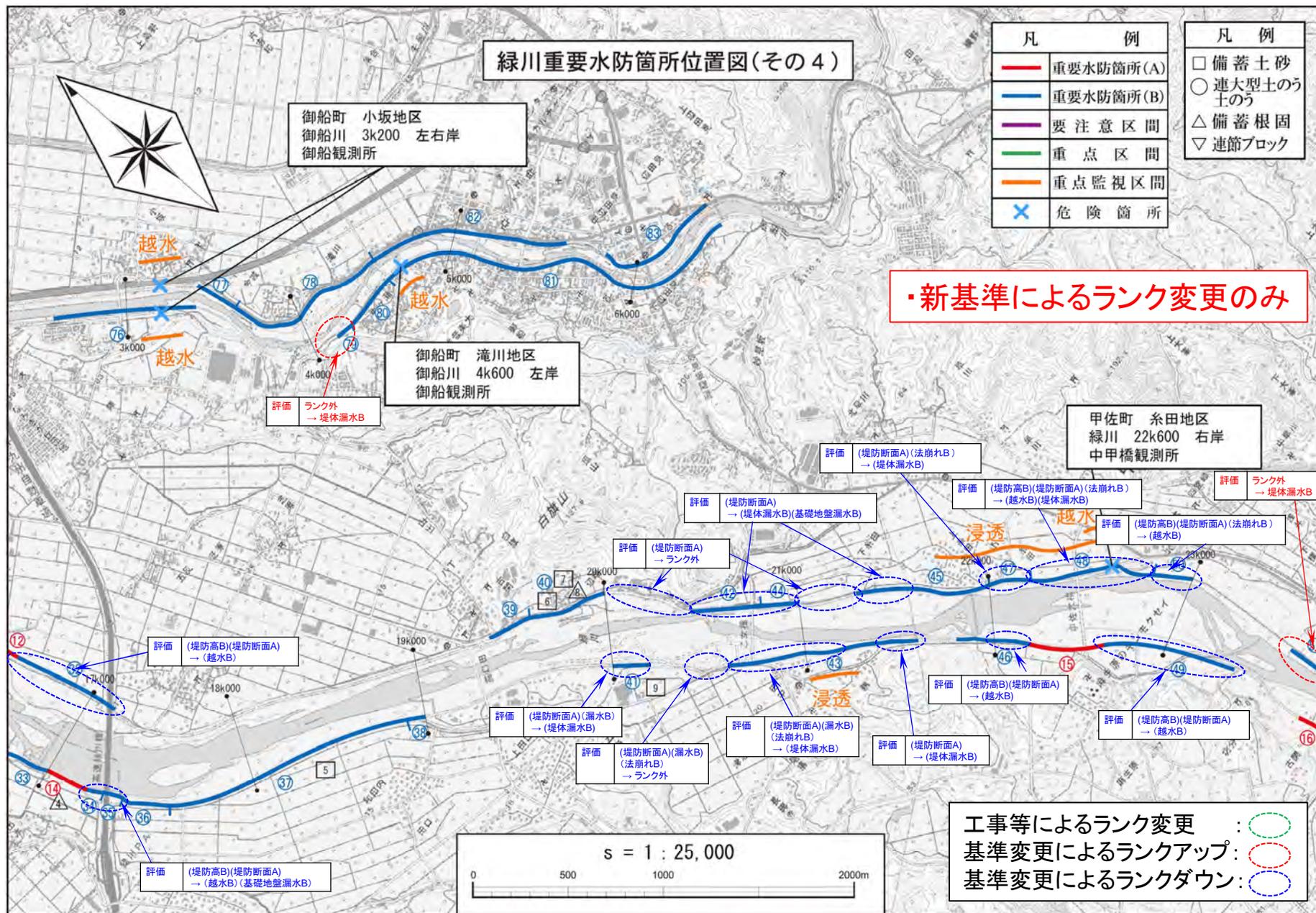
重要水防箇所の設定(R4.4版)



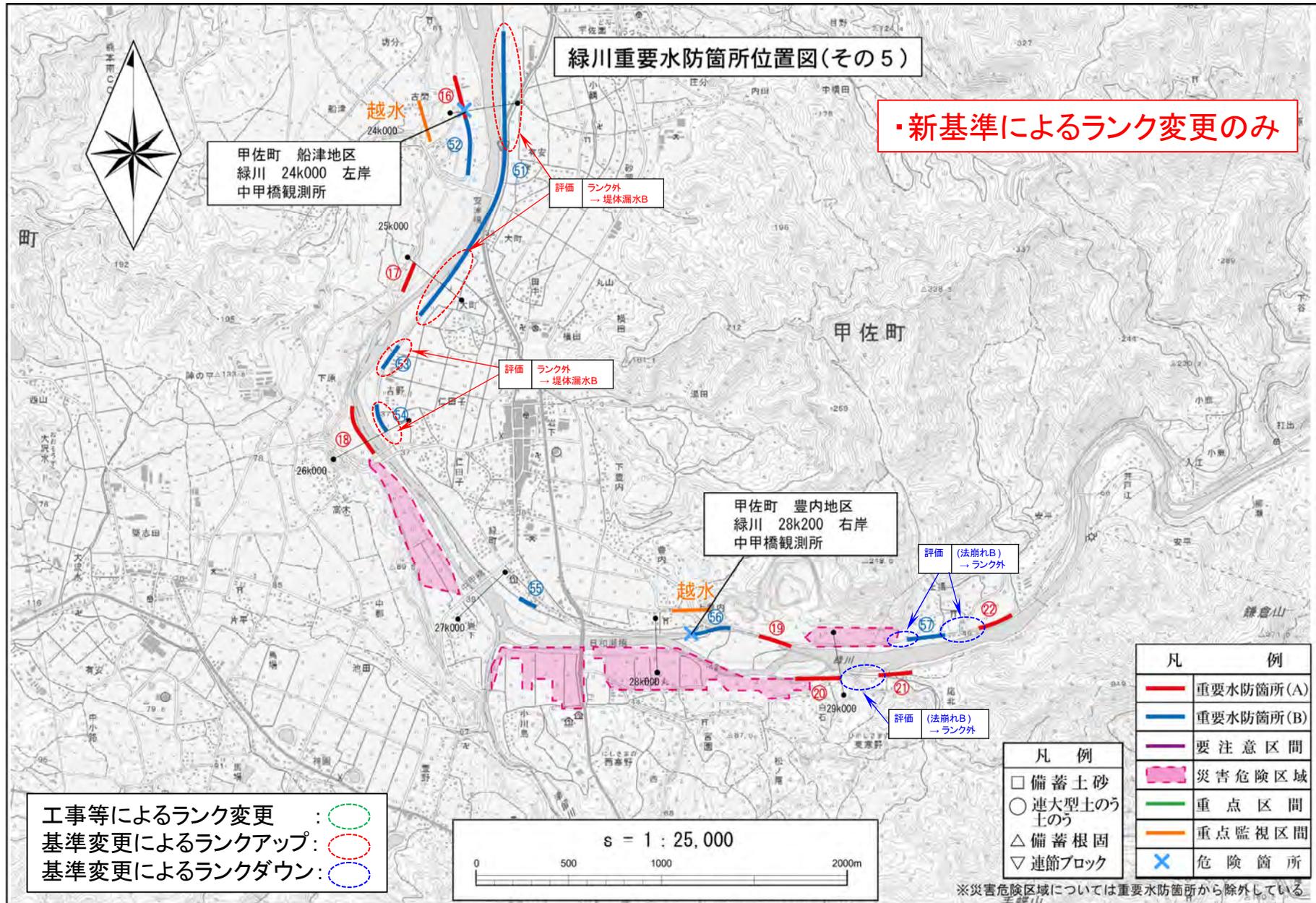
重要水防箇所の設定(R4.4版)



重要水防箇所の設定(R4.4版)



重要水防箇所の設定(R4.4版)



河川防災情報提供に関する 国土交通省・熊本県の取り組み

下記のページについては、データをお渡しすることが可能ですので広報紙等での掲載をお願い致します。

- ・河川の防災情報の提供の取り組み(事務所ホームページ:雨量・水位情報の提供)
- ・ " (事務所ホームページ:カメラ)
- ・ " (NHK地上デジタル放送による河川防災情報の提供)
- ・ " (川の防災情報・アラームメール)
- ・川の防災情報における県管理河川カメラ画像の追加

河川の防災情報提供の取り組み(事務所ホームページ:雨量・水位情報の提供)

【熊本河川国道事務所HP】

①熊本(気象) (白川水系)	②熊本(気象) (白川水系)	③黒川 (白川水系)	④新町 (白川水系)	⑤色見 (白川水系)	⑥湯ノ谷 (白川水系)
⑦宇土(気象) (宇土水系)	⑧宇土(気象) (宇土水系)	⑨宇土(気象) (宇土水系)	⑩宇土(気象) (宇土水系)	⑪宇土(気象) (宇土水系)	⑫宇土(気象) (宇土水系)
⑬宇土(気象) (宇土水系)	⑭宇土(気象) (宇土水系)	⑮宇土(気象) (宇土水系)	⑯宇土(気象) (宇土水系)	⑰宇土(気象) (宇土水系)	⑱宇土(気象) (宇土水系)

①白川河口 (白川)	②小島 (白川)	③代徳橋 (白川)	④子飼橋 (白川)	⑤高津橋 (白川)
⑥薄内 (白川)	⑦立野 (白川)	⑧妙見橋 (白川)	⑨中松 (白川)	⑩黒川 (黒川)

毎正時又は10分毎の水位が確認できる。
各水位レベルに応じて数値の色が変化。

毎正時又は10分毎の雨量、累加雨量が確認できる。

河川の防災情報提供の取り組み(事務所ホームページ:カメラ)

【熊本河川国道事務所HP】



白川ライブカメラをクリック

白川水系に設置してある20箇所のカメラが見ることができます。



※緑川ライブカメラをクリックすれば、緑川水系に設置してある34箇所のカメラも同様に見ることができます。



地図又は画像から見たいカメラをクリック

上の地図をご覧になるには、Adobe社が配布しているFlash Playerが必要です(無償)。Flash Playerをお持ちでない方は下記からダウンロードしてください。
[Adobe Flash Playerのダウンロードはこちら](#)
 画像内の文字は河川管理上の位置表示のため、定点カメラの名称が異なる場合があります。業務の都合上、見れないライブカメラもあります。



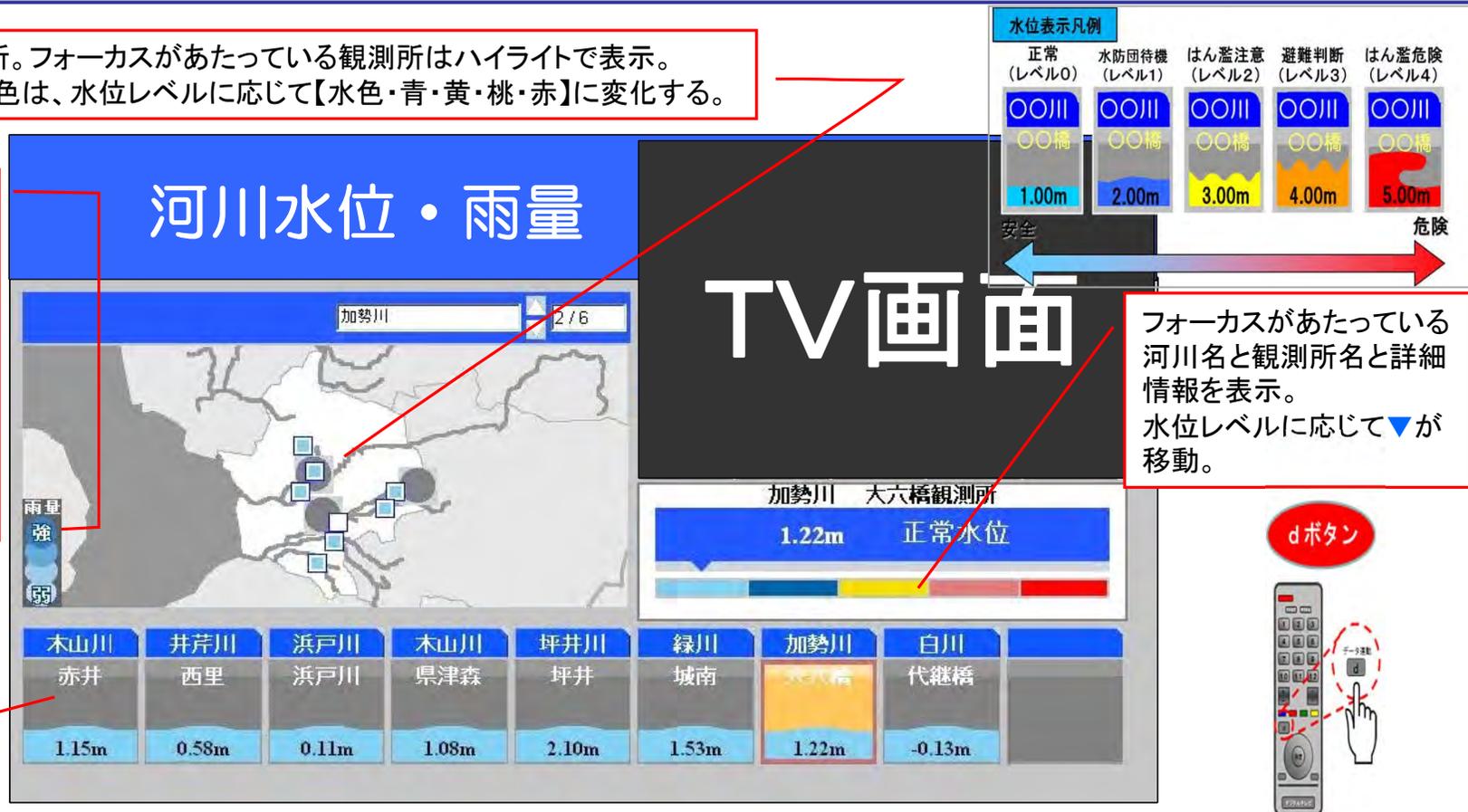
河川の防災情報提供の取り組み(NHK地上デジタル放送による河川防災情報の提供)

- 河川防災情報を住民にお知らせする取り組みの一つとして、「地上デジタル放送」の**データ放送用情報提供システム**を構築し、運用。(現在放送メディア:NHKデジタル総合テレビ データ放送)
- 取り扱うデータは、九州内の国土交通省・各県等の所有する観測所の**水位・雨量データ**で、**ほぼリアルタイム**で伝達することが可能。(現状(NHK)では10分更新データを採用)

水位観測所。フォーカスが当たっている観測所はハイライトで表示。アイコンの色は、水位レベルに応じて【水色・青・黄・桃・赤】に変化する。

雨量は強さに応じて4段階の青の濃淡で表示。

- 30～
- 15～
- 4～
- 0.1～



フォーカスが当たっている河川名と観測所名と詳細情報を表示。水位レベルに応じて▼が移動。

観測ポイントごとの水位を「正常」「氾濫注意」「避難判断」「氾濫危険」の5段階と、「欠測」の6種類のアイコンで表示。アイコンの波や色の高さは、水位レベルに応じて変化する。「氾濫注意水位」以上の場合、観測所名が黄色に変化、フォーカスを当てると観測所名が赤く変化する。

河川の防災情報提供の取り組み(川の防災情報・アラームメール)

河川情報アラームメール

河川情報アラームメールは九州管内の一級水系に配置した雨量・水位観測所の中から、利用者が必要とする観測所を選んで登録すると、基準値を超過した観測所のデータが配信される仕組みになっています。

また、配信するタイミングについても、利用者が利用目的に応じて個別に設定できるようになっています。

国土交通省 九州地方整備局 水災害予報センター

平成23年3月24日
システムグレードアップ
大幅に情報が増加します

河川情報アラームメール

新規登録用 空メール QRコード

提供される観測所が大幅に増加し、より身近な観測所の設定が可能となります！
雨量観測所 1174箇所(以前3247箇所) 水位観測所 758箇所(以前310箇所)

これまでご利用いただいていた方へのお知らせ
グレードアップに伴い、メールアドレスが変更となるため、メール受信設定をされている方は変更をお願いします。

「ドメイン指定受信」をされている方は「qsr.mlit.go.jp」を、「メールアドレス指定受信」をされている方は「kasenalarm-info@qsr.mlit.go.jp」をお使いの携帯電話の「メール受信設定」に追加をお願いします。
※3月24日のシステム改定完了後、メール受信設定が出来るよう、メールを送りつけて頂きます。
3月24日にメールが届かない場合は、「メール受信設定」のご確認をお願いします。

新しくご利用いただく方へのお知らせ

<p>登録は以下の方法で</p> <p>空メールの送信 メールアドレスを登録入力し、下記のQRコードをタップして登録用空メール、QRコードをタップして登録用空メールを送信してください。</p> <p>登録用空メール: kasenalarm-entry@qsr.mlit.go.jp</p> <p>空メールへ送信後、河川情報アラームメールへアクセスするための登録用メールアドレスを受信します。 ※登録用空メールは、登録完了後、自動的に送信停止となります。</p>	<p>登録画面 メールアドレスを登録する際、氏名・住所を入力します。 観測所を選択する際は、観測所の名称・観測項目・観測項目の単位・観測項目の単位を選択してください。 観測項目の単位は、観測項目の単位を選択してください。 観測項目の単位は、観測項目の単位を選択してください。</p>	<p>アラームメール例 福岡県において、福岡県水防センターより、水害警報をメールでお知らせします。</p> <p>福岡県水防センター 福岡県水防センター 福岡県水防センター 福岡県水防センター 福岡県水防センター 福岡県水防センター</p>
--	--	---

河川情報アラームメールとは

九州地方の雨量・水位情報を携帯メールでお知らせします
「川の防災情報」で提供される河川情報を携帯電話のメールにてお知らせします。提供される情報は九州管内の雨量観測所と水位観測所です。URLサイトを見なくても広域的な河川情報を発信することができます。

河川情報アラームメール(携帯端末)
qsr-kasenalarm-entry@kp.mlit.go.jp

川の防災情報

川の防災情報とは、国土交通省が、インターネット等により提供しているサービスであり、各観測局における雨量や水位のリアルタイムのデータをパソコンやスマートフォンを通じて取得できます。

▶ 住民の方々が自らは氾濫の危険性を知り、的確な避難行動などに役立つように、利用者目線に立った新しい『川の防災情報』を提供しています

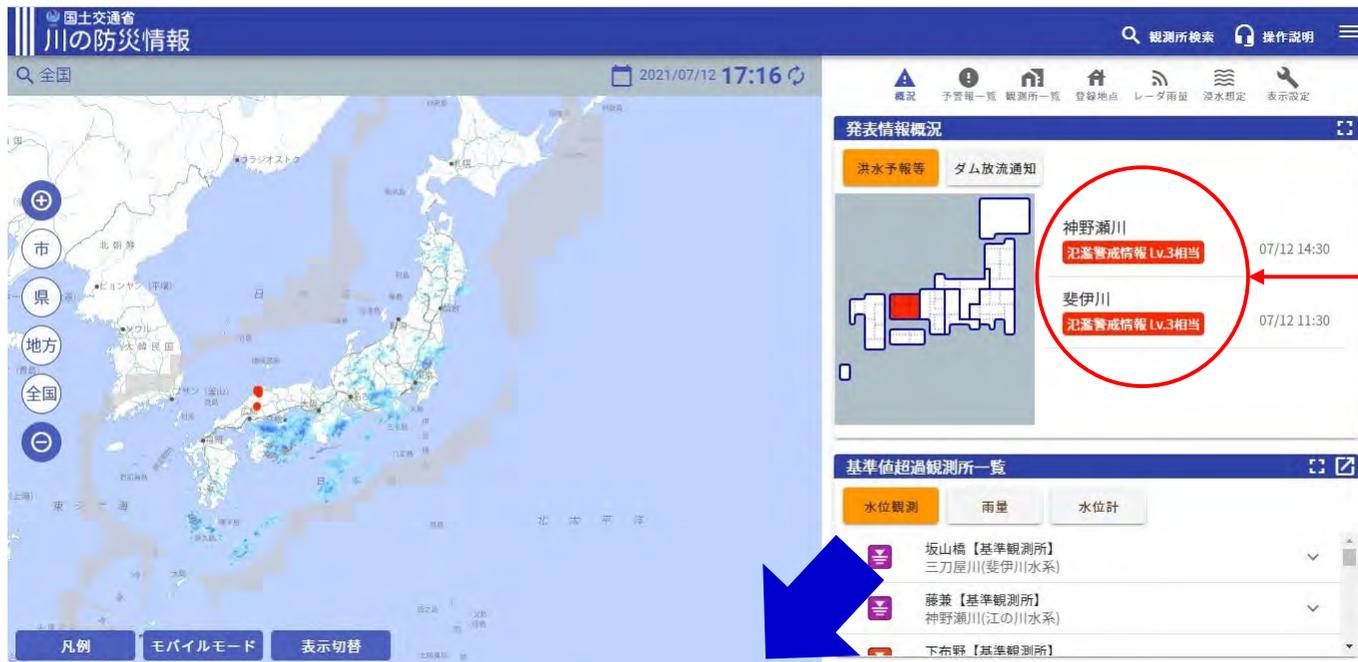
パソコンから <https://www.river.go.jp/>
スマートフォンから <https://www.river.go.jp/s/>
英語版 <https://www.river.go.jp/e/>

国土交通省



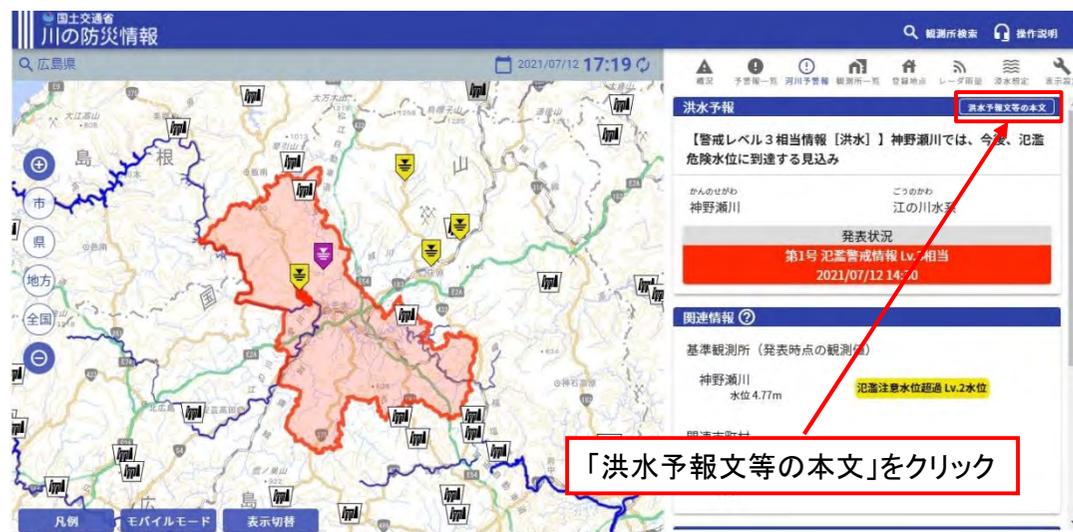
河川の防災情報提供の取り組み(川の防災情報)

■国管理河川において洪水予報等を発表した場合には、6時間先までの予測水位を確認できるようになりました。



発表されている「洪水予報等」をクリック

6時間先までの予測水位



この雨は今後次第に弱まるでしょう。

流域	12日 06時 00分～12日 14時 10分 までの流域平均雨量	12日 14時 10分～12日 17時 10分 までの流域平均雨量の見込み
神野瀬川流域	126 ミリ	3 ミリ

(水位)

神野瀬川の水位観測所における水位は次の通りと見込まれます。

観測所名	水位危険度 水位(m) 又は 流量(m3/s)	レベル			
		レベル1 水防団 待機	レベル2 氾濫 注意	レベル3 避難 判断	レベル4 氾濫 危険
神野瀬川 水位観測所 (三次市)	12日 14時 10分の状況	4.59			
	12日 15時 10分の予測	5.03			
	12日 16時 10分の予測	5.33			
	12日 17時 10分の予測	5.62			
	12日 18時 10分の予測	5.21			
	12日 19時 10分の予測	4.90			
	12日 20時 10分の予測	***			

予測時間が長くなるほど不確実性が高まります。予測水位の値は今後変わることもあるため、今後も最新の発表をご確認ください。
水位のグラフは各水位間を按分したものです。

※6時間先の予測水位については、洪水予報発表時の予測水位ですので、時間が経過している場合、実際との乖離が大きくなっていることがあるのでご注意ください。

河川の防災情報提供の取り組み(川の水位情報)

川の水位情報

川の水位情報とは、2018年から設置を進めている危機管理型水位計の水位情報をインターネットやスマートフォンで提供しているサービスです。

また、川の防災情報で提供している水位情報と河川カメラを統合表示しています。

➡ アクセスはこちらから <https://k.river.go.jp/> (パソコン・スマートフォン共通)



■ 3つの追加機能

①危機管理型水位計に加え、通常水位計や河川カメラが同一画面に表示されます。



②リアルタイムの河川水位に対応して表示の色が変化し、危険度がわかります。



③河川カメラのアイコンを選択することで河川の状況が簡単にみられます。



緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信(全国的な取組)

平成30年5月1日から、国が管理する白川、緑川で、川が氾濫する可能性が高まった時に、対象の地域にいる人に氾濫の危険をお知らせする情報が自動で発信されるようになりました。



洪水情報のプッシュ型配信イメージ

緊急速報

- ・河川氾濫のおそれ
- ・警戒レベル4相当
- ・こちらは国土交通省九州地方整備局です
- ・内容：〇〇川の〇〇(〇〇市)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる氾濫危険水位に到達しました。
- ・行動要請：防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください
- ・本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります

①河川氾濫のおそれ

緊急速報

- ・河川氾濫発生
- ・警戒レベル5相当
- ・こちらは国土交通省九州地方整備局です
- ・内容：〇〇川の〇〇市〇〇地先(〇岸、〇側)付近で堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出ています
- ・行動要請：防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、命を守るための適切な防災行動をとってください
- ・本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります

②-ⅰ 河川氾濫発生
(河川の水が堤防を越えて溢れ出ている時)

緊急速報

- ・緊急速報
- ・警戒レベル5相当
- ・こちらは国土交通省九州地方整備局です
- ・内容：〇〇川の〇〇市〇〇地先(〇岸、〇側)付近で河川の水が堤防を越えて流れ出ています
- ・行動要請：防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、命を守るための適切な防災行動をとってください
- ・本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります

②-ⅱ 河川氾濫発生
(堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出している時)

氾濫危険水位超過時(レベル4)と氾濫発生時(レベル5)に「緊急速報メール」として、住民へ配信。

対象河川と観測所及び配信エリア

対象水系：河川	基準観測所	配信エリア
白川水系：白川	代継橋水位観測所 (熊本県熊本市)	熊本市
緑川水系：緑川、浜戸川	城南水位観測所 (熊本県熊本市) 中甲橋水位観測所 (熊本県下益城郡美里町)	熊本市、宇土市、宇城市、嘉島町、御船町、甲佐町、美里町
緑川水系：加勢川	大六橋水位観測所 (熊本県上益城郡嘉島町)	熊本市、嘉島町、御船町
緑川水系：御船川	御船水位観測所 (熊本県上益城郡御船町)	熊本市、嘉島町、御船町

危機管理型水位計設置による防災情報強化【熊本県】

○熊本県では、河川の監視体制や県民への情報提供を強化するため**危機管理型水位計**を設置。

【合計113カ所(うち白川緑川水系22カ所)。R4.3末時点】

○出水時に河川の監視や県民の早期避難につなげることを目的として、**より正確な防災情報を提供。**

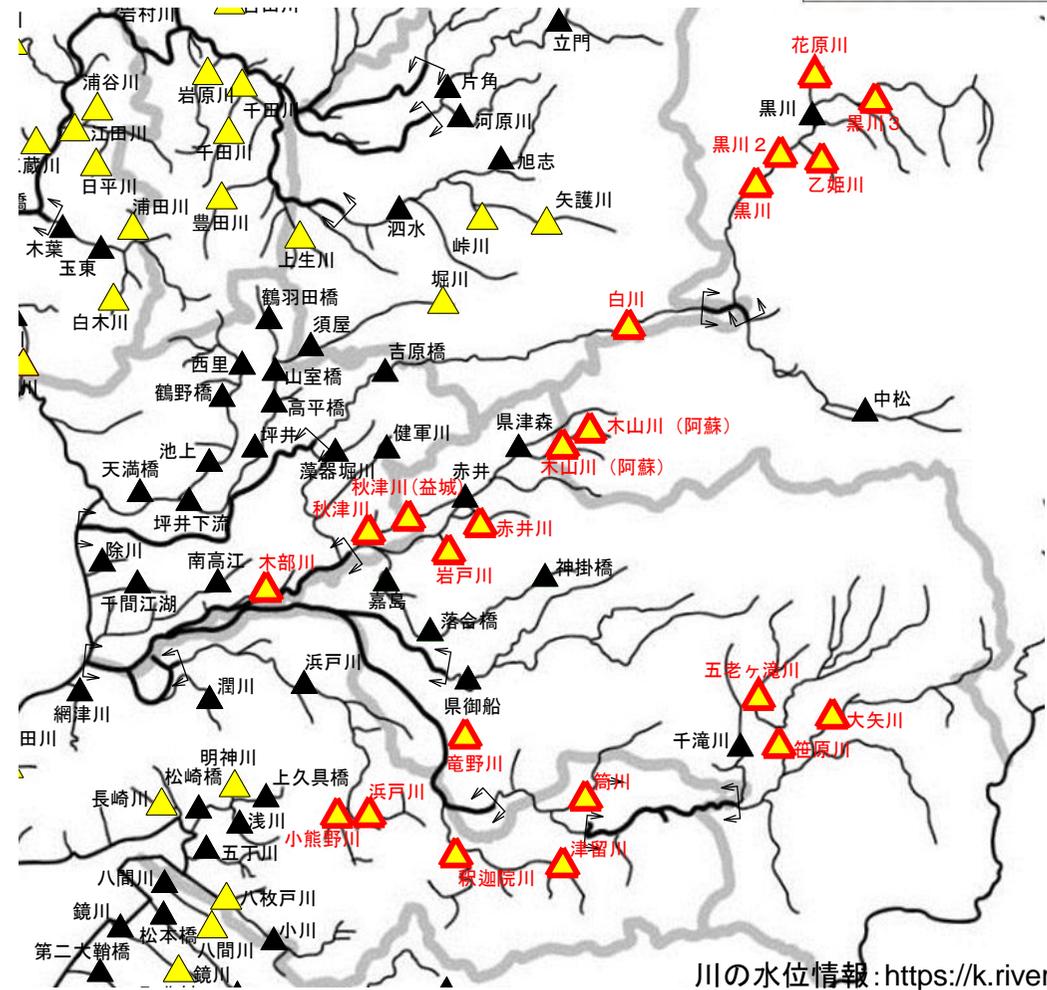
	従来型	危機管理型
1級水系	34	79
2級水系	59	34

事務所	級	水系	河川名
菊池	1級	菊池川	幹川
菊池	2級	坪井川	瀬川
菊池	1級	菊池川	上生川
菊池	1級	白川	白川
菊池	1級	菊池川	矢野川
熊本	1級	菊池川	上内田川
熊本	1級	菊池川	木野川
熊本	1級	菊池川	岩原川
熊本	1級	菊池川	岩村川
熊本	1級	菊池川	岩野川
熊本	1級	菊池川	吉田川
熊本	1級	菊池川	千田川
熊本	1級	菊池川	浦方川
阿蘇	1級	筑後川	志賀瀬川2
阿蘇	1級	筑後川	志賀瀬川1
阿蘇	1級	筑後川	筑後川
阿蘇	1級	筑後川	中原川
阿蘇	1級	大野川	玉来川1
阿蘇	1級	大野川	玉来川2
阿蘇	1級	白川	黒川12
阿蘇	1級	白川	黒川13
阿蘇	1級	白川	黒川11
阿蘇	1級	白川	花原川
阿蘇	1級	白川	乙姫川
阿蘇	1級	緑川	木山川
阿蘇	1級	大野川	産山川
天草	2級	合津川	合津川
天草	2級	亀川	亀川
天草	2級	高浜川	高浜川
天草	2級	大江川	大江川
天草	2級	大室池川	碓石川
天草	2級	一町田川	葛河内川
天草	2級	一町田川	白木河内川
天草	2級	上津浦川	上津浦川
天草	2級	上津浦川	糠田川
天草	2級	楠浦川	楠浦川
玉名	1級	菊池川	三蔵川
玉名	2級	行末川	友田川
玉名	2級	浦川	増永川
玉名	1級	菊池川	白木川
玉名	1級	菊池川	浦田川
玉名	1級	菊池川	江田川
玉名	1級	菊池川	日平川
玉名	1級	菊池川	浦谷川
玉名	1級	菊池川	十町川
玉名	1級	菊池川	岩村川
玉名	2級	宮崎川	宮崎川
玉名	1級	菊池川	内田川
玉名	2級	関川	懸樋瀬川
玉名	2級	関川	唐人川
玉名	2級	関川	関川
熊本	1級	緑川	木部川
熊本	1級	緑川	秋津川
熊本	1級	菊池川	豊田川
上益城	1級	緑川	秋津川
上益城	1級	緑川	赤井川
上益城	1級	緑川	岩戸川

事務所	級	水系	河川名
上益城	1級	緑川	竜野川
上益城	1級	緑川	五老滝川
上益城	1級	緑川	菅原川
上益城	1級	緑川	大矢川
上益城	1級	緑川	小黒野川
宇城	2級	長崎川	長崎川
宇城	2級	郡浦川	郡浦川
宇城	2級	大野川	明神川
宇城	2級	八枚戸川	八枚戸川
宇城	1級	緑川	浜戸川
宇城	2級	網田川	網田川
宇城	1級	緑川	津留川
宇城	1級	緑川	秋津川
宇城	1級	緑川	網田川
宇城	1級	緑川	網田川
八代	2級	流瀬川	流瀬川
八代	2級	二見川	下大野川
八代	2級	大瀬川	夜霧川
八代	1級	球磨川	油谷川
八代	2級	八間川	八間川
芦北	2級	佐敷川	乙千瀬川
芦北	1級	球磨川	吉尾川
芦北	2級	湯の浦川	橋本川
球磨	1級	球磨川	錦山川
球磨	1級	球磨川	免田川
球磨	1級	球磨川	小川
球磨	1級	球磨川	川内川
球磨	1級	球磨川	山田川
球磨	1級	球磨川	出水川
球磨	1級	球磨川	牛橋川
球磨	1級	球磨川	小権川
球磨	1級	球磨川	柳橋川
球磨	1級	球磨川	万江川
熊本	1級	菊池川	千田川
阿蘇	1級	筑後川	千田川
阿蘇	1級	筑後川	志賀瀬川
阿蘇	1級	緑川	木山川
八代	2級	緑川	緑川
芦北	2級	津奈木川	津奈木川
球磨	1級	球磨川	胸川
天草	2級	町山口川	町山口川
球磨	1級	球磨川	万江川
球磨	1級	球磨川	万江川
球磨	1級	球磨川	免田川
球磨	1級	球磨川	免田川
球磨	1級	球磨川	小さて川
球磨	1級	球磨川	都川
八代	1級	球磨川	百済木川
芦北	2級	佐敷川	佐敷川
芦北	2級	佐敷川	碓浦川
玉名	2級	関川	関川
球磨	1級	球磨川	川内川
球磨	1級	球磨川	錦川
球磨	1級	球磨川	那良川
球磨	1級	球磨川	茅川
球磨	1級	球磨川	中園川
球磨	1級	球磨川	告川

(凡例)

- ▲ 危機管理型水位計
- ▲ 危機管理型水位計
【白川緑川水系】
- ▲ 従来型水位計(既設)



川の水位情報 : <https://k.river.go.jp/>

緑川ダムからの情報提供





《諸元》

ダムの高さ: 76.5m

(ダム天端標高EL.182.0m)

ダムの長さ(堤頂長): 295.3m

ダムの位置: 河口より約42km

流域面積: 359km²

湛水面積: 1.81km²

総貯水容量: 4,600万m³

管理開始: 昭和46年(1,971年)【51年経過】

《目的》

●洪水調節

ダム地点における計画高水流量: 2,800m³/s

洪水調節量: 800m³/s

洪水調節容量: 2,400万m³

●発電

発電所: 緑川第1～3発電所[熊本県企業局]

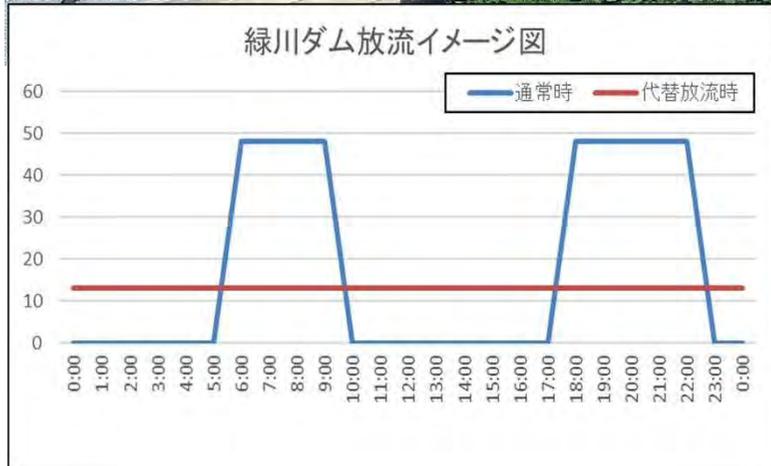
最大出力: 35,140kW

●かんがい

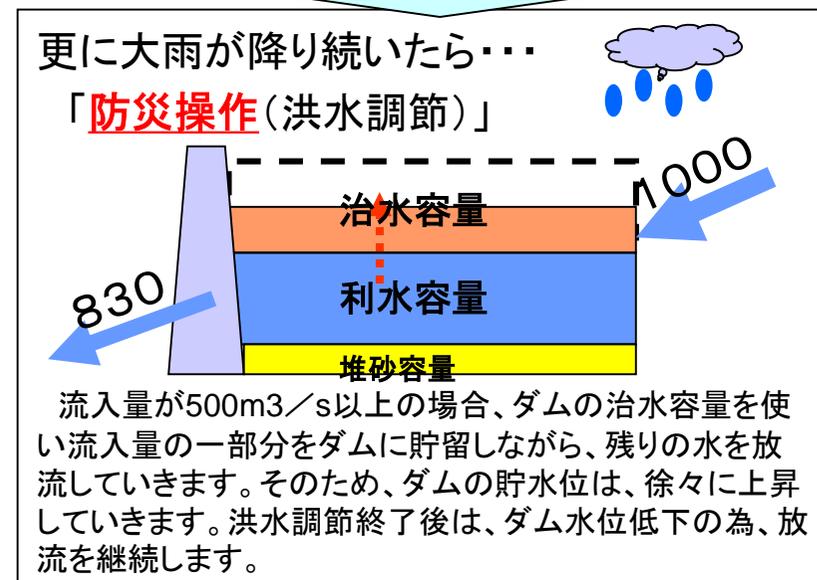
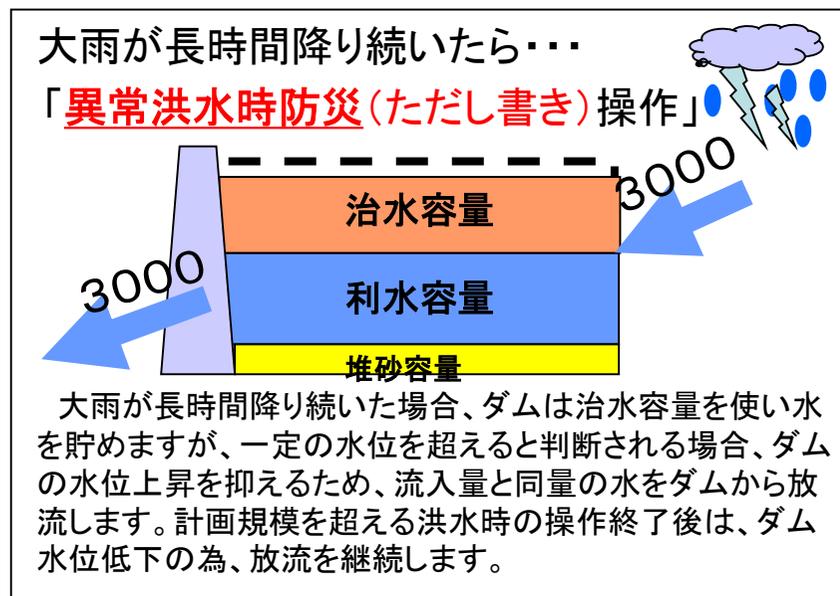
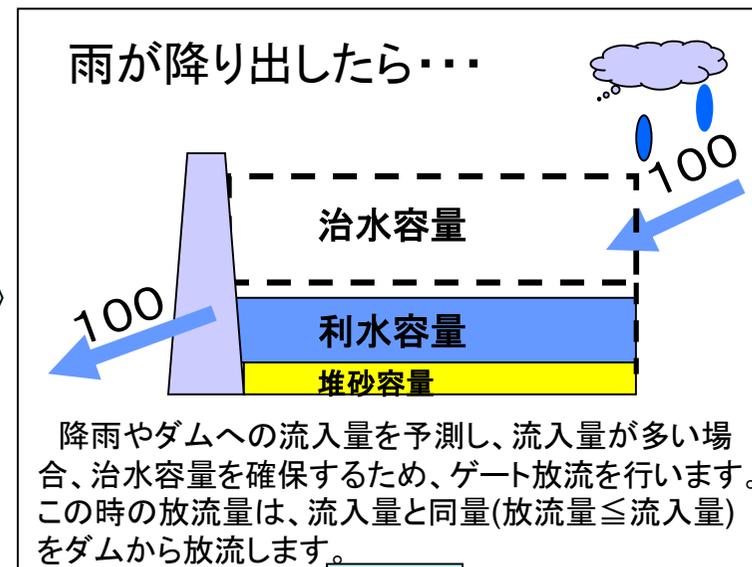
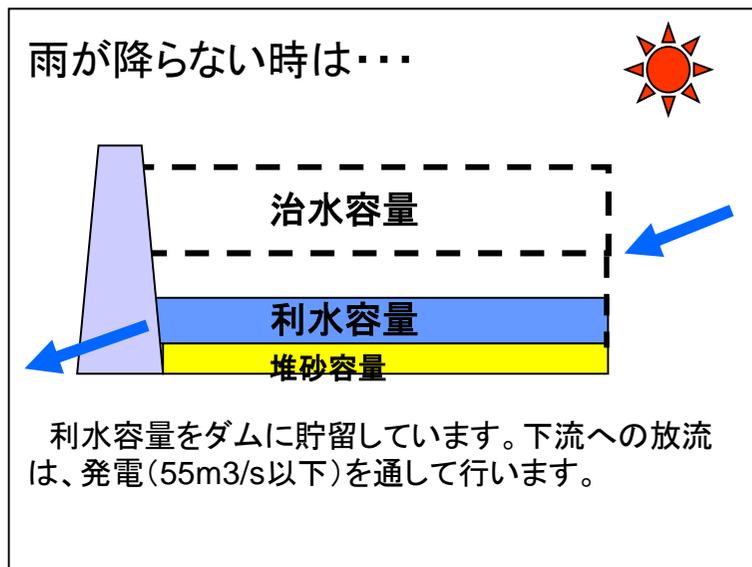
緑川下流は県内でも有数の穀倉地帯に当たり、豊かな実りを支えるかんがい用水の供給を目的としている。

緑川第1発電所工事に伴う代替放流

- 緑川第一発電所工事のリニューアル工事に伴い、緑川ダムから代替放流を実施中
《令和2年5月～令和4年7月(予定)》
- 通常は発電所を通じて放流しているものを、緑川ダムからゲート放流



緑川ダム放流の仕組み



①放流回数(直近5ヶ年)

R3年度放流実績

年度	体制発令回数	放流回数	防災操作回数 (洪水調節)
H29	36 (78日)	5	2
H30	22 (43日)	8	1
H31	14 (28日)	7	1
R2	16 (53日)	11	4
R3	14 (37日)	7	2

(令和4年3月31日時点)

月 日	洪水要因	最大流入量	最大放流量	備考
5月17日 ~ 5月18日	梅雨前線	699.09	499.92	防災操作 (洪水調節)
5月20日 ~ 5月22日	梅雨前線	395.16	390.60	
5月27日 ~ 5月28日	梅雨前線	259.84	248.85	
7月9日 ~ 7月10日	梅雨前線	91.74	85.56	
8月1日 ~ 8月2日		123.55	120.84	
8月8日 ~ 8月11日		184.58	183.90	
8月11日 ~ 8月23日	前線	734.95	664.98	防災操作 (洪水調節)
9月2日 ~ 9月3日	前線	108.67	105.48	

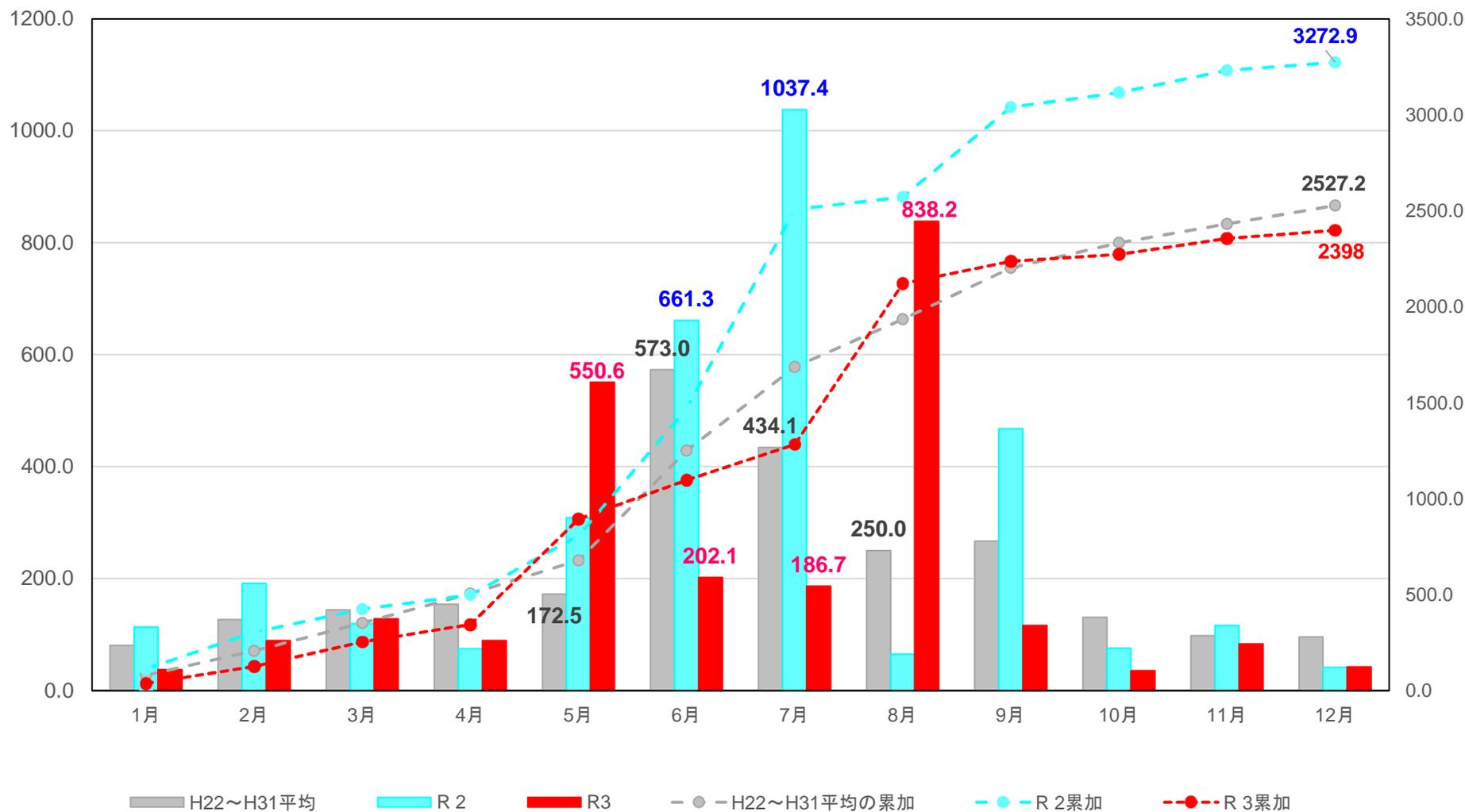
②近年の防災操作(洪水調節)実績

出水月日	出水要因	降雨状況 (流域平均)		流入・放流状況及び調節量					備考
		総雨量 (mm)	最多1時間 (mm)	最大流入量 (m3/s)	最大流入時 放流量 (m3/s)	調節量 (m3/s)	調節率 (%)	調節総量 (千m3)	
H28.6.21	梅雨前線	440.7	72.9	2,008.66	718.95	1,289.71	64.2	9,447	既往最大
R2.5.16	前線	172.7	20.9	551.05	352.89	198.16	36.0	1,018	
R2.7.4	梅雨前線	180.0	21.5	582.78	548.03	34.75	6.0	286	
R2.7.11	梅雨前線	380.0	26.6	801.20	622.67	178.53	22.3	651	
R2.7.14	梅雨前線	130.0	34.1	665.22	605.73	59.49	8.9	691	
R3.5.17	梅雨前線	188.0	38.1	699.09	251.85	447.24	64.0	2,389	
R3.8.13	前線	315.8	32.0	734.96	577.74	157.22	21.4	979	

※数値は速報値です

令和3年出水の振り返り(降雨の状況)

■緑川ダム上流域平均雨量(月別)



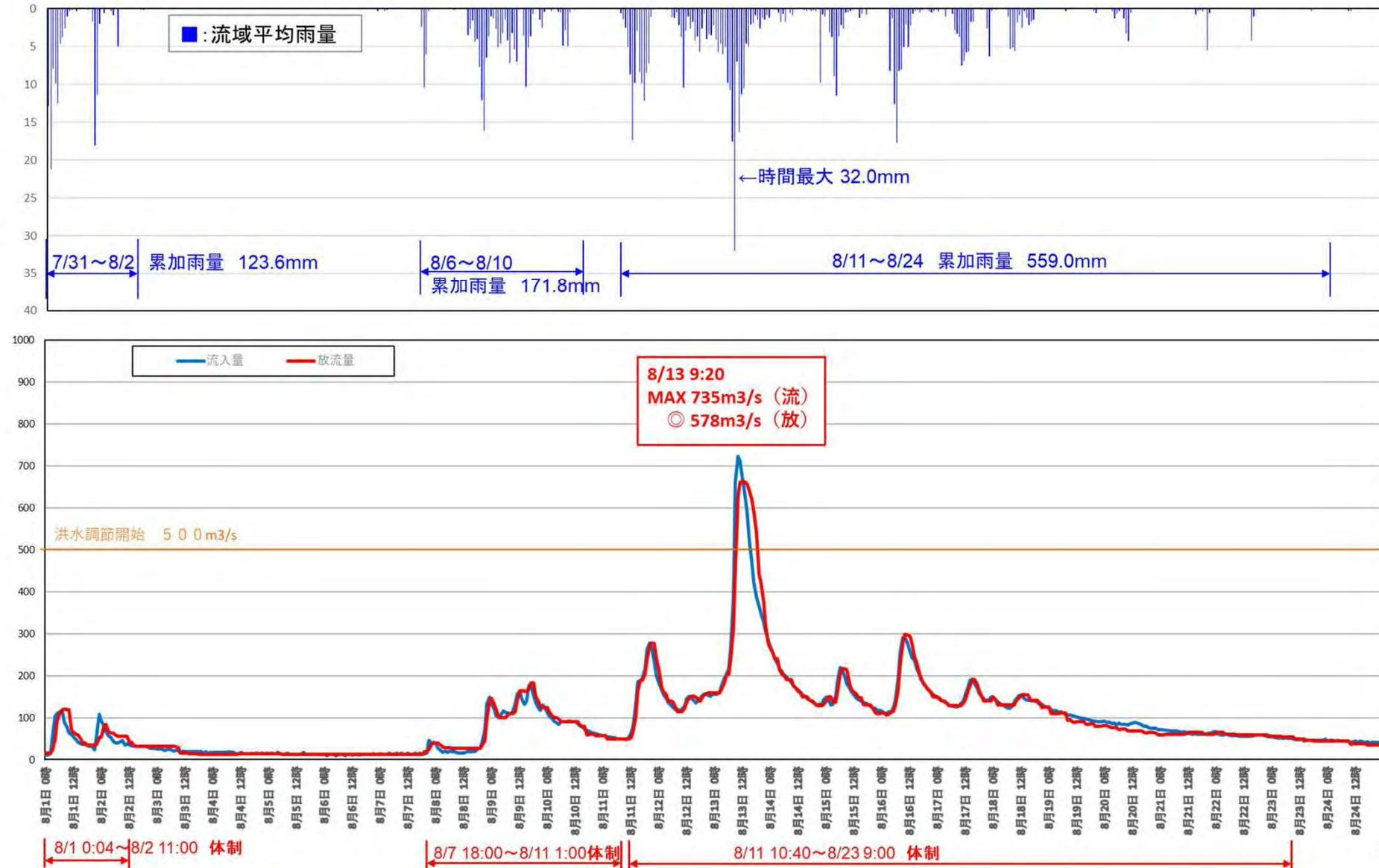
※数値は速報値です

令和3年出水の振り返り



■8月は断続的降雨により放流操作が長期化
(令和2年度は7月に同様の傾向が見られた)

※数値は速報値です

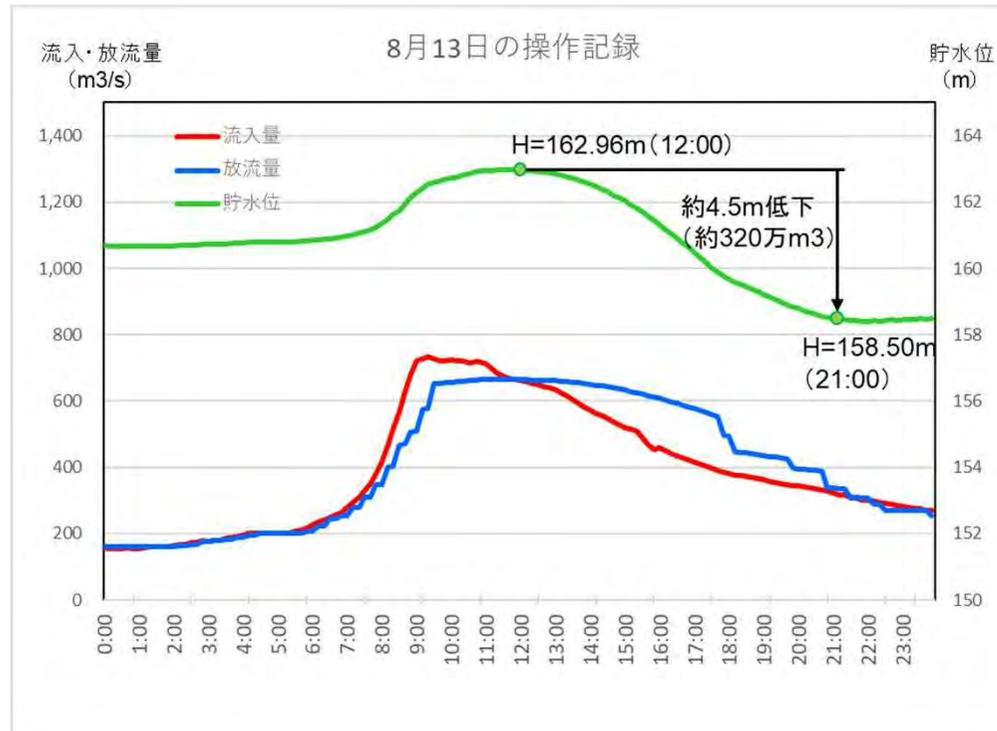


令和3年出水の振り返り



九州地方整備局
緑川ダム管理所

■8月11日からの大雨で、北部九州の直轄河川において堤防を越水する出水が発生したため、次の降雨に備えるため洪水調節後の後期放流を活用し貯水位を低下させた。



《参考》これまでの事前放流の実績
○令和2年9月：台風10号接近時



《出水期までのスケジュール》

■令和4年度 洪水対応演習

○日時：令和4年5月10日（火）9：00～17：00
5月11日（水）9：00～16：00

○通知文発信時刻：詳細については別途連絡いたします。

■令和4年度 緑川ダム放流連絡協議会

○日時：令和4年5月12日（木）14：00～

○場所：甲佐町役場及びWEB形式（Teams使用）

※ご協力よろしく申し上げます

川の防災情報

国土交通省 川の防災情報

国土交通省が提供する国や地方自治体などが設置した観測所の情報です。雨の状況・川の水位・洪水の予報などをリアルタイムで配信しています。



スマホ版はこちら

PC版 : <http://www.river.go.jp/>

マルチモニタより見たい情報を選択

国土交通省 川の防災情報

「気象」×「水害」×「土砂災害」情報マルチモニタ

全国 北海道 東北 関東 北陸 中部 近畿 中国 四国 九州 沖縄

雨の降っている地域 (XRAIN) 14:50

気象情報・注意報 14:50

河川カメラ(→全国のカメラへ) 14:50

川の水位情報 14:50

洪水の危険性が高まっている河川 14:50

洪水予報の発表地域 14:50

洪水予報を発表しているダムがある地域 14:50

洪水情報の危険度分布 14:50

土砂災害危険度分布 14:50

水害リスクライン 14:50

準備中

準備中

水害リスクラインのページへはこちらをクリック

国土交通省 川の防災情報

全国概況

全国の雨量分布

河川水位の危険度分布

はん危険水位
避難判断水位
はん注意水位
水防団待機水位

水位状況(危険度)を図やグラフで把握

国土交通省 川の防災情報

水位状況(危険度)を図やグラフで把握

はん危険水位
避難判断水位
はん注意水位
水防団待機水位

雨量の時間変化を見る

国土交通省 川の防災情報

雨量の時間変化を見る

ダムの貯水・入流/放流量等を確認

国土交通省 川の防災情報

ダムの貯水・入流/放流量等を確認

ライブカメラ画像と平常時の画像と比較

国土交通省 川の防災情報

ライブカメラ画像と平常時の画像と比較

内川合流点 建設カメラ

平常時

山梨県南都賀郡小川町 内川合流点

浸水想定区域図をチェック

国土交通省 川の防災情報

浸水想定区域図をチェック

雨が降ったら、自分のいる場所を調べてみよう。

川の近くに行くなら、最寄の観測所を調べて水位を見てみよう！



一般財団法人河川情報センター

国土交通省
川の防災情報
スマートフォン版



国土交通省が提供する国や地方自治体などが設置した観測所の情報です。
雨の状況・川の水位・洪水の予報などをリアルタイムで配信しています。

一般財団法人河川情報センター



スマホ版

PC版 : <http://www.river.go.jp/>

河川の水位と雨量

レーダ雨量

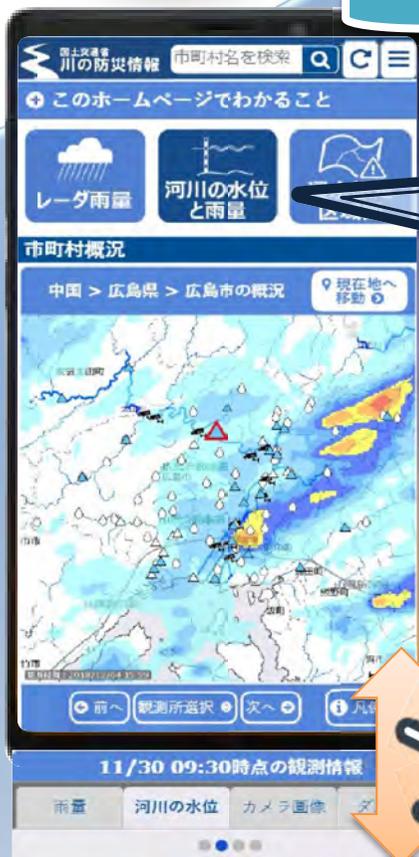


レーダシステムの切替可能。
※解像度や計測の時間間隔などが違います。

浸水想定区域図



川が氾濫した場合の浸水深を表示



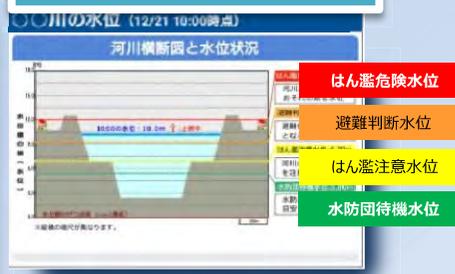
スクロールして情報を確認

雨量のグラフ



雨量の時間変化を確認

水位状況の図やグラフ



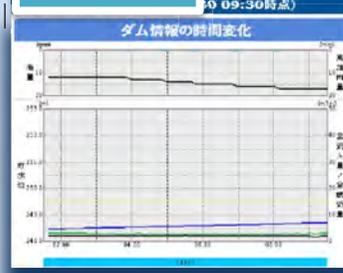
氾濫の危険度を4色に分けて表示

カメラ画像

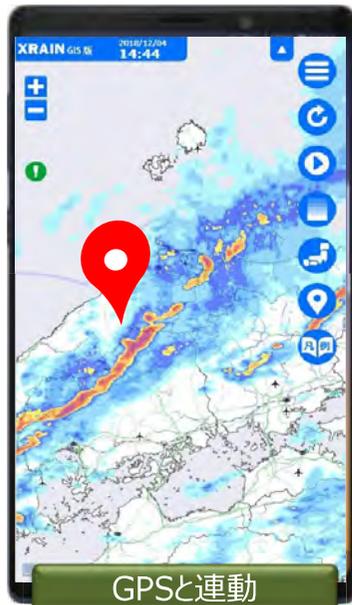


リアルタイムで
川の様子を画像で確認

ダム情報



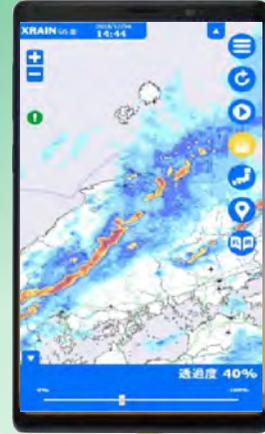
貯水・入流/放流量等が
確認できます



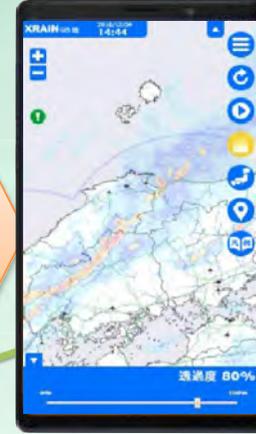
GPSと連動

GPSマークは実際より拡大しています。

雨が降っている場所の地形や位置を見やすく表示する



透過度40%



透過度80%

透過度

XRAIN GIS版

高精度・高分解能、より広範囲で詳細な雨の状況をほぼリアルタイムで配信

PC・スマートフォン版「川の防災情報」「川の防災情報 英語試行版」のXRAIN GIS版は、きめ細かな雨量情報を見ることができるので、日常生活にある雨から、豪雨・洪水などの災害などのいざという時にまで、役立てることが可能です。

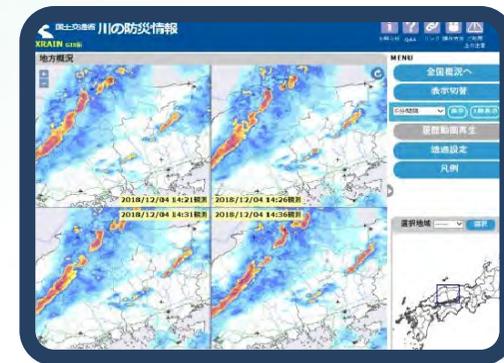
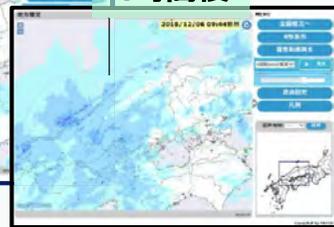
一般財団法人河川情報センター



履歴動画

1時間後

4時間後



4枚表示

履歴動画や4枚表示で今後の雨の動きを推定が可能

国土交通省
川の防災情報

英語試行版



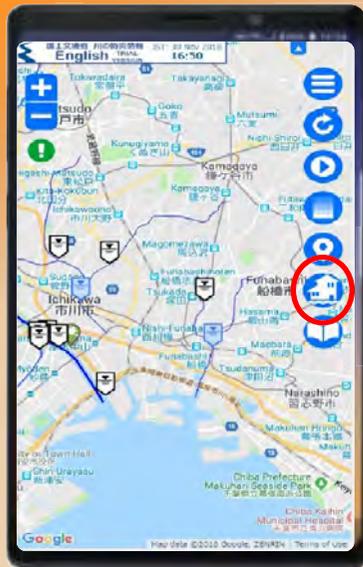
スマホ版

洪水の危険性を把握できる
「川の防災情報 英語試行版」の
配信を開始しました。

洪水リスクを通知



ベースマップ
(表示切替)



【XRAIN】
現在の雨域を表示

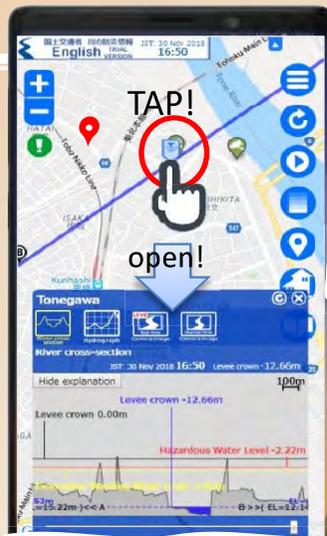


【浸水想定区域図】
場所の浸水深を表示

<https://www.river.go.jp/e/> (PC・スマホ共通)

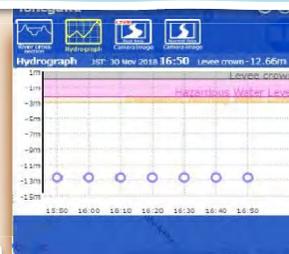
TAP!

open!



川の水位を断面図で表示

水位の変化をグラフで表示



危険度を4色で表示

ライブカメラ画像



今の川の状態を確認

平常時と比較



平常時の川の様子も確認

一般財団法人河川情報センター

国土交通省

川の水位情報

危機管理型水位計

地域の状況に応じて自治体が
配置した川の水位計の情報です。



スマホ版



PC版 : <https://k.river.go.jp/>

一般財団法人河川情報センター

水位の状態に応じて4段階で危険度を表示

水位計のアイコンと水位計がある場所の市町村の範囲を状態に応じて着色して表示します。

水位計アイコン

観測開始水位^{※2}以下 [観測開始水位超過] [危険水位超過] [氾濫開始水位超過]

危険度(低) → 危険度(高)

※わかりやすくするために一部実際より拡大しています。

水位の状態をグラフや図・画像でチェック！

河川横断面図 水位 河川カメラ 観測値一覧

グラフで 画像で 数値で

今の場所の近くの水位計の状況は……

TAP! open!

図で

川の断面から水位を確認

川の水位グラフで水位の危険度を確認。

カメラが設置してあるので、現在の川の様子を見ることが可能。

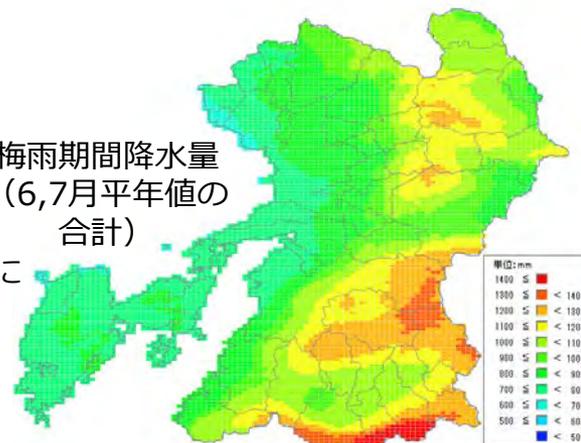
水位を数字で確認 ※ をタップするとウィンドウが開きます。

「第3回白川・緑川水系流域治水協議会」
「第7回白川・緑川水防災意識社会再構築協議会」
「令和4年度白川・緑川水防連絡会」
「令和4年度白川・緑川洪水予報連絡会」

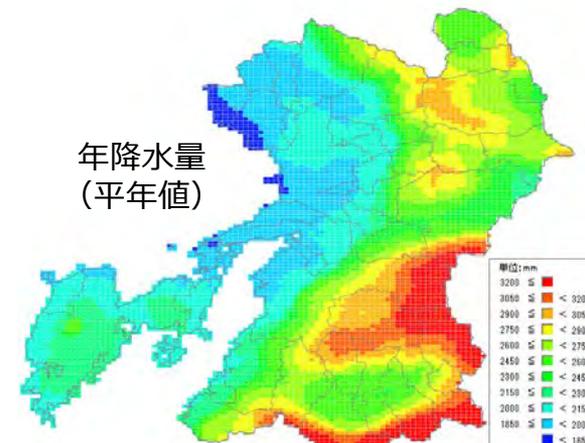
- ・ 今年の梅雨の見通しについて
- ・ 気象台での取り組みの紹介

令和4年4月26日
熊本地方気象台

梅雨期間降水量
(6,7月平年値の
合計)



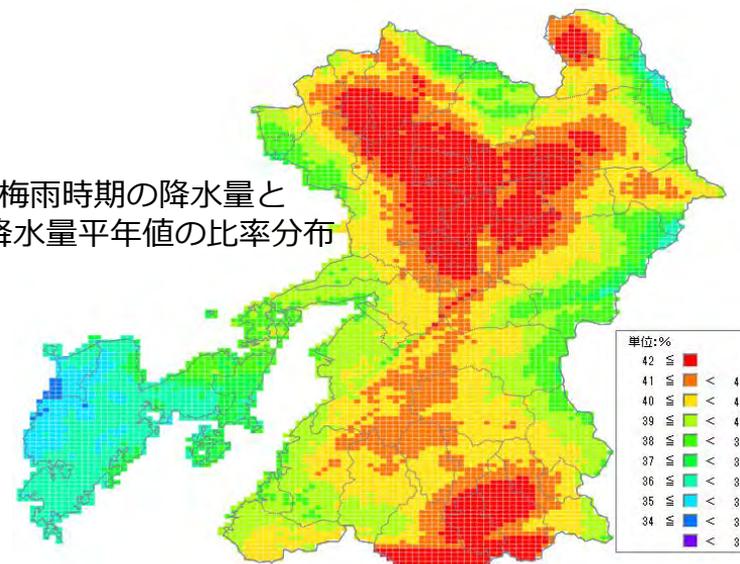
年降水量
(平年値)



平年値 (1991~2020年) による、年間降水量に
占める梅雨期間 (6~7月) の降水量の割合

観測地点	平年降水量 (mm)		比率 %
	梅雨期間	年間	
熊本	835.3	2007.0	42
阿蘇乙姫	1250.5	3009.6	42
人吉	1051.9	2534.9	41
牛深	758.5	2109.8	36
下関	563.0	1712.3	33
福岡	548.7	1686.9	33
佐賀	693.8	1951.3	36
長崎	628.6	1894.7	33
大分	574.9	1727.0	33
宮崎	855.6	2625.5	33
鹿児島	935.1	2434.7	38

梅雨時期の降水量と
年降水量平年値の比率分布



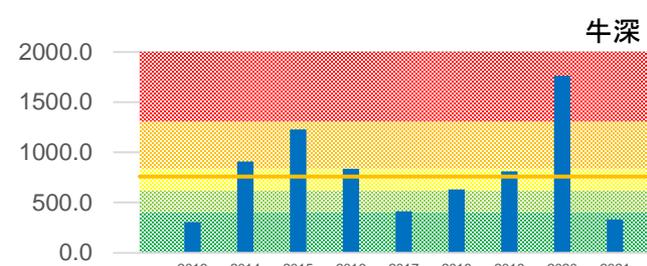
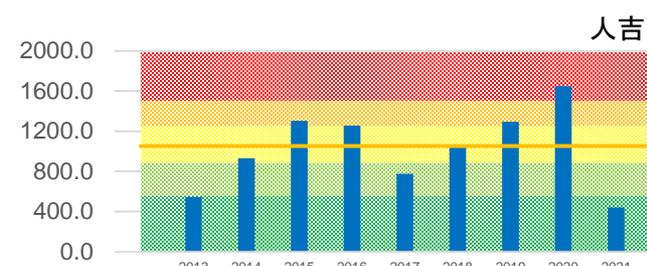
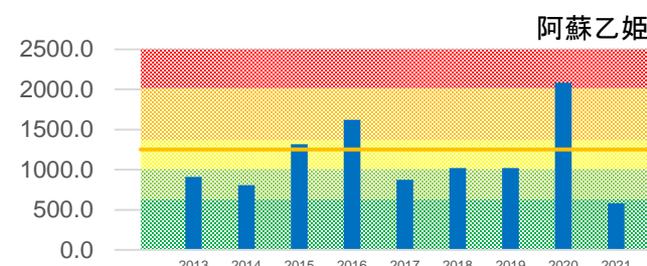
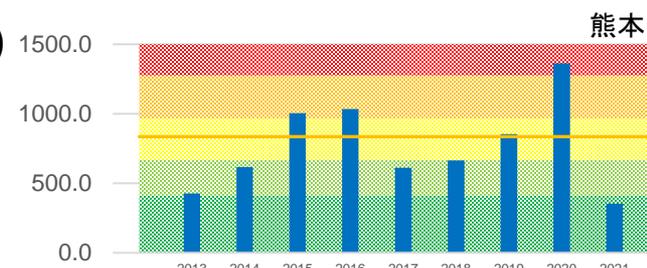
熊本県内の年間降水量は、九州山地西側の球磨地方や阿蘇地方で特に多い。
また、年間降水量に占める梅雨期間の降水量の割合が比較的大きいのが特徴。
たとえば、熊本では年間降水量2000ミリ前後に対し、6~7月の梅雨期間の降水量は800ミリ程度で、
年間降水量の約4割を占める。

参考：九州北部地方の梅雨入り日と梅雨明け日

※九州北部地方：山口県、福岡県、大分県、長崎県、佐賀県、熊本県

九州北部地方の梅雨入り、梅雨明け日と、
熊本県内主要4地点における梅雨期間の合計降水量(2013年以降)

西暦(和暦)	梅雨入り	梅雨明け	梅雨期間(6~7月)の合計降水量(mm)			
			熊本	阿蘇乙姫	人吉	牛深
2013(H25)	5月27日ごろ (かなり早い)	7月8日ごろ (早い)	426.5	912.0	545.5	304.0
2014(H26)	6月2日ごろ (早い)	7月20日ごろ (平年並)	616.5	808.5	930.5	909.0
2015(H27)	6月2日ごろ (早い)	7月29日ごろ (遅い)	1003.5	1317.5	1304.5	1229.0
2016(H28)	6月4日ごろ (早い)	7月18日ごろ (平年並)	1033.0	1621.5	1256.0	835.0
2017(H29)	6月20日ごろ (かなり遅い)	7月13日ごろ (早い)	611.0	874.5	776.0	412.5
2018(H30)	6月5日ごろ (平年並)	7月9日ごろ (早い)	663.0	1019.5	1067.5	630.0
2019(R01)	6月26日ごろ (かなり遅い)	7月25日ごろ (遅い)	853.0	1019.5	1295.0	811.5
2020(R02)	6月11日ごろ (遅い)	7月30日ごろ (遅い)	1363.5	2085.0	1648.5	1760.5
2021(R03)	5月11日ごろ (かなり早い)	7月13日ごろ (早い)	353.0	584.0	441.0	330.5
平年値	6月4日ごろ	7月19日ごろ	835.3	1250.5	1051.9	758.5



平年値 —

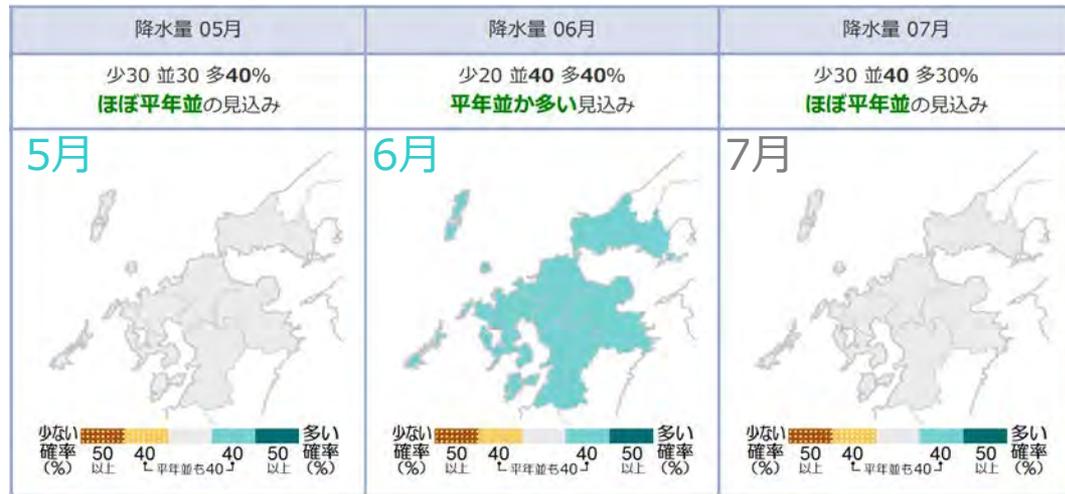
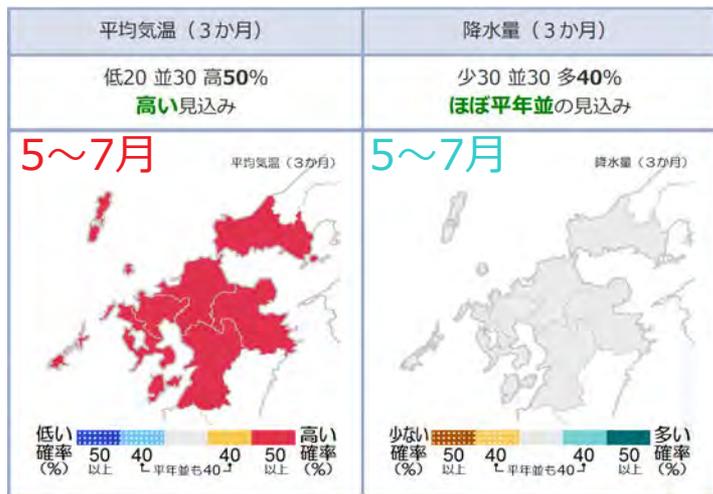
かなり多い ■■■ 多い ■■■ 平年並 ■■■ 少ない ■■■ かなり少ない ■■■

※牛深では、2020年7月の月降水量は「月降水量の多い方から」の極値を更新した。
 ※2021年の梅雨入りは、1951年以降最も早い梅雨入りとなった。

今年の梅雨の見通し（5～7月の天候の見通し）

令和4年4月19日発表（3か月予報）

※ 気象庁ホームページ「3か月予報：九州北部地方」
<https://www.jma.go.jp/bosai/season/data/pdf/P3M/010900.pdf>



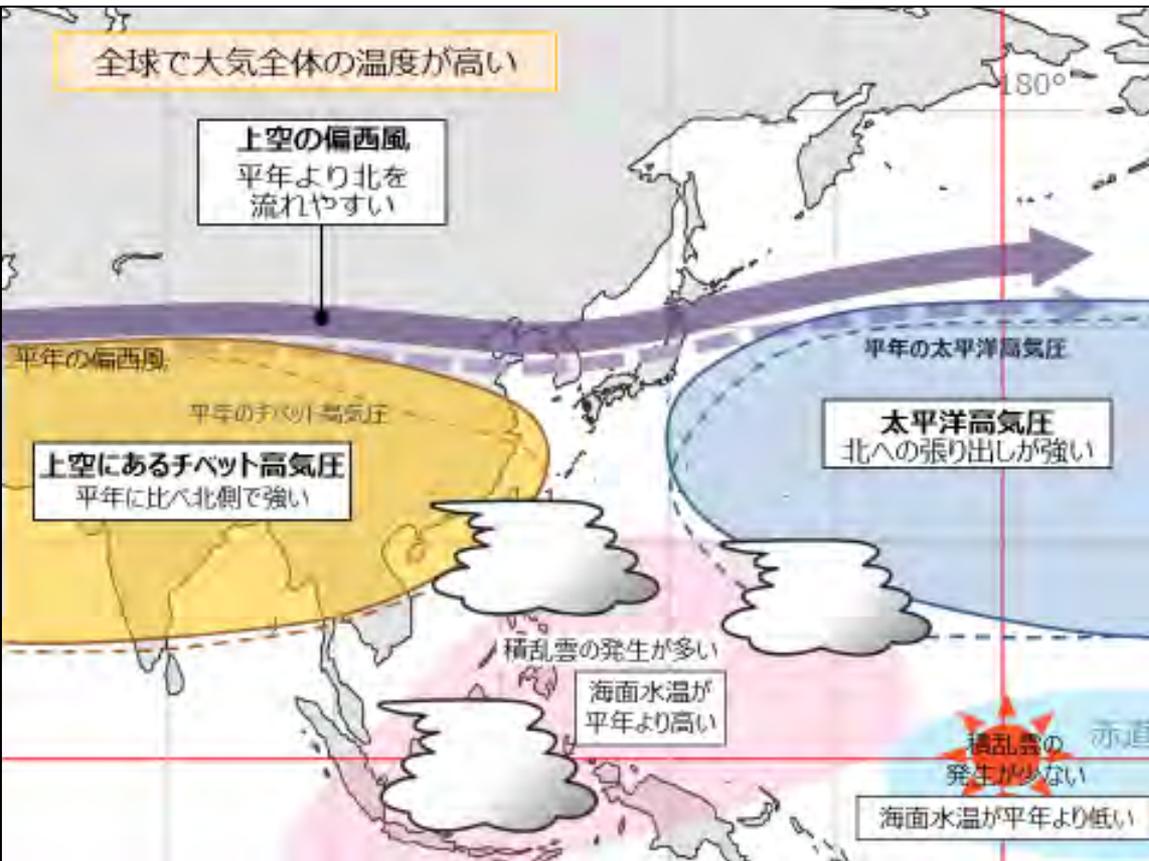
3か月予報のポイント

- ◆ 気温 暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は高いでしょう。
 - ◆ 降水量 向こう3か月の降水量はほぼ平年並ですが、6月の降水量は平年並が多いでしょう。
- 月別の天候（6月～7月：例年の梅雨期間に相当）
- ◇ 5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
 - ◇ 6月 梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
 - ◇ 7月 期間の前半は、梅雨前線や湿った空気の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

（参考）平年並の範囲

	平均気温 5～7月（3か月）	平均気温 5月	平均気温 6月	平均気温 7月
熊本	23.9℃ ～ 24.3℃	20.5℃ ～ 20.9℃	23.5℃ ～ 24.0℃	27.0℃ ～ 28.0℃
	降水量 5～7月（3か月）	降水量 5月	降水量 6月	降水量 7月
熊本	854.8mm ～ 1131.7mm	128.3mm ～ 184.7mm	253.3mm ～ 629.2mm	250.1mm ～ 418.7mm

※ 平年値についてはR3. 5.19～利用開始の新しい平年値を使用。



全球の大気

地球温暖化の影響等により、大気全体の温度が高い

熱帯域

- ・春はラニーニャ現象が続く可能性大
- ・海面水温は太平洋熱帯域西部で高く太平洋赤道域の中部から東部では低い
- ・積乱雲の発生は太平洋熱帯域西部で多く、太平洋赤道域の日付変更線付近で少ない

上空の偏西風

・チベット高気圧は北側で強く、上空の偏西風はユーラシア大陸から日本の東にかけて平年より北を流れやすい

九州付近

・太平洋高気圧の北への張り出しが強く、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期がある

- ・地域防災支援強化について
- ・キキクル（危険度分布）の改善

県内の地域毎に「担当チーム（あなたの町の予報官）」を設置し、
平時から「顔の見える関係」を構築することで、地域防災力の向上に直結する取組を推進します

担当チームの地域分け



- 平時から「顔の見える関係」を構築し、気象・気候・地震・津波・火山等に関する“ワンストップ”での支援を実施
- 地域の「我が事」感をもった防災力向上に直結する取組を、チームで推進
 - － 気象防災データベース（2020.3.18運用開始）等を活用し、地域に密着した日頃からの解説
 - － 地域防災計画、防災対応マニュアル等への助言
 - － 気象・気候や地震・津波・火山等の特性・災害リスクを共有
 - － 実践的な研修・訓練
 - － 協議会の枠組等での防災対応検討（河川、火山、気候）等

- ・各市町村を担当するチームの職員が、地域に密着して対応することにより、日頃から相談しやすく。
- ・平時の関係構築や、市町村個別の特徴を踏まえた実践的な研修や訓練を通じ、緊急時には気象台と連携した円滑な防災対応を行うことが可能に。

個々の市町村に対し、地域に密着して、より強力に取組を推進 平時から緊急時まで、常に地域に寄り添います！

平時には

- ・緊密な「顔の見える関係」を構築
- ・緊急時対応の知見・認識を共有

相乗効果で推進

緊急時には

- ・平時の取組を生かして切迫感が伝わる解説を
- ・情報を的確に「理解・活用」した防災対応へ



【平時】

- 首長訪問
トップ同士で顔の見える関係を構築
- 市町村防災会議への出席
- 地域防災リーダー等の育成
 - ・気象防災ワークショップの開催
⇒県・振興局と協力して市町村の防災担当を対象に開催
 - ・県と協力して、防災リーダーへの講演等を実施
- 地域防災計画等への助言
地域防災計画や避難勧告マニュアル等を改定する場合は、県・気象台に相談
- 防災訓練への協力
訓練シナリオの作成・訓練への助言
- 過去の災害事例整理・公表（気象防災データベース）
過去の災害事例を共通認識とし、防災対策に反映
- 週末メール（自治体防災担当者向け）
今週の気象状況の経過と今後1週間の予想や、最新の1か月予報のポイントをお知らせ
- 地震・火山の状況を解説
 - ・県へ毎月活動状況を説明
 - ・県火山防災協議会、阿蘇火山防災会議協議会に参画

【緊急時】

- 防災メール : 防災担当に対する事前の注意喚起
警報の発表目安や大雨の目処等を解説し、市町村の防災対応を支援
- 台風・大雨説明会 : 報道を通して住民への注意喚起
- 県庁へのJETT（気象庁防災対応支援チーム）派遣 : 台風・大雨について解説
 - ・市町村はTV会議システムで視聴
 - ・県が災害警戒本部を設置する場合は、県庁に常駐して解説
- 気象台からのコメント : 早めの防災体制構築等の防災対応の判断
警報発表や解除の見通しなどについてのコメントを令和2年2月より気象庁HPに掲載し広く防災関係者に提供
（定時：5時、11時、16時 臨時：大雨等の予想が変わった場合）
- ホットライン（予報官・防災担当） : 危険度の高まりを共有
予報官から ⇒土砂災害警戒情報などの発表・解除の見通しを解説
防災担当から ⇒災害の危険度の高まりを解説し防災対応を支援
- ホットライン（台長） : 危機感・緊迫度をトップ同士で共有
重大な災害の発生が予見される場合に、首長へ最大限の防災対応を呼びかけ

時間の流れ

【現象後】

- 市町村へのJETT派遣：被災状況に応じて、市町村役場で常駐解説
- 現象後速やかに気象状況を提供
説明会を行った現象に対して、速やかに気象状況を提供
⇒ 予報と実況の推移を解説、部内（市町村）の振り返りを支援
（令和2年7月豪雨等を対象に実施）
- 振り返り
聞き取り調査により、情報の利活用状況や防災対応の実態を把握し、改善点の検討を行う

キキクル(危険度分布)の課題

- 令和3年5月に災害対策基本法が改正され、避難情報に変更となったが、
- ① 警戒レベルのカラーコードとキキクル(危険度分布)のカラーコードが一致していない
 - ② 大雨特別警報は市町村単位で発表されるが、市町村は警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の判断が困難

警戒
レベル

警戒レベル3

警戒レベル4

警戒レベル5

高齢者等避難

避難指示

緊急安全確保

警戒
レベル
相当
情報

警戒レベル3相当

警戒レベル4相当

警戒レベル5相当

大雨・洪水警報

土砂災害警戒情報

大雨特別警報

キキクル:
警戒

キキクル:
非常に危険

キキクル:
極めて危険

① 警戒レベルのカラーコードと一致していない

② キキクル「黒」が無く、市町村は警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の判断が困難

※大雨特別警報(土砂災害)は、土砂キキクルの技術を活用した1kmメッシュ毎の基準値は設定済みだが、大雨特別警報(浸水害)については、まだキキクルの技術を活用した1kmメッシュ毎の基準値は未設定。

大雨・洪水警報の危険度分布について今後技術的な改善を進め、警戒レベル5に相当する危険度分布「黒」を新設するまでの間、危険度分布の「極めて危険(濃い紫)」を、大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用する。(「避難情報に関するガイドライン」(内閣府))

➤ 警戒レベルとの齟齬を解消し、警戒レベル相当情報としてより分かりやすく危険度を伝えることができるように

現状

- 土砂キキクル
 - 極めて危険
 - 非常に危険【警戒レベル4相当】
 - 警戒【警戒レベル3相当】
 - 注意【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意
- 浸水キキクル
 - 極めて危険
 - 非常に危険
 - 警戒
 - 注意
 - 今後の情報等に留意
- 洪水キキクル
 - 極めて危険
 - 非常に危険【警戒レベル4相当】
 - 警戒【警戒レベル3相当】
 - 注意【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意



改善後

- 土砂キキクル
 - 災害切迫【警戒レベル5相当】
 - 危険【警戒レベル4相当】
 - 警戒【警戒レベル3相当】
 - 注意【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意
- 浸水キキクル
 - 災害切迫【警戒レベル5相当】
 - 危険
 - 警戒
 - 注意
 - 今後の情報等に留意
- 洪水キキクル
 - 災害切迫【警戒レベル5相当】
 - 危険【警戒レベル4相当】
 - 警戒【警戒レベル3相当】
 - 注意【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意

色とその意味	表示条件	
黒：災害切迫	↓ 基準Ⅳ ：大雨特別警報の指標に用いる基準	実況で 基準Ⅳ に到達した場合
紫：危険	↑ 基準Ⅲ ：土砂災害警戒情報の基準又は警報基準を大きく超過した基準	実況又は予想※で 基準Ⅲ に到達する場合
赤：警戒	↑ 基準Ⅱ ：警報基準	実況又は予想※で 基準Ⅱ に到達する場合
黄：注意	↑ 基準Ⅰ ：注意報基準	実況又は予想※で 基準Ⅰ に到達する場合
－：今後の情報に留意		実況かつ予想※で 基準Ⅰ 未満の場合

※ 土砂災害は2時間先、浸水害は1時間先、洪水は3時間先までの予測を用いている。

令和4年6月から

警戒レベル4に相当するキキクル(危険度分布)は紫です

色	警戒レベル
黒	5相当
紫	4相当
赤	3相当
黄色	2相当
白(水色)	-

特別警報基準値
超過を「黒」で表示

警戒レベル4
の「紫」と一致

これまでのキキクル

色	警戒レベル
濃い紫	-
うす紫	4相当
赤	3相当
黄色	2相当
白(水色)	-



**「紫」が出現した段階で
速やかに安全な場所に
避難する判断を!**



九州北部豪雨における赤谷川の被害状況
(平成29年7月7日国土地理院撮影)

質問1) キキクル「黒」が表示されていなければ災害は発生しないの?

⇒そうではありません。「黒」は、大雨による災害がすでに発生している可能性が高い状況であり、災害が発生する前にいつも出現するとは限りません。このため、「黒」を待つことなく、「紫」が出現した段階で、速やかに安全な場所に避難することが極めて重要です。

質問2) 市町村から発令される避難情報とどう違うの?

⇒市町村から避難情報が発令された際には速やかに避難行動をとってください。一方で、多くの場合、防災気象情報は自治体が発令する避難指示等よりも先に発表されます。このため、危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル4に相当する紫や高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル3に相当する赤色が発生した際には、避難指示等が発令されていなくても、自主的に避難の判断をすることが重要です。

白川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

- 白川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国・県・市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】立野ダムの完成、堤防整備及び河道掘削を実施することにより県庁所在地である熊本市等の洪水被害軽減を図る。また、県管理区間においても遊水地整備を実施するとともに、流域として雨水貯留施設の整備等を進めることで、流域内の被害軽減を目指す。
 - 【中期】洪水の流下阻害になっている横断工作物（堰）について改築等実施するとともに継続して堤防整備及び河道掘削を実施することにより、洪水を安全に流下させ、沿川の浸水軽減とともに災害危険区域の指定等により被害の最小化を目指す。
 - 【中長期】本川上流部の浸水被害を防ぐため、継続して横断工作物（堰）の改築、堤防整備及び河道掘削、県区間においては遊水地整備を実施することで、流域全体の治水安全度向上を図る。
- あわせて、ハザードマップや防災マップ、自主防災組織活動等のソフト対策を行う等、流域が一体となった防災・減災対策を推進する。

■河川対策 (約1,680億円)
■砂防対策 (約157億円)

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、横断工作物の対策、堤防整備、橋梁架替、遊水地整備	国土交通省 熊本県	河道掘削等	横断工作物の対策(国)	横断工作物の対策(県)
	立野ダム建設	国土交通省			三本松堰、十八口堰完了
	土砂洪水氾濫対策	国土交通省、熊本県	砂防堰堤整備		
	流域の雨水貯留機能向上	熊本市、大津町、菊陽町、高森町、西原村、南阿蘇村	一定規模以上の開発行為に対する雨水貯留施設設置指導 調整池・校庭貯留施設等の改修・整備 雨水貯留施設の設置補助 ため池の補強・有効活用	水田の貯留機能向上	
	森林の整備・保全 治山施設の整備	熊本県、熊本森林管理署、森林整備センター熊本水源林整備事務所	間伐等による森林の整備・保全、治山施設の整備・保全		
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	国土交通省 熊本市 阿蘇市	防災ステーションの整備・維持管理 土砂災害特別警戒区域からの移転促進、がけ地近接等危険住宅移転事業 中心市街地における老朽建築物の建替促進による防災機能の強化 災害危険区域の指定 立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む)		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	国土交通省、熊本県、菊陽町、西原村	危機管理型水位計の設置 河川カメラの設置		
	避難体制等の強化	国土交通省、熊本県、熊本市、阿蘇市、大津町、菊陽町、高森町、西原村、南阿蘇村	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等 防災情報伝達の迅速化、多重化 防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等		
グリーンインフラの取組み	治水対策における多自然川づくり	国土交通省、熊本県			
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	国土交通省・熊本市	白川熊本市街部かわまちづくり		
	自然環境が有する多様な機能活用の取組み	国土交通省	-2-		



※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

白川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

●グリーンインフラの取り組み 『沿川住民や水際の動植物にとって安全で心地よい空間の創出』

○上流域では、ほぼ全域が「阿蘇くじゅう国立公園」に指定され、雄大な火山景観、牧草地やススキ等の草原に覆われた山腹景観、阿蘇北向谷原始林を中心とした渓谷景観、南郷谷を中心とした清浄な湧水源、内牧温泉を中心とした温泉群など優れた観光資源を有し、中・下流域においては、金峰山県立自然公園の一部である立田山のヤエクチナシ自生地や熊本市街部の白川沿いの緑地など、豊かな自然を有している。

○白川が流れる熊本市街部を「くまもとの顔」として活性化し、魅力ある都市空間づくり等を目指し、白川の河岸部を活用して自転車通行などを快適かつ円滑に行い、上下流の交流促進、河川の利活用による地域活性化、河川景観の向上、河川利用者の安全性の向上を図るため今後概ね10年間で、白川市街部かわまちづくりを進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

●治水対策における多自然川づくり

- ・魚類等に配慮した水際の保全・整備
- ・野鳥の生息場となっている河畔林や河道内樹木、植生群の保全
- ・魚類に配慮した縦断的連続性及び避難場所の確保
- ・多様な生物の生息・生育環境の保全
- ・アユの産卵場の保全
- ・ツルヨシ等の水辺植生の復元

●魅力ある水辺空間・賑わい創出

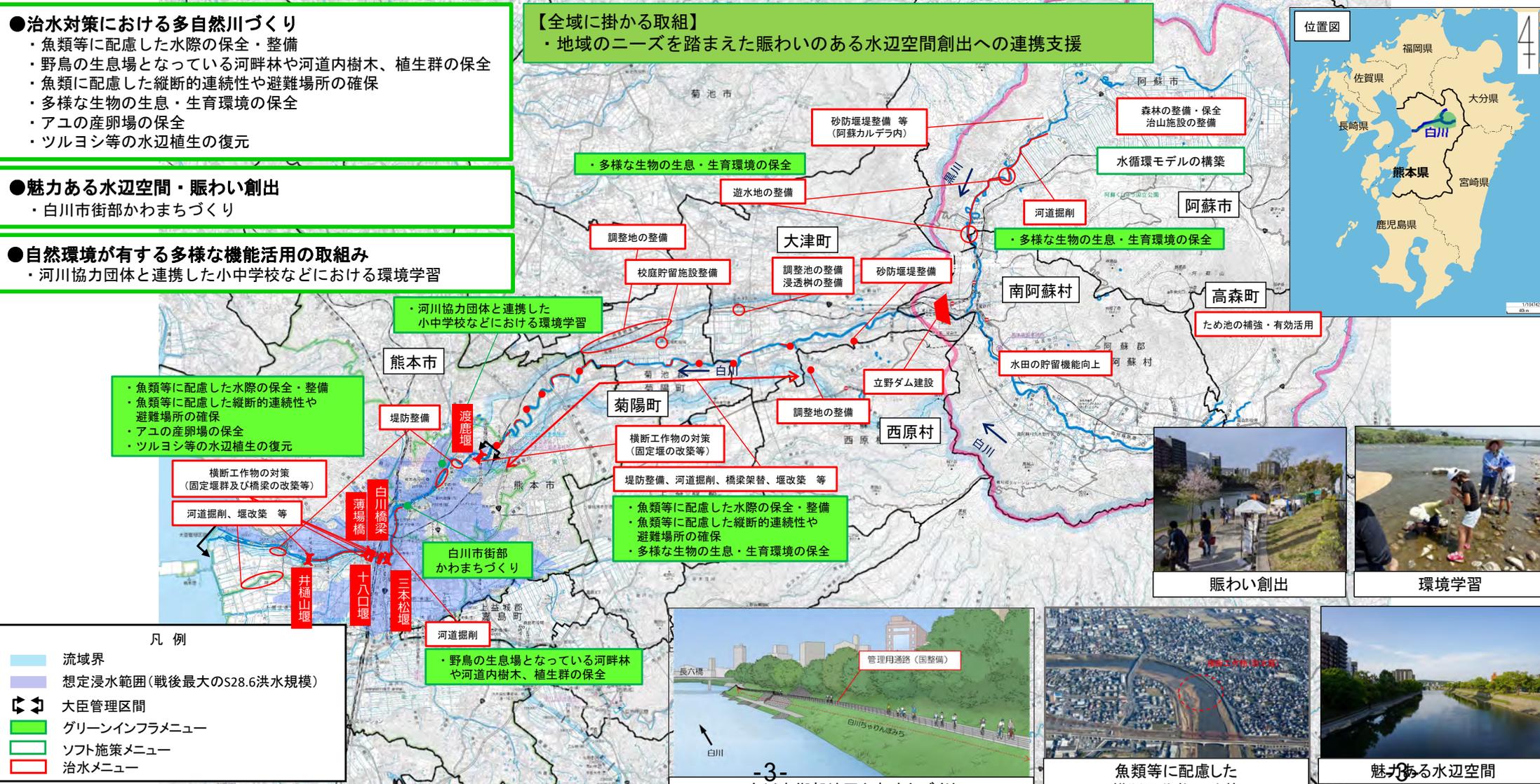
- ・白川市街部かわまちづくり

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・河川協力団体と連携した小中学校などにおける環境学習

【全域に掛かる取組】

- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援



凡例

	流域界
	想定浸水範囲(戦後最大のS28.6洪水規模)
	大臣管理区間
	グリーンインフラメニュー
	ソフト施策メニュー
	治水メニュー

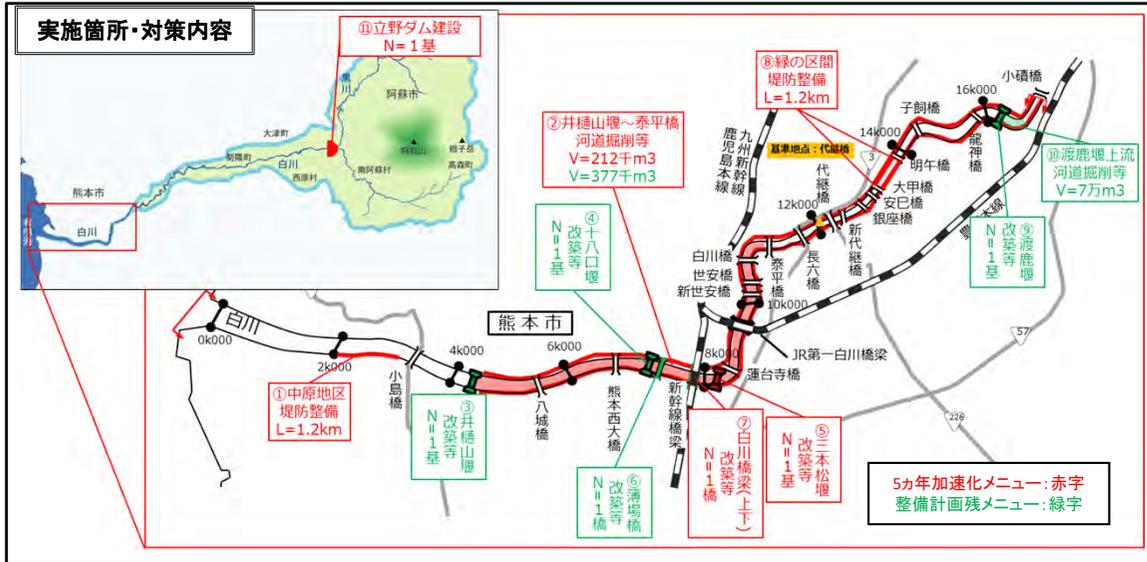
※ 具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

白川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

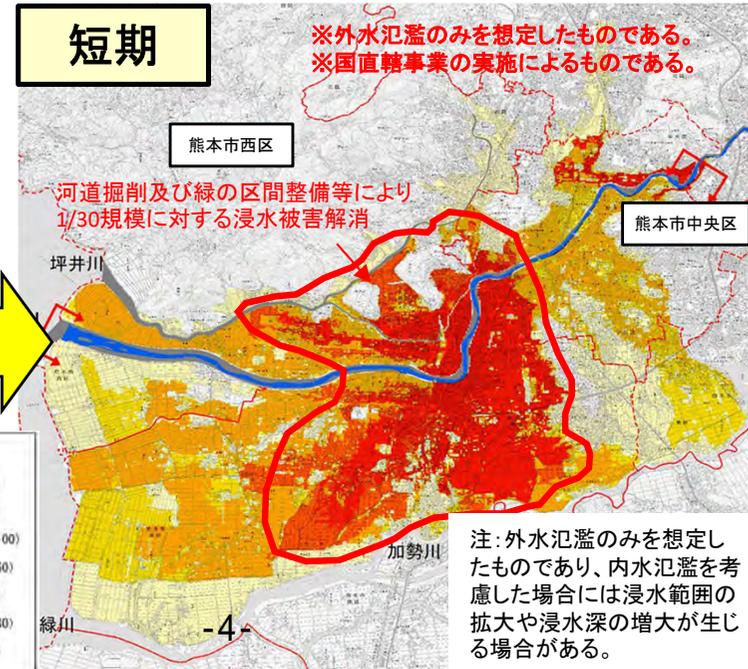
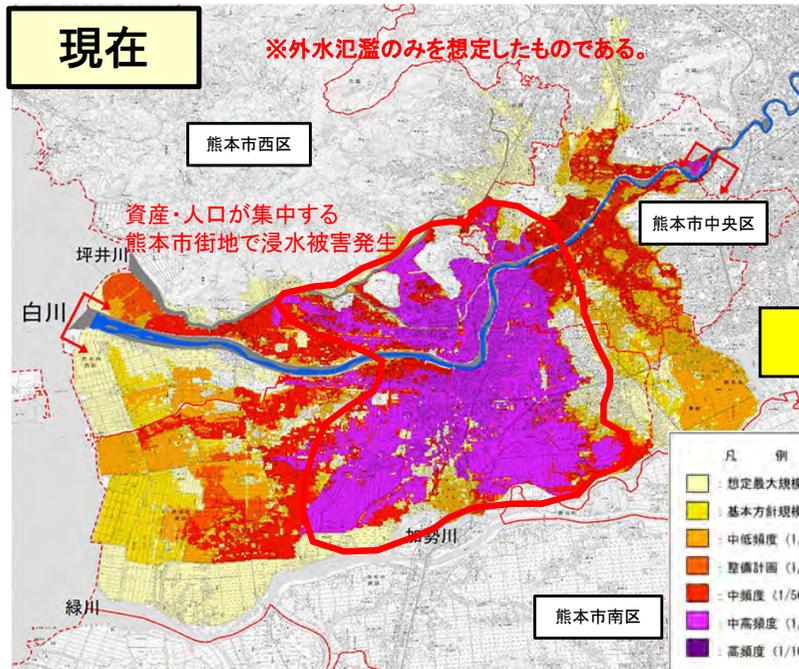
～上流から河口まで一本でつながる治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策～

短期整備(5か年加速化対策)効果 : 河川整備率 約48%→約55%

立野ダムの完成、危険箇所である中流部蓮台寺地区等の河道掘削や緑の区間の堤防整備により、整備計画流量(1/60規模)の洪水でも熊本市街地で堤防からの越水を回避することが可能。



区分	区間	箇所	対策内容	工程		
				短期(令和3年度～令和7年度) 全川 概ね1/30～1/30	中期(令和8年度～令和15年度) 河口～子飼橋 1/30～1/60 子飼橋～直轄上流端 1/30	長期(令和16年度～令和31年度) 全川 1/60
氾濫を できるだけ 防ぐ・減らす ための対策	河口～井樋山堰 (中原地区)	①左岸2k000～小島橋	堤防整備	100%		
		②井樋山堰～泰平橋	河道掘削 護岸補強	36%	70%	100%
	井樋山堰～泰平橋	③井樋山堰				100%
		④十八口堰	固定堰改築		100%	
		⑤三本松堰		40%	100%	
		⑥薄場橋	橋梁改築		100%	
	泰平橋～子飼橋	⑦白川橋梁	橋梁改築	70%	100%	
		⑧大甲橋～明午橋 (緑の区間)	堤防整備	100%		
	子飼橋～小磯橋	⑨渡鹿堰	固定堰改築			100%
		⑩渡鹿堰上流	河道掘削			100%
	立野ダム区間	⑪立野ダム	ダム建設	100%		



※スケジュールについては今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

- 【短期整備完了時の進捗】**
- ①中原地区 堤防整備 0%→100%
 - ②井樋山堰～泰平橋 河道掘削等 0%→36%
 - ⑤三本松堰 改築 0%→40%
 - ⑦白川橋梁 改築 0%→70%
 - ⑧緑の区間 堤防整備 0%→100%
 - ⑫立野ダム 建設 100%

緑川水系流域治水プロジェクト【位置図】

資料5-1-2

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、緑川水系においても、干満差が日本一大きい有明海に注ぎ、広大な熊本平野を流下することで浸水被害発生時の影響が長期化するという流域の特性を踏まえ、高潮堤防整備や河道掘削などの事前防災対策を進めることで、国管理区間においては、戦後最大の昭和63年5月洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



緑川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

○緑川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国・県・市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】県庁所在地である熊本市等の洪水被害軽減及び高潮対策として、歴史的な治水対策を保全しつつ流下能力が不足する支川加勢川の河道掘削等や本川下流部の高潮堤防整備（T.P.4.5m完了及びT.P.6.0m整備）を実施し、県管理区間においても、河道掘削や橋梁架替を実施する。併せて流域として、下水道等の排水施設の整備や治山設備の整備等を進めることで流域内の被害軽減を目指す。

【中期】本川中流部の浸水被害を防ぐため、堤防整備や河道掘削を実施する。また、支川加勢川の河道掘削や本川下流部の高潮堤防整備（T.P.6.0m）の継続と併せて、ため池の改修等により被害の最小化を目指す。

【中長期】本川上流部の浸水被害を防ぐため、堤防整備や河道掘削を実施することで、流域全体の治水安全度向上を図る。

○あわせて、ハザードマップや防災マップ、自主防災組織活動等のソフト対策を行う等、流域が一体となった防災・減災対策を推進する。

■河川対策（約246億円）
 ■砂防対策（約15億円）
 ■下水道対策（約50億円）

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築等	国土交通省 熊本県	支川加勢川河道掘削等 橋梁架替	本川中流部堤防整備 本川中流部河道掘削	本川上流部堤防整備 本川上流部河道掘削
	高潮堤防整備	国土交通省	TP4.5m対応 TP6.0m対応		
	土砂洪水氾濫対策	熊本県	砂防堰堤整備		
	流域の雨水貯留機能向上	熊本市、大津町、菊陽町、西原村、宇城市、嘉島町、益城町、御船町、甲佐町、山都町	調整池・校庭貯留施設の整備、既存調整池容量拡充 雨水貯留施設の設置補助、一定規模以上の開発行為に対する設置指導 農業水利施設の整備 ため池の補強・有効活用		
	支川等氾濫対策	熊本市、西原村、宇土市、宇城市、御船町、甲佐町、益城町	下水道等の排水施設の整備 排水ポンプ用釜場整備、排水機場整備 中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等		
	森林の整備・保全 治山施設の整備	熊本県、熊本森林管理署 森林整備センター熊本水源林整備事務所、緑川流域会議	間伐等による森林の整備・保全、治山施設の整備・保全		
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	国土交通省、熊本市、甲佐町、美里町、益城町	防災ステーション、防災拠点等の整備・維持管理 土砂災害特別警戒区域からの移転促進、かけ地近接等危険住宅移転事業 災害危険区域の指定		
	歴史的な治水対策の保全	国土交通省	立地適正化計画の策定（防災指針の追加を含む） 曹塘等の保全		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	国土交通省、熊本県、菊陽町、西原村、宇土市、甲佐町	危機管理型水位計の設置 河川カメラの設置		
	避難体制等の強化	国土交通省、熊本県、熊本市、大津町、菊陽町、西原村、宇土市、宇城市、嘉島町、益城町、御船町、甲佐町、美里町、山都町、緑川流域会議	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等 防災情報伝達の迅速化・多重化 防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等 災害時における流域連携による復興支援等の検討		
グリーンインフラの取組	治水対策における多自然川づくり	国土交通省			
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	国土交通省、甲佐町、宇土市	甲佐地区かわまちづくり、宇土走湯地区かわまちづくり		
	自然環境が有する多様な機能活用の取組み	国土交通省			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

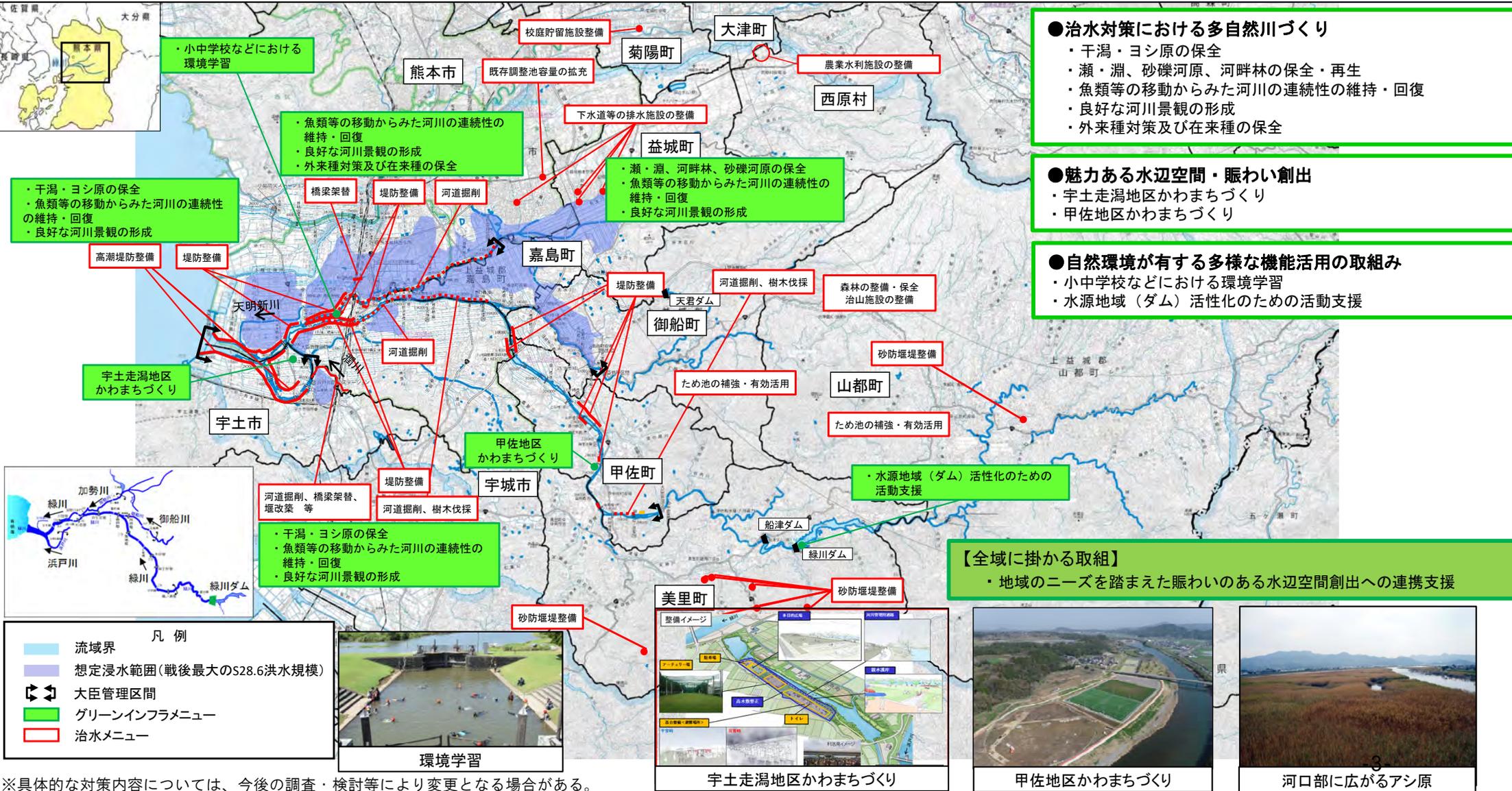
緑川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

●グリーンインフラの取り組み 『生態系の保全と再生と固有の文化・歴史に学び、良好な景観の保全』

○緑川は、「日本の重要湿地500」に指定され、重要な生物が生息・生育する河口干潟、中流部に形成された良好な瀬や淵、加勢川におけるヒラモ、コウホネ等の希少な生物の生息・生育環境等、流域の至る所に多様な河川環境を有している。

○宇土走潟地区は、周辺に文化財・史跡が残り、旧河道部にはヨシ等が繁茂する豊かな地域資源を有し、主要道路に近接し交通アクセスも良いことから、今後9年間で安心して水辺を利用できる環境、市境を越えた交流ができる賑わいのある水辺拠点を宇土走潟地区かわまちづくりにおいて宇土市と整備を行うことで、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。



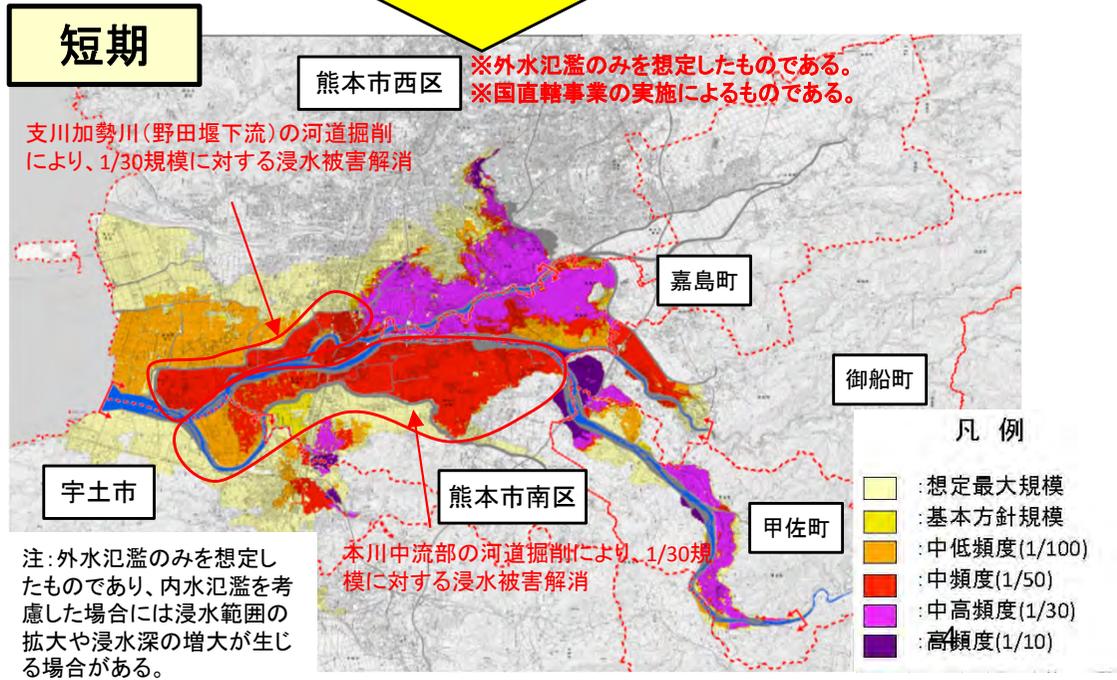
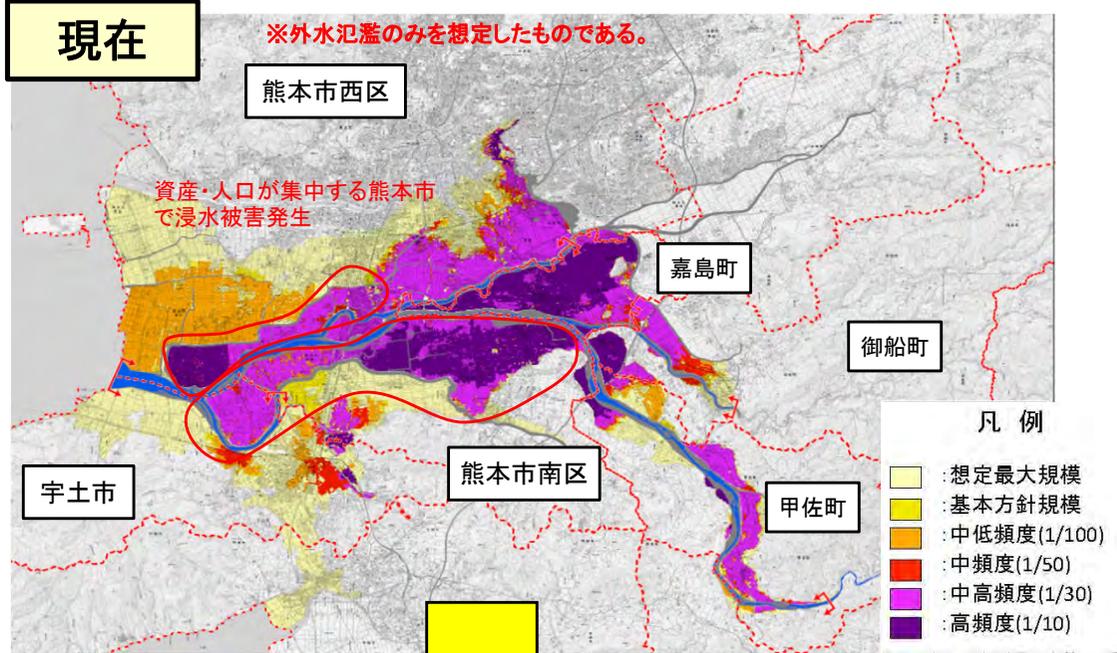
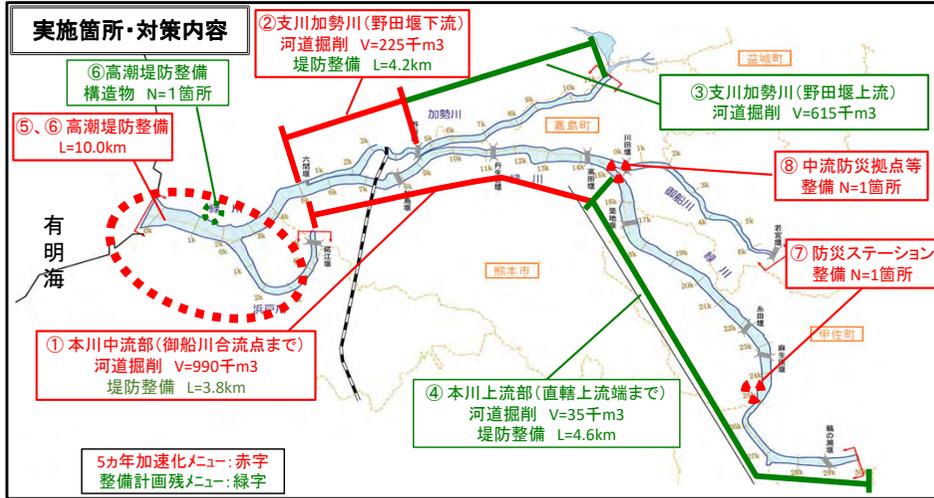
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

緑川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率 約48%→約63%

加勢川の野田堰下流までの河道掘削がR7に完了することで、全川1/20規模の洪水をHWL以下で流下させることが可能。
高潮区間において、観測開始以来最大規模の高潮被害を被った昭和2年9月台風と同規模の高潮に対する堤防がR7に完了。



区分	区間	対策内容	工程	
			短期(令和3年度～令和7年度)	中長期(令和8年度～令和23年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	①本川中流部 御船川合流点まで	河道掘削、堤防整備	R3 緑川中流: 概ね1/10→1/30 加勢川(野田堰下流): 1/10→1/30 高潮堤防整備、既往最大規模の堤防整備完了	河道掘削: 100% 堤防整備: 100%
	②支川加勢川 野田堰下流	河道掘削、堤防整備	河道掘削: 100%	堤防整備: 100%
	③支川加勢川 野田堰上流	河道掘削		100%
	④本川上流部 直轄上流端まで	河道掘削、堤防整備		100%
被害対象を減少させるための対策	⑤高潮区間 TP4.5m対応	高潮堤防整備	100%	
	⑥高潮区間 TP6.0m対応	高潮堤防整備	堤防: 100%、構造物: 0%	堤防: 100%、構造物: 100%
	⑦防災ステーション整備	河川防災関連施設整備	100%	
	⑧中流防災拠点等整備	河川防災関連施設整備	40%	100%

※スケジュールについては今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

- 【短期整備完了時の進捗】**
- ①本川中流部(御船川合流点まで)河道掘削 0% → 100%
 - ②支川加勢川(野田堰下流)河道掘削 0% → 100%
 - ⑤高潮区間(TP4.5m対応)高潮堤防、構造物整備 0% → 100%
 - ⑥高潮区間(TP6.0m対応)高潮堤防整備 0% → 100%
 - ⑦防災ステーション整備 0% → 100%
 - ⑧中流防災拠点等整備 0% → 40%

緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p>整備率：63% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>2市町村 (令和3年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>2施設 (令和2年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 6箇所 (令和3年度実施分) 砂防関係施設の整備数 2施設 (令和3年度完成分)</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>1市町村 (令和3年12月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 11河川 (令和3年12月末時点) 内水浸水想定区域 1団体 (令和3年11月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 洪水 1289施設 土砂 114施設 (令和3年9月末時点) 個別避難計画 集計中 (令和4年1月1日時点)</p>
--	---	--	---	--	--	---

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【高潮堤防整備】(国土交通省)



網津地区高潮堤防整備状況
(緑川下流左岸:TP.6.0対応完)

緑川平木橋下流、浜戸川太郎兵衛橋下流の高潮区間において、平成11年9月の高潮規模に対応できるようT.P.4.50mの堤防整備を実施中。
T.P.4.50m 堤防整備完了箇所より、既往最大規模のT.P.6.00mの堤防整備を実施中。

被害対象を減少させるための対策

【災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫(船津地区防災ステーション整備)】(国土交通省・甲佐町)



船津地区防災ステーション(国土交通省) 水防センター(甲佐町)

船津地区防災ステーション水防センター(甲佐町)施工状況
(緑川上流左岸24k600付近)

緑川上流部における災害時の迅速かつ円滑な復旧活動を行うための防災拠点整備として、船津地区防災ステーション整備を実施中。
甲佐町による水防活動を円滑に行う拠点となる水防センターを整備。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【災害時における流域連携による復興支援等の検討】(緑川流域会議)



災害時における緑川流域連絡網(案)

「緑川流域会議」において、災害時に各自治体と各流域団体がお互いに必要な情報を共有し、円滑な災害復旧等に寄与することを目的として、「災害時における緑川流域連絡網(案)」を検討。 -5-